

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				人文・社会科学系科目
講義名	[A_1ls1] [01] 哲学				
区分	前期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
授業年次	1年	2年	--	--	
担当教員	諏訪是隆		スワ ゼリュウ	suwa zeryu [suwa(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
哲学とはどういう学問なのかを明確にすることを目的とする。その成り立ちと、哲学者達の考えに触れることで、学生諸君それぞれの在り方、生き方について考察する機械を創出する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
世界の哲学思想を概観することで、異文化を理解し、多様な学問の考え方を修得し、今後の学問探究の場や日常生活において課題を設定し、問題解決に取り組む姿勢を養うことができることを目標とする。また「多様な学問の考え方」「批判的思考力」「論理的思考力」を修得することを目指し、最終授業での発表において「口頭発表力」を養う機会を与えます。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義を中心とするが、学生との対話形式によって講義を進めていく。難解な専門用語などもあるので、講義前の学修が望ましいが、授業に理解できるよう解説する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、予め指示された資料や文献を読んでおくこと。事後学修（2時間以上）は、授業を振り返りながらノートに要点を整理する。最終授業での口頭発表を年頭におき講義の内容を復習しておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
最終授業での発表（50%）と、毎回の講義での取り組み姿勢（50%、発言回数やワークの成果物など）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	哲学ということば				
第2回	神話から哲学へ				
第3回	ソフィストとソクラテス				
第4回	プラトンとアリストテレス				
第5回	ストア派とエピクロス派				
第6回	キリスト教と中世				
第7回	ルネサンスの思想				
第8回	イギリス経験論				
第9回	デカルトの懐疑				
第10回	ホッブズのリヴァイアサン				
第11回	ロックのコモンウェルス				
第12回	カントの批判哲学				
第13回	ヘーゲルの体系				
第14回	ニーチェ				
第15回	まとめ発表				
【教科書・参考書】					
講義中に必要な図書、参考書を随時紹介する。					
【学生へのメッセージ】					
哲学と聞くと難解なイメージがあるかもしれませんが、哲学は私たちの生活を意義あるものとし、幸せへと導いてくれる叡智です。共に学びましょう。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
日蓮宗布教師としての経験を活かし、仏教的な考え方に基づく哲学についての授業を展開します。					

年度	区分				分野	
令和8年度	全専攻共通 教養科目				人文・社会科学系科目	
講義名	[B_1ls1] [03] 倫理学					
区分	後期（15回）		単位	選択（2）		形式 講義
授業年次	1年	2年	--	--		
担当教員	庵谷行遠		オオタニ ギョウオン		otani gyoon [gohtani(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
人間の自覚と思想の源流という視点から、現代を生きる私たちのよりよい生き方・あり方を考える。特に中国思想と仏教思想について概説する。本学のディプロマ・ポリシーが掲げる学士力の根底となる基礎学力を培う授業となる。これはSDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋がる。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
倫理思想についての基礎知識を身につけ、人間の行動の基礎にある価値観を修得する。また、倫理思想を学ぶことを通して、現代における自分自身の生き方・あり方を考えるヒントとし、自ら主体的に考察していく力を修得する。コンピテンシー：読解力、分析力、多様な学問の考え方、文章表現力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力、論理的構成力、実行力、計画力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
参考書と配布プリント（適宜）によって講義を進める。授業で解説した概念について、その場でディスカッションを行い、理解を深めて各自の向学心を高める。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
この授業では、毎回の授業ごとに事前・事後学修を合わせて平均（4時間程度）の学修を行う。事前学修（2時間程度）では、授業計画を確認し、次回の講義で扱うキーワード（例：老子）について辞書や参考書を用いて調べ学修を行う。事後学修（2時間程度）では、授業の内容を踏まえて資料を読み直し、講義内容の理解を深め次回に備える。						
【成績評価（方法・基準）】						
学期末課題レポート（70%）・授業内発表と質疑応答への積極的な参加（30%）により総合的に評価する。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	ガイダンス					
第2回	現代の文明と倫理1（生命倫理）					
第3回	現代の文明と倫理2（環境倫理）					
第4回	中国思想1（論語）（孟子）（荀子）					
第5回	中国思想2（老子）（荘子）					
第6回	中国思想3（淮南子）（抱朴子）（列子）					
第7回	中国思想4（周書）（韓愈）（孫子）					
第8回	中国思想5（史記）（礼記）					
第9回	中国思想6（蒙求）（十八史略）					
第10回	中国思想7（易経）（詩経）（書経）					
第11回	中国思想8（韓非子）（漢書）（唐書）					
第12回	中国思想9（春秋左氏伝）（後漢書）					
第13回	仏教思想（瓔珞経）（法華経）（梵網経）					
第14回	プレゼンテーション1					
第15回	プレゼンテーション2 全体のまとめ					
【教科書・参考書】						
教科書：授業時に適宜、資料を配布する。参考書：『新倫理資料新訂版』（実教出版）2000年。						
【学生へのメッセージ】						
受講者一人一人が自身の問題として捉え、自分の考えを形成することを望む。						
【オフィスアワー】						
令和8年度教員オフィスアワー参照。質問はメール（gohtani(a)min.ac.jp）でも可。						
【実務経験】						
日蓮宗教師の資格を活かし、倫理学（生き方・あり方を考えるヒント）を教授する。						

年度	区分	分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目	人文・社会科学系科目

講義名	[C_IIIs1] [05] 歴史学
-----	--------------------

区分	後期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	1年	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当教員	小高絢子	オダカ アヤコ	odaka ayako
------	------	---------	-------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

歴史学とはどのような学問なのか、歴史学の研究対象と調査方法とは何か、について学びます。歴史学は、過去の史料を評価し、検証する過程を通じて歴史的事実およびその関連性を追究する学問です。本授業では、仏教文化にまつわる事例研究を取り上げながら、歴史学が対象とする様々な資料や手法をおおまかに学ぶ形で進めていきます。最終的には学生自身が問題関心に即して適切な研究対象や手法を選択し研究調査できるよう、実践的な学びの場へとつなげていきます。 キーワード：歴史学、仏教文化史、地方史、調査学習

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

(1)歴史学の対象・方法について説明できること、(2)自身の問題関心に即して適切な資料を研究対象とし、調査を実践できることを目指します。反省的な視点を持ちながら歴史学を学ぶことによって、SDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」の達成にも寄与できます。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、情報収集力、情報分析力、論理的思考力、地域理解、文章表現力

【授業方法（フィードバックの内容）】

本講義では講義形式に加えて、学生自身の調べ学習にもとづいた口頭発表と学生間での質疑応答のアクティブラーニングを取り入れます。教員からの配布資料や、受講生が作成した発表資料を共有するために、ファイルキャビネットやGoogleDrive等のICTツールを活用します。毎授業、インターネットに接続可能なスマートフォン・タブレット・PCなどを持参してください。口頭発表や期末レポートのフィードバックは、授業内もしくはファイルキャビネット経由で行います。

【授業外学修の方法（時間数）】

この授業では、毎回の授業ごとに事前・事後学修を合わせて平均（4時間程度）の学修を行ってください。事前学修（2時間程度）：授業テーマの論文を読み、疑問点について自分なりに調べ、内容をノート等にまとめておく。事後学修（2時間程度）：授業の復習をした上で、自身の問題関心につながりそうな資料やキーワードをまとめる。事前・事後学習ともに、分からない語句や読めない漢字があった場合は辞典や辞書を用いて調べる。

【成績評価（方法・基準）】

学修成果物（60%、授業内での口頭発表・質疑応答）、期末レポート（40%）により総合評価を行います。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	ガイダンス・歴史学とは何か
第2回	「日蓮の「聖地」身延山へのツーリズム」
第3回	「高野山への信仰と参詣の旅路」
第4回	「北国街道をゆく江戸時代の巡拝者たち」
第5回	「二つの霊山と一人の僧」
第6回	「仏教絵画を解説する」
第7回	「大衆文化としての「日本画」と仏教」
第8回	「最澄絵伝の歴史的展開」
第9回	「浅草寺の西仏板碑」
第10回	「説教節の受容と音読・黙読」
第11回	「近代における日蓮伝と浪花節」
第12回	「三遊亭円朝と仏教」
第13回	「寺に駆け込むということ」
第14回	「能登の仏事の一齣」
第15回	まとめ・期末レポートの説明

【教科書・参考書】

教科書：レジュメをもって代替とします（紙媒体の配布は行わないため、各自インターネット経由でダウンロードすること）。
参考書：『読んで観て聴く近代日本の仏教文化』森寛・大澤絢子編（法蔵館）2024年、『図説新版歴史散歩事典』佐藤信編（山川出版社）2019年、『歴史学ってなんだ？』小田中直樹（PHP新書）2004年。授業内で取り扱う論文やその他の参考文献は適宜紹介します。

【学生へのメッセージ】

資料収集の方法や調査研究の進め方について、みんなで一緒に学んでいきましょう。

【オフィスアワー】
本授業の前後、もしくは火・水・木曜日のオフィスアワー（大学事務室を通じて予約してください）。
【実務経験】
なし

年度	区分	分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目	人文・社会科学系科目

講義名	[D_11s1] [07] 日本国憲法
-----	---------------------

区分	後期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	1年	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当教員	堀 保彦	ホリ ヤスヒコ	hori yasuhiko [hori(a)]
------	------	---------	-------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

日本国憲法の国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の基本原則とそれを実現するための統治機構を概観し、私たちと憲法の関わりについて考えます。また、SDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」、SDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」、SDGs5の目標「ジェンダー平等を実現しよう」、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」と日本国憲法の関係についても概説します。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

憲法の理念を理解し、正しい人権意識を身につけることを到達目標とします。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、情報収集力、文章表現力、論理的思考力

【授業方法（フィードバックの内容）】

教科書及び毎回配布するレジュメを中心に講義を行い、各回のポイントに関連する課題について自由にディスカッションし、コメントシートを作成・提出するという方法で授業を行います。提出されたコメントシートについて次回講義で補足とフィードバックを行います。最終回に現代社会における憲法上の問題点について自らの考えをプレゼンテーションしていただきます。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修（2時間以上）は、授業計画に示された次回の講義内容について教科書で予習し、授業中に指示した判例・事件等に関する調査を行うこと。事後学修（2時間以上）は、授業中に配布したレジュメやノートを使って自らの考えを文章にまとめること。

【成績評価（方法・基準）】

毎回の課題（コメントシート）への取り組み姿勢（20%）、学力確認テスト（60%）、プレゼンテーション（20%）で評価します。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	憲法とは何か
第2回	明治憲法と日本国憲法
第3回	日本国憲法の成立
第4回	憲法の法源と解釈
第5回	国民主権と象徴天皇制
第6回	平和国家、SDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」
第7回	人権尊重の原理
第8回	包括的人権と法の下での平等 SDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」、SDGs5の目標「ジェンダー平等を実現しよう」
第9回	精神的自由権（思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由）
第10回	精神的自由権（表現の自由）
第11回	身体的自由権、経済的自由権
第12回	社会権 SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」
第13回	権力分立と統治機構の原理
第14回	憲法の現代的課題
第15回	プレゼンテーション（現代社会における憲法問題について）

【教科書・参考書】

教科書：『憲法入門（第4版補訂版）』伊藤正己著（有斐閣）2006年。参考書：『憲法とは何か』長谷部恭男著（岩波新書）2006年、『憲法入門（五訂版）』樋口陽一著（勁草書房）2013年、『憲法（第6版）』芦部信喜著（岩波書店）2015年。

【学生へのメッセージ】

日本国憲法施行から80年が経過しますが、日本国憲法の理念が完全に実現しているとは言い難く、また、社会の変化とともに新たな憲法問題が生じています。各回の課題について事前に情報収集し、講義中のディスカッションを経て自らの考えをコメントシートにまとめることで情報収集力、論理的思考力、文章表現力の向上を図ることを望みます。

【オフィスアワー】

授業の前後に非常勤講師控室（大学事務局隣）か教室にて対応します。

【実務経験】

銀行の総合企画部に11年在籍し、うち7年間のコンプライアンス態勢構築や講師経験で培った人権侵害の具体的事例を基に、基本的人権の今日的意義を論じる。

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				人文・社会科学系科目
講義名	[E_11s1] [09] 政治学				
区分	前期（15回）		単位	選択（2）	形式 講義
授業年次	1年	2年	--	--	
担当教員	堀 保彦		ホリ ヤスヒコ		hori yasuhiko [hori(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
政治とは集団内の利害や意見を調整する営みです。社会における利害を調整する政治の仕組みとその問題点を概観します。また、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」、SDGs8の目標「働きがいも経済成長も」に関する政治課題についても解説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
政治や政策のプロセスを理解し、それを支える社会のさまざまな状況を把握・分析する能力を涵養することを授業の到達目標とします。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、情報収集力、文章表現力、批判的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書及び毎回配布するレジュメ（論点メモ）を中心に講義を行い、各回の講義ポイントに関連する課題について自由にディスカッションし、コメントシートを作成・提出するという方法で授業を行います。提出されたコメントシートについて次回講義で補足とフィードバックを行います。最終回に現代社会における政治の問題点について自らの考えをプレゼンテーションしていただきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、授業計画に示された次回の講義内容について教科書で予習し、授業中に指示した事件等に関する調査を行うこと。事後学修（2時間以上）は、授業中に配布したレジュメやノートを使って自らの考えを文章にまとめること。					
【成績評価（方法・基準）】					
毎回の課題（コメントシート）への取り組み姿勢（20%）、学力確認テスト（60%）、プレゼンテーション（20%）で評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	政治学のアイデンティティー（政治学とはどのような学問か）				
第2回	政治の世界：政治とは何か				
第3回	政治体制と変動				
第4回	主要国の政治制度：権力分立制度の相違				
第5回	政治と経済、政治と福祉、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」、SDGs8の目標「働きがいも経済成長も」				
第6回	福祉国家の危機と再編、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」				
第7回	政治過程と政治制度、国民代表の政治過程				
第8回	利益代表の政治過程				
第9回	政治と公共政策、政策過程				
第10回	行政：行政統制と行政責任				
第11回	政党と政党制				
第12回	政治意識と政治行動				
第13回	主権国家のゆくえ				
第14回	政治参加の意義				
第15回	プレゼンテーション（現代政治の問題点について）				
【教科書・参考書】					
教科書：『現代政治学（第4版）』加茂利男・大西 仁（有斐閣）2012年。参考書：『行政学（新版）』西尾勝（有斐閣）2001年、『政策学的思考とは何か：公共政策学原論の試み』足立幸男（勤草書房）2005年、『現代政治の思想と行動（新装版）』丸山眞男（未来社）2006年。					
【学生へのメッセージ】					
事前・事後学修の他に毎日欠かさず新聞（Webニュースでも可）を読んで政治に関する関心を高め、疑問や意見をノートにメモしておいてください。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に非常勤講師控室（大学事務局隣）が教室にて対応します。					
【実務経験】					
銀行の総合企画部における11年間の実務を通じ、業界団体での政策提言や利益代表活動の経験を基に、現代の政治システムを分かりやすく解説する授業を展開する。					

年度	区分				分野	
令和8年度	全専攻共通 教養科目				人文・社会科学系科目	
講義名	[F_11s1] [11] 社会学【社福】					
区分	後期（15回）		単位	選択（2）		形式 講義
授業年次	1年	2年	--	--		
担当教員	栗田真司		クリタ シンジ		kurita shinji [kurita(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
社会学は、人間社会の構造や人々の関係、行動を科学的に研究する学問である。個人や集団の相互作用、社会制度や社会システムの機能を分析することで、社会現象の原因や影響を明らかにする資質・能力を身につける。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
社会学の対象は、家族、教育、経済、政治、宗教などの身近な社会制度から、貧困、差別、環境問題、移民などの広範な社会課題まで多岐にわたるが、ここでは文化の社会学を中心に社会学の基礎理論を理解する。コンピテンシー：多様な学問の考え方、地域理解、異文化理解、情報収集力、情報分析力、情報構成力、批判的思考力、論理的思考力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
講義を中心とするが、調べ学習の発表、グループ討議を含む。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
事前学習（2時間以上）は、事前に指示された資料を読み、出された課題を行っておく。事後学修（2時間以上）は、講義終了後に、ノートを整理しながら復習を行い、次回の講義に備えること。						
【成績評価（方法・基準）】						
事前学修、調べ学習の発表、グループ討議、振り返りシートなど授業への参加点（participation points）（70%）、総括試験（30%）の結果に基づき、総合的に評価する。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	社会学とはどんな学問か					
第2回	社会学の成立、歴史と展開					
第3回	社会学の基礎理論					
第4回	社会学的想像力					
第5回	コミュニティからアソシエーションへ 地縁団体の低迷					
第6回	社会的不平等 ジェンダーの社会学					
第7回	フィールドワーク（field work）					
第8回	定量的研究方法と定性的研究方法					
第9回	質的研究法 エスノメソドロロジー（ethnomethodology）					
第10回	レヴィ＝ストロースの参与観察					
第11回	文化の社会学 「アトムシール」					
第12回	「カバヤ文庫」を社会学的に読み解く					
第13回	「自己肯定感が低い日本人」を社会学的に読み解く					
第14回	「葬送のフリーレン」を社会学的に読み解く					
第15回	総括					
【教科書・参考書】						
参考書：レヴィ＝ストロース『野生の思考』（みすず書房）1976年、岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法』（有斐閣）2016年、佐藤郁哉『暴走族のエスノグラフィ』（新曜社）1984年。						
【学生へのメッセージ】						
受講前に各回のテーマについて自分の考えをまとめておきましょう。板書を写すだけのノートにならないノートの取り方についても学びます。受講後は、ノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えましょう。						
【オフィスアワー】						
毎週水曜日の4時限目を予定（予約が必要）						
【実務経験】						
大学コンソーシアムでの実務経験に基づいた授業を行います。						

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				人文・社会科学系科目
講義名	[G_lla1] [13] 心理学【社福】				
区分	前期（15回）		単位	選択（2）	形式 講義
授業年次	1年	2年	--	--	
担当教員	手塚知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko [tezuka(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
心理学とは、ひとの「意識」や「行動」の傾向を探る学問といえます。目に見えない「こころ」を科学する視点を持ち、「臨床心理学」「社会心理学」「発達心理学」など、さまざまな理論から考えていきます。本授業での学びはSDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」の視点に繋がります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
(1)人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する。(2)人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。(3)日常生活と心の健康との関係について理解する。(4)心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解する。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、傾聴力、批判的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
配布資料を基に、講義、演習、ディスカッションを行う。授業の中では、受講生が自分自身の身近な事柄にひきつけて理解できるよう例を示す。また講義後に、学生同士の意見交換やディスカッション、ロールプレイなどの演習も取り入れながら学修を深める。各授業終了時には、小レポートの作成を通して学んだ内容をまとめることにより、学修の定着を図る。授業計画の進め方は状況によって変更の可能性がある。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、シラバスに記載した参考書を読み、内容や用語について予習を行うこと。事後学修（2時間以上）は、毎回課題を課すため、学んだことを整理し、課題を行ってくる。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（50%）、小テスト（30%、3回×10%）、質疑応答への参加（20%）により総合的に評価する。小テストに対しては、次週の講義時に解説する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	心理学の歴史と対象				
第2回	心を探究する方法の発展 人の心の基本的な仕組みと機能				
第3回	心の生物学的基盤				
第4回	感情・動機づけ・欲求				
第5回	感覚・知覚				
第6回	学修・行動 「学修への動機づけ」についてICT機器による調べ学修				
第7回	認知				
第8回	個人差				
第9回	人と環境 人の心の発達過程				
第10回	生涯発達 心の発達の基盤 日常生活と心の健康				
第11回	心の不適応				
第12回	健康生成論 心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本				
第13回	心理アセスメント 心理的支援の基本的技法				
第14回	心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要 1				
第15回	心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要 2				
【教科書・参考書】					
教科書：必要に応じて資料を配布する。指定図書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座2 心理学と心理的支援』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。社会福祉士国家試験受験希望者には有益である。参考書：『心理学・入門：心理学はこんなに面白い』サトウタツヤ・渡邊芳之（有斐閣アルマ）2011年、『自分をみつめる心理学』串崎真志（北樹出版）2011年。そのほか適宜資料や文献等を紹介する。					
【学生へのメッセージ】					
履修登録しておけば単位が出るという授業ではありません。参考図書等を読む習慣をつけるようにしてください。予習・復習しないとわからなくなります。仏教においても福祉においても、自己ならびに他者の心のしくみと人間関係を見つめることは重要なことです。なお授業時のPC等のICT機器を持ち込みは、教員へ事前申請してください。					
【オフィスアワー】					
火曜日11:55-12:25、木曜日11:55-12:25					

【実務経験】

峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員の経験を活かして授業します。

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				人文・社会科学系科目
講義名	[H_11s1] [15] 文学				
区分	後期（15回）		単位	選択（2）	形式 講義
授業年次	1年	2年	--	--	
担当教員	Jill Emma Strothman		ジル・エマ・ストロースマン	jill emma strothman [jill(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
人文・社会科学系科目です。文学を読むことで人生が豊かになります。文学を書くことによって、自己表現ができます。自己表現によってストレス解消ができます。SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がります。ディプロマポリシー：芸術の発展に寄与できる総合力を身につけることができます。 キーワード：文学、自己表現、世界を知る					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
異国の文学を読むことによって「異文化理解」が増します。読んだ作品について答えることで「読解力」を得られます。自分で作品を書くことによって「文章表現力」を得られます。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
プリントを渡します。1ページ目に、その種類の文学の書き方の説明があります。それを読んだ上で、実際出版された短い名作を読みませ。その後、学生が話し合いやブレインストーミングを行い、新しい作品（自作）の簡単な枠組みを考えます。話し合いや自作の作品発表など、アクティブラーニングの多い授業です。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎週紹介する文学の種類を書き方から、自分が書いてみたいものを選んで、書いていただきます。そのために、毎週のプリントを復習して、それぞれのタイプの文学は自分に書けるものかどうか考えながら、授業で読んだ作品を振り返ります。1回の授業につき、それぞれ（2時間以上）の事前・事後学修を目安とします。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業内ワークシートの回答内容（30%、聞くだけでなく、書くことも含まれます）、中間発表（30%、自分で書いた作品を発表する）、学力確認テスト（40%）。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	授業説明、小説の読み書き スペイン：ドン・キホーテ				
第2回	推理小説の読み書き 米国：二分間ミステリー				
第3回	劇の読み書き ギリシア：アンティゴネ				
第4回	詩の読み書き ベルシア：ルバイヤート				
第5回	紀行の読み書き 日本：表参道のセレブ犬とカバーニャ要塞の野良犬				
第6回	散文：中国 孫子、エッセイの書き方				
第7回	中間発表：自分の作品を発表する				
第8回	中間発表：自分の作品を発表する				
第9回	サイエンスフィクション				
第10回	自伝、日記の読み書き				
第11回	伝記の読み書き				
第12回	ノンフィクションの読み方、書き方				
第13回	スピーチの読み書き				
第14回	絵本：身延山大学の卒業生の絵本を読んでから試験準備				
第15回	まとめ、学力確認テスト（解説を含む）				
【教科書・参考書】					
適宜プリントを配布する。					
【学生へのメッセージ】					
この授業では、学生が教員の話を受け流すだけではなく、積極的に参加していただきます。基本的に、学生本人が力を注いだ分、成長するものです。理想を言えば、学生に文学作品コンテストにエントリーをするくらいの勇気を与えることができれば最高です。					
【オフィスアワー】					
月曜日 5 時限目（相談したいことがある学生、事前に連絡してください）					
【実務経験】					
世界各国における勉学の経験を活かし、文学の多様性について教授します。					

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				自然科学系・総合領域科目
講義名	[A_ism1] [01] 自然科学入門				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）R3以降	形式	講義
授業年次	1年	2年	--	--	
担当教員	佃 俊明		ツクダ トシアキ		tsukuda toshiaki [tsukuda(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
自然科学はその名が表す通り、自然の営みにおける法則性や原理を、観測や実験結果から見出すところから始まっているが、「自然」の意味する範囲は広く、あらゆる現象が自然科学の対象になり得る。この講義では、まず前半で自然科学の成り立ちとそこから見出された原理や法則性を紹介していく。そして、現在の環境問題やSDGsへの取り組みを考える上で、それらの知見を用いることの意味や、科学的な思考態度とはどういうことか、ということ考察していく。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
自然科学に関する基礎知識を身につけると共に、物事や現象を科学的かつ多面的な視点で考察し、説明できる能力を養う。世の中にある科学的な情報について、科学的根拠を持った対応をすることができる。コンピテンシー：多様な学問の考え方、情報収集力、論理的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
当日の授業は主にスライドを用いて行う。なるべく難しい数式などは使わないように心がけるが、高校数学I・Aレベルの数学の知識を必要とする場面はあるかもしれない。時々学生の意見を聞いたり、学生同士のディスカッションを交える講義としたい。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）としてその回に関係する問いを提示する（初回を除く）ので、それに対して自分の考えをミニレポートの形でまとめること。事後学修（2時間以上）として、講義で学んだことを基にした問いについてミニレポートの形で答えること。					
【成績評価（方法・基準）】					
最後に学力確認テスト（40%）を行い、各回のミニレポートの評価（60%）と合わせて総合的に評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション：自然科学とは？				
第2回	宇宙の起源と地球の起源				
第3回	物質の成り立ち				
第4回	力と電気と磁気				
第5回	植物と動物				
第6回	岩石と宝石				
第7回	気象現象と気候				
第8回	波と光と音				
第9回	放射線の科学				
第10回	森林の営み（SDGs15の目標「陸の豊かさを守ろう」）				
第11回	海洋の営み（SDGs14の目標「海の豊かさを守ろう」）				
第12回	環境問題1：気候変動をどう考えるか（SDGs13の目標「気候変動に具体的な対策を」）				
第13回	環境問題2：エネルギー問題をどう考えるか（SDGs7の目標「エネルギーをみんなに。そしてクリーンに」）				
第14回	環境問題3：食糧問題をどう考えるか（SDGs2の目標「飢餓をゼロに」）				
第15回	まとめ：自然科学とこれからの地球、学力確認テスト（解説を含む）				
【教科書・参考書】					
教科書：授業時に適宜、資料を配布するので熟読すること。参考書：海辺宣男、星元紀「自然を理解するために－現代の自然科学概論－」、K. Wladron（著）、竹内敬人（訳）「教養としての化学入門」等。多岐に渡るため、講義の都度紹介していく予定。					
【学生へのメッセージ】					
達成課題のところにも書きましたが、自然科学に関する基礎知識を身につけると共に、物事や現象を科学的かつ多面的な視点で見る能力を養ってほしいと思います。同時に、世の中にある科学的な情報について、自らの頭できちんと考えられるようになることを期待します。					
【オフィスアワー】					
金曜3限授業後に教室にて受け付けます。					
【実務経験】					
「化学と教育」誌編集委員、甲府南高等学校SSH運営指導委員、韮崎高等学校SSH運営指導委員、甲種危険物取扱者資格等を活用した授業を展開します。					

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				自然科学系・総合領域科目
講義名	[B_ism2] [03] 人間関係とコミュニケーションの基礎				
区分	前期（15回）		単位	選択（2）	形式 講義
授業年次	1年	2年	--	--	
担当教員	功刀仁子		クヌギ ヒトコ		kunugi hitoko [kunugi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
コミュニケーション能力という言葉をよく耳にしますが、「コミュニケーション」とはどのようなものを指すのか。「人間関係とコミュニケーション」を中心に、基礎的な理論、具体的なコミュニケーション技術、現代のコミュニケーションをめぐる問題として新たなコミュニケーションツールなどについて概説します。コミュニケーション能力について理解を深め、具体的なコミュニケーション技術を身につけることによりSDGs17の目標「パートナーシップで目標を達成しよう」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
コミュニケーションの知識を体系的に修得すると共に、相手の言ったことを的確に理解し、自分の言葉で具体的に説明できる。 コンピテンシー：傾聴力、会話力、口頭表現力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
コミュニケーション理論について正確に理解できるよう講義すると同時に、それらを現実の自分の問題として、思考、かつ実践できるよう具体的で積極的に参加する授業を行います。また、表現力を充実させるために、グループワーク、ディスカッション、ディベートを授業で行います。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、各回の講義内容についてシラバスに記載した参考書による事前学習を行うこと、事後学修（2時間以上）は、配布プリントの内容に基づき授業の復習をし、課題を提出してください。					
【成績評価（方法・基準）】					
中間レポート（30%、第8回）、学力確認レポート（60%）、授業参画度（10%、毎回のリアクションペーパー等）により総合的に評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	人間関係と心理（自己覚知）				
第2回	人間関係と心理（他者理解）				
第3回	人間関係と心理（レポート）				
第4回	対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの意義）				
第5回	対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの概要）				
第6回	コミュニケーションを促す環境				
第7回	コミュニケーションの技法（物理的対人距離・心理的距離）				
第8回	コミュニケーション（言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション）				
第9回	コミュニケーションの技法（傾聴）				
第10回	コミュニケーションの技法（受容・共感）				
第11回	機器を用いたコミュニケーション				
第12回	記述によるコミュニケーション				
第13回	チームマネジメントとコミュニケーションの基本				
第14回	チームマネジメントを行う際のコミュニケーション技術				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
教科書：『人間の理解 介護福祉士養成講座1』（中央法規）2024年。参考書：『入門コミュニケーション論』宮原哲（松柏社）2006年、『グローバル社会のコミュニケーション学入門』藤巻光浩（ひつじ書房）2019年、『メディア・リテラシー』菅谷明子（岩波書店）2000年。その他の参考書は講義中に適宜紹介する。					
【学生へのメッセージ】					
現代社会に求められる「コミュニケーション能力」を受講生一人ひとりが自らの問題として捉え、落ち着いて他者の意見を聴く、自信をもって自分の意見を述べられるようになることを望みます。毎回受講生に積極的な問いかけ、発言をしてもらいます。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室や非常勤講師控室にて対応します。メールでも（kunugi(a)min.ac.jp）対応可。					
【実務経験】					
山梨県立中央病院での看護師としての経験を生かした授業を展開します。					

年度	区分				分野	
令和8年度	全専攻共通 教養科目				自然科学系・総合領域科目	
講義名	[C_ism3] [05] 人間の尊厳と自立【社教(選択)】					
区分	後期 (15回)		単位	選択 (2)		形式 講義
授業年次	1年	2年	--	--		
担当教員	功刀仁子		クヌギ ヒトコ		kunugi hitoko [kunugi(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立・自律について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養うことを目的とします。基本的人権の理念や人権侵害といった社会的問題について学ぶ。さらに、介護における尊厳の保持・自立支援を理解するために、具体的な生活場面の事例を取り上げて学ぶ。人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う内容とする。人間にとっての自立の意味と本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を学ぶことによって、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がります。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
介護を必要とする人々に対する全人的な理解を深め、その尊厳を守る姿勢を身につけます。また、介護実践の基礎となる教養、総合的な判断力、そして豊かな人間性を育みます。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、情報収集力、情報分析力、読解力、文章表現力、課題設定力、実行力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
授業前半は、スライド等を使用し授業を進める。授業後半は、受講生と一緒に議論し、理解を深める。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
毎回それぞれ（2時間以上）の事前・事後学修を行うこと。その方法については授業中に説明します。						
【成績評価（方法・基準）】						
授業への取り組み姿勢（50%、発言回数やワークの成果物など）および講義毎の予習・復習レポートの提出（50%）により評価します。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	人間の多面的理解					
第2回	人間の尊厳と人権・福祉理念					
第3回	人間の尊厳 普遍的尊厳					
第4回	人間の尊厳 個別的尊厳・多様性					
第5回	自立の概念					
第6回	事例を通して「自立・自律を考察1」					
第7回	事例を通して「自立・自律を考察2」					
第8回	人権と尊厳 基本的人権					
第9回	権利擁護					
第10回	アドボカシー					
第11回	人権尊重					
第12回	スティグマ					
第13回	身体的な自立支援					
第14回	精神的な自立支援					
第15回	社会的な自立支援					
【教科書・参考書】						
教科書：『人間の理解 介護福祉士養成講座1』（中央法規）2024年。						
【学生へのメッセージ】						
この授業では、皆さんが積極的に議論に参加することを期待しています。						
【オフィスアワー】						
授業の前後に教室や非常勤講師控室にて対応します。メールでも（kunugi(a)min.ac.jp）対応可。						
【実務経験】						
山梨県立中央病院での看護師としての経験を生かした授業を展開します。						

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				自然科学系・総合領域科目
講義名	[F_ism1] [13] 基礎ゼミ I				
区分	前期 (15回)	単位	必修 (1)		形式 演習
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	塩田宝樹		シオタ ホウジュ		shiota hoju [shiota(a)]
	白 景皓		ハク ケイコウ		bai jinghao [bai(a)]
	小高絢子		オダカ アヤコ		odaka ayako
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
<p>本学の定める三つの方針「アドミッションポリシー（本学が求める学生像）、カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）、ディプロマポリシー（学位授与に関する方針）」を軸とし、大学生として最低限必要な学力（読み、理解し、考え、表現する）を身につけると共に、自主的学修姿勢を培い、個性と主体性を育み、そして教員と学生、及び学生相互の人格的交流・錬磨の場とし、大学生活を送る上で人間関係を充実させるアクティブ・ラーニング型の授業を展開します。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
<p>大学とは、学生自身が確かな向学心を持って、能動的に学び、研究をしていく場所です。そのためには、必要最低限の理解力・思考力・表現力といった能力を身につけていなければなりません。基礎ゼミの目的は、このような大学教育に必要な基礎能力をマスターすることにあります。基礎ゼミでは、基礎的なスキルを身につけることを目標とし、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋がる講義を展開します。コンピテンシー：多様な学問の考え方、地域理解、異文化理解、情報収集・分析・構成力、読解力、文章表現力、口頭発表力、批判的・論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力、実行力、評価力</p>					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
3人の担当教員が交代で授業を行います。それぞれが指定する教科書や参考書に沿って進めていくため、各教員の指示に従ってください。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、教科書をよく読み、課題をきちんとこなし、授業に備えること。事後学修（2時間以上）は、授業の内容をよく復習し、語彙力、文章力を高める努力をすること。					
【成績評価（方法・基準）】					
リアクションペーパー、ポートフォリオなど提出物（20%）、レポート課題（40%）、プレゼン課題（40%）を目安に、総合的に評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	[4月7日] 新入生オリエンテーション【担当：塩田（全員）】 ポートフォリオ手帳（P.N.）に基づく個別学修指導				
第2回	[4月14日] 第1章 大学での学び方1【担当：塩田】 大学とは・学問とは：身延山大学の歴史と建学の精神				
第3回	[4月21日] 第1章 大学での学び方2【担当：塩田】 本学における課題提出時のルール：学務手続き等				
第4回	[4月28日] 第1章 大学での学び方3【担当：塩田】 本学における課題提出時のルール：レポートの形式等				
第5回	[5月12日] GPS-Academic（社会で活躍するために大切な「問題解決力」を測るテスト）【担当：塩田（全員）】				
第6回	[5月19日] 第1章 大学での学び方4【担当：小高】 レポートの書き方・資料収集の方法：図書館利用法・データベース活用				
第7回	[5月26日] 第1章 大学での学び方5【担当：小高】 レポート作成上の倫理：参考文献リストの作り方				
第8回	[6月2日] 第1章 大学での学び方6【担当：小高】 レポート作成のための日本語力：論理的な文章の書き方				
第9回	[6月9日] 第1章 大学での学び方7【担当：小高】 レポート作成の実践・フィードバック				
第10回	[6月16日] 学園講座【担当：塩田（全員）】				
第11回	[6月23日] 第2章 社会の中の大学【担当：白】 グループ・ディスカッション：本学の個性・特色等について考えてみよう グループ・ワーク：学生満足度アンケートを作ろう				
第12回	[6月30日] 第3章 コンピュータ/ネットワーク・リテラシー1【担当：白】 Google 活用術：ドライブ・フォーム				

第13回	[7月7日] 第3章 コンピュータ/ネットワーク・リテラシー2【担当：白】 Microsoft Word：レポートの提出方法
第14回	[7月14日] 第3章 コンピュータ/ネットワーク・リテラシー3【担当：白】 プレゼンテーションスキル1：Microsoft PowerPoint プレゼンテーションスキル2：PREP法 (Point Reason Example Point)
第15回	[7月21日] P.N.に基づく個別学修指導【担当：白(全員)】 ポートフォリオ手帳 (P.N.) に基づく個別学修指導
【教科書・参考書】	
教科書は『大学1年生からの社会を見る眼のつくり方(シリーズ大学生の学びをつくる)』大学初年次教育研究会(大月書店)2020年を使います。参考書：『令和8年度 履修の手引き』身延山大学仏教学部仏教学科編(身延山大学)2025年を用います。その他、適宜、資料を配布・配信します。	
【学生へのメッセージ】	
この科目は、大学での主体的な学習姿勢と、レポート作成や発表などの基本的なアカデミックスキルを修得することを目的としています。ここで身につけるスキルは、今後の全ての専門科目を履修する上での基礎となります。1年次に必ず履修してください。	
【オフィスアワー】	
塩田宝樹：授業担当時の前後、火・水・木曜日の授業・会議以外の時間帯 白 景皓：授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに対応します。 小高絢子：本授業の前後、もしくは火・水・木曜日のオフィスアワー(大学事務室を通じて予約してください)。	
【実務経験】	
塩田宝樹：なし 白 景皓：なし 小高絢子：なし	

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				自然科学系・総合領域科目
講義名	[G_Is2] [21] 基礎ゼミ II				
区分	後期（15回）	単位	必修（1）		形式 演習
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	塩田宝樹		シオタ ホウジュ		shiota hoju [shiota(a)]
	白 景皓		ハク ケイコウ		bai jinghao [bai(a)]
	小高絢子		オダカ アヤコ		odaka ayako
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
<p>本学の定める三つの方針「アドミッションポリシー（本学が求める学生像）、カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）、ディプロマポリシー（学位授与に関する方針）」を軸とし、大学生として最低限必要な学力（読み、理解し、考え、表現する）を身につけると共に、自主的学修姿勢を培い、個性と主体性を育み、そして教員と学生、及び学生相互の人格的交流・錬磨の場とし、大学生活を送る上で人間関係を充実させるアクティブ・ラーニング型の授業を展開する。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
<p>大学とは、学生自身が確かな向学心を持って、能動的に学び、研究をしていく場所です。そのためには、必要最低限の理解力・思考力・表現力といった能力を身につけていなければなりません。基礎ゼミの目的は、このような大学教育に必要な基礎能力をマスターすることにあります。基礎ゼミIIでは、応用的なスキルを身につけることを目標とし、SDGs5の目標「ジェンダー平等を実現しよう」、SDGs8の目標「働きがいも経済成長も」、SDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」、SDGs11の目標「住み続けられるまちづくりを」に繋がる講義を行います。コンピテンシー：多様な学問の考え方、地域理解、異文化理解、情報収集・分析・構成力、読解力、文章表現力、口頭発表力、批判的・論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力、実行力、評価力</p>					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
3人の担当教員が交代で授業を行う。文献購読の後にグループディスカッションや発表を行い、各自の能動的学修を促す。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、教科書をよく読み、課題をきちんとこなし、授業に備えること。事後学修（2時間以上）は、授業の内容をよく復習し、語彙力、文章力を高める努力をすること。					
【成績評価（方法・基準）】					
リアクションペーパー、ポートフォリオなど提出物（20%）、レポート課題（50%）、プレゼン課題（30%）を目安に、総合的に評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	[9月29日] 前期成績に基づく後期履修指導【担当：全員】				
第2回	[10月6日] 第4章 ジェンダーから読む社会1：性別役割分業と男女平等【担当：小高】 SDGs5の目標「ジェンダー平等を実現しよう」				
第3回	[10月13日] 避難訓練及び初期消火訓練【担当：塩田（全員）】				
第4回	[10月20日] 第4章 ジェンダーから読む社会2：多様な性のあり方・ハラスメント【担当：小高】				
第5回	[10月27日] 第5章 政治と社会の担い手になる1：若年層の投票率と政治参加【担当：小高】				
第6回	[11月10日] 第5章 政治と社会の担い手になる2：社会問題と政策を知る（情報収集）【担当：小高】				
第7回	[11月17日] 第5章 政治と社会の担い手になる3：賛否の意見文を書いてみる（実践）【担当：小高】				
第8回	[11月24日] 公開講演会【担当：塩田（全員）】				
第9回	[12月1日] 第6章 働くことと労働法1【担当：塩田】				
第10回	[12月8日] 第6章 働くことと労働法2【担当：塩田】				
第11回	[12月15日] 第7章 現代史と今日の社会1【担当：白】				
第12回	[12月22日] 第7章 現代史と今日の社会2【担当：白】				
第13回	[1月12日] 第7章 現代史と今日の社会3【担当：白】				
第14回	[1月19日] 個人発表・プレゼンテーション【担当：白】				
第15回	[1月26日] ポートフォリオ手帳に基づく個別学修指導【担当：全員】				
【教科書・参考書】					
教科書は『大学1年生からの社会を見る眼のつくり方（シリーズ大学生の学びをつくる）』大学初年次教育研究会（大月書店）2020年を使います。その他、適宜、資料を配布・配信します。					
【学生へのメッセージ】					
好奇心を持ち、さらなる探求心を培いましょう。見識を深め、自己を向上させてください。一人一人の個性を尊重し、相手の視点に立つことを大切にします。主体的、かつ柔軟に思考する力を養っていきましょう。ポートフォリオ手帳を活用し計画的な学修に取り組んでください。					

【オフィスアワー】

塩田宝樹：授業担当時の前後、火・水・木曜日の授業・会議以外の時間帯

白 景皓：授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに対応します。

小高絢子：本授業の前後、もしくは火・水・木曜日のオフィスアワー（大学事務室を通じて予約してください）。

【実務経験】

塩田宝樹：なし

白 景皓：なし

小高絢子：なし

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				自然科学系・総合領域科目
講義名	[H_ism0] [11] ボランティア活動の単位認定				
区分	通年（1回）		単位	選択（1）	形式 認定
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	学務委員長		ガクムイインチョウ		[gakumu(a)]
	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byungkon [kim(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
ボランティア活動という利他行の実践を通じ、自己と他者が共に尊い存在であることを深く認識し、共生の精神に基づく社会参画の意義を体得します。奉仕と勤労のなかに、社会を支え、自らを磨く精進の道を見出すことを目的とします。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
他者との対話（コミュニケーション）を通じて豊かな人間性を涵養し、自ら進んで慈悲の心を持って社会課題に向き合う姿勢を養います。また、SDGsが掲げる諸課題の解決に資する具体的な活動を通じ、社会に貢献し得る実践的な技能を修得します。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、情報収集力、読解力、文章表現力、実行力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
本科目は単位認定科目であり、直接の講義形式とはならないが、活動に従事した事業体の評価を軸に据えます。活動前後の内省（リフレクション）を通じ、実習によって得られた知見や精神的成長が、本学の建学の精神に照らして真に成果を収めたか否かを総合的に判定します。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
認定科目の特性に鑑み、活動事業体との緊密な協議のもとで学修内容を精査・決定します。事前には活動の趣旨を深く理解し、事後にはその体験を自らの血肉とするための省察を行います。					
【成績評価（方法・基準）】					
ボランティア活動を受け入れた主事業体による客観的評価を最優先とし、これに活動報告書を通じた自己研鑽の度合い、および指導教員の判定を加えて評価を確定します。なお、単位認定には最低45時間以上の実働を要件とします。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	事前学修および活動計画の策定				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
本学は「立正安国」の理念の下、仏教の普遍的哲学と専門知を磨き、社会に尽くす人材を養成します。学問探究と実践を重んじる「行学二道」の歩みを通じ、他者の視点に立つ慈悲の心と、現代の多様な課題に挑む論理的思考力を培ってください。日蓮学・文学芸術・福祉学の各専攻での学びを糧に、自己を向上させ、安穩な社会の実現に寄与する。そんな志を持つ皆さんが、現場で生きる総合力を身につけ、大きく飛躍することを期待します。					
【オフィスアワー】					
毎週水曜日の第1・2時限目に、大学事務室にて学修相談や質問を受け付けます。なお、会議や出張、学内行事等の諸事情により席を外している場合もあります。貴重な時間を有効に活用するためにも、事前にメール（kim(a)min.ac.jp）にて、件名に氏名と相談内容を明記の上、アポイントメントをとるようにしてください。なお、メールでの質問についても、上記アドレスにて随時受け付けます。					
【実務経験】					
在職13年、学務委員長として建学の精神を具現する立場から、社会活動に励む学生の挑戦と成果を、教育的知見に基づき正当に評価・指導します。					

年度	区分				分野	
令和8年度	全専攻共通 教養科目				自然科学系・総合領域科目	
講義名	[I_ism0] [13] 社会活動の単位認定					
区分	通年（1回）		単位	選択（1）		形式 認定
授業年次	1年	2年	3年	4年		
担当教員	学務委員長		ガクムイインチョウ		[gakumu(a)]	
	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byungkon [kim(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
<p>本学の建学の精神である「社会に身をもって尽くす」という理念を具現化するため、実社会における様々な活動に対して単位認定を行います。伝統的な教室内の学修を超え、「行学二道」の教えに基づき、社会の現場に直に身を投じることで、利他の真義を体得することを目的とします。現実の社会課題に触れ、他者の苦しみに寄り添い、共に歩むことの大切さを肌で感じるための実践科目です。</p>						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
<p>具体的な活動内容により到達目標は多岐にわたりますが、本質的には、社会における自己の役割を再発見し、現場での実践を通じて「立正安国」の志、すなわち社会の安寧と幸福に寄与しようとする能動的な姿勢を養うことを目標とします。また、多様な立場の人々と関わる中で、相互理解と共生の智慧を育みます。コンピテンシー：多様な学問の考え方、情報収集力、読解力、文章表現力、実行力</p>						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
<p>第1回のガイダンスにおいて、本科目が持つ教学上の意義、単位認定の基準、および申請の具体的な手順を詳述します。第2回以降は、各自が展開する社会活動の実績に基づき、その学術的・実践的価値を精査し、認定に必要な学修時間として算入します。</p>						
【授業外学修の方法（時間数）】						
<p>各自の選択する活動内容に即して計画を立てます。活動前には目的意識を明確にするための予習を行い、活動後は体験を単なる思い出に留めず、自らの成長の糧とするための省察を行います。</p>						
【成績評価（方法・基準）】						
<p>社会活動の現場における誠実な取り組みと、その成果を報告書等により総合的に判定します。単位認定の要件として、所定の最低活動時間（例：施設等における活動の場合は45時間）を完遂していることを必須条件とします。</p>						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	ガイダンス（社会活動の意義と単位認定手続きの解説）					
【教科書・参考書】						
特になし。						
【学生へのメッセージ】						
<p>本学は「立正安国」の理念の下、仏教の普遍的哲学と専門知を磨き、社会に尽くす人材を養成します。学問探究と実践を重んじる「行学二道」の歩みを通じ、他者の視点に立つ慈悲の心と、現代の多様な課題に挑む論理的思考力を培ってください。日蓮学・文学芸術・福祉学の各専攻での学びを糧に、自己を向上させ、安穩な社会の実現に寄与する。そんな志を持つ皆さんが、現場で生きる総合力を身につけ、大きく飛躍することを期待します。</p>						
【オフィスアワー】						
<p>毎週水曜日の第1・2時限目に、大学事務室にて学修相談や質問を受け付けます。なお、会議や出張、学内行事等の諸事情により席を外している場合もあります。貴重な時間を有効に活用するためにも、事前にメール（kim(a)min.ac.jp）にて、件名に氏名と相談内容を明記の上、アポイントメントをとるようにしてください。なお、メールでの質問についても、上記アドレスにて随時受け付けます。</p>						
【実務経験】						
<p>在職13年、学務委員長として建学の精神を具現する立場から、社会活動に励む学生の挑戦と成果を、教育的知見に基づき正當に評価・指導します。</p>						

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				自然科学系・総合領域科目
講義名	[J_lsm0] [15] 大学間単位互換事業の単位認定				
区分	通年（2回）		単位	選択（30）以下	形式 認定
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	学長		ガクチョウ		university president
	望月海慧		モチヅキ カイエ		mochizuki kaie [imochi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本科目は、山梨英和大学との単位互換事業に基づき、同大学で開講される科目を履修することで単位を認定するものです。山梨英和大学が提供する多様な教育資源を活用し、学生の専門性の深化および学際的視野の拡充を図ります。本学にはない学問領域や異なる教育アプローチに触れることで、多角的な視点から物事を捉える能力を養います。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
履修科目の具体的な到達目標については、山梨英和大学のシラバス「概要」「到達目標」を確認してください。本学の連携事業としては、以下の3点を全体目標とします。(1)専門的知見の獲得：他大学の専門的な知識・技能を体系的に修得する。(2)学修成果の接続：本学のディプロマ・ポリシーに則した、質の高い学修成果を獲得する。(3)主体的学修の実践：異なる教育環境において、自ら主体的に学修を遂行できる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
山梨英和大学の実施方法に準じます。詳細は当該科目のシラバス「授業実施方法（アクティブラーニング等）」「学修に対するフィードバック方法」「関連科目・前提科目」を参照してください。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
山梨英和大学のシラバス「授業時間外学修（予習・復習等の内容と時間）」に基づき、適切な予習・復習を行ってください。					
【成績評価（方法・基準）】					
原則として、山梨英和大学の「成績評価の方法」に基づき評価を行います。山梨英和大学での評価を本学の単位として認定し、卒業単位に算入します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	第1回から最終回までの詳細は、山梨英和大学のシラバス「授業計画表」を参照してください。				
第2回	Yamanashi Eiwa College Web Service https://portos.yamanashi-eiwa.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx				
【教科書・参考書】					
山梨英和大学のシラバス「教科書・参考書」の指定に従ってください。					
【学生へのメッセージ】					
山梨英和大学での学びは、皆さんが自ら機会を広げることで大きく深まります。本制度は、所属大学の枠を超えて学修できる貴重なチャンスです。専門性の深化はもちろん、異なる大学の雰囲気や教育環境に身を置く経験そのものが、皆さんの視野を広げる大きな財産となります。知的好奇心を持って、積極的に活用してください。					
【オフィスアワー】					
基本的には山梨英和大学のシラバスに記載された方法に従ってください。なお、「履修方法が分からない」「受講に対して不安がある」といった手続き面や学修全般の相談については、本学の大学事務局で随時受け付けます。					
【実務経験】					
山梨英和大学のシラバスを参照してください。					

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				地域教養科目
講義名	[A_1c1] [01] 山梨県と峡南地域【社教(選択)】				
区分	集中	単位	選択(2)		形式 演習
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	望月真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho [smochi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
山梨県峡南地域の歴史と文化について学ぶために3回(土曜日開講)の巡見(フィールドワーク)を行う。各回の1時限目に巡見場所に関する調べ学修を行い、予備知識を得た上で2限目以降に巡見を行う。受講生にはその日の巡見場所を1箇所担当して現地で発表をしてもらう。自ら歩いて見学することにより、峡南地域の歴史と文化を体感する。巡見先の施設等の関係者から話を聞き、その話を受けて現地でディスカッションを行う。					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
峡南地域が山梨県の中でどういう地域か、理解することを到達目標とする。そして、3回の巡見(フィールドワーク)を通じて「健康力」「情報収集力」「地域理解」「傾聴力」「口頭発表力」が身につく。					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
山梨県峡南地域の身延町、南部町、早川町、富士川町、市川三郷町にスポットをあて3回に分けて神社仏閣、史跡、文化・歴史施設等を巡見(フィールドワーク)する。各回の巡見後にレポートを提出してもらう。毎回、1時限目は大学や久遠寺内で調べ学修を行い、それから巡見を行う。タブレット端末等のICT機器を使用して巡見先の調べ学修を行う。授業は集中講義で、5月23日(土)、6月20日(土)、11月21日(土)の3回を予定している。諸般の事情によりこれらの日に授業ができない場合の予備日として5月30日(土)、7月4日(土)、11月28日(土)を設定する。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
巡見(フィールドワーク)のための調べ学修を巡見前に行う。各回ごとに事前学修(10時間)、事後学修(10時間)を行う。					
【成績評価(方法・基準)】					
巡見した際の授業への取り組み姿勢(20%)、巡見時における口頭発表(20%)、3回のレポート(60%)にて評価する。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	5月23日(予備日5月30日) 1回目(南部町方面)巡見場所の調べ学修と巡見 1時限目 授業の概要説明、調べ学修				
第2回	2時限目 巡見(フィールドワーク)				
第3回	3時限目 巡見(フィールドワーク)				
第4回	4時限目 巡見(フィールドワーク)				
第5回	5時限目 巡見(フィールドワーク)				
第6回	6月20日(予備日7月4日) 2回目(身延町・早川町方面)巡見場所の調べ学修と巡見 1時限目 授業の概要説明、調べ学修				
第7回	2時限目 巡見(フィールドワーク)				
第8回	3時限目 巡見(フィールドワーク)				
第9回	4時限目 巡見(フィールドワーク)				
第10回	5時限目 巡見(フィールドワーク)				
第11回	11月21日(予備日11月28日) 3回目(富士川町・市川三郷町方面)巡見場所の調べ学修と巡見 1時限目 授業の概要説明、調べ学修				
第12回	2時限目 巡見(フィールドワーク)				
第13回	3時限目 巡見(フィールドワーク)				
第14回	4時限目 巡見(フィールドワーク)				
第15回	5時限目 巡見(フィールドワーク)				
【教科書・参考書】					
毎回巡見する場所等を記した資料を配付します。					
【学生へのメッセージ】					
3回の巡見には必ず出席すること。巡見場所、巡見日は、天候や訪問先の事情により変更することがあります。巡見は基本的に学校のバスを利用するので交通費はかかりません。拝観料他が必要となる場合は予め受講者に連絡します。昼食は各自自参を原則とします。受講生数にもよりますが、基本的に学バスで巡見するので受講人数に制限があります。開講日は土曜日の1限~5限となります。3回の講義は都合により予備日に変更する場合がありますが、その際は事前に受講生に連絡します。雨はいつ降るかわからないので、各回とも雨具を必ず持参してください。					

【オフィスアワー】

授業内容等に関する質問があれば、3回の授業前後の時間に担当教員が対応します。毎回、1時限目にその日に巡見する場所の調べ学修を行います。具体的な巡見場所を知りたい受講生は事前に担当教員にメール（smochi(a)min.ac.jp）で問い合わせてください。

【実務経験】

博物館学芸員としての勤務経験が42年あり、その時に経験した地域住民や地域の博物館との関わりを踏まえて授業を行います。

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				地域教養科目
講義名	[B_lcl1] [03] 山梨県の福祉文化				
区分	前期（15回）	単位	選択（2）		形式 講義と演習、実践
授業年次	--	2年	3年	4年	
担当教員	伊東久実		イトウ クミ		ito kumi [ito(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
講義と演習、そして学外において福祉活動に参加して、地域文化と福祉の関わり、地域課題と福祉のあり方への理解を深め、地域課題を解決するための基礎スキルの修得を行う。山梨の福祉文化について学ぶことによって、SDGs11の目標「住み続けられるまちづくりを」に繋がります。 キーワード：福祉文化、地域課題、課題解決					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
豊かな暮らしを障がいのあるなしに関わらずすべての人々が享受できる社会形成に向けて、現在の地域にある福祉文化を概観し、私たちが暮らす地域の福祉の多様性を理解できるようになる。次に、インターネット上から得られる情報を用いてプレゼンテーションができるようになることや、実際の現場から得られた情報を、先の情報と照らし合わせて適切に加工し、他者に伝えられるようになる。そして、それらの情報から導かれる課題を解決する具体案を作成できるようになる。 コンピテンシー：地域理解、情報収集・分析・構成員力、読解力、文章表現力、口頭発表力、批判的・論理的思考力、課題設定力、構想力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
大学図書館、地域図書館などの資料を活用して、地域の歴史の中にある福祉文化を探索する。校外学修では地域に出かけて実際の現場を見て、感じて、その意味を知り、地域の課題解決に向けた具体的な提言案を作成する。講義形式と自己学修型の演習に加え、グループディスカッションを取り入れながら実践の観察を行うPBL型の授業とする。特に11回～15回の授業では、それまでの授業を踏まえて「支え合い」を基本コンセプトとしてPBL型の授業を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習（2時間以上）は、指定された事項の情報を収集する。事後学習（2時間以上）は、得られた情報を整理加工する。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業内発表（3回・60%）、質疑応答への参加（40%）により評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション、福祉と文化の関係とその範囲				
第2回	「支え合い」の源流				
第3回	福祉活動への参加（身延町内子育て支援施設での校外学修の事前指導）				
第4回	福祉活動への参加（身延町内子育て支援施設での校外学修の計画）				
第5回	福祉活動への参加（身延町内子育て支援施設での校外学修の準備）				
第6回	福祉活動への参加（身延町内子育て支援施設での校外学修）				
第7回	校外学修の振り返り：地域の福祉文化の重要性 様々な福祉実践と民間の活動1：情報の収集				
第8回	様々な福祉実践と民間の活動2：発表とグループディスカッション				
第9回	資料から考察する山梨県の福祉文化1：情報の収集				
第10回	資料から考察する山梨県の福祉文化2：発表とグループディスカッション				
第11回	山梨県の地域課題を知る：福祉に関する地域課題の検出（PBL型） SDGs11の目標「住み続けられるまちづくりを」				
第12回	地域課題解決に向けての方策検討（PBL型）				
第13回	地域課題解決具体案の作成（PBL型）				
第14回	課題解決策のプレゼンテーション グループディスカッションによるプレゼンテーションのフィードバック				
第15回	山梨県の福祉文化の多様性理解				
【教科書・参考書】					
教科書：適宜プリントを配布する。参考書：『福祉文化の協奏』増子勝義（北樹出版）2017年、『福祉文化とは何か』河東田博編（明石書店）2010年、『福祉文化論』一番ヶ瀬康子ほか編（有斐閣ブックス）1997年、その他の参考書は講義中に適宜紹介する。					
【学生へのメッセージ】					
「福祉文化」という聞き慣れない言葉ですが、個が大切にされ、人と人との間に温かさを通わせることの出来る支え合いの暮らしについて、課題意識をもって共に考えましょう。					

【オフィスアワー】

火曜日（15:30-17:00）と金曜日（15:30-17:00）

【実務経験】

私立幼稚園教諭、国立大学附属幼稚園教諭として行った保護者支援の経験を生かして、子育て支援の必要性と制度、具体的対応を講義します。

年度	区分	分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目	地域教養科目

講義名	[C_lcl2] [05] サービスラーニング
-----	-------------------------

区分	前期（15回）	単位	選択（1）	形式	演習
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	井沼 一	イヌマ ハジメ	inuma hajime
------	------	---------	--------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

サービスラーニングは、1980年代アメリカで始まった教育活動です。社会活動を通して市民性を育む学習です。対象は、地域活動とします。地域の課題について、それを体験し、まとめて整理し、内容を明かに認識して、解決に向けての方策を考え事前に試用し、改善を加えて、再実行できるプロセスが踏めるような授業構成とする。 教室での講義の際は、映像資料（テレビドキュメンタリー番組等）も用いる。 キーワード：子ども食堂、オレンジカフェ、校庭キャンプ、ボランティアセンター、生きがい広場等 SDGs推進

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

大学で学んだ知識や技術を活かして、地域社会に存在するさまざまな課題に対する情報を収集し、分析し、まとめて、課題解決に向けて組織的に社会的活動を行うためのコミュニケーション力を発揮し、社会的役割や市民としての責任に立脚して貢献できる姿勢を得ることを目標とする。受講生はPDCAサイクルを理解して、その活用方法を学び、論理的に組み立て、実際に運用し、課題解決の方法として実践できる力を成果とする。

【授業方法（フィードバックの内容）】

峡南圏域で行われている地域活動を、学内・学外を通して地域課題の解決方法を探求する。フィールドは、オレンジカフェ、高齢者いきいきサロン活動、小中学校出張授業、子育て支援イベントの企画・運営、地域行事への参加、イベント参加や協働等の地域活動とする。計画、実践報告などに対して、講義中にコメントします。

【授業外学修の方法（時間数）】

地域活動を実施する前に、（2時間以上）の事前学修を実施し活動目的や活動内容等の計画書を作成する。地域活動の実施後は活動の振り返りを行い、（2時間以上）の事後学修を実施し活動報告を文章化する。

【成績評価（方法・基準）】

中間レポート（20%、第8回）、期末レポート（70%）、授業参画度（10%、毎回のリアクションペーパーなど）により総合評価。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	オリエンテーション（授業計画の説明）、サービスラーニングとは？
第2回	活動計画の素案作り
第3回	活動計画の構成と計画書の作成
第4回	活動前の事前準備（事業者との面談と打ち合わせ）
第5回	地域活動1（活動の準備）
第6回	地域活動2（活動の準備）
第7回	地域活動3（実践）
第8回	地域活動4（実践）中間レポート
第9回	地域活動5（実践）
第10回	活動の振り返り（フィードバック討議）
第11回	活動報告書の作成と地域課題の掘り起こし1
第12回	活動報告書の作成と地域課題の掘り起こし2
第13回	地域課題に対する解決案の作成と修正
第14回	解決案の事業者への提案
第15回	事後報告会と全体のふりかえり

【教科書・参考書】

毎回、資料を配布する。参考書：『サービス・ラーニングのためのアクティビティ』山下美樹 宇治谷映子他（研究社）2021年、『市民参画とサービス・ラーニング』吉川幸 前田芳男監訳（岡山大学出版会）2020年。

【学生へのメッセージ】

地域の課題を明確にして、ニーズをひろいあげ、地域活動をいっしょに取り組んでみましょう。受講する皆さんが興味あることに取り組み、深めていく講義です。興味あること、好きなものを教えてください。

【オフィスアワー】

令和8年度教員オフィスアワーを参照すること。

【実務経験】

介護福祉士・居宅支援専門員・社会福祉士として、訪問系事業所にて20年携わった経験や地域活動を活かした講義を展開します。

年度	区分				分野		
令和8年度	全専攻共通 教養科目				地域教養科目		
講義名	[D_lcl2] [07] サービスラーニング II						
区分	後期 (15回)		単位	選択 (1)		形式	演習
授業年次	--	2年	3年	4年			
担当教員	井沼 一		イヌマ ハジメ		inuma hajime		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
サービスラーニングは、1980年代アメリカで始まった教育活動です。社会活動を通して市民性を育む学習です。対象は、地域活動とします。地域の課題について、それを体験し、まとめて整理し、内容を明かに認識して、解決に向けての方策を考え事前に試用し、改善を加えて、再実行できるプロセスが踏めるような授業構成とする。 教室での講義の際は、映像資料(テレビドキュメンタリー番組等)も用いる。 キーワード：子ども食堂、オレンジカフェ、校庭キャンプ、ボランティアセンター、生きがい広場等 SDGs推進							
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】							
大学で学んだ知識や技術を活かして、地域社会に存在するさまざまな課題を解決するために組織的に社会的活動を行うことを通して、社会的役割や市民としての責任を自覚できることを目標とする。受講生はPDCAサイクルを理解してその活用方法を学び、実際に運用し、課題解決の方法を身につけることを成果とする。							
【授業方法(フィードバックの内容)】							
峡南圏域で行われている地域活動を、学内・学外を通して地域課題の解決方法を探求する。フィールドは、オレンジカフェ、高齢者いきいきサロン活動、小中学校出張授業、子育て支援イベントの企画・運営、地域行事への参加、イベント参加や協働等の地域活動とする。計画、実践報告などに対して、講義中にコメントします。							
【授業外学修の方法(時間数)】							
地域活動を実施する前に、(2時間以上)の事前学修を実施し活動目的や活動内容等の計画書を作成する。地域活動の実施後は活動の振り返りを行い、(2時間以上)の事後学修を実施し活動報告を文章化する。							
【成績評価(方法・基準)】							
中間レポート(20%、第8回)、期末レポート(70%)、授業参画度(10%、毎回のリアクションペーパーなど)により総合評価。							
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】							
第1回	オリエンテーション(授業計画の説明)、サービスラーニング の成果を踏まえた活動計画						
第2回	地域課題の調査						
第3回	地域課題への対応策1 現状の把握						
第4回	地域課題への対応策2 先進的な活動事例						
第5回	活動目的と活動内容等の明確化						
第6回	活動計画の立案						
第7回	グループワークでの活動準備(役割分担、タイムスケジュールの確認)						
第8回	グループワークでの活動準備(制作物の作成)中間レポート						
第9回	グループワークでの活動準備(個別指導)						
第10回	実践のリハーサル						
第11回	地域活動						
第12回	活動の振り返りと改善計画(フィードバック討議)						
第13回	活動報告書作成						
第14回	事後報告会						
第15回	事後報告会と全体のふりかえり						
【教科書・参考書】							
毎回、資料を配布する。参考書：『サービス・ラーニングのためのアクティビティ』山下美樹 宇治谷映子他(研究社)2021年、『市民参画とサービス・ラーニング』吉川幸 前田芳男監訳(岡山大学出版会)2020年。							
【学生へのメッセージ】							
地域の課題を明確にして、ニーズをひろいあげ、地域活動をいっしょに取り組んでみましょう。受講する皆さんが興味あること、好きなものに取り組む授業です。興味あること、好きなものを教えてください。							
【オフィスアワー】							
令和8年度教員オフィスアワーを参照すること。							
【実務経験】							
介護福祉士・居宅支援専門員・社会福祉士として、訪問系事業所にて20年携わった経験や地域活動を活かした講義を展開します。							

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				情報科目
講義名	[A_Isi2] [01] 情報処理技能				
区分	前期（15回）		単位	選択（2）	形式 講義
授業年次	1年	2年	--	--	
担当教員	佃 俊明		ツクダ トシアキ		tsukuda toshiaki [tsukuda(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
コンピュータは情報の伝達、蓄積、検索、そして加工を行う便利なツールであります。PCにおける基本ソフト（Windows）や応用ソフト（Word・Excel・PowerPoint）の操作を学び、さらに演習問題に取り組むことで、それらを活用するための基礎力を身につけていきます					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
授業を受講し適切な反復学修を行うことで、受講生は大学生に相応しいコンピュータ活用スキルを身につけます。コンピュータ活用スキルとは、単に操作方法の知識ではなく、「論理的思考力」「情報収集力」「情報分析力」「情報構成力」も含まれます。情報活用の基礎力を獲得することが授業の目標です。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
下記に記載したテキストを使用して、主に演習問題を中心に進めていきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）：テキストにて各演習のシチュエーションを把握しておくこと。対応動画の視聴で操作を確認すること。事後学修（2時間以上）：考えること、操作すること、両面を自身で反復すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（50%）、学力確認テスト（50%）にて評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	情報処理室についての説明 Windows入門1				
第2回	Windows入門2 PCの内部構造 ファイル管理				
第3回	Word、Excel、PowerPoint 各ソフトの基本操作				
第4回	Word 伝わる文書 文字のレイアウト 画像の配置				
第5回	Word 伝わる文書 ビジュアルの工夫				
第6回	Word レポート作成 文書の体裁 相互参照				
第7回	Word レポート作成 脚注 目次の自動作成 ページ番号設定				
第8回	Excel 成績データ整理 関数による計算 オートフィル				
第9回	Excel 成績データ整理 関数による合否判定 順位表示				
第10回	Excel 成績データの資料化 クラスごと集計 グラフ作成				
第11回	Excel 成績データの資料化 伝えるための整理				
第12回	PowerPoint スライド作成 テーマ レイアウトの工夫				
第13回	PowerPoint 表 ワードアート スマートアート 画像				
第14回	PowerPoint 発表準備 見せ方の工夫 配布資料 原稿				
第15回	まとめ及び振り返り				
【教科書・参考書】					
「学生のためのOfficeスキル活用&情報モラル（改訂版）」noa出版 2024年					
【学生へのメッセージ】					
これからの社会では、職種を問わず「データを使って根拠のある判断をする力」が必須となります。この授業では、単なる知識の修得だけでなく、社会で即戦力として使えるデータの扱い方と分析の視点を養います。将来の自分への強力な武器を、一緒に手に入れませんか？					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室や非常勤講師控室にて対応します。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				情報科目
講義名	[B_Isi1] [03] データサイエンス				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）		形式 講義
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	佃 俊明		ツクダ トシアキ		tsukuda toshiaki [tsukuda(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
コンピュータ活用スキルを使い、演習問題に取り組むことで、その力を伸ばして行きます。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
授業を受講し適切な反復学修を行うことで、実践的なコンピュータ活用スキルを身につけます。実践的なコンピュータ活用には、操作方法の熟知だけではなく、「論理的思考力」「情報収集力」「情報分析力」「情報構成力」が不可欠です。それらの力を社会人として即応できるレベルに引き上げることが授業の目標です。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
下記に記載したテキストを使用して、主に演習問題を中心に進めていきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）：テキストにて各演習のシチュエーションを把握しておくこと。対応動画の視聴で操作を確認しておくこと。事後学修（2時間以上）：考える事、操作する事、両面を自身で反復すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（50%）、学力確認テスト（50%）にて評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	Word、Excel、PowerPoint 各ソフトの復習 1				
第2回	Word、Excel、PowerPoint 各ソフトの復習 2				
第3回	レポートの基礎知識 テーマ 作成の流れ				
第4回	アンケートのデータ化 各値集計				
第5回	データによる仮説 1 の検証 分類ごとの集計 グラフ化				
第6回	データによる仮説 2 の検証 分類ごとの集計 考察				
第7回	レポート作成 アウトライン 見出し				
第8回	レポート作成 情報の整理 図表配置				
第9回	レポート作成 読みやすさ 提出準備				
第10回	スライドの作成 調査の経緯と方法				
第11回	スライドの作成 調査の結果と考察				
第12回	スライドの作成 結論・参考文献 発表準備				
第13回	情報セキュリティ				
第14回	情報モラル				
第15回	まとめ及び振り返り				
【教科書・参考書】					
「学生のためのOfficeスキル活用&情報モラル（改訂版）」noa出版 2024年（前期「情報処理技能」と同じテキストの後半部分を使用）					
【学生へのメッセージ】					
「データサイエンス」と聞くと難しく感じるかもしれませんが、実は私たちの日常はデータの宝庫です。この授業では、身近なデータから『面白い発見』をする楽しさを体験してもらいます。数字の羅列が、意味のある物語に変わる瞬間を一緒に楽しみましょう！					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室や非常勤講師控室にて対応します。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				保健体育科目
講義名	[A_lma1] [01] 健康とスポーツの科学				
区分	前期 (15回)	単位	選択 (2)	形式	講義
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	金澤翔一		カナザワ ショウイチ		kanazawa shoichi [kanazawa(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
現代社会が抱える運動不足について、生活習慣病の発症の予防等や生涯健康で生活することのできる運動処方等について講義する。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
人々が健康な生活を真に実行するためには、何が「健康」であり、何が「不健康」であるかをまず知らなければならない。健康とスポーツについて、理解と認識を深め、健康の保持増進について講義する。 コンピテンシー：健康力、地域理解、会話力、計画力、実行力、改善力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
パソコン接続プロジェクター (パワーポイント) を使用して講義をする。現代社会を生きるために様々な問題を追究します。具体的には、お互い自分自身の生活様式を振り返り、ディスカッションを行い現実の問題の改善方法を検討する。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、配布資料をあらかじめ読んでおくこと。事後学修 (2時間以上) は、配布資料を読み直し、授業の復習しノートにまとめることを望む。					
【成績評価 (方法・基準)】					
学力確認テスト (55%)、授業参画度 (45%、毎回のリアクションペーパー) を総合して評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	健康とは何か				
第2回	運動と健康 1 : 運動が体に及ぼす影響(1)				
第3回	運動と健康 2 : 運動が体に及ぼす影響(2)				
第4回	運動と健康 3 : 健康づくりのための基準と指針				
第5回	運動と健康 4 : 健康づくりための運動実践				
第6回	飲酒と健康				
第7回	喫煙・薬物乱用と健康				
第8回	心の健康とライフスタイル				
第9回	生活環境と健康				
第10回	体温調整と健康				
第11回	食生活と健康				
第12回	感染予防と健康				
第13回	性感染症の現状と予防				
第14回	社会要因と健康				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
授業時に毎回資料を配布しますので、これを教科書として使用します。配布した資料は必ず熟読し、ファイリングするなどして保管してください。					
【学生へのメッセージ】					
現代社会が抱える健康課題を受講生一人一人が自らの問題として考えてください。身体は生涯にわたり、つき合わなければなりません。快適に今日を生きるための知識をしっかりと身につけてください。					
【オフィスアワー】					
木曜日 5 時限目の授業終了後に非常勤講師控室 (大学事務室隣) にて受け付けます。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				保健体育科目
講義名	[B_Ima1] [03] トレーニングと身体 I				
区分	前期 (15回)	単位	選択 (1)	形式	実技
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	金澤翔一		カナザワ ショウイチ		kanazawa shoichi [kanazawa(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
ストレッチとバドミントンの基礎技術の理論と発展技術の理論について講義をする。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
ストレッチとバドミントンの実践を通してその技術レベルを高めるとともに、身体運動の大切さ、ゲームを通しての仲間との関わり方の重要性を体験し、併せて将来、社会のために貢献できる人間としての身体的、精神的、情緒的を高める。 コンピテンシー：健康力、地域理解、会話力、計画力、実行力、改善力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
体育館を使用して実技を中心に講義・指導を行う。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、配布資料をあらかじめ読んでおくこと。事後学修 (2時間以上) は、反復練習すること。					
【成績評価 (方法・基準)】					
授業参画度 (60%)、レポート (40%) を総合して評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ストレッチの実践およびバドミントンの基礎技術の理論と実践 1				
第2回	ストレッチの実践およびバドミントンの基礎技術の理論と実践 2				
第3回	ストレッチの実践およびバドミントンの基礎技術の理論と実践 3				
第4回	ストレッチの実践およびバドミントンの発展技術の理論と実践 1				
第5回	ストレッチの実践およびバドミントンの発展技術の理論と実践 2				
第6回	ストレッチの実践およびバドミントンの発展技術の理論と実践 3				
第7回	ストレッチの実践およびバドミントンのゲームについて 1				
第8回	ストレッチの実践およびバドミントンのゲームについて 2				
第9回	ストレッチの実践およびバドミントンのゲームについて 3				
第10回	ストレッチの実践およびバドミントンのゲームについて 4				
第11回	ストレッチの実践およびバドミントンのゲームについて 5				
第12回	ストレッチの実践およびバドミントンのゲームについて 6				
第13回	ストレッチの実践およびバドミントンのゲームについて 7				
第14回	ストレッチの実践およびバドミントンのゲームについて 8				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
適宜プリントを配布しますので、これを教科書として使用します。					
【学生へのメッセージ】					
(1)スポーツ活動に積極的に参加できる人のみを履修可とします。(2)体育館で実技を実施するため、体育館シューズと運動に適した服装 (ジャージ等) が必要です。(3)他の受講生に迷惑をかけるなど授業運営に支障を来す場合は、以後の履修を認めないことがあります。					
【オフィスアワー】					
授業終了後に対応します。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				保健体育科目
講義名	[C_Ima1] [05] トレーニングと身体 II				
区分	後期 (15回)	単位	選択 (1)	形式	実技
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	金澤翔一		カナザワ ショウイチ		kanazawa shoichi [kanazawa(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
ストレッチとバスケットボールの基礎技術の理論と発展技術の理論について講義をする。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
ストレッチとバスケットボールの実践を通してその技術レベルを高めるとともに、身体運動の大切さ、チームゲームを通しての仲間との関わり方の重要性を体験し、併せて将来、社会のために貢献できる人間としての身体的、精神的、情緒的を高める。 コンピテンシー：健康力、地域理解、会話力、計画力、実行力、改善力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
体育館を使用して実技を中心に講義・指導を行う。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、配布資料をあらかじめ読んでおくこと。事後学修 (2時間以上) は、反復練習すること。					
【成績評価 (方法・基準)】					
授業参画度 (60%)、レポート (40%) を総合して評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ストレッチの実践およびバスケットボールの基礎技術の理論と実践 1				
第2回	ストレッチの実践およびバスケットボールの基礎技術の理論と実践 2				
第3回	ストレッチの実践およびバスケットボールの基礎技術の理論と実践 3				
第4回	ストレッチの実践およびバスケットボールの発展技術の理論と実践 1				
第5回	ストレッチの実践およびバスケットボールの発展技術の理論と実践 2				
第6回	ストレッチの実践およびバスケットボールの発展技術の理論と実践 3				
第7回	ストレッチの実践およびバスケットボールのゲームについて 1				
第8回	ストレッチの実践およびバスケットボールのゲームについて 2				
第9回	ストレッチの実践およびバスケットボールのゲームについて 3				
第10回	ストレッチの実践およびバスケットボールのゲームについて 4				
第11回	ストレッチの実践およびバスケットボールのゲームについて 5				
第12回	ストレッチの実践およびバスケットボールのゲームについて 6				
第13回	ストレッチの実践およびバスケットボールのゲームについて 7				
第14回	ストレッチの実践およびバスケットボールのゲームについて 8				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
適宜プリントを配布しますので、これを教科書として使用します。					
【学生へのメッセージ】					
(1)スポーツ活動に積極的に参加できる人のみを履修可とします。(2)体育館で実技を実施するため、体育館シューズと運動に適した服装 (ジャージ等) が必要です。(3)他の受講生に迷惑をかけるなど授業運営に支障を来す場合は、以後の履修を認めないことがあります。					
【オフィスアワー】					
授業終了後に対応します。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				語学科目
講義名	[A_11c1] [01] 英語 A 《2 時間連続授業》				
区分	前期 (30回)	単位	選択 (2)	形式	演習
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	Jill Emma Strothman	ジル・エマ・ストロースマン	jill emma strothman [jill(a)]		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
着実に着実に英単語や文法を学び、実力を付けることが狙いです。SDGs8の目標「働きがいも経済成長も」に繋がります。英語の資格を持てばよりグローバルな仕事が職場の選択肢に加わります。 キーワード：英語、異文化、アクティブラーニング					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
卒業するために語学科目の単位が必要です。選択できる語学科目の中で、多くの学生が世界共通語として使われる英語か、仏教の勉強にとって大事な中国語などの経典が書かれた言語を選びます。英語 A はバランスよく reading, speaking, listening と文法の学修を行います。本授業を受講することにより、学生は自信を持って英語を使えるようになります。外国語リテラシーは教科書を読んでももちろん身につきますが、授業で会話して、発表するなどの学修をすると、文章表現力、口頭発表力、会話力と読解力を得られます。 コンピテンシー：外国語リテラシー、文章表現力、口頭発表力、会話力、読解力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
2 週目から11週目まで、授業開始直後に前回内容を復習するためのミニテストをします。その後、新しい学修をします。英会話や、学生の書いた英文の発表など、アクティブラーニングの多い授業です。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ（2 時間以上）の事前・事後学修を行うこと。その方法については授業中に説明します。					
【成績評価（方法・基準）】					
評価は授業に対する取り組みと学力確認テストとミニテストを基準に行います。目安として、授業に対する取り組みは（30%）、ミニテストは（50%）、学力確認テストは（20%）です。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	自己紹介、course orientation				
第2回	Unit 1 基本文型・自己紹介表現の導入 be動詞・現在形の確認 / 基本挨拶表現の理解				
第3回	Unit 1 リスニング・対話理解 モデルダイアログを通じた自己紹介表現の理解と聞き取り練習				
第4回	Unit 1 文法練習・語彙活動 疑問文・応答表現の練習 / 基本語彙の定着				
第5回	Unit 1 ペアワーク・コミュニケーション活動 自己紹介インタビュー活動による発話練習				
第6回	Unit 2 現在形の復習・職業表現導入 職業語彙・日常活動表現				
第7回	Unit 2 リスニング理解 職業や日課に関する会話理解				
第8回	Unit 2 文法練習 三単現・疑問文応答練習				
第9回	Unit 2 ペア活動 インタビュー活動（職業・日常生活について）				
第10回	Review of Units 1 and 2, test				
第11回	Unit 3 現在進行形の復習・導入				
第12回	Unit 3 状況説明リスニング活動				
第13回	Unit 3 文法練習 現在進行形肯定・否定・疑問文				
第14回	Unit 3 ロールプレイ活動 スケジュール説明・予定共有				
第15回	Unit 4 外見描写語彙導入				
第16回	Unit 4 リスニング理解（人物描写）				
第17回	Unit 4 文法練習 形容詞・have/has・be動詞				

第18回	Unit 4 ペアワーク 人物紹介活動
第19回	Review of Units 3 and 4, test
第20回	Unit 5 出身地・国籍表現導入
第21回	Unit 5 会話理解
第22回	Unit 5 文法練習 where疑問文
第23回	Unit 5 ペア活動 出身地インタビュー
第24回	Unit 6 like / love / hate 表現導入
第25回	Unit 6 リスニング理解
第26回	Unit 6 文法練習 動名詞・to不定詞（基本）
第27回	Unit 6 クラス内アンケート活動
第28回	Review of Units 5 and 6, test
第29回	Grammar and vocabulary review
第30回	まとめ及び振り返り
【教科書・参考書】	
Speaking of People (Intro), Peter Vincent 他著、南雲堂、2023。参考書：『英和和英辞典』（授業中に紹介する）	
【学生へのメッセージ】	
15分以上の遅刻は欠席とみなされますので、そのつもりでください。本授業は2時限連続の授業ですので、1回の講義は2時限をもって行います。	
【オフィスアワー】	
月曜日5時限目（相談したいことがある学生、あらかじめ連絡していただきたいです）	
【実務経験】	
英語の通訳や翻訳の経験を活用した授業を展開します。	

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				語学科目
講義名	[B_IIc1] [03] 英語 B 《2 時間連続授業》				
区分	後期 (30回)	単位	選択 (2)	形式	演習
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	Jill Emma Strothman		ジル・エマ・ストロースマン	jill emma strothman [jill(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
着実に英単語や文法を学び、実力を付けることが狙いです。SDGs8の目標「働きがいも経済成長も」に繋がります。英語の資格を持てばよりグローバルな仕事が職場の選択肢に加わります。 キーワード：英語、異文化、アクティブラーニング					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
卒業するために語学科目の単位が必要です。選択できる語学科目の中で、多くの学生が世界共通語として使われる英語か、仏教の勉強にとって大事な中国語などの経典が書かれた言語を選びます。本授業を受講することにより、学生は自信を持って英語を使えるようになります。英語Bで取り上げるのは、教科書のUnit7からUnit12まで。外国語リテラシーは教科書を読んでももちろん身につきますが、授業で会話して、発表するなどの学修をすると、文章表現力、口頭発表力、会話力と読解力を得られます。 コンピテンシー：外国語リテラシー、文章表現力、口頭発表力、会話力、読解力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
2週目から11週目まで、授業開始直後に前回内容を復習するためのミニテストをします。その後、新しい学修をします。英会話や、学生の書いた英文の発表など、アクティブラーニングの多い授業です。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ（2時間以上）の事前・事後学修を行うこと。その方法については授業中に説明します。					
【成績評価（方法・基準）】					
評価は授業に対する取り組みと学力確認テストとミニテストを基準に行います。目安として、授業に対する取り組みは（30%）、ミニテストは（50%）、学力確認テストは（20%）です。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	夏休みの話				
第2回	Unit 7 性格表現語彙				
第3回	Unit 7 人物評価表現理解				
第4回	Unit 7 文法練習 形容詞比較・説明表現				
第5回	Unit 7 グループディスカッション				
第6回	Unit 8 家族語彙導入				
第7回	Unit 8 会話理解				
第8回	Unit 8 文法練習 所有格・代名詞				
第9回	Unit 8 家族紹介プレゼンテーション				
第10回	Review of Units 7 and 8, test				
第11回	Unit 9 感情表現導入				
第12回	Unit 9 リスニング				
第13回	Unit 9 文法練習 感情形容詞・because				
第14回	Unit 9 ロールプレイ				
第15回	Unit 10 会話ストラテジー導入				
第16回	Unit 10 聞き返し・確認表現				
第17回	Unit 10 文法・機能練習				
第18回	Unit 10 ペアコミュニケーション活動				
第19回	Review of Units 9 and 10, test				
第20回	Unit 11 過去形導入・復習				
第21回	Unit 11 思い出に関する会話理解				
第22回	Unit 11 文法練習 過去形肯定・否定				
第23回	Unit 11 ストーリーテリング活動				
第24回	Unit 12 未来表現導入				

第25回	Unit 12 リスニング理解
第26回	Unit 12 文法練習 will / going to
第27回	Unit 12 将来計画プレゼンテーション
第28回	Review of Units 11 and 12, test
第29回	Grammar and vocabulary review
第30回	まとめ及び振り返り
【教科書・参考書】	
Speaking of People (Intro), Peter Vincent 他著、南雲堂、2023。参考書：『英和和英辞典』（授業中に紹介する）	
【学生へのメッセージ】	
15分以上の遅刻は欠席とみなされますので、そのつもりでください。本授業は2時限連続の授業ですので、1回の講義は2時限をもって行います。	
【オフィスアワー】	
月曜日 5時限目（相談したいことがある学生、あらかじめ連絡していただきたいです）	
【実務経験】	
英語の通訳や翻訳の経験を活用した授業を展開します。	

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				語学科目
講義名	[C_11c1] [05] 韓国語 A 《2時間連続授業》				
区分	前期 (30回)	単位	選択 (2)		形式 演習
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byungkon [kim(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
韓国語のハングルと基礎文法を修得し、TOPIK I (1級) 合格を目指す。日本人に学習しやすい言語構造を活かし、生活に必要な基礎的な会話力と文章作成能力を養う。また、隣国韓国の言語・文化を学ぶことは、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋がる。本授業では、実用的なコミュニケーション能力の基礎を構築する。 キーワード：ハングル、基礎文法、TOPIK I					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
(1)自己紹介、買い物、飲食店での注文など生活に必要な基礎的な表現を駆使し、身近な話題の内容を表現できる。(2)約800語程度の基礎的な語彙と基本文法を習得し、簡単な文章を作成できる。(3)基本的な生活文や実用文を読み解き、その構成を説明できる。 コンピテンシー：異文化理解、外国語リテラシー、会話力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
教科書に沿って進める。1時限目で語彙・文法を学修した後、2時限目ではグループワークやペアでのロールプレイングを実施し、アウトプット中心のアクティブ・ラーニングを行う。ICT活用としてGoogle フォームを用いたリアクションペーパーを導入し、双方向のやり取りを行う。小テストや中間テストは解説講義を行い、記述課題にはコメントを付してフィードバックする。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
本授業は2単位科目であり、毎回の授業ごとに事前・事後学修を合わせて平均4時間の学修を行う。事前学修 (2時間程度) は、次回範囲の語彙を予習し、付属音声等で発音を確認する。単語テストに向けた自己学習を行う。事後学修 (2時間程度) は、授業で学んだ文法を用いて韓国語の短い日記を作成し提出する。またGoogle ドライブに公開する復習用リソースを活用し、理解を深める。					
【成績評価 (方法・基準)】					
小テスト (20%)、中間テスト (50%)、学力確認テスト (30%) により総合評価する。評価基準は、1.ハングルを正確に読み書きできるか、2.基礎的な文法を用いて意思疎通ができるか、3.語彙を適切に使用できるか、とする。授業参画度 (質疑応答への積極的な参加) は、発言回数やペアワークへの貢献度に基づき客観的に評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ガイダンス、あいさつのことば、教室のことば				
第2回	第1課：韓国語と文字				
第3回	第2課：基本母音字				
第4回	第3課：基本子音字 1				
第5回	第4課：基本子音字 2				
第6回	第5課：基本子音字 3				
第7回	第6課：合成子音字				
第8回	第7課：合成母音字				
第9回	第8課：パッチム				
第10回	第9課：連音化				
第11回	中間テスト 1 (第1課～第9課の範囲) (テスト60分、解説30分)				
第12回	第10課：私は日本人です。				
第13回	第11課：これは何ですか。				
第14回	第12課：誰の本ですか。				
第15回	中間テスト 2 (第10課～第12課の範囲) (テスト60分、解説30分)				
第16回	第13課：学校はどこにありますか。				
第17回	第14課：何をしますか。				
第18回	第15課：どこに行きますか。				
第19回	中間テスト 3 (第13課～第15課の範囲) (テスト60分、解説30分)				
第20回	第16課：天気はどうですか。				
第21回	第17課：今日は何日ですか。				
第22回	第18課：ひとついくらですか。				
第23回	第19課：何時に起きますか。				
第24回	第20課：どちらにお住まいですか。				

第25回	中間テスト4（第16課～第20課の範囲）（テスト60分、解説30分）
第26回	第21課：週末に何をしますの？
第27回	第22課：昨日、何をしましたの？
第28回	第23課：いま、何をされますか。
第29回	第24課：何を食べましょうか。
第30回	まとめ（TOPIK I模擬問題演習と復習）（テスト60分、解説30分）
【教科書・参考書】	
教科書：『韓国語をはじめよう 書いて身につくテキスト 初級』李昌圭著（朝日出版社）2009年。参考書：『新・合格できる韓国語能力試験 TOPIK』李志暎監修（アスク出版）2015年。その他、適宜プリントを配布するほか、学習リソースをGoogleドライブにアップロードする。	
【学生へのメッセージ】	
韓国語能力試験（TOPIK）の実施日は公式サイト（ https://www.kref.or.jp/topik/ ）で確認すること。金剛大学校への交換留学を希望する学生は、3年次までに本科目を履修し基礎を固めておくことが望ましい。	
【オフィスアワー】	
火曜日5時限目、木曜日3時限目。質問はメール（ kim(a)min.ac.jp ）でも受け付ける。令和8年度教員オフィスアワーも参照のこと。	
【実務経験】	
韓国の大学を卒業し、来日24年。四半世紀近い日本での歩みとネイティブの感性を融合させ、実務に即した質の高い授業を提供します。	

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				語学科目
講義名	[D_11c1] [07] 韓国語 B 《2時間連続授業》				
区分	後期 (30回)	単位	選択 (2)	形式	演習
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	金 炳坤		キム ビョンコン	kim byungkon [kim(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
韓国語の応用的な文法・語彙を修得し、TOPIK I (2級) 合格を目指す。日常生活や公共機関での円滑なコミュニケーション能力、および公式・非公式な場面での言語の使い分け能力を養う。また、隣国韓国の言語・文化を深く学ぶことは、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋がる。本授業では、中級への橋渡しとなる実践的な運用能力を構築する。 キーワード：中級文法、敬語表現、TOPIK I					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
(1)電話や依頼といった日常生活に必要な表現や、公共機関でのやり取りを韓国語で実践できる。(2)約1,500~2,000語程度の語彙を用いた文章を理解し、内容を要約できる。(3)公式的・非公式的な状況に応じた言葉遣い(敬語表現)を区別し、適切に使用できる。 コンピテンシー：異文化理解、会話力、文章表現力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
教科書に沿って進める。1時限目で語彙・文法を学修した後、2時限目では担当教員との会話練習やロールプレイング、グループワークを通したアクティブ・ラーニングを実施する。ICT活用としてGoogle フォームを用いたりアクションペーパーを導入し、双方向のやり取りを行う。中間テストと学力確認テストは解説講義を行い、小課題にはコメントを付してフィードバックする。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
本授業は2単位科目であり、毎回の授業ごとに事前・事後学修を合わせて平均4時間の学修を行う。事前学修(2時間程度)：次回範囲の文法の応用例を辞書や参考書で3つ以上探し、ロールプレイングに備えた対話例を作成する。事後学修(2時間程度)：学んだ敬語表現を用い、状況に応じた応用会話文(5~7文程度)を作成し提出する。またGoogle ドライブに公開する復習用リソースを活用し、理解を深める。					
【成績評価 (方法・基準)】					
小課題(20%)、中間テスト(50%)、学力確認テスト(30%)により総合評価する。評価基準：1.状況に応じた適切な敬語(相対敬語)を使い分けられるか。2.公共機関での定型的なやり取りを完遂できるか。3.TOPIK I (2級) 相当の読解・聴解能力を有しているか。授業参画度(質疑応答への参加やワークへの貢献)は、客観的な行動観察に基づき評価に加味する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ガイダンス				
第2回	第1課：数字の復習				
第3回	第2課：語尾の復習				
第4回	第3課：助詞の復習				
第5回	第4課：遅くなって申し訳ありません。				
第6回	第5課：ピビンパが食べたいです。				
第7回	第6課：最近、忙しいですか。				
第8回	第7課：復習1 (実力確認のための小テストとディクテーション)				
第9回	中間テスト1 (同上) (テスト60分、解説30分)				
第10回	第8課：どこで撮った写真ですか。				
第11回	第9課：詳しく説明させていただきます。				
第12回	第10課：韓国に来てどのくらい経っていますか。				
第13回	第11課：復習2 (ロールプレイングによる会話表現の総点検) (グループワーク形式)				
第14回	中間テスト2 (同上) (テスト60分、解説30分)				
第15回	第12課：美術館はここから近いですか。				
第16回	第13課：運転しながら電話しないでください。				
第17回	第14課：復習3 (TOPIK I 2級レベルの読解問題演習)				
第18回	中間テスト3 (同上) (テスト60分、解説30分)				
第19回	第15課：雨がたくさん降るようです。				
第20回	第16課：風邪はもう治りましたか。				
第21回	第17課：ここで写真を撮ってもいいですか。				
第22回	第18課：景福宮にはどのように行けばいいですか。				
第23回	第19課：週末にも学校にいかねばなりません。				

第24回	第20課：お腹がいっぱいでもう食べられません。
第25回	第21課：復習 4（TOPIK I 2級レベルの聴解問題演習）
第26回	中間テスト4（同上）（テスト60分、解説30分）
第27回	第22課：十時まで来られますか。
第28回	第23課：慶州に行ってみたことはありますか。
第29回	第24課：雪がたくさん降ったそうです。
第30回	まとめ（TOPIK I 2級レベルの模擬試験と最終フィードバック）
【教科書・参考書】	
教科書：『韓国語をはじめよう 書いて身につくテキスト 中級』李昌圭著（朝日出版社）2009年。参考書：『新・合格できる韓国語能力試験 TOPIK』李志暎監修（アスク出版）2015年。その他、適宜プリントを配布するほか、学習リソースをGoogleドライブにアップロードする。	
【学生へのメッセージ】	
韓国語能力試験（TOPIK）の実施日は公式サイト（ https://www.kref.or.jp/topik/ ）で確認すること。金剛大学校への交換留学を希望する学生は、3年次までに本科目を修得し、2級以上の取得を目指すことが望ましい。	
【オフィスアワー】	
火曜日5時限目、木曜日3時限目。質問はメール（kim(a)min.ac.jp）でも受け付ける。令和8年度教員オフィスアワーも参照のこと。	
【実務経験】	
韓国の大学を卒業し、来日24年。四半世紀近い日本での歩みとネイティブの感性を融合させ、実務に即した質の高い授業を提供します。	

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				語学科目
講義名	[E_IIc1] [09] 現代中国語 A 《2時間連続授業》				
区分	前期（30回）	単位	選択（2）	形式	演習
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	白 景皓		ハク ケイコウ	bai jinghao [bai(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
現代中国語の発音の指導や文法の講義を進めながら、中国の文化、文学や中国人の価値観等についても紹介する。最終的にはHSK5級から中国語検定試験準4級までの受験に対応できる基礎学力を養い、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋げていく。キーワード：中国語、文法、会話、中検準4級					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
中国語の基本的な発音と語彙を用いて簡単な挨拶や日常会話を行うことができる。また、基礎的な文章を読解し、聞き取った内容を理解して簡単な文で表現できる。さらに、中国の文化や生活習慣について説明でき、外国語学修を通じて異文化を理解する姿勢を身につける。コンピテンシー：外国語リテラシー、読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭表現力、異文化理解					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
自主学习支援によるリアクションペーパーの提出があるので、電子機器（ipad等）を毎回持参すること。テキストの内容は、発音表記について説明された発音編、挨拶等の簡単な表現、本文と文法の解説で構成された文法編、試験問題が含まれた問題編に分かれている。文法編と問題編の授業方法では、まず文法規則について説明し、次に本文の発音と日本語訳について指導し、最後に練習問題について受講生に答えさせる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、当日の授業で扱う予定の範囲に含まれる新出単語や例文の発音と意味を調べ、授業の内容を受け入れられる態勢を整えておくこと。事後学修（2時間以上）は、授業で修得した事柄について再チェックし、宿題の完成と問題点の解決を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への熱意や授業への取り組み姿勢（40%、毎回のリアクション・ペーパー〔宿題〕）、第15回の中間テストの成績（30%）および第30回の期末テストの成績（30%）により総合評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス1：中国歴史と社会文化の背景				
第2回	ガイダンス2：中国語の発音のしくみ				
第3回	発音編1：四声と単母音aの説明と練習				
第4回	発音編2：四声とa以外の単母音の説明と練習				
第5回	発音編3：二重の複合母音の説明と練習				
第6回	発音編4：三重の複合母音と鼻音の説明と練習				
第7回	発音編5：双唇子音の説明と練習				
第8回	発音編6：舌先子音の説明と練習				
第9回	発音編7：舌根子音の説明と練習				
第10回	発音編8：舌面子音の説明と練習				
第11回	発音編9：そり舌子音の説明と練習				
第12回	発音編10：舌歯子音の説明と練習				
第13回	発音編11：音の変わりごとと発音ルール				
第14回	中間1：発音編のまとめ				
第15回	中間2：発音編についての中間テスト				
第16回	文法編1：中国語の基本的な挨拶と自己紹介				
第17回	文法編2：中国語の人称代名詞				
第18回	文法編3：中国語の指示代名詞				
第19回	文法編4：中国語の数詞				
第20回	文法編5：中国語の数量詞				
第21回	文法編6：月日、曜日、号の表現				
第22回	文法編7：時刻、年齢、値段の表現				
第23回	文法編8：四則演算の言い方				
第24回	文法編9：名詞述語文、疑問文の表現				

第25回	文法編10：中国語の四字熟語
第26回	文法編11：中国語の慣用語
第27回	文法編12：中国語の日常用語
第28回	文法編13：中国語の流行語
第29回	期末 1：文法編のまとめ
第30回	期末 2：文法編についての期末テスト
【教科書・参考書】	
教科書：『ゼロからスタート中国語 だれにでもわかる文法と発音の基本ルール（文法編）』郭 海燕・王 丹著（Jリサーチ出版）2005年、『クラウン 中国語単語600 CD付き』和 平・古屋 昭弘著（三省堂）2015年。参考書：『完全攻略！中検準4級（中国語検定試験で学ぶ中国語シリーズ1）』氷野 善寛・奥村 佳代子・馮 誼光著（アルク）2018年。配布資料はGoogleドライブの共有ファイルにアップロードされている。各自ダウンロードしてご利用ください。	
【学生へのメッセージ】	
中国語の語学力を上達させるためには、授業で修得した内容の積み重ねが大事なので、受講した後の復習は怠らないこと。多くの受講生にとっては、初めて学ぶ教科なので、基本的な部分は繰り返し勉強しておくように。	
【オフィスアワー】	
授業の前後に教室にて受け付ける。質問があれば、メール（bai(a)min.ac.jp）にて遠慮なく連絡してください。	
【実務経験】	
中国語の通訳や翻訳の経験を活用した授業を展開します。	

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 教養科目				語学科目
講義名	[F_IIc1] [11] 現代中国語 B 《2時間連続授業》				
区分	後期 (30回)	単位	選択 (2)		形式 演習
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	白 景皓		ハク ケイコウ		bai jinghao [bai(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
現代中国語Aの続きとして、現代中国語の文法の講義を進めていく。そして、中国の文化、文学や中国人の価値観等についても紹介する。最終的には中国語検定試験準4級の受験に対応できる基礎学力を養い、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋げていく。 キーワード：中国語、文法、会話、聴解、中検準4級					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
中国語の基本的な発音と語彙を用いて簡単な挨拶や日常会話を行うことができる。また、基礎的な文章を読解し、聞き取った内容を理解して簡単な文で表現できる。さらに、中国の文化や生活習慣について説明でき、外国語学修を通じて異文化を理解する姿勢を身につける。 コンピテンシー：外国語リテラシー、読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭表現力、異文化理解					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
自主学習支援によるリアクションペーパーの提出があるので、電子機器（ipad等）を毎回持参すること。テキストの内容は、挨拶等の簡単な表現、本文と文法の解説で構成された文法編、試験問題が含まれた問題編に分かれている。文法編と問題編の授業方法では、まず文法規則について説明し、次に本文の発音と日本語訳について指導し、最後に練習問題について受講生に答えさせる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、当日の授業で扱う予定の範囲に含まれる新出単語や例文の発音と意味を調べ、授業の内容を受け入れられる態勢を整えておくこと。事後学修（2時間以上）は、授業で修得した事柄について再チェックし、宿題の完成と問題点の解決を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への熱意や授業への取り組み姿勢（40%、毎回のリアクション・ペーパー〔宿題〕）および期末テストの成績（60%、第2から第30回までの授業にて行われる学力確認テスト）により総合評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス / 品詞編 1：代名詞、名詞				
第2回	品詞編 2：数詞、量詞				
第3回	品詞編 3：形容詞、動詞				
第4回	品詞編 4：助動詞、介詞				
第5回	品詞編 5：副詞、接続詞				
第6回	品詞編 6：助詞、感動詞、擬声語				
第7回	構文編 1：進行表現、比較表現など				
第8回	構文編 2：連動文、兼語文など				
第9回	構文編 3：使役構文				
第10回	構文編 4：受身構文				
第11回	構文編 5：二重目的語構文				
第12回	構文編 6：存現文				
第13回	文成分編 1：主語、述語、目的語				
第14回	文成分編 2：連体修飾語（定語）				
第15回	文成分編 3：補語				
第16回	文型編 1：平叙文、疑問文				
第17回	文型編 2：命令文、感嘆文				
第18回	文型編 3：復文（並列関係、選択関係）				
第19回	文型編 4：復文（先後関係、累加関係）				
第20回	文型編 5：復文（仮定関係、譲歩関係）				
第21回	文型編 6：復文（条件関係、因果関係）				
第22回	文型編 7：復文（逆接関係、目的関係）				
第23回	文型編 8：復文（連鎖関係、緊縮文）				
第24回	文化編 1：外来語				

第25回	文化編 2 : 句読点の使い方
第26回	文化編 3 : 流行語における月日と曜日の言い方
第27回	文化編 4 : 日中同形異義語
第28回	文化編 5 : 口語と文章語の差異、文章の書き方
第29回	まとめ 1 : 期末の復習
第30回	まとめ 2 : 期末テスト
【教科書・参考書】	
教科書：『NHK出版 これならわかる 中国語文法：入門から上級まで』丸尾誠・李軼倫著（NHK出版）2022年、『クラウン 中国語単語600 CD付き』和平・古屋昭弘著（三省堂）2015年。参考書：『完全攻略! 中検 4 級（中国語検定試験で学ぶ中国語シリーズ 2）』氷野善寛・奥村佳代子・馮誼光著（アルク）2018年。配布資料はGoogleドライブの共有ファイルにアップロードされている。各自ダウンロードしてご利用ください。	
【学生へのメッセージ】	
中国語の語学力を入門から上達させるためには、授業で修得した内容の積み重ねが大事なので、受講した後の復習は怠らないこと。多くの受講生にとっては、初めて学ぶ教科なので、基本的な部分は繰り返し勉強しておくように。	
【オフィスアワー】	
授業の前後に教室にて受け付ける。質問があれば、メール（bai(a)min.ac.jp）にて遠慮なく連絡してください。	
【実務経験】	
中国語の通訳や翻訳の経験を活用した授業を展開します。	

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[a_mmb1] [01] 日蓮学入門【僧階】				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）		形式 講義
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	桑名法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko [hkuwana(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
全専攻の学生を対象に、日蓮聖人の立正安国の精神に則り、健全なる社会人として、広い視野に立った専門教育を施し、学術の理論及び応用を教授して、社会のために身を以て尽くすことの出来る人間の養成を目的とする本学の「建学の精神」を学び、各専攻の専門科目へと進展していくための基幹授業となる。日蓮聖人の生涯と教えを学ぶことによって、立正安国の精神と社会貢献のあり方について修得する。この学修は、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋がる。 キーワード：日蓮聖人、法華経、建学の精神					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
日蓮聖人の教えを修得するために、学修にあたっての基礎を身につけ、根幹となる事項を体系的に理解し、自分の言葉で説明できるようにすることを授業の目標とする。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、読解力、文章表現力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
日蓮聖人の生涯と教えについてICTを積極的に活用し受講生の理解に資するよう授業を進める。授業中には受講生に質問し、理解度を確認しながら進めていく。また、グループディスカッションを行い、積極的な発言を促す。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回の授業ごとに、事前・事後学修を合わせて平均4時間程度の学修を行うこと。事前学修（約2時間）は、各回の授業内容について、シラバスに記載された教科書・参考書を用いて調べ学習を行い、疑問点を整理する。事後学修（約2時間）は、参考書を活用しながらノートを整理し、課題を見出すことで、理解の深化と定着を図る。					
【成績評価（方法・基準）】					
課題提出物（20%）、学力確認テスト（80%）で総合的に評価します。提出された課題、テストについては解説を行います。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション：日蓮学とは何か、宗学とは何か				
第2回	日蓮聖人の教えを学ぶにあたって1：宗学の目的				
第3回	日蓮聖人の教えを学ぶにあたって2：学修の姿勢				
第4回	日蓮聖人の教えを学ぶにあたって3：学修の方法				
第5回	日蓮聖人の生涯1：伝記の読み方				
第6回	日蓮聖人の生涯2：生涯の大観				
第7回	日蓮聖人の生涯3：大疑の解決と立教開宗				
第8回	法華経の思想1：釈尊一代の化意				
第9回	法華経の思想2：法華経の超勝性				
第10回	法華経の思想3：起顕竟				
第11回	五義				
第12回	信行 如説修行				
第13回	三大秘法				
第14回	願業 立正安国・常寂光土の実現				
第15回	まとめ（テスト60分、解説30分）				
【教科書・参考書】					
教科書：教育リソースを提供します。参考書：『真訓両読 妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年、『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）1978年、『宗義大綱読本』日蓮宗宗務院教務部編（日蓮宗新聞社）1989年、『増補改訂 日蓮その行動と思想』高木豊（太田出版）2002年など。授業中に適宜参考書を紹介していきます。					
【学生へのメッセージ】					
全専攻必修の授業です。日蓮学専攻以外の学生も、この授業で学ぶ「建学の精神」の上に、すべての専門科目が位置づけられています。自ら主体的に学ぶ姿勢をもって、意欲的に取り組みましょう。					
【オフィスアワー】					
令和8年度教員オフィスアワーをご参照ください。質問はメール（hkuwana(a)min.ac.jp）でも可。					
【実務経験】					
日蓮宗教師としての経験を活かして日蓮聖人の教えとは何かについての指導を行います。					

年度	区分	分野
令和8年度	全専攻共通 専門基礎科目	専門基礎科目

講義名	[b_mmb1] [03] 仏教通史【僧階】
-----	------------------------

区分	前期（15回）	単位	必修（2）	形式	講義
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	1年	--	--	--
------	----	----	----	----

担当教員	白 景皓	ハク ケイコウ	bai jinghao [bai(a)]
------	------	---------	----------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

仏教通史（General History of Buddhism）では、仏教の歴史や文化に対する興味や関心を深めるために、仏教がどのように誕生・伝播したか、伝播した地域でどのように展開したかを講義を行います。その中において、仏教に関する教養的な知識にとどまらず、その歴史や文化に対する一般的な見方を考え直すきっかけとなるようにし、SDGs5の目標「ジェンダー平等を実現しよう」、SDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」、SDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」に繋げる。 キーワード：仏教、歴史、アジア

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

受講者は仏教を軸としてアジア諸国の歴史や文化に対する基礎知識を身につけられると共に、諸問題についての理解を深め、アジアの仏教伝播に関する「情報を収集・分析・報告」することができる。具体的には「多様な学問の考え方」を踏まえ、「異文化理解」を深め、仏教全般にわたる諸問題について「批判的」「論理的」思考をもって考察し、その課題について「実行」し「改善」するものの見方を養うようにします。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、異文化理解、外国語リテラシー、情報収集力、情報分析力、読解力、文章表現力、論理的思考力

【授業方法（フィードバックの内容）】

講義形式で行うが、ディスカッション・ディベートを積極的に行いたいと思います。こちらの問いかけに対してリアクションするだけでなく、積極的に質問してください。Googleフォームを用いたリアクションペーパーの提出を求めます。第1回の授業ではノートパソコン、スマートフォンを持参してください。

【授業外学修の方法（時間数）】

毎回それぞれ（2時間以上）の事前・事後学修を行うこと。具体的な学修の方法については初回の授業にて担当教員より説明があります。

【成績評価（方法・基準）】

授業への取り組み姿勢（40%、ノートテイク、授業中やオフィスアワーを利用した質問などおよび宿題としてのリアクション・ペーパー）、第9回の中間テスト（30%）および第15回の期末テスト（30%）を目安に総合評価する。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	ガイダンス / インド仏教 1：インド仏教を支えるヒンドゥー世界
第2回	インド仏教 2：釈尊の生涯
第3回	インド仏教 3：部派仏教の教理と展開
第4回	インド仏教 4：大乘仏教の初期・中期
第5回	インド仏教 5：大乘仏教の後期と密教化
第6回	インド仏教 6：インド仏教の衰退と再興
第7回	チベット仏教 1：チベット仏教の初伝と発展
第8回	チベット仏教 2：チベット仏教とボン教の競合
第9回	中間テスト
第10回	中国仏教 1：中国の仏教初伝と学派時代（後漢から唐まで）
第11回	中国仏教 2：中国の三教論争から三教融合へ（宋から清まで）
第12回	日本仏教 1：日本の仏教公伝・南都六宗
第13回	日本仏教 2：日本の天台宗・真言宗
第14回	日本仏教 3：日本の「新仏教」
第15回	期末テスト

【教科書・参考書】

教科書：『インド・中国・日本 仏教通史 [新版]』平川 彰（春秋社）2006年。参考書：『インド仏教史 [新版]』平川 彰（春秋社）2011年、『新中国仏教史』鎌田茂雄（大東出版社）2001年、『日本佛教史』田村 圓澄（法蔵館）1982-1983年。辞書・事典類：『岩波仏教辞典 [第3版]』中村 元ほか編（岩波書店）2023年、『仏教文化事典』金岡 秀友・柳川 啓一監修（佼成出版社）1989年、『仏教美術事典』中村 元・久野 健監修（東京書籍）2002年、『仏教・インド思想辞典 [新装版]』高崎 直道編集代表（春秋社）2013年、『仏典解題事典 [第3版]』斎藤 明ほか編（春秋社）2020年。

【学生へのメッセージ】

本授業ではインド・チベット・中国・日本の仏教史を通史的に学ぶため、各時代や地域の特徴について事前に簡単に調べておくことが望ましい。仏教に関する基礎知識がなくても履修可能であるが、講義内容の整理と復習を心がけ、試験に備えて計画的に学修を進めてほしい。

【オフィスアワー】
授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに対応する。
【実務経験】
なし

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[c_mmb1] [05] 日蓮聖人伝【僧階】				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）		形式 講義
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	塩田宝樹		シオタ ホウジュ		shiota hoju [shiota(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮聖人に関わる研究は「日蓮教学史」「日蓮教団史」の分野はもとより、昨今では「仏教学」や「日本史学」または「仏教思想史」や「日本仏教史」など、様々な分野から深められている。これらを踏まえ、聖人の生涯を正確に理解できる基礎的知識の獲得をねらいとする。日蓮聖人の生涯や確立した教理の一部を学習することで、SDGs5の目標「ジェンダー平等を実現しよう」、SDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」、SDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」に繋がる。 キーワード：日蓮聖人、日本仏教、法華経					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
「日蓮聖人の生涯」について、(1)聖人の書かれた遺文を読み解き、(2)最新の研究成果を基として聖人の「行動」と「思想」の両面を論理的に思考・探究し、(3)他者に聖人の生涯の「史実」と「伝承」を踏まえて伝えることができる知識を獲得することを目的とする。 コンピテンシー：読解力、会話力、批判的思考力、論理的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
日蓮聖人伝の基礎資料は、聖人が書き遺された「遺文」になる。本講義では日蓮聖人の生涯に関する内容を再構築し、項目ごとに並べた当該「遺文」を紹介しながら、基本的には講義形式で受講者の理解度を深めていく。その一方で、ディスカッション・ディベートを積極的に行う予定であるため、こちらの問いかけに対してリアクションするだけでなく、積極的な質問を求める。また、授業ごとにリアクションペーパーの提出を求める。加えて種々の日蓮聖人伝関連書籍を適宜提示しながら、宗学に対する基本的素養を高めていく。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、授業ごとに該当する御遺文の予習を行うこと。事後学修（2時間以上）は、授業中に提示した遺文及び関連書籍を基として、またYouTube上で身延山大学が提供している「身延山史講座」を視聴して「まとめノート」の作成を行うことが望ましい。					
【成績評価（方法・基準）】					
リアクションペーパーの記述や授業への参加度（40%）、学力確認テスト（60%）により総合的に評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	誕生・清澄登山と出家				
第3回	諸宗遊学・立教開宗				
第4回	清澄退出・鎌倉弘通				
第5回	『立正安国論』上呈・松葉谷法難				
第6回	伊豆流罪				
第7回	小松原法難				
第8回	鎌倉での布教・蒙古の国書				
第9回	良観房忍性との対決・龍口法難				
第10回	佐渡流罪～『開目抄』執筆				
第11回	『観心本尊抄』執筆～佐渡赦免				
第12回	平頼綱との対談～身延入山				
第13回	身延での生活・檀越の苦悩				
第14回	身延離山～入滅				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：教育リソースを提供する。参考書：『日蓮とその弟子』宮崎英修著（毎日新聞社）1971年、『日蓮とその門弟；再版』高木豊著（弘文堂新社）1968年、『日蓮：その行動と思想；増補改訂』高木豊著（太田出版）2002年、『日蓮』中尾堯著（吉川弘文館）2001年、『日蓮と鎌倉文化』川添昭二著（平樂寺書店）2002年、『法華の行者日蓮』佐々木馨編（吉川弘文館）2004年、『ことのは 日蓮の手紙』木村中一著（平凡社）2021年。					
【学生へのメッセージ】					
日蓮聖人のご生涯で学習する内容は宗学分野の基礎となる。他の授業でも本講義の知識が前提となるため、授業時間だけでなく、事前・事後学習も大切にすること。					

【オフィスアワー】

オフィスアワーや授業の前後、出講日の休み時間など、できる限り対応する。質問や相談が長くなりそうであれば、予めメールでアポイントメントを取ること。

【実務経験】

なし

年度	区分	分野
令和8年度	全専攻共通 専門基礎科目	専門基礎科目

講義名	[d_mmb2] [07] 手話入門
-----	--------------------

区分	前期 (15回)	単位	選択 (1)	形式	演習
----	----------	----	--------	----	----

授業年次	1年	--	--	--
------	----	----	----	----

担当教員	望月香代	モチヅキ カヨ	mochizuki kayo [kayomochi(a)]
------	------	---------	-------------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

手話とはどのような言葉なのかをまず知っていただきます。音を聞く(聴く)ことが当たり前の私達です。今まで学ぶ機会のない言語の手話を身につけられるように進めていきます。まず単語を覚えられるよう繰り返します。次にそれを使い自己紹介ができるように実際に表現しながら進めていきます。それらにより「異文化理解」と「表現力」が身につけていきます。覚えた手話を使い聴覚障害者に自己紹介をする演習の時間もあります。ここでは「会話力」が必要になります。そのための学びを積み重ねます。これらによりSDGs11の目標「住み続けられるまちづくり」を考える時間となります。

【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】

聴覚障害者にとって大切な言語の手話を覚え、手話で自己紹介ができるようになることは、今まで学ぶ機会がほとんどなかった言語を身につけ会話力の幅が広がり、コミュニケーション力の基礎が学べることになります。また聴覚障害者を理解することは異文化理解にもつながります。手話をおぼえることで人間力も備わります。コンピテンシー：異文化理解、会話力、実行力

【授業方法 (フィードバックの内容)】

初級のテキストを使い手話の語彙を覚えていきます。繰り返し手話単語を練習し、自己紹介ができるように学修します。また、聴覚障害者のことを知るために教材を使用したり、聴覚障害者からの話を見る(聴く)時間も含めていきます。授業中に前回の授業で覚えた単語が身につけているか、実技確認を行います。また、授業内容に沿ったテーマから関連の言葉について確認をしていきます。

【授業外学修の方法 (時間数)】

事前学修 (2時間以上) は、第2回目以降の講義の最後に次回の講義の内容をテキストページで指定します。テキスト内容を確認してください。事後学修 (2時間以上) は、授業中に覚えた単語を復習してください。また出された内容について調べ整理をしてください。

【成績評価 (方法・基準)】

授業への取り組み姿勢 (30%、講義中に手話での発表をしてもらう。最低2回×10% = 20% + 発表者に対し意見や感想など、積極的な授業参加を評価 = 10%)、小テスト (20%、単語・文章の確認テストをし評価します)、レポート (20%、聴覚障害に関する内容について授業内で指示をし、コメントを返します)、学力確認テスト (30%) により総合評価します。

【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】

第1回	オリエンテーション (授業の進め方とテキストの紹介) 聴覚障害者について・手話の必要性を学ぶ つかえあってみましょう
第2回	あいさつの手話を覚えましょう (テキストp.7)
第3回	自己紹介しましょう1 名前を表してみましょう (テキストpp.8-9)
第4回	自己紹介しましょう2 名前を表す手話と指文字を覚えましょう (テキストpp.10-15)
第5回	自己紹介しましょう3 家族について話しましょう (テキストp.18)
第6回	自己紹介しましょう4 家族を表す手話を覚えましょう (テキストpp.19-21)
第7回	実践 (聴覚障害者と交流することで、SDGs11の目標「住み続けられるまちづくり」について考えよう)
第8回	自己紹介しましょう5 趣味について話しましょう (テキストpp.26-27)
第9回	自己紹介しましょう6 趣味を表す手話を覚えましょう (テキストpp.28-29)
第10回	自己紹介しましょう7 仕事について話しましょう (テキストp.32)
第11回	自己紹介しましょう8 仕事を表す手話を覚えましょう (テキストpp.33-35)
第12回	実践 (聴覚障害者と交流することで、SDGs11の目標「住み続けられるまちづくり」について考えよう)
第13回	自己紹介しましょう9 住所の手話を表してみましょう (テキストpp.38-39)
第14回	自己紹介しましょう10 住所の手話を使って話しましょう (テキストpp.40-41)
第15回	まとめ

【教科書・参考書】

テキスト：『手にことばを』(公益社団法人東京都聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟)2020年。参考書：『手話を学ぼう 手話で話そう』(社会福祉法人全国手話研修センター)2014年、『今すぐはじめる手話テキスト：聴さんと学ぼう!』(一般社団法人全日本ろうあ連盟)2014年。

【学生へのメッセージ】

初めて出会う言語である手話に興味を持って授業に臨んでください。授業中に指示した内容を確認し復習しつつ受講することが言語修得と理解につながります。初歩的な学びです。授業内容の関係から後期の「手話基礎」と併せて受講することを望みます。

【オフィスアワー】

水曜日11:00-14:00と授業終了後。質問はメール（kayomochi(a)min.ac.jp）でも可。

【実務経験】

手話通訳士、山梨県登録手話通訳者、手話通訳養成講座運営委員、手話奉仕員・手話通訳者養成講師の経験を生かした授業を展開します。

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[e_mmb2] [09] 手話基礎				
区分	後期 (15回)	単位	選択 (1)	形式	演習
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	望月香代		モチヅキ カヨ		mochizuki kayo [kayomochi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
前期に学んだ言語の手話とはどのようなものだったのか。改めて確認をし、手話言語の修得、活用を通して聴覚障害者を深く知ることを学ぶ授業とします。それにより「異文化理解」「表現力」をさらに深めます。聴覚障害当事者と会話をする時間を通し「会話力」のアップにつなげます。受講することで、SDGs11の目標「住み続けられるまちづくり」を更に考える時間となります。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
手話の語彙を覚えたことで、聴覚障害者に自己紹介ができるようになっていきます。さらにコミュニケーションを取るにはどのようにしたらよいか異文化理解を通してさらに人間力を身につけられるようになります。同じ社会に暮らしている聴覚障害者はどのような人達なのかを、自ら考えるようになります。また会話力が深まるよう手話で話せる内容はより実践的なものになります。コミュニケーション力が広がることに繋がります。それによりSDGs11の目標「住み続けられるまちづくり」を考える学びができます。コンピテンシー：異文化理解、会話力、実行力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
テキストをもとに、手話の語彙と手話の基礎を身につけ、学生同士がグループワークをし、確認しながら覚えられるように学修します。また聴覚障害者に自分のことを手話で語れるように繰り返し演習をしていきます。聴覚障害者から生活面の話をしてもらう時間を作り当事者理解を深めます。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、第2回目以降の講義の最後に次回の講義の内容をテキストページで指定します。テキスト内容を確認してください。事後学修 (2時間以上) は、授業中に覚えた単語を復習してください。またそれ以外に出された内容について調べ整理をしてください。					
【成績評価 (方法・基準)】					
授業への取り組み姿勢 (30%、講義中に手話での発表をしてもらう。最低2回×10% = 20% + 発表者に対し意見や感想など、積極的な授業参加を評価 = 10%)、小テスト (20%、単語の確認テストをし振り返りにつなげます)、レポート (20%、聴覚障害に関する内容について授業内で指示をします。これに対しコメントを返します)、学力確認テスト (30%は聴覚障害者からの評価をもらいます) により総合評価します。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	オリエンテーション (授業の進め方とテキストの紹介) 自己紹介				
第2回	自己紹介確認 1、手話の形・基礎 1 (テキストpp.46-47)				
第3回	自己紹介確認 2、「たずねることば」を覚えましょう (テキストpp.48-49)				
第4回	手話の形・基礎 2 (テキストp.50)				
第5回	時間にかかわることばを覚えましょう (テキストpp.52-53)				
第6回	小テストとまとめ				
第7回	実践 (聴覚障害者と交流することで、SDGs11の目標「住み続けられるまちづくり」について考えよう)				
第8回	手話の形・基礎 3 (テキストpp.54-55)				
第9回	一週間のことばを覚えましょう (テキストpp.56-57)				
第10回	手話の形・基礎 4 (テキストpp.59-60)				
第11回	食べ物を表す手話を覚えましょう (テキストpp.66-67)				
第12回	手話の形・基礎 5 (テキストp.69)				
第13回	いろいろな企画を考えよう				
第14回	SDGs11の目標「住み続けられるまちづくり」に沿って手話で考え表現しよう				
第15回	実技テストとまとめ				
【教科書・参考書】					
テキスト：『手にことばを』(公益社団法人東京都聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟)2020年。参考書：『手話を学ぼう 手話で話そう』(社会福祉法人全国手話研修センター)2014年、『今すぐはじめる手話テキスト：聴さんと学ぼう!』(一般社団法人全日本ろうあ連盟)2014年。					
【学生へのメッセージ】					
言語としての手話を学び、今後の自分にどう結び付けるかを考えながら、受講してください。授業中に指示されたこと、覚えた単語を復習することの積み重ねが大切です。最終的には、聴覚障害者を知り、テーマに沿った内容を聴覚障害者に伝わるように手話でコミュニケーションすることを目指して学んでください。					

【オフィスアワー】

水曜日11:00-14:00と授業終了後。質問はメール (kayomochi(a)min.ac.jp) でも可。

【実務経験】

手話通訳士、山梨県登録手話通訳者、手話通訳養成講座運営委員、手話奉仕員・手話通訳者養成講師の経験を生かした授業を展開します。

年度	区分				分野	
令和8年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目	
講義名	[f_mmb1] [11] 社会福祉概論Ⅰ【社福(実)要】					
区分	前期（15回）		単位	選択（2）		形式 講義
授業年次	1年	2年	--	--		
担当教員	叶 寧		ヨウ ネイ		ye ning [ye(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
(1)社会福祉をめぐる思想・哲学・理論を理解する。(2)社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較により日本の社会福祉の特性を理解する。(3)社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会に問題について理解する。この授業を学ぶことによって、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」とSDGs11の目標「住み続けられるまちづくりを」に繋がります。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
相談援助活動の背景について理解する。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、健康力、地域理解、情報収集力、情報分析力、情報構成力、読解力、傾聴力、会話力、課題設定力、構想力、計画力、実行力、評価力、改善力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
社会福祉と歴史的展開をふまえて理解できるように制度論にもふれながら、基礎的知識を学修する。個人ワーク、アクティブラーニングを取り入れた授業を行う。授業終了後、リアクションペーパーを提出し、授業内容について自らの考察を深める。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
事前学修（2時間以上）は、毎回の授業で出される課題を行う。事後学修（2時間以上）は、授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する。						
【成績評価（方法・基準）】						
学力確認テスト（50%）、レポート・リアクションペーパー（30%）、授業への取り組み姿勢（20%）などを総合的に評価する。提出されたレポート・リアクションペーパーについては、コメントを付してフィードバックする。テストに対しては、解説を行う。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	社会福祉の原理（社会福祉の歴史、思想・哲学、理論、社会福祉の原理と実践）					
第2回	社会福祉の原理（社会福祉学の国と特徴）					
第3回	社会福祉の歴史（歴史観、政策史、実践史、発達史、時代区分）					
第4回	日本の社会福祉の歴史的展開（慈善事業、博愛事業、社会事業）					
第5回	日本の社会福祉の歴史的展開（社会福祉事業、社会福祉）					
第6回	欧米の社会福祉の歴史的展開（救貧法、慈善事業、博愛事業）					
第7回	欧米の社会福祉の歴史的展開（社会事業、社会保険、福祉国家、福祉社会国際的潮流）					
第8回	社会福祉の思想・哲学（社会福祉の思想・哲学の考え方、人間の尊厳）					
第9回	社会福祉の思想・哲学（社会正義、平和主義）					
第10回	社会福祉の理論（社会福祉の理論の基本的考え方、戦後社会福祉の展開と社会福祉理論）					
第11回	社会福祉の理論（社会福祉の理論、欧米の社会福祉の理論）					
第12回	社会福祉の論点（公私関係、効率性と公平性、普遍主義と選別主義、自立と依存）					
第13回	社会福祉の論点（自己選択、自己決定とパターンリズム）					
第14回	社会福祉の論点（参加とエンパワメント、ジェンダー、社会的承認）					
第15回	社会福祉の対象とニーズ（ニーズと需要の概念、ニーズの種類と次元、理論と課題）					
【教科書・参考書】						
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座4 社会福祉の原理と政策』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。そのほか、授業中に適宜プリントを配布する。参考書：『社会福祉思想史入門』吉田久一・岡田英己子（勁草書房）2000年。						
【学生へのメッセージ】						
社会福祉の中でもっとも基本となる科目。思想理論、制度体系から実生活にいたる内容をしっかり学ぶことが大切になる。人々の生活や地域・社会について興味関心・問題意識を持っている学生の積極的参加を期待する。なお、社会福祉士国家試験の新カリキュラムでは必修科目のため、受験希望者は必ず受講すること。						
【オフィスアワー】						
授業担当時の前後、大学HPのオフィスアワーをご参照ください。						
【実務経験】						
市町村の事業を受託している社会福祉協議会において、生活困窮者自立支援事業の相談員としての勤務経験を活かした授業を展開する。						

年度	区分	分野
令和8年度	全専攻共通 専門基礎科目	専門基礎科目

講義名	[g_mmb1] [13] 社会福祉概論Ⅱ【社福(実I要)】
-----	--------------------------------

区分	後期 (15回)	単位	選択 (2)	形式	講義
----	----------	----	--------	----	----

授業年次	1年	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当教員	叶 寧	ヨウ ネイ	ye ning [ye(a)]
------	-----	-------	-----------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

福祉政策の構成要素について理解する。福祉政策と関連政策の関係について理解する。この授業を学ぶことによって、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」とSDGs11の目標「住み続けられるまちづくりを」に繋がります。

【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】

相談援助活動と福祉政策の関係について理解する。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、健康力、地域理解、情報収集力、情報分析力、情報構成力、読解力、傾聴力、会話力、課題設定力、構想力、計画力、実行力、評価力、改善力

【授業方法 (フィードバックの内容)】

社会福祉と歴史的展開をふまえて理解できるように制度論にもふれながら、基礎的知識を学修する。個人ワーク、アクティブラーニングを取り入れた授業を行う。授業終了後、リアクションペーパーを提出し、授業内容について自らの考察を深める。

【授業外学修の方法 (時間数)】

事前学修 (2時間以上) は、毎回の授業で出される課題を行う。事後学修 (2時間以上) は、授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する。

【成績評価 (方法・基準)】

学力確認テスト (50%)、レポート・リアクションペーパー (30%)、授業への取り組み姿勢 (20%) を総合的に評価する。提出されたレポート・リアクションペーパーについては、コメントを付してフィードバックする。テストに対しては、解説を行う。

【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】

第1回	社会問題と社会構造 (貧困、孤立、失業、要援護性、偏見と差別、社会的排除)
第2回	社会問題と社会構造 (ヴァルネラビリティ、ニューリスク、依存症、自殺)
第3回	社会問題の社会構造的背景 (低成長経済、グローバル化、少子高齢化、人口減少社会、格差、社会意識、価値観の変化)
第4回	現代の社会福祉政策の概念・理念 (現代の社会問題と福祉政策)
第5回	現代の社会福祉政策の概念・理念 (社会保障、社会政策、福祉レジーム)
第6回	福祉政策におけるニーズと資源 (種類と内容、把握方法、開発方法)
第7回	福祉政策の構成要素 (福祉政策の構成要素とその役割・機能・政府・市場)
第8回	福祉政策の構成要素 (措置制度・多元化する福祉サービス提供方式)
第9回	福祉政策の過程 (政策決定、実施、評価・福祉政策の方法・手段・政策評価・行政評価)
第10回	福祉政策の過程 (福祉政策と福祉計画)
第11回	福祉政策の動向と包括的支援 (社会福祉法・地域包括システム)
第12回	福祉政策の動向と包括的支援 (地域共生社会・多文化共生・持続可能性)
第13回	福祉政策と関連施策 (保健医療、教育、住宅、労働、経済政策)
第14回	福祉サービスの供給と利用課程 (福祉供給部門・福祉供給過程・福祉利用課程)
第15回	福祉政策の国際比較

【教科書・参考書】

教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座4 社会福祉の原理と政策』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 (中央法規) 2021年。そのほか、授業中に適宜プリントを配布する。参考書：『社会福祉思想史入門』吉田久一・岡田英己子 (勤草書房) 2000年。

【学生へのメッセージ】

社会福祉の中でもっとも基本となる科目。思想理論、制度体系から実生活にいたる内容をしっかり学ぶことが大切になる。人々の生活や地域・社会について興味関心・問題意識を持っている学生の積極的参加を期待する。なお、社会福祉士国家試験の新カリキュラムでは必修科目のため、受験希望者は必ず受講すること。

【オフィスアワー】

授業担当時の前後、大学HPのオフィスアワーをご参照ください。

【実務経験】

市町村の事業を受託している社会福祉協議会において、生活困窮者自立支援事業の相談員としての勤務経験を活かした授業を展開する。

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[j_mmb3] [17] デス・エデュケーション【僧階】				
区分	前期（15回）		単位	選択（2）	形式 講義
授業年次	1年	2年	3年	--	
担当教員	功刀仁子		クヌギ ヒトコ		kunugi hitoko [kunugi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
現代における生老病死の諸問題を解説し、様々な観点から「いのち」について考える力を養うことを目的とする。生殖医療・再生医療・終末期医療など生老病死の諸問題に関して概要を解説し、具体的な事例を一緒に議論する。医療現場における宗教の意義を考える。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
生老病死の諸問題を、自分の言葉で説明できるようになること。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、情報収集力、呪法分析力、傾聴力、文章表現力、論理的思考力、課題設定力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
授業前半は、スライド等を使用し授業を進める。授業後半は、受講生と一緒に議論し、理解を深める。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。その方法については授業中に説明する。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（50%）と、講義毎の予習と復習（50%）とにより評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、自己紹介など）				
第2回	宗教とは				
第3回	倫理学				
第4回	生殖医療の現状 1				
第5回	生殖医療の現状 2				
第6回	終末期医療の現状 1				
第7回	終末期医療の現状 2				
第8回	臨死体験のワーク				
第9回	日蓮聖人の終末期				
第10回	精神疾患について（自死、自殺）				
第11回	グループワーク				
第12回	傾聴				
第13回	終活				
第14回	医療現場における宗教者				
第15回	ビハーラについて				
【教科書・参考書】					
授業中に適宜、資料を配付する。					
【学生へのメッセージ】					
積極的に授業に参加することを望む。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室や非常勤講師控室にて対応します。メールでも（kunugi(a)min.ac.jp）対応可。					
【実務経験】					
山梨県立中央病院での看護師としての経験を生かした授業を展開します。					

年度	区分	分野
令和8年度	全専攻共通 専門基礎科目	専門基礎科目

講義名	[k_mmb1] [19] 総合仏教《4年間》
-----	-------------------------

区分	通年（12回）	単位	必修（2）	形式	演習・実践
----	---------	----	-------	----	-------

授業年次	1年	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	学務委員長	ガクムインチョウ	[gakumu(a)]
	金 炳坤	キム ビョンコン	kim byungkon [kim(a)]

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

この授業は、身延山大学の根本的な教えである「社会に身をもって尽くす」という精神を、頭で理解するだけでなく、実際の体験を通して心に刻むためにあります。大学内での学び（理論）と、寺院や地域社会での活動（実践）をセットで行うことが、本学が大切にしている「行学二道」という学び方です。本山の厳かな法要や、社会の第一線で活躍する方の講演に触れることで、自分自身を成長させ、他者のために何ができるかを考える力を養います。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

以下の3点を達成することで、社会で通用する「自分の考えを持った人材」になることを目指します。(1)受け取る力：法要や講座から、言葉にならない大切な価値観を正確にキャッチできるようになる。(2)分析する力：体験した内容を整理し、「なぜその行事が行われるのか」「現代社会にどう役立つのか」を自分の頭で考えられるようになる。(3)伝える力：自分の考えを、指定されたルール（手書き・原稿用紙）に沿って、相手に伝わる文章として形にできるようになる。

【授業方法（フィードバックの内容）】

指定された行事（三大会・法難会など）への参列、または公開講座の聴講を行い、その都度レポートを提出します。レポートには「単なる感想」ではなく、「体験したことが、大学の精神とどう繋がっているか」を論理的に説明することが求められます。提出したレポートは大学事務局が受け取り、あなたの担当教員（A/A）が確認して、必要があれば書き方のアドバイスをを行います。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前（4時間程度）：参列する法要や講座のテーマについて事前に調べ、目的意識を持って参加すること。事後（4時間程度）：終了後、記憶が鮮明なうちに2時間以上かけて内容を振り返り、さらに2時間以上かけてじっくりとレポートを作成してください。

【成績評価（方法・基準）】

卒業までに「12回のレポート」を積み重ねることが単位認定の条件です。(1)提出回数：4年間で合計12回。目安として「1年間に3回以上」（編入生を除く）のペースで大学事務室に提出してください。(2)執筆ルール：B4サイズの原稿用紙を使用し、必ず「手書き」で800字以上執筆してください。文字を丁寧に書くことも、心を整える修行の一部だからです。(3)卒業への影響：4年次は卒業論文に集中する必要があります。そのため、「3年次終了までに9回分」の提出がない場合は、卒業論文の準備が不足していると判断され、4年次で「卒業論文」の履修が認められない（＝卒業できない）恐れがあります。つまり、3年次までの計画的な提出が、卒業への条件となるわけです。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	総合仏教ガイダンス（在校生：3月31日、新入生：4月2日） ・身延山久遠寺年中行事〔 https://www.kuonji.jp/annual-event/ 〕 ・身延山大学公開講座〔 https://www.min.ac.jp/openlecture/index.html 〕
第2回	1月 特になし 2月 宗祖降誕会（2月16日）
第3回	3月 特になし
第4回	4月 釈尊降誕会（4月7日）、立教開宗会（4月28日）、甲府公開講座（前期中3回予定）
第5回	5月 宗祖伊豆法難会（5月12日）
第6回	6月 開創会（6月16日）、学園講座（6月16日予定・基礎ゼミ受講生は対象外）
第7回	7月 特になし
第8回	8月 松葉谷法難会（8月27日）
第9回	9月 龍口法難会（9月12日）、身延公開講座（後期中3回予定）
第10回	10月 宗祖御会式（10月12日）
第11回	11月 小松原法難会（11月11日）、公開講演会（11月24日予定・基礎ゼミ受講生は対象外）
第12回	12月 特になし 総合仏教レポートの提出状況について

【教科書・参考書】

特になし。

【学生へのメッセージ】

この授業は、教室で教科書を読むだけの勉強とは違います。現場の空気を感じ、自分の手で文字を書く「生きた学び」です。「なぜ3年次までに9回も出さなければならないのか」。それは、社会に出たときに必要な「計画性」と「継続する力」を身につけてほしいからです。後でまとめて書くことはできません。毎年、自分の担当教員（A/A）との面談で、「今年はどの行事に参加し、いつレポートを出すか」を相談し、必ず了承を得てください。一步步、身延山大学の学生としての自覚を深めていくことを期待しています。

【オフィスアワー】

毎週水曜日の第1・2時限目に大学事務室で相談を受け付けます。出張等で不在の場合があるため、事前にメール（kim(a)min.ac.jp）で予約をしてください。メールでの質問も随時受け付けます。

【実務経験】

在職13年、学務委員長として建学の精神を具現する立場から、行学二道の理念に基づく寺院や社会での実践を厳正に評価・指導します。

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[l_mmb1] [21] 生涯学習概論Ⅰ【学芸・社教】				
区分	前期（15回）		単位	選択（2）	形式 講義
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	栗田真司		クリタ シンジ		kurita shinji [kurita(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
生涯学習という概念が社会で位置付けられるようになった経過と社会的背景、またそれに対応する国や地方自治体の生涯学習政策について学ぶ。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
生涯学習の歴史的経過、基本的な理念、具体的な施策について理解する。講義が中心だが、山梨県の生涯学習情報システム「やまなしまナビネット」や生涯学習大学システム「キャンパスネットやまなし」によって情報収集を行いながら理解する。コンピテンシー：論理的思考力、理解力、情報収集力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
各回の学修テーマについて、パソコン・ビデオ・DVD・書写カメラを使用して授業を行います。基本的には「パワー・ポイント」によって資料の提示を行います。また、必要に応じてプリント資料を配布し、それを参考・参照にして授業を進めます。さらに、必要に応じて関連する映像資料（DVD）も提示して学修内容の理解を深めます。講義中に見る映像資料に関する学修課題及び小課題レポートが課せられるので注意してください。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、指示された課題について調査し自分の意見をまとめておく。事後学修（2時間以上）は、授業を振り返り、要点を整理する。					
【成績評価（方法・基準）】					
事前学修、調べ学習の発表、グループ討議、振り返りシートなど授業への参加点（participation points）（70%）、総括試験（30%）の結果に基づき、総合的に評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	生涯学習とは				
第2回	ポール・ラングランの永久教育				
第3回	生涯教育から生涯学習へ 中央教育審議会・臨時教育審議会・生涯学習審議会				
第4回	現代的課題 「三化け」、「七化け」、「新三化け」				
第5回	超高齢社会と生涯学習				
第6回	少子化と生涯学習				
第7回	男女共同参画と生涯学習				
第8回	生涯学習振興法と内閣府の「生涯学習に関する世論調査」				
第9回	自治体における生涯学習所轄部局の問題、社会教育と生涯学習の微妙な関係				
第10回	NPOの役割、スタディーサークル、アソシアション				
第11回	生涯学習施設と指定管理者制度				
第12回	市民大学、シルバー大学、生涯学習大学システム、生涯学習情報システム				
第13回	学習成果の評価と活用（質的評価と定量的評価）				
第14回	まちづくり、地域活性化と生涯学習				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
授業中に紹介する。					
【学生へのメッセージ】					
受講前に各回のテーマについて自分の考えをまとめておきましょう。板書を写すだけのノートにならないノートの取り方についても学びます。受講後は、ノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えましょう。					
【オフィスアワー】					
毎週水曜日の4時限目を予定（予約が必要）					
【実務経験】					
大学コンソーシアムでの実務経験に基づいた授業を行います。					

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[n_mmb2] [31] 生涯学習概論Ⅱ【社教】				
区分	後期（15回）		単位	選択（2）	
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	栗田真司		クリタ シンジ		kurita shinji [kurita(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
生涯学習に積極的に取り組む地域の事例から生涯学習施策の実際の要点について学ぶ。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
まちづくりの活動が人々の生涯学習になり、生涯学習自体がまちづくりであるという視点について理解する。 コンピテンシー：論理的思考力、理解力、情報収集力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義内容、ビデオ視聴内容についてディスカッションを行う。また、自分にゆかりのある地域の事例について発表する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ（2時間以上）の事前・事後の学修を行うことを望みます。教科書の該当箇所や配布プリント資料をよく読んで内容の理解を深めてください。					
【成績評価（方法・基準）】					
事前学修、調べ学習の発表、グループ討議、振り返りシートなど授業への参加点（participation points）（70%）、総括発表（30%）の結果に基づき、総合的に評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	生涯学習としてのまちづくり				
第2回	まちづくり、街づくり、町づくり、まちおこしの意味 田村明の実践				
第3回	まちづくり3法				
第4回	地域学 掛川市の「とはなにか学舎」				
第5回	よそ者の意味、異年齢集団の意味				
第6回	道の駅の機能的変化 萩しーまーと				
第7回	コンパクトシティ 長野県小布施町				
第8回	富士宮やきそばと中心市街地活性化法				
第9回	徳島県上勝町の葉っぱビジネス				
第10回	長野県下条村、千葉県多古町の子育て支援				
第11回	滋賀県長浜市の挑戦 ないものねだりとあるものさがし				
第12回	新潟県村上市の人形さまめぐり				
第13回	ドイツ・オーバーアマガウのまちづくり				
第14回	事例発表				
第15回	総括 振り返りとシェアリング				
【教科書・参考書】					
授業中に紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
両親、祖父母の出身地など地縁のある地域について調べておいてください。					
【オフィスアワー】					
毎週水曜日の4時限目を予定（予約が必要）					
【実務経験】					
大学コンソーシアムでの実務経験に基づいた授業を行います。					

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[o_mmb2] [33] カウンセリング入門				
区分	後期（15回）		単位	選択（2）	形式 講義
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	一瀬英史		イチノセ ヒデシ		ichinose hideshow [hichinose(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
カウンセリングマインドを持ち、カウンセリングの原理を理解した人材を育成する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
人が精神的な健康を阻害された時、心の健康を回復するために心理カウンセリングはその一助となる。従って、心理カウンセラーは健康力とは何かを理解した上で、相手の話を傾聴し、対話をもって対人援助にあたらなければならない。すなわち、「健康力」を知り、「傾聴力」「会話力」「口頭発表力」を培うことが目的の一つである。また各種心理療法の理論を学び、対人援助の方法を理解することを目指す。 コンピテンシー：健康力、傾聴力、会話力、口頭発表力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義と演習。ペアや集団で対話する演習機会を折々に設け、カウンセリングスキルや自己表現力など、対人援助職者として必要な態度を養う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、教科書を読み、基本的な用語の理解に努めること。事後学修（2時間以上）は、授業を振り返りながら要点をノートに整理し、わからなかったところを次の授業の冒頭で質問して明らかにすること。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（60%）、授業への取組の姿勢（40%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	自身のカウンセリング経験、カウンセリングのイメージ、推しなどについての語り合い				
第2回	心理療法概観				
第3回	深層心理学				
第4回	精神分析				
第5回	催眠				
第6回	ユング心理学				
第7回	確認とまとめ				
第8回	行動療法				
第9回	認知療法・認知行動療法				
第10回	ストレスマネジメント				
第11回	来談者中心療法				
第12回	家族療法				
第13回	日本の心理療法				
第14回	動作療法				
第15回	確認とまとめ				
【教科書・参考書】					
特定の教科書・参考書は指定しないが、講義内容は資料で配布する。					
【学生へのメッセージ】					
この授業では、カウンセリングの基礎を真剣に学びたいと考えている学生の参加を歓迎します。なお、成績評価の対象となるには、3分の2以上の出席が必要です。					
【オフィスアワー】					
講義前後の時間帯					
【実務経験】					
公認心理師、臨床心理士、臨床動作士、山梨県総合教育センター等臨床経験17年の経験を生かした授業を展開します。					

年度	区分	分野
令和8年度	全専攻共通 専門基礎科目	専門基礎科目

講義名	[p_mmb2] [21] 法華経概論Ⅰ【僧階】
-----	--------------------------

区分	前期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	桑名法晃	クワナ ホウコウ	kuwana hoko [hkuwana(a)]
------	------	----------	--------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

本授業では、末法という時代認識に立脚した日蓮聖人の法華経観の修得を目的とし、法華経の概要について学修します。日蓮学専攻のディプロマ・ポリシーが掲げる、日蓮教学を中心とした専門知識を学び、仏教者として総合的・多角的な知識を身につけるための基幹科目です。この学修は、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」およびSDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」に繋がります。 キーワード：法華経、日蓮聖人、末法

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

法華経の概要を総合的に学修することにより、法華経の教えを通して本学の建学の精神を体系的に理解し、立正安国の精神と社会貢献のあり方について、自分自身の考えを養うことを目標とします。 コンピテンシー：情報分析力、読解力、会話力、文章表現力、口頭発表力、論理的思考力

【授業方法（フィードバックの内容）】

講義を中心に、法華経の思想をどのように受け止め、それを現実の生活にどのように生かすかについて考察を深めます。ICTを活用して理解を促進すると共に、授業中の質問やディスカッションを通して理解度を確認し、受講生の主体的な発言を促します。

【授業外学修の方法（時間数）】

この授業では、各回の授業につき、事前・事後学修を合わせて平均4時間程度の学修が必要です。事前学修（約2時間）では、各回の授業内容について、シラバスに記載された教科書・参考書を用いて調査や予習を行い、疑問点を整理します。事後学修（約2時間）では、参考書を活用しながらノートの整理を行い、課題を見いだすと共に、理解を深めて内容の定着を図ります。

【成績評価（方法・基準）】

中間レポート課題（40%）、期末課題レポート（60%）で総合的に評価します。レポートについてはコメントを付して返却します。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	オリエンテーション：法華経を依経とする理由
第2回	法華経の伝訳・法華経の注釈
第3回	法華経の題号
第4回	法華経の説時と場所
第5回	法華経の構成と開頭
第6回	法華経の行者の歴史的系譜：三国四師
第7回	日蓮聖人における法華経受容の特色 1
第8回	日蓮聖人における法華経受容の特色 2
第9回	開経『無量義経』
第10回	序品第一
第11回	方便品第二
第12回	譬喩品第三
第13回	信解品第四
第14回	薬草喩品第五・授記品第六
第15回	化城喩品第七・まとめ

【教科書・参考書】

教科書：『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年。その他、教育リソースを提供します。参考書：『昭和定本日蓮聖人遺文集』立正大学日蓮教学研究所編（総本山身延山久遠寺）1988年もしくは『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（総本山身延山久遠寺）2008年、『誰でもわかる法華経』庵谷行亨（大法輪閣）2000年、『法華経・仏典講座7』田村芳朗・藤井教公（大蔵出版）1992年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。

【学生へのメッセージ】

日蓮聖人の生涯と思想を理解するためにも、また自分自身の生き方・あり方を知るためにも、法華経の学修は欠かせません。授業への主体的な取り組みを期待します。後期開講の「法華経概論Ⅱ」も継続して受講してください。

【オフィスアワー】

令和8年度教員オフィスアワーをご参照ください。質問はメール（hkuwana(a)min.ac.jp）でも可。

【実務経験】

日蓮宗教師としての経験を活かし、日蓮聖人の法華経観を教授します。

年度	区分				分野	
令和8年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目	
講義名	[q_mmb2] [23] 法華経概論Ⅱ【僧階】					
区分	後期（15回）		単位	選択（2）		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--		
担当教員	桑名法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko [hkuwana(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
<p>本授業では、末法という時代認識に立脚した日蓮聖人の法華経観の修得を目的とし、法華経各品の概要について学修します。特に如来寿量品第十六・如来神力品第二十一などの主要品をはじめ、虚空会の思想や起顕竟の法門などの基本的事項について概説します。日蓮学専攻のディプロマ・ポリシーが掲げる、日蓮教学を中心とした専門知識を学び、仏教者として総合的・多角的な知識を身につけるための基幹科目です。この学修は、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」およびSDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」に繋がります。 キーワード：法華経、日蓮聖人、起顕竟の法門</p>						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
<p>法華経各品の概要を総合的に学修することにより、法華経の教えを通して本学の建学の精神を体系的に理解し、立正安国の精神と社会貢献のあり方について、自分自身の考えを養うことを目標とします。 コンピテンシー：情報分析力、読解力、会話力、文章表現力、口頭発表力、論理的思考力</p>						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
<p>講義を中心に、法華経の思想をどのように受け止め、それを現実の生活にどのように生かすかについて考察を深めます。ICTを活用して理解を促進すると共に、授業中の質問やディスカッションを通して理解度を確認し、受講生の主体的な発言を促します。</p>						
【授業外学修の方法（時間数）】						
<p>この授業では、各回の授業につき、事前・事後学修を合わせて平均4時間程度の学修が必要です。事前学修（約2時間）では、各回の授業内容について、シラバスに記載された教科書・参考書を用いて調査や予習を行い、疑問点を整理します。事後学修（約2時間）では、参考書を活用しながらノートの整理を行い、課題を見いだすと共に、理解を深めて内容の定着を図ります。</p>						
【成績評価（方法・基準）】						
<p>中間レポート課題（40%）、期末課題レポート（60%）で総合的に評価します。レポートについてはコメントを付して返却します。</p>						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	五百弟子受記品第八・授学無学人記品第九					
第2回	法師品第十					
第3回	見宝塔品第十一・提婆達多品第十二					
第4回	勸持品第十三・安樂行品第十四					
第5回	從地涌出品第十五					
第6回	如来寿量品第十六					
第7回	分別功德品第十七・隨喜功德品第十八・法師功德品第十九					
第8回	常不輕菩薩品第二十					
第9回	如来神力品第二十一					
第10回	囑累品第二十二					
第11回	薬王菩薩本事品第二十三・妙音菩薩品第二十四					
第12回	觀世音菩薩普門品第二十五・陀羅尼品第二十六					
第13回	妙莊嚴王本事品第二十七・普賢菩薩勸発品第二十八					
第14回	結経『觀普賢菩薩行法経』					
第15回	全体のまとめ					
【教科書・参考書】						
<p>教科書：『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年。その他、教育リソースを提供します。参考書：『昭和定本日蓮聖人遺文集』立正大学日蓮教学研究所編（総本山身延久遠寺）1988年もしくは『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（総本山身延山久遠寺）2008年、『誰でもわかる法華経』庵谷行亨（大法輪閣）2000年、『法華経・仏典講座7』田村芳朗・藤井教公（大蔵出版）1992年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。</p>						
【学生へのメッセージ】						
<p>日蓮聖人の生涯と思想を理解するためにも、自分自身の生き方・あり方を知るためにも、法華経の学修は欠かせません。授業への主体的な取り組みを期待します。「法華経概論Ⅱ」の内容を前提として授業を進めていきます。</p>						
【オフィスアワー】						
<p>令和8年度教員オフィスアワーをご参照ください。質問はメール（hkuwana(a)min.ac.jp）でも可。</p>						

【実務経験】

日蓮宗教師としての経験を活かし、日蓮聖人の法華経観を教授します。

年度	区分				分野	
令和8年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目	
講義名	[r_mmb2] [25] 発達心理学【社教(選択)】					
区分	後期 (15回)		単位	選択 (2)		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--		
担当教員	一瀬英史		イチノセ ヒデシ		ichinose hideshow [hichinose(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
対人援助では、他者を理解する枠組みや理論などの根拠が求められます。その一つの視点として、人の受精から老年期までの発達の過程について考え、発達の基礎理解から対人援助につなげることを目指します。						
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】						
生涯発達を受胎から死に至るまでと位置づけ、生涯にわたって発達し続ける人間について考え、理解を深めていきます。人は生涯どのように発達し、そのプロセスにおいて心理学的構造や機能の獲得、保持、変容、そして衰退がどのように起こるのか理解し、対人援助の方法を検討できることを目指します。特に「健康力」「情報収集力」「改善力」の修得を重視します。						
【授業方法 (フィードバックの内容)】						
基本的には指定した教科書に載っている重要な事項について解説し、その内容について受講生が理解し、考えることができる授業を行います。講義後、必要に応じてグループワーク、ディスカッションを取り入れる予定です。また、教科書に載っていないような日常の出来事や事例、映像資料等を紹介し、用語を身近なものとして理解できるように授業を進めます。						
【授業外学修の方法 (時間数)】						
事前学修 (2時間以上) は、教科書を読み、基本的な用語の理解に努めること。事後学修 (2時間以上) は、学んだ内容についてプリントやノートにまとめ、課された課題を行ってこること。						
【成績評価 (方法・基準)】						
授業内容確認テスト (50%)、授業への取り組み (30%)、課題への取り組み (20%) により総合的に評価する。						
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】						
第1回	オリエンテーション：発達するとはどういうことか・生涯発達の考え方					
第2回	生命の芽生えから誕生まで					
第3回	赤ちゃんがとらえる世界					
第4回	乳児のコミュニケーションと人間関係の発達					
第5回	愛着					
第6回	ことばの発達					
第7回	あそびと発達					
第8回	まとめと確認					
第9回	自己の発達					
第10回	心の理論と仲間					
第11回	思考の発達					
第12回	青年期の発達					
第13回	人生後半の課題					
第14回	発達上の諸問題					
第15回	プレゼンテーション：生涯発達のなかで自己を捉える					
【教科書・参考書】						
教科書：『問いからはじめる発達心理学：生涯にわたる育ちの科学』坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子著（有斐閣ストゥディア）2014年、参考書：黒川伊保子の著書（講義内で案内する）						
【学生へのメッセージ】						
発達心理学は生まれてから死に至るまでの人間の生涯発達を学ぶ学問です。他者理解のみならず、自己理解にも役立つ実践的な科目です。また将来、子どもと関わり育てる大人として、大学時代に学んでおいてよかったと思えるように学修して欲しいと思っています。						
【オフィスアワー】						
講義前後の時間帯						
【実務経験】						
公認心理師、臨床心理士、臨床動作士、山梨県総合教育センター等臨床経験17年の経験を生かした授業を展開します。						

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[s_mmb2] [27] 仏教文化史【学芸(選択)】				
区分	前期 (15回)		単位	選択 (2)	形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	白 景皓		ハク ケイコウ		bai jinghao [bai(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本授業では、南アジア・東南アジア、内陸アジア、東アジアにおける仏教文化の展開を地域と時代ごとに学び、仏教思想・儀礼・社会・文学の多様性を理解する力を養う。異文化理解と資料読解力を培い、学芸員等に必要な文化理解力の基礎を形成する。SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」、SDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」の理解にも繋げる。 キーワード：仏教文化史、アジア交流、仏教思想、比較文化					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
南アジア・東南アジア、内陸アジア、東アジアにおける仏教文化の特色を比較し、地域ごとの相違点を説明できる。仏教思想・儀礼・文学などに関する資料を読み取り、その内容を整理して口頭または文章で表現できる。また、仏教文化の歴史的展開を多角的に分析し、異文化の視点から考察できる。 コンピテンシー：異文化理解、情報収集力、情報分析力、読解力、文章表現力、口頭表現力、論理的思考力、課題設定力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
プロジェクターやテキストを用いた講義に加え、調べ学修に基づく発表やグループディスカッションを取り入れ、主体的な学修を促す。受講生は指定された地域や時代について事前に調査し、資料作成に取り組むこと。講義後にはGoogleフォームによるリアクション・ペーパー（宿題）の提出を求め、理解状況に応じてフィードバックを行う。オープンな教育リソースやファイルキャビネットの活用も推奨する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、第2回目以降の講義の最後に次回講義の内容を資料ページで指定する。また、必要に応じて資料や事例をファイルキャビネット（初回に説明）から各自ダウンロードして参照すること。事後学修（2時間以上）は、講義中のノート整理や、難語理解のための調べ学修に基づいて、Googleフォームによるリアクション・ペーパーを行う。発表形式の事前学修は、6時間程度を必要とする。					
【成績評価（方法・基準）】					
第9回の中間テスト（30%）、授業への取り組みの姿勢（30%、毎回のグループディスカッションと宿題）および第15回の期末の課題発表（40%）により、総合的に評価を行う。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス：イントロダクション / 仏教とは何か？				
第2回	南アジア・東南アジア編1：インド仏教に見るヒンドゥー神話				
第3回	南アジア・東南アジア編2：インド大乘仏教のキーワード：平等と仏性				
第4回	南アジア・東南アジア編3：インド仏教の儀礼文化：仏教の密教化について				
第5回	南アジア・東南アジア編4：東南アジアの上座部仏教と社会生活				
第6回	内陸アジア編1：チベットの仏教の伝来と勢力				
第7回	内陸アジア編2：チベット仏教のキーワード：化身ラマ制と宗祖制				
第8回	内陸アジア編3：チベット仏教のキーワード：中観派とタントラ				
第9回	中間のテストとまとめ				
第10回	東アジア編1：漢訳仏典と漢字文化圏：翻訳文化論				
第11回	東アジア編2：国家による仏教統制の過程：中国を中心に				
第12回	東アジア編3：東アジア仏教の相互交流：中・韓・日仏教の交流関係				
第13回	東アジア編4：東アジアの仏教文学				
第14回	東アジア編5：三教融合への道：「神仏習合」について				
第15回	期末の発表とまとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：特に指定しない。配布資料はGoogleドライブの共有ファイルにアップロードされている。各自ダウンロードしてご利用ください。参考書：『東アジア社会と仏教文化』高崎 直道/木村 清孝【編】（春秋社）1996年、『チベット仏教の世界』永沢 哲（法蔵館）2021年、『文化としてのインド仏教史』奈良 康明（大正大学出版会）2018年。					
【学生へのメッセージ】					
本授業ではアジア各地の仏教文化を扱うため、事前に指定された地域や時代について簡単に調べておくことが望ましい。専門知識は必要ないが、授業への積極的な参加と調べ学修への取り組みを期待する。発表や資料作成を通して主体的に学修を進めてほしい。					

【オフィスアワー】

授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに対応する。

【実務経験】

塾講師（東洋の文化史）5年。東洋の文化史を実践的に深めることを養える授業にします。

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[t_mmb2] [29] 日本文化史【学芸(選択)】				
区分	前期 (15回)	単位	選択 (2)		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	小高絢子		オダカ アヤコ		odaka ayako
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日本文化は仏教を始め様々な外来文化と交流し、それらを受容しながら独自に展開することで多彩な広がりを見せてきました。本授業では、仏教伝来以前の日本から戦後に至るまで、その文化史を思想・宗教・文学・芸能といった切り口から概観していきます。キーワード：仏教文化、比較文化、文学・芸術					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
(1)思想・宗教・文学・芸能といった複数の切り口から日本文化について説明できるような「多様な学問の考え方」を修得すること、(2)多様な価値観を知ることによって「地域理解」や「異文化理解」が深まることを目指します。外来の文化との違いを知り、自国の文化の重層性を再認識することは、SDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」に繋がります。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
原則は対面の講義形式で行います。ファイルキャビネットにアップした資料に沿って、適宜写真や映像資料などを用いながら講義を進めます。課題の提出にあたっては、Googleフォーム等のICTツールを活用します。毎授業、インターネットに接続可能なスマートフォン・タブレット・PCなどを持参してください。学修成果物やレポートのフィードバックは授業内もしくはファイルキャビネット経由で行います。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回の授業ごとに事前・事後学修を合わせて平均4時間程度の学修を行ってください。事前学修（約2時間）：授業テーマに関して自身が持っているイメージや、知っている知識をノート等にまとめる。事後学修（約2時間）：授業の復習をした上で課題に回答する。事前・事後学習ともに、分からない語句や読めない漢字があった場合は事典や辞書を用いて調べる。					
【成績評価（方法・基準）】					
学修成果物（70%、毎授業ごとの課題）、期末レポート（30%）により、総合的に評価を行います。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス：文化史とはなにか				
第2回	神々の祭りと神話				
第3回	仏教の伝来と受容				
第4回	律令制度と官人の学問				
第5回	かな文字の成立と国文学				
第6回	仏教の日本化と庶民への浸透				
第7回	公家と武家の変化				
第8回	芸能の成熟				
第9回	儒教とその日本化				
第10回	国学と洋楽				
第11回	町人文化とその思想				
第12回	知識人と西欧の思想				
第13回	日本中心の思想				
第14回	近代日本の諸宗教				
第15回	まとめ：国際社会における日本文化				
【教科書・参考書】					
教科書：レジュメをもって代替とします（紙媒体の配布は行わないため、各自ファイルキャビネットからダウンロードすること）。参考書：『日本文化史講義』大隅和雄（吉川弘文館）2017年、『日本仏教史』菫輪顕量（春秋社）2015年、『事典 日本の仏教』菫輪顕量編（吉川弘文館）2014年、『日本宗教史』末木文美士（岩波新書）2006年。					
【学生へのメッセージ】					
ただ講義を聞くだけでなく、そこから自分自身の関心を見つけ、自分なりに調べて学びに変えていく、積極的な姿勢を歓迎します。					
【オフィスアワー】					
本授業の前後、もしくは火・水・木曜日のオフィスアワー（大学事務室を通じて予約してください）。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[u_mmb1] [31] 介護福祉学				
区分	前期 (15回)	単位	選択 (2)		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	功刀仁子		クヌギ ヒトコ		kunugi hitoko [kunugi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
介護福祉学は、介護福祉・社会福祉士分野に共通する生活支援をするために必要な教養と知識を身につけることを目的とする。この授業を学ぶことによって、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
介護福祉学は、高齢者や障害を持った人たちの命を守り、生きる力を強め、生活の質を高めるための「健康力」をみだし、その人らしく生活をする「地域理解」を深め、その方の生き方を知るためのコミュニケーション技術を学ぶことで「会話力」が身につく。コンピテンシー：多様な学問の考え方、健康力、地域理解、傾聴力、会話力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
介護や福祉の社会問題を取り上げ（課題に出す）ディスカッションやグループワークを通して理解を深める。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、課題を提示して調べておくこと。。事後学修（2時間以上）は、課題の発表とグループワークをまとめること。					
【成績評価（方法・基準）】					
課題提出（20%）、課題発表（20%）、授業への取り組み姿勢（10%、発言回数やワークの成果物など）、学力確認テスト（50%）により総合的に評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション 介護福祉学とは				
第2回	介護の現状				
第3回	介護福祉士の倫理				
第4回	介護する背景				
第5回	介護におけるコミュニケーションの基本				
第6回	在宅における介護福祉サービス				
第7回	施設における介護福祉サービス				
第8回	介護福祉に関わる多職種連携1				
第9回	介護福祉に関わる多職種連携2				
第10回	自立支援とリハビリテーション1				
第11回	自立支援とリハビリテーション2				
第12回	高齢者に見られる主な疾患				
第13回	介護福祉における安全確保とリスクマネジメント				
第14回	介護福祉従事者の心身の健康管理				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：最新『介護の基本I・II』介護福祉士養成講座編集委員会編集（中央法規）。参考書：最新『発達と老化の理解』介護福祉士養成講座編集委員会編集（中央法規）。					
【学生へのメッセージ】					
介護福祉学の概論を理解し、全体像を把握すること。介護・福祉の社会問題として何が起きているか注視して欲しい。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室や非常勤講師室にて対応します。メールでも（kunugi(a)min.ac.jp）対応可。					
【実務経験】					
山梨県立中央病院での看護師としての経験を生かした授業を展開します。					

年度	区分				分野	
令和8年度	全専攻共通 資格取得科目				学芸員資格取得に関する科目	
講義名	[A_cmc5] [01] 博物館実習【学芸】					
区分	通年（14回）		単位	必修（3）		形式 実習
授業年次	--	--	3年	4年		
担当教員	望月真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho [smochi(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
全国各地の登録博物館・博物館相当施設で、博物館学芸員としての業務を実際に体験してもらう。館務実習の内容及び期間は、実習館に任せる。併せて担当教員が行う学内・学外実習に参加し、合計14日間の実習を行う。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
学芸員としての素養を身につけることを到達目標とする。学外における博物館の館務実習、担当教員が行う学内・学外実習を行うことにより、「地域理解」「情報構成力」「会話力」「文章表現力」「実行力」が身につく。						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
博物館実習は、館務実習・学外実習を併せて合計14日間行う。担当教員が主催する学内・学外実習は随時行うが、その際は掲示板やメール等にて案内する。館務実習は、学外の博物館施設において実習を行うことであり、その日数は、実習館の事情に任せているのでそれに従うこと。館務実習の日数は実習館によって異なるが、7日間を基準とする。よって、それ以上行う場合は事前に担当教員の許可を得ること。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
担当教員が実施する学内・学外実習の際には、1日単位で事前学修2時間、事後学修2時間を行う。館務実習の際には、指導学芸員の指示に従い、実習期間中の毎日、事前学修2時間、事後学修2時間を行う。						
【成績評価（方法・基準）】						
館務実習の際は、本学が作成した実習評価により、実習館の学芸員に評価してもらう。そして担当教員が行う学内・学外実習による評価を併せて総合評価する。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	学外実習 1					
第2回	学外実習 2					
第3回	学外実習 3					
第4回	学外実習 4					
第5回	学外実習 5					
第6回	学外実習 6					
第7回	学外実習 7					
第8回	館務実習 1					
第9回	館務実習 2					
第10回	館務実習 3					
第11回	館務実習 4					
第12回	館務実習 5					
第13回	館務実習 6					
第14回	館務実習 7					
【教科書・参考書】						
教科書：特に指定なし。参考書：『博物館実習マニュアル』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編（芙蓉書房出版）。						
【学生へのメッセージ】						
館務実習や学外実習は集合時間厳守。出席重視なので遅刻・欠席をしないこと。館務実習や学内・学外実習が終わってから2週間以内に大学学務に博物館実習録を提出し、指導教員の認印を受けること。春季・夏季中の期間中における実習は、休暇後に学校が始まってから1週間以内に実習録を提出すること。実習録は、提出期限を過ぎると受理できない場合がありますので、期限を必ず守ってください。また、授業計画の回数、各実習の合計日数（14日間）を示しています。						
【オフィスアワー】						
実習内容等に関して質問等があれば研究室か、随時メール（smochi(a)min.ac.jp）で対応します。						
【実務経験】						
博物館学芸員として勤務経験（42年）あり。博物館の現状を踏まえた授業を行います。						

年度	区分				分野	
令和8年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得に関する科目	
講義名	[A_cse4] [13] 社会教育演習【社教】					
区分	後期（15回）		単位	選択（1）		形式 演習
授業年次	1年	2年	3年	4年		
担当教員	栗田真司		クリタ シンジ		kurita shinji [kurita(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
社会教育についての問題の所在、研究目的 研究方法、結果、考察、総括、今後の課題について発表し協議する。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
図書館のホームレス問題、TSUTAYA図書館を取り上げて各自が、課題を設定し、調査し、報告する中で社会教育支援者としての資質・能力を身につける。 コンピテンシー：地域理解、情報収集力、情報分析力、会話力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
毎回、社会教育方法に関する課題に取り組みます。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
事前学修（2時間以上）は、指示された課題について調査し自分の意見をまとめておく。事後学修（2時間程度）は、授業を振り返り、要点を整理する。						
【成績評価（方法・基準）】						
事前学修、調べ学習の発表、グループ討議、振り返りシートなど授業への参加点（participation points）（70%）、総括発表（30%）の結果に基づき、総合的に評価する。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	社会教育施設について					
第2回	図書館の現状					
第3回	図書館の課題					
第4回	TSUTAYA図書館とホームレスに対する対応					
第5回	研究方法 フィールドワークの技法					
第6回	問題の所在					
第7回	研究目的					
第8回	研究方法					
第9回	調査結果の中間発表と協議 1					
第10回	調査結果の中間発表と協議 2					
第11回	調査結果の中間発表と協議 3					
第12回	調査結果の中間発表と協議 4					
第13回	調査結果の中間発表と協議 5					
第14回	最終発表					
第15回	総括 振り返りとシェアリング					
【教科書・参考書】						
授業の中で紹介します。						
【学生へのメッセージ】						
各自のノートパソコンかタブレットを持参してください。						
【オフィスアワー】						
毎週水曜日の4時限目を予定（予約が必要）						
【実務経験】						
大学コンソーシアムでの実務経験に基づいた授業を行います。						

年度	区分		分野		
令和8年度	全専攻共通 資格取得科目		社会教育主事資格取得に関する科目		
講義名	[B_cse5] [15] 社会教育実習【社教】				
区分	通年（15回）	単位	選択（1）	形式	実習
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	栗田真司		クリタ シンジ	kurita shinji [kurita(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会教育主事の資格は、大学の養成課程で定められた科目を履修することで社会教育士の称号を取得し、社会教育機関で1年間の実務経験を経て取得することができます。2020年からは、社会教育実習が必修科目として課されるようになりました。社会教育実習は、現場実習が中心となりますが、ガイダンス、事前指導、事後指導、実習報告も授業内容に含まれます。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
社会教育機関、施設での学習者支援業務を経験するための基礎知識、心得、コミュニケーションスキルを身につけます。 コンピテンシー：地域理解、情報収集力、情報分析力、会話力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
実習機関、施設に関しては、行政の社会教育機関、公民館、博物館、図書館、生涯学習センター、男女共同参画センターなどの社会教育施設が該当します。詳細については「社会教育主事資格取得課程」規定を参照してください。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、大学指導担当者から指示された課題を必ず行い、事後学修（2時間以上）は、実習について実習日誌にまとめ、指導担当者に提出して指導を受けてください。					
【成績評価（方法・基準）】					
事前指導（20%）、事後指導での発表（20%）、実習レポート（20%）、実習先の評価（20%）と実記録（20%）について総合的に評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス				
第2回	実習機関・施設の事前調査の手順				
第3回	実習機関・施設の事前調査				
第4回	実習機関・施設の事前調査の発表				
第5回	実習の心得				
第6回	コミュニケーションスキル				
第7回	現場実習1（社会教育機関・施設での実習）				
第8回	現場実習2（社会教育機関・施設での実習）				
第9回	現場実習3（社会教育機関・施設での実習）				
第10回	現場実習4（社会教育機関・施設での実習）				
第11回	現場実習5（社会教育機関・施設での実習）				
第12回	現場実習6（社会教育機関・施設での実習）				
第13回	現場実習7（社会教育機関・施設での実習）				
第14回	事後指導（社会教育機関・施設での実習報告）				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
『身延山大学 社会実習記録』を使用します。					
【学生へのメッセージ】					
実習中は、1日中立ちっぱなしなど体力的に厳しい状態になります。3度の食事、睡眠、運動など事前の健康管理を徹底しましょう。					
【オフィスアワー】					
毎週水曜日の4時限目を予定（予約が必要）					
【実務経験】					
大学コンソーシアムでの実務経験に基づいた授業を行います。					

年度	区分		分野		
令和8年度	全専攻共通 資格取得科目		社会福祉主事任用資格取得に関する科目		
講義名	[A_csw3] [01] 社会福祉体験実習研究【社主】*R7以前入学生対応科目				
区分	前期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
授業年次	1年	2年	--	--	
担当教員	佐々木 さち子		ササキ サチコ	sasaki sachiko [sasaki(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会福祉とはどのような学問なのか、「福祉」をテーマに制度と支援技術などを学び、これからの福祉問題にも触れ専門知識と援助技術を取得する。高齢者・障がい者福祉を学ぶことにより、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
社会福祉体験実習に臨む際の基本的な知識・技術及び留意事項を学ぶ。高齢者・障がい者福祉を学ぶことで「多様な学問の考え方」ができ、事例に基づく解釈をすることで「情報収集力」が養われ課題解決の「実行力」が実践できる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義、実技演習、グループワーク。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、毎回の授業時に指定された文献を必ず読んでくること。事後学修（2時間以上）は、授業中に提示した専門用語の復習を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業で出される課題（50%）、レポート提出（50%）					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	社会福祉、障害児教育の基本理念				
第3回	視覚障害、聴覚障害、言語障害				
第4回	運動障害、知的障害、病弱・虚弱				
第5回	ダウン症、てんかん、その他の障害				
第6回	盲・聾・支援学校の教育				
第7回	社会福祉施設の定義、種類				
第8回	福祉サービスの種類				
第9回	高齢者にかかわる施設				
第10回	高齢者施設の事例に基づく解釈				
第11回	児童福祉・障害児にかかわる施設				
第12回	児童福祉・障害児（者）施設の事例に基づく解釈				
第13回	介護実技				
第14回	介護実技				
第15回	総括・実習事前説明				
【教科書・参考書】					
授業中に指定します。					
【学生へのメッセージ】					
社会福祉体験実習につながる大切な講義です。集中して受講してください。					
【オフィスアワー】					
出校日火曜日、授業の前後に非常勤講師控室（大学事務室隣）が授業中にて受付します。					
【実務経験】					
JR東京総合病院他約20年以上の看護師経験を活かし、医療的ケアや介護福祉士に必要な医療的知識を伝える授業を行う。					

年度	区分				分野	
令和8年度	全専攻共通 資格取得科目				社会福祉主事任用資格取得に関する科目	
講義名	[B_csw4] [03] 社会福祉体験実習【社主】*R7以前入学生対応科目					
区分	通年（1回）		単位	選択（1）		形式 実習
授業年次	--	2年	3年	--		
担当教員	佐々木 さち子		ササキ サチコ		sasaki sachiko [sasaki(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
社会福祉の制度はどのような学問か、福祉の制度を中心に学修し介護技術等の支援方法を学び専門知識と援助技術を取得する。高齢者福祉を学ぶことにより、SDGs11の目標「住み続けられるまちづくりを」に繋がります。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
高齢者福祉施設や支援学校での実習を通して社会福祉及び介護等の体験を行う。社会福祉主事の取得のため、施設実習を通して、利用者の「健康力」に気付き、「傾聴力」を活かし「会話力」を磨くことができる。						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
実習内容の詳細は実習施設の実習指導者の指示に従う。5日間の実習後実習内容についての報告会を行う。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
事前学修（2時間以上）は、毎回の授業時に指定された文献を必ず読んでくること。事後学修（2時間以上）は、授業中に提示した専門用語の復習を行うこと。						
【成績評価（方法・基準）】						
実習先の指導者評価（50%）、実習記録（50%）で評価する。実習前に授業・前日の実習内容を必ず復習すること、実習後は内容の修得が得られるよう反復すること。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	社会教育主事及び社会福祉主事資格取得の場合：高齢者福祉施設実習5日間 教育職員免許状取得の場合：高齢者福祉施設実習5日間・支援学校2日間					
【教科書・参考書】						
必要に応じて指示する。						
【学生へのメッセージ】						
実習は一瞬の不注意が大きな怪我や事故につながる恐れがあります。細心の注意を払ってください。						
【オフィスアワー】						
出校日火曜日、授業の前後に非常勤講師控室（大学事務室隣）か実習時巡回の時受け付けます。						
【実務経験】						
JR東京総合病院他約20年以上の看護師経験を活かし、医療的ケアや介護福祉士に必要な医療的知識を伝える授業を行う。						

年度	区分				分野		
令和8年度	全専攻共通 専門科目				キャリア系科目		
講義名	[A_sca3] [01] 手話実践（日常会話）						
区分	前期（15回）		単位	選択（1）		形式	演習
授業年次	--	2年	--	--			
担当教員	望月香代			モチヅキ カヨ		mochizuki kayo [kayomochi(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
手話を学ぶこと、実践を通してで知った聴覚障害者の存在「異文化理解」を基に、言語としての手話の力「会話力」を深めていきます。実践の会話を広げ日常会話の基本を演習することでさらに手話を身につけ、手話を読み取れるように進めてさらに「表現力」を育てます。また手話言語を身につけることでSDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」の学びに繋がります。							
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】							
前年までに、聴覚障害者とのコミュニケーションとはどのようなものか、体験を通して学んで来ています。そのことを基礎とし、手話の特徴を学びながら語彙を増やすことでさらにコミュニケーション力が身につくようになります。また聴覚障害者の理解をさらに深めるため、聴覚障害者から直接話をしてもらい時間を作り、実践的な学びから異文化理解を具体的にできるようにします。コンピテンシー：傾聴力・会話力・異文化理解							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
テキストに添いながら、生活で使う手話の語彙を繰り返し覚えていきます。また、自分のことが手話で話せるように、毎回一人一人が発表を行います。実践を主にした授業を進めていきます。聴覚障害者とのコミュニケーションにより、聞こえないことを具体的に学べるようにします。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学修（2時間以上）は、第2回目以降の講義の最後に次回の講義の内容を指定します。テキスト内容を確認してください。事後学修（2時間以上）は、授業中に覚えた単語を復習してください。また出された内容について調べ、授業中に気付いたこと、疑問点等を整理することをおこなってください。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業への取り組み姿勢（40%、講義中に手話での発表をしてもらう。最低3回×10%=30%+発表者に対し意見や感想など、積極的な授業参加を評価=10%、その都度コメントを返していきます）、小テスト（20%、単語・文章の読み取り・表現のテストをおこない確認をしていきます）、学力確認テスト（40%、修得した内容を確認しコメントを返します）により総合評価します。							
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】							
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、テキストの紹介） 自己紹介（名前・住所・家族・趣味・数字）表現と読み取り1						
第2回	自己紹介（仕事・あなたの家・指文字）表現と読み取り2						
第3回	話しかけてみましょう（一日・ヶ月・一年）表現と読み取り1						
第4回	話しかけてみましょう 表現と読み取り2						
第5回	話しあってみましょう 表現と読み取り3						
第6回	まとめ						
第7回	実践（聴覚障害者と交流することで、SDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」について考えよう）						
第8回	具体的表現1（形・動作・状況を工夫して表現しましょう）						
第9回	具体的表現2（意味をつかんで表現しましょう）						
第10回	置き換えの表現（意味に合った手話を表現しましょう）						
第11回	実践（聴覚障害者と交流することで、SDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」について考えよう）						
第12回	表情（表情の強弱・速度を工夫して表現しましょう）						
第13回	主語の明確化1（位置・方向を工夫して表現しましょう）						
第14回	主語の明確化2（位置・方向を工夫して表現しましょう）						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
教科書：『手話を学ぼう 手話で話そう』（社会福祉法人全国手話研修センター）2014年、『手にことばを』（公益社団法人東京都聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟）2020年。参考書：『今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと学ぼう!』（一般社団法人全日本ろうあ連盟）2014年。							
【学生へのメッセージ】							
前年度学んだことを土台にし自分が伝えたいことをまとめる準備をして授業に出席してください。コミュニケーションを通して伝えること・伝わることを感じられるように進めていきます。							

【オフィスアワー】

水曜日11:00-14:00と授業終了後。質問はメール (kayomochi(a)min.ac.jp) でも可。

【実務経験】

手話通訳士、山梨県登録手話通訳者、手話通訳養成講座運営委員、手話奉仕員・手話通訳者養成講師の経験を生かした授業を展開します。

年度	区分		分野		
令和8年度	全専攻共通 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[B_sca3] [03] 手話実践（通常会話）				
区分	後期（15回）	単位	選択（1）	形式	演習
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	望月香代		モチヅキ カヨ	mochizuki kayo [kayomochi(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>今まで学んできた視覚言語である手話とはどのようなものなのかを自分の言葉で話せるようにしてもらいます。社会の中に共に暮らす聴覚障害者の存在を理解した上で、自己紹介、実践会話を通して身につけた手話をさらに使用言語となるように授業を進めます。理解と実践によって「異文化理解」「人間力」「コミュニケーション力」の向上につながります。授業を通して考えることでSDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」の学びをさらに考える時間となります。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
<p>聴覚障害者は私たちと同じ社会で暮らしています。今後、出会うこともあるはず。その時、当たり前前にコミュニケーションができるのは大切なことです。また、聴覚障害者について他の人に話せること、それは人間力に繋がります。会話、実践を通して学びます。それによりコミュニケーション力が身につきます。また、仲間とのコミュニケーションも必要だと再確認ができるように、グループで学びます。コンピテンシー：傾聴力・会話力・異文化理解</p>					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
<p>前半はテキストを使用しながら、語彙の確認を中心に実践練習を行います。グループワークが中心となります。後半は、聴覚障害者を考えて自分ができるコミュニケーションを考え、手話で発表できるように確認していきます。学生同士で確認作業を含めます。会話力が必要になり、自分の技術や知識が広がります。</p>					
【授業外学修の方法（時間数）】					
<p>事前学修（2時間以上）は、第2回目以降の講義の最後に次回の講義の内容を指定します。テキスト内容を確認してください。事後学修（2時間以上）は、授業中に覚えた単語・文章を復習してください。また出された内容について調べ、授業で気付いたこと、疑問点を整理するようにしてください。</p>					
【成績評価（方法・基準）】					
<p>授業への取り組み姿勢（40%、講義中に手話での発表をしてもらう。最低3回×10% = 30% + 発表者に対し意見や感想など、積極的な授業参加を評価 = 10%、その都度コメントを返します）、小テスト（20%、単語・文章の読み取り・表現のテストをし振り返りの結果を確認します）、学力確認テスト（40%、当事者である聴覚障害者が評価します）により総合評価します。</p>					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、テキストの紹介、基本文法の確認）				
第2回	手話の形・方向・位置のまとめ1（どこに）				
第3回	手話の形・方向・位置のまとめ2（どこからどこに）				
第4回	手話の形・方向・位置のまとめ3（どこからどこにどのように）				
第5回	手話の形・方向・位置のまとめ4（複数でどこにどのように）				
第6回	手話の形・方向・位置のまとめ5（自分のことを話してみよう）				
第7回	実践（聴覚障害者と交流することで、SDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」について考えよう）				
第8回	主語の明確化 指さしを使って表現しましょう1（自分のこと）				
第9回	主語の明確化 指さしを使って表現しましょう2（自分以外の人のこと）				
第10回	主語の明確化 体の向きをかえて表現しましょう1（自分と誰が）				
第11回	主語の明確化 体の向きをかえて表現しましょう2（誰と誰が）				
第12回	空間の活用1（時間）				
第13回	空間の活用2（日程）				
第14回	空間の活用3（自分のことを話してみよう）				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
<p>教科書：『手話を学ぼう 手話で話そう』（社会福祉法人全国手話研修センター）2014年、『手にことばを』（公益社団法人東京都聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟）2020年。参考書：『今すぐはじめる手話テキスト：聴さんと学ぼう!』（一般社団法人全日本ろうあ連盟）2014年。</p>					
【学生へのメッセージ】					
<p>授業中に仲間同士でやり取りしたことを考え、復習し次の受講をすることが望ましい。今後自分が人として成長していく上で、何が大切なのか、何をしなければならぬかを、一人一人が考え、みんなで話せるようにしてほしい。</p>					

【オフィスアワー】

水曜日11:00-14:00と授業終了後。質問はメール（kayomochi(a)min.ac.jp）でも可。

【実務経験】

手話通訳士、山梨県登録手話通訳者、手話通訳養成講座運営委員、手話奉仕員・手話通訳者養成講師の経験を生かした授業を展開します。

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 専門科目				キャリア系科目
講義名	[C_sca2] [05] キャリア教育 I				
区分	前期 (15回)		単位	選択 (1)	形式 演習
授業年次	--	2年	3年	4年	
担当教員	清水 かおり		シミズ カオリ		shimizu kaori [shimizu(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
「自己の希望就職先で内定をもらうこと」を目的とし、自己分析や企業分析をして、マッチングする企業にアプローチしていく上で、志望動機や自己アピールおよび履歴書の書き方のコツを学び、模擬面接で実践を体験してもらいます。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
企業へアプローチしていく上で、自分と向き合い自分を知ることや、企業研究を自主的に行い、自分の考えを具体的に述べる力や文章で伝える力を身につけることを授業の目標とします。 コンピテンシー：地域理解、情報収集力、読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭発表力、論理的思考力、実行力、評価力、改善力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
配布資料に基づいて、講義、演習、ディスカッションを行います。実際に自己分析・企業研究をして、これに基づいた志望動機・自己アピールを考えて履歴書を作成します。講義の内容によっては、知識を得るだけでなく、簡単なゲームを通して「考える」「感じる」時間を作っています。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
予習および復習は、講義時に配布するプリントにより進めてください。講義内容を振り返り、毎日20分間 (1週間で140分) 自分自身について、将来について考え、実際の就職活動に活かせるよう努めてください。					
【成績評価 (方法・基準)】					
学力確認テスト (60%、第15回)、授業内発表 (20%、最低2回の発表)、課題提出 (10%)、授業参画 (10%) によって評価します。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	就職活動のプロセス				
第2回	自己分析 1				
第3回	自己分析 2 (自己分析表作成)				
第4回	企業研究とマッチング				
第5回	志望動機				
第6回	自己アピール				
第7回	履歴書の作成				
第8回	お礼状の書き方				
第9回	面接の種類と対策				
第10回	第一印象の重要性と身だしなみ				
第11回	美しい姿勢とお辞儀 / 面接の流れを確認する (ロールプレイ)				
第12回	正しく聴いて分かりやすく答える (理解する力・伝える力) 質疑応答例				
第13回	ディスカッション 1				
第14回	ディスカッション 2				
第15回	総括 (学力確認テスト)				
【教科書・参考書】					
毎講義時にプリントを配布します。					
【学生へのメッセージ】					
就職活動に必要な知識を得るために、欠席はしないよう心掛けてください。講義中は積極的に考え行動してください。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
株式会社雅 非常勤講師 (担当校 甲府市立甲府商科専門学校 ビジネス実務) 就職活動に必要な立居振舞をお伝えしていきます。					

年度	区分				分野	
令和8年度	全専攻共通 専門科目				キャリア系科目	
講義名	[D_sca3] [07] キャリア教育 II					
区分	後期 (15回)		単位	選択 (1)		形式 演習
授業年次	--	2年	3年	4年		
担当教員	清水 かおり		シミズ カオリ		shimizu kaori [shimizu(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
社会で活躍するための基礎力を養い、就職活動やその後の生活に活かせる知識を修得します。						
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】						
社会人として知っておきたい様々なマナー・敬語などの一般常識、人と関わる中で必要不可欠なコミュニケーションについて学ぶことで、(1)傾聴力・会話力・口頭表現力が向上し、(2)一般的な論理的思考ができるようになります。他にも、働くことに関する法律を学ぶことで、雇用契約を締結する際の条件確認に活かすことができる他、社会保障や税金の支払いなどについての知識が身につきます。コンピテンシー：読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭発表力、論理的思考力、実行力、評価力、改善力						
【授業方法 (フィードバックの内容)】						
配布資料に基づいて、講義、演習、ディスカッションなどを行います。講義の内容によっては、知識を得るだけでなく、簡単なゲームなどを通して「感じる」「考える」時間を作っています。						
【授業外学修の方法 (時間数)】						
予習および復習は、講義時に配布するプリントにより進めてください。講義内容を振り返り、毎日20分間 (1週間で140分) 自分自身について、将来について考え、実際の就職活動に活かせるよう努めてください。						
【成績評価 (方法・基準)】						
学力確認テスト (60%、第15回)、ロールプレイ (20%)、課題提出 (10%)、授業参画 (10%) によって評価します。						
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】						
第1回	夢を叶えるために					
第2回	敬語と接遇用語					
第3回	ビジネス電話に関する知識 1					
第4回	ビジネス電話に関する知識 2					
第5回	ビジネス電話に関するロールプレイ (ビジネスシーン・インフォーマルシーン)					
第6回	マナーの基本 1 (マナーの本質・挨拶・お辞儀・身だしなみ・訪問のマナー・席次)					
第7回	マナーの基本 2 (名刺交換・紹介の順番・案内のし方・お茶やお菓子の出し方といただき方・見送りのし方)					
第8回	マナーの基本 3 (季節のご挨拶・葬儀・結婚披露宴)					
第9回	マナーの基本 4 (ロールプレイ)					
第10回	コミュニケーションの基本 1					
第11回	コミュニケーションの基本 2					
第12回	社会人としての心構え 1					
第13回	社会人としての心構え 2					
第14回	知っておきたい法律・規則					
第15回	総括 (学力確認テスト)					
【教科書・参考書】						
講義ではプリントを配布します。						
【学生へのメッセージ】						
講義中は積極的に考え行動してください。また欠席・遅刻をしないよう心掛けてください。						
【オフィスアワー】						
授業の前後に教室にて対応します。						
【実務経験】						
株式会社雅 非常勤講師 (担当校 甲府市立甲府商科専門学校 ビジネス実務) 社会人に必要なスキルをお伝えしていきます。						

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 専門科目				キャリア系科目
講義名	[E_sca4] [09] キャリア教育 III				
区分	前期 (15回)	単位	選択 (1)		形式 演習
授業年次	--	2年	3年	4年	
担当教員	Jill Emma Strothman		ジル・エマ・ストロースマン		jill emma strothman [jill(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>一歩進んだ英語を使えるようになるための授業です。1年次が学ぶ教養英語に加え、より高度な英語を学ぶことによって、SDGs8の目標「働きがいも経済成長も」に繋がります。英語の資格を持てばよりグローバルな仕事が職場の選択肢に加わります。</p> <p>キーワード：英語、異文化、アクティブラーニング</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
<p>選択できる語学科目の中で、この授業は本格的に英語を使いたい学生が選ぶ科目です。過去に、海外布教を考える学生、福祉で外国人にも対応できるようになりたい学生など、それぞれのキャリアを考えてこの科目を選びました。少人数で英語を話して、書いて、発表するので、文章表現力、口頭発表力、と会話力を得られます。また、英語で書かれた作品を読む学生は、優れた外国語リテラシーと読解力を得られます。本授業を受講することにより、学生はその希望に則した、それぞれのキャリアに役立つ英語の修得できます。 コンピテンシー：外国語リテラシー、文章表現力、口頭発表力、会話力、読解力</p>					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
<p>ここ数年、少人数のため時間を決めて研究室で一对一の学修をしていますが、人数が多いと教室での講義となります。TOEIC狙いの学生にはTOEICの教材を使って、英語で会話をする希望のある学生には会話の教材で対応していきます。英会話や、学生の書いた英文の発表など、アクティブラーニングの多い授業です。</p>					
【授業外学修の方法（時間数）】					
<p>毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。受講前に用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。</p>					
【成績評価（方法・基準）】					
<p>授業への取り組み姿勢（40%、発言回数やワークの成果物など）と、学力確認テスト（40%）と、課題などその他は（20%）です。</p>					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	Pronunciation				
第2回	Greetings				
第3回	You and Your Family				
第4回	Everyday Life in Minobu				
第5回	Future Dreams				
第6回	High School Days				
第7回	中間テスト				
第8回	Reading Comprehension				
第9回	Telephoning				
第10回	Fixing an Appointment				
第11回	Complaints				
第12回	Requests and Offers				
第13回	Specific Career Terminology 1				
第14回	Specific Career Terminology 2				
第15回	学力確認テストと授業のまとめ				
【教科書・参考書】					
<p>教科書：最初の授業の際、一緒に選びます。参考書：英和・和英辞典など</p>					
【学生へのメッセージ】					
<p>高度な勉強です。発音などに関しては厳しく指導しますので、しっかり話せるようになりたい方に受講していただきたいです。</p>					
【オフィスアワー】					
<p>月曜日 5時限目（相談したいことがある学生、あらかじめ連絡していただきたいです）</p>					
【実務経験】					
<p>英語の通訳や翻訳の経験を活用した実践的な授業を展開します。</p>					

年度	区分		分野		
令和8年度	全専攻共通 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[F_sca2] [11] インターンシップ I				
区分	通年（1回）	単位	必修（1）	形式	実習
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	叶 寧		ヨウ ネイ		ye ning [ye(a)]
	小高絢子		オダカ アヤコ		odaka ayako
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
学生が一定期間、将来に関連のある企業等の中で研修生として就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直すこと、これを本授業のねらいとする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
将来の就職において、この体験が役立つようにすることを到達目標とする。インターンシップを行うことにより地域理解、会話力、実践力がつく。具体的には主に(1)課題設定を自ら行い、(2)問題意識をもって、その解決法を構想・計画する。そして(3)その構想・計画に基づいて実行した結果を振り返り改善策を構築すること、以上の力の修得を目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺・一般寺院・行学寮及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計45時間のインターンシップを行うことにより、1単位を修得できる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。事後学修として、インターンシップで得たことについてまとめること。					
【成績評価（方法・基準）】					
受け入れ先の評価及び勤務実績等記載の報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については「身延山大学インターンシップ細則」に準じる。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	1 受講資格				
	(1)一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理技能』『データサイエンス』を修得した学生。 ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。 (2)身延山久遠寺・一般寺院及び行学寮等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、自分自身の進路において非常に価値のある体験です。インターンシップ内容やインターンシップ先については、担当教員とよく話し合って決めてください。					
【オフィスアワー】					
叶 寧（一般系担当）：大学HPのオフィスアワーをご参照ください。 小高絢子（僧道系担当）：火・水・木曜日のオフィスアワー（大学事務室を通じて予約してください）。					
【実務経験】					
叶 寧：ソーシャルワーク実習指導者講習会を修了。実習指導担当教員として、学生への実習指導および評価の実務経験を有する。 小高絢子：日蓮宗教師・宗教法人真福寺住職。現場に即した指導を行います。					

年度	区分		分野		
令和8年度	全専攻共通 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[G_sca3] [13] インターンシップⅡ				
区分	通年（1回）	単位	選択（1）	形式	実習
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	叶 寧		ヨウ ネイ	ye ning [ye(a)]	
	小高絢子		オダカ アヤコ	odaka ayako	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
学生が一定期間、将来に関連のある企業等の中で研修生として就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直すこと、これを本授業のねらいとする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
将来の就職において、この体験が役立つようにすることを到達目標とする。インターンシップを行うことにより地域理解、会話力、実践力がつく。具体的には主に(1)課題設定を自ら行い、(2)問題意識をもって、その解決法を構想・計画する。そして(3)その構想・計画に基づいて実行した結果を振り返り改善策を構築すること、以上の力の修得を目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺・一般寺院・行学寮及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計45時間のインターンシップを行うことにより、1単位を修得できる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。事後学修として、インターンシップで得たことについてまとめること。					
【成績評価（方法・基準）】					
受け入れ先の評価及び勤務実績等記載の報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については「身延山大学インターンシップ細則」に準じる。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	1 受講資格				
	(1)一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理技能』『データサイエンス』を修得した学生。 ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。 (2)身延山久遠寺・一般寺院及び行学寮等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、自分自身の進路において非常に価値のある体験です。インターンシップ内容やインターンシップ先については、担当教員とよく話し合って決めてください。					
【オフィスアワー】					
叶 寧（一般系担当）：大学HPのオフィスアワーをご参照ください。 小高絢子（僧道系担当）：火・水・木曜日のオフィスアワー（大学事務室を通じて予約してください）。					
【実務経験】					
叶 寧：ソーシャルワーク実習指導者講習会を修了。実習指導担当教員として、学生への実習指導および評価の実務経験を有する。 小高絢子：日蓮宗教師・宗教法人真福寺住職。現場に即した指導を行います。					

年度	区分		分野		
令和8年度	全専攻共通 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[H_sca3] [15] インターンシップ III				
区分	通年（1回）	単位	選択（1）	形式	実習
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	叶 寧		ヨウ ネイ	ye ning [ye(a)]	
	小高絢子		オダカ アヤコ	odaka ayako	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
学生が一定期間、将来に関連のある企業等の中で研修生として就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直すこと、これを本授業のねらいとする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
将来の就職において、この体験が役立つようにすることを到達目標とする。インターンシップを行うことにより地域理解、会話力、実践力がつく。具体的には主に(1)課題設定を自ら行い、(2)問題意識をもって、その解決法を構想・計画する。そして(3)その構想・計画に基づいて実行した結果を振り返り改善策を構築すること、以上の力の修得を目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺・一般寺院・行学寮及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計45時間のインターンシップを行うことにより、1単位を修得できる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。事後学修として、インターンシップで得たことについてまとめること。					
【成績評価（方法・基準）】					
受け入れ先の評価及び勤務実績等記載の報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については「身延山大学インターンシップ細則」に準じる。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	1 受講資格				
	(1)一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理技能』『データサイエンス』を修得した学生。 ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。 (2)身延山久遠寺・一般寺院及び行学寮等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、自分自身の進路において非常に価値のある体験です。インターンシップ内容やインターンシップ先については、担当教員とよく話し合って決めてください。					
【オフィスアワー】					
叶 寧（一般系担当）：大学HPのオフィスアワーをご参照ください。 小高絢子（僧道系担当）：火・水・木曜日のオフィスアワー（大学事務室を通じて予約してください）。					
【実務経験】					
叶 寧：ソーシャルワーク実習指導者講習会を修了。実習指導担当教員として、学生への実習指導および評価の実務経験を有する。 小高絢子：日蓮宗教師・宗教法人真福寺住職。現場に即した指導を行います。					

年度	区分		分野		
令和8年度	全専攻共通 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[L_sca4] [17] インターンシップ IV				
区分	通年（1回）	単位	選択（1）	形式	実習
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	叶 寧		ヨウ ネイ	ye ning [ye(a)]	
	小高絢子		オダカ アヤコ	odaka ayako	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
学生が一定期間、将来に関連のある企業等の中で研修生として就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直すこと、これを本授業のねらいとする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
将来の就職において、この体験が役立つようにすることを到達目標とする。インターンシップを行うことにより地域理解、会話力、実践力がつく。具体的には主に(1)課題設定を自ら行い、(2)問題意識をもって、その解決法を構想・計画する。そして(3)その構想・計画に基づいて実行した結果を振り返り改善策を構築すること、以上の力の修得を目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺・一般寺院・行学寮及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計45時間のインターンシップを行うことにより、1単位を修得できる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。事後学修として、インターンシップで得たことについてまとめること。					
【成績評価（方法・基準）】					
受け入れ先の評価及び勤務実績等記載の報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については「身延山大学インターンシップ細則」に準じる。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	1 受講資格				
	(1)一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理技能』『データサイエンス』を修得した学生。 ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。 (2)身延山久遠寺・一般寺院及び行学寮等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、自分自身の進路において非常に価値のある体験です。インターンシップ内容やインターンシップ先については、担当教員とよく話し合って決めてください。					
【オフィスアワー】					
叶 寧（一般系担当）：大学HPのオフィスアワーをご参照ください。 小高絢子（僧道系担当）：火・水・木曜日のオフィスアワー（大学事務室を通じて予約してください）。					
【実務経験】					
叶 寧：ソーシャルワーク実習指導者講習会を修了。実習指導担当教員として、学生への実習指導および評価の実務経験を有する。 小高絢子：日蓮宗教師・宗教法人真福寺住職。現場に即した指導を行います。					

年度	区分	分野
令和8年度	全専攻共通 専門科目	ゼミナール・卒業論文

講義名	[a_sse3] [09]【日蓮2・文芸2(論文)】ゼミナールI 金 炳坤
-----	---------------------------------------

区分	前期(15回)	単位	必修(1)	形式	演習
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	--	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当教員	金 炳坤	キム ビョンコン	kim byungkon [kim(a)]
------	------	----------	-----------------------

【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】

本講義は、卒業論文執筆に向けた「知の探究」の第一歩です。日蓮学および文学・芸術の視点から日本仏教を多角的に学びます。同時に、現代の布教や社会生活で必須となる【オフィスソフト】(Word/Excel/PPT)や生成AI(Gemini等)の利活用方法を習得し、宗教統計を通じたデータサイエンスの基礎を養います。大学案内作成等を通じ、自学への理解と愛校心も育みます。
キーワード: ICTリテラシー、データサイエンス、日本仏教、大学理解

【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】

(1)卒業論文作成に必要な基礎的な学術作法を説明できる。(2)Excelを用いて宗教統計データをグラフ化し、その傾向を分析できる。(3)生成AIを補助的に活用し、論理的な文書やメールを作成できる。 コンピテンシー: 多様な学問の考え方、情報分析力、読解力、論理的思考力、構想力

【授業方法(フィードバックの内容)】

文献講読とPC操作を交えたアクティブ・ラーニング型授業を展開します。原則として各自のノートパソコンを持参してください。毎回のリアクションペーパーや課題にはコメントを付して返却し、個別指導を重視します。

【授業外学修の方法(時間数)】

毎回の授業につき、事前・事後学修を合わせて計4時間行うこと。事前学修(2時間): 次回のテーマについて配布資料や『履修の手引き』を熟読し、疑問点を整理する。事後学修(2時間): 授業で学んだICTスキルの復習(表作成や文書作成)を行い、学修成果をポートフォリオ手帳に記録する。

【成績評価(方法・基準)】

学修課題(ワークシート・データ分析表等)の提出(40%)、授業内発表とペアワークへの参画度(30%)、ポートフォリオ手帳の作成状況(30%)により総合評価します。「出席状況」や「受講態度」といった主観的要素ではなく、客観的な成果物を基準として評価します。

【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】

第1回	[4月7日] 履修ガイダンスと学習設計 時間割・成績証明書を確認し、卒業までの道標を作る
第2回	[4月14日] AI時代のメールと作法 生成AIを活用した適切な文章作成を学ぶ
第3回	[4月21日] クラウドで繋がる学習 Google Workspaceを用いた共同編集と共有の方法
第4回	[4月28日] 建学の精神を再発見 身延山大学の歴史を調べ、ペアでその魅力を語り合う
第5回	[5月12日] 大学広報に挑戦! 学生の視点で「学校案内」を作成し、自学への愛着を深める
第6回	[5月19日] 現代日本仏教の勢力図 『宗教年鑑』を用いて主要宗派の統計データを読み解く
第7回	[5月26日] Excelの基本 宗派別一覧表の作成を通じ、データの入力と整理を学ぶ
第8回	[6月2日] Excelの応用 基本関数を用い、寺院数や教師数の集計を行う
第9回	[6月9日] データサイエンス入門(1) 日本仏教の30年の推移を比較し、グラフにまとめる
第10回	[6月16日] データサイエンス入門(2) グラフを分析し、現代における宗教の動態を考察する
第11回	[6月23日] 卒業論文の「型」を知る 論文の体裁、見出しの付け方、論理構成を学ぶ
第12回	[6月30日] 情報の探し方(文献検索) INBUDS等のデータベースを駆使して資料を集める
第13回	[7月7日] 学術的作法(1) 正しい参考文献の書き方をマスターする
第14回	[7月14日] 学術的作法(2) 剽窃を防ぐための、正しい引用と注の付け方
第15回	[7月21日] 前期まとめと個別面談 ポートフォリオを確認し、研究領域を展望する

【教科書・参考書】

教科書: 教育リソース(独自作成のプリント、およびGoogleドライブ内の資料)を提供する。参考書: 『仏教宗派がよくわかる本』永田美穂(PHP研究所)2007年、『宗教年鑑(令和7年度版)』文化庁編(文化庁)2025年。その他: 入学年時の『履修の手引き』を利用する。

【学生へのメッセージ】

私が皆さんのアカデミック・アドバイザーとして、学修だけでなく私的な相談も含め全力で支援します。このゼミでの頑張りや、卒業後やその後の人生を大きく左右します。時間を無駄にせず、ICTスキルと仏教の智慧を武器に「生き抜く力」を共に養いましょう。

【オフィスアワー】

毎週水曜日の第1・2時限目に、大学事務室にて学修相談や質問を受け付けます。なお、会議や出張、学内行事等の諸事情により席を外している場合もあります。貴重な時間を有効に活用するためにも、事前にメール(kim(a)min.ac.jp)にて、件名に氏名と相談内容を明記の上、アポイントメントをとるようにしてください。なお、メールでの質問についても、上記アドレスにて随時受け付けます。

【実務経験】

国内外の学会誌や紀要の編集委員、責任編集者としての実務経験を活かし、学術的な作法に基づいた説得力のある論文執筆の方法論について具体的に教授します。

年度	区分		分野		
令和8年度	全専攻共通 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[A_sse4] [29]【日蓮2・文芸2(論文)】ゼミナールⅡ 金 炳坤				
区分	後期(15回)	単位	必修(1)	形式	演習
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	金 炳坤		キム ビョンコン	kim byungkon [kim(a)]	
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
ゼミで培ったICTスキルと基礎知識を土台に、具体的な研究テーマを定めます。日蓮聖人の「四大法難」を中心に教学・歴史を深掘りし、学術論文の精読を通じて批判的思考力を養います。最終的に1600字程度の「研究要旨」を執筆し、次年度のゼミⅢ・Ⅳへ繋がります。 キーワード：四大法難、論文執筆、研究課題設定、即戦力					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
(1)日蓮聖人の四大法難について、歴史的背景を含め客観的に説明できる。(2)専門論文を精読し、その要旨を他者にわかりやすく発表できる。(3)自らの研究テーマについて、1600字程度の論理的な研究要旨を執筆できる。 コンピテンシー：文章表現力、批判的思考力、論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
発表と質疑応答を中心とした演習形式です。研究要旨の執筆にあたっては、生成AIを「推敲パートナー」として活用する個別指導を行い、完成した原稿には詳細なフィードバックを行います。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
毎回の授業につき、事前・事後学修を合わせて計4時間行うこと。事前学修(2時間)：指定された論文や『日蓮と法華経』の該当箇所を精読し、要約を作成する。事後学修(2時間)：授業での指摘を反映させ、自身の研究要旨やポートフォリオを更新する。					
【成績評価(方法・基準)】					
授業内発表と質疑応答への参加(40%)、研究要旨(1600字)の完成度(40%)、ポートフォリオ手帳の作成状況(20%)により総合評価します。「出席状況」や「受講態度」といった主観的要素ではなく、客観的な成果物を基準として評価します。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	[9月29日]履修ガイダンス 学習履歴を確認し、3年次以降のスケジュールを把握する				
第2回	[10月6日]日蓮聖人と『法華経』 聖人の思想の核心と、布教への情熱を学び直す				
第3回	[10月13日]四大法難(1) 松葉ヶ谷と伊豆：焼き討ちと流罪、当時の社会情勢を分析する				
第4回	[10月20日]四大法難(2) 小松原と龍口：襲撃と処刑の危機、聖人の法難の意義を考察する				
第5回	[10月27日]問いを立てるワーク 自分の「知りたい」を「学術的な問い」に変換する				
第6回	[11月10日]「ゼミナールⅢ・Ⅳ」および「卒業論文」の履修に関する説明会(予定)				
第7回	[11月17日]個別面談(1) テーマの焦点化：興味のある分野から、具体的なトピックを絞り込む				
第8回	[11月24日]論文の設計図(構成案) 序論・本論・結論のフレームワークを組み立てる				
第9回	[12月1日]学術的な文章の書き方 主観的な感想を、根拠のある論証へとブラッシュアップする				
第10回	[12月8日]論文精読(1) 日蓮学：専門論文を読み、先行研究がどう問いを立てているか学ぶ				
第11回	[12月15日]論文精読(2) 文芸・芸術：文学的・芸術的アプローチの論文から手法を学ぶ				
第12回	[12月22日]研究要旨の集中執筆 自身の思考を1600字の論理的な文章へと昇華させる				
第13回	[1月12日]研究要旨合評会 お互いの発表に対し、建設的なアドバイスを送り合う				
第14回	[1月19日]個別面談(2) 進路と資格：就職希望や資格取得状況を確認し、将来を展望する				
第15回	[1月26日]成果報告とポートフォリオ完成 次年度への「知の引継ぎ」を行う				
【教科書・参考書】					
教科書：教育リソース(独自作成のプリント、およびGoogleドライブ内の資料)を提供する。参考書：『図説あらすじでわかる! 日蓮と法華経』永田美穂監修(青春出版社)2010年、『大学生のための知的技法入門：アカデミック・スキルズ(第3版)』佐藤望編著(慶應義塾大学出版会)2020年。辞典類：『日蓮辞典(新装版)』宮崎英修編(東京堂出版)2013年。					
【学生へのメッセージ】					
私が皆さんのアカデミック・アドバイザーとして、学修だけでなく私的な相談も含め全力で支援します。このゼミでの頑張りや、卒業後やその後の人生を大きく左右します。時間を無駄にせず、ICTスキルと仏教の智慧を武器に「生き抜く力」を共に養いましょう。					
【オフィスアワー】					
毎週水曜日の第1・2時限目に、大学事務室にて学修相談や質問を受け付けます。なお、会議や出張、学内行事等の諸事情により席を外している場合もあります。貴重な時間を有効に活用するためにも、事前にメール(kim(a)min.ac.jp)にて、件名に氏名と相談内容を明記の上、アポイントメントをとるようにしてください。なお、メールでの質問についても、上記アドレスにて随時受け付けます。					

【実務経験】

国内外の学会誌や紀要の編集委員、責任編集者としての実務経験を活かし、学術的な作法に基づいた説得力のある論文執筆の方法論について具体的に教授します。

年度	区分		分野		
令和8年度	全専攻共通 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[b_sse3] [27]【文芸2(制作)】ゼミナールI 鈴木義孝				
区分	前期(15回)	単位	必修(1)	形式	演習
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	鈴木義孝		スズキ ヨシタカ	suzuki yoshitaka [suzuki(a)]	
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
文学・芸術分野のファシリテーターとして、企画力や交渉力を実践的に学びつつ、仏像制作を進める上で必要な基礎技術の習得を目的とする。					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
仏像制作過程において、技術の習得は忍耐と集中力が先ず必須である。制作を通してその難しさを自覚し、困難に挑戦し続ける姿勢を養う。コンピテンシー：情報分析力、情報構成力、計画力、実行力					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
仏像制作の各工程において100%の習得は存在しない。また各工程は相互関係にあるため次の工程に進むことにより、前の工程に役立つ理解が得られることが多々ある。ここでは基本ノミの扱い、研ぎ、木彫を各学生の理解に応じて進めていくが、前述のとおり各工程を行き来し、より深い技術習得の場としたい。また学生同士のグループディスカッションにより、相互補助を促し技術を高めていく。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
技術の習得は一朝一夕に得られるものではないため、できるだけ工作実習室での練習が必要となる。事前・事後学修として、講義中の指示に基づいた内容を2時間以上要する。					
【成績評価(方法・基準)】					
レポート(25%)、完成作品の修得程度による採点(25%)、授業への取り組み姿勢(25%)、事前・事後学修を含む受講時間外制作(25%)で評価する。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	授業の進め方、デッサン用具の説明、諸注意(安全啓蒙)				
第2回	切り出し鑿の柄を作る1(デザイン決め、木取)				
第3回	切り出し鑿の柄を作る2(木に刃を入れる)				
第4回	切り出し鑿の柄を作る3(柄を削る)				
第5回	切り出し鑿の柄を作る4(柄を仕上げる)				
第6回	木彫地紋彫り1(線描き)				
第7回	木彫地紋彫り2(荒彫り)				
第8回	木彫地紋彫り3(中彫り)				
第9回	木彫地紋彫り4(仕上げ)				
第10回	木彫蓮弁制作1(型紙作成、木取)				
第11回	木彫蓮弁制作2(荒彫、中彫り)				
第12回	木彫蓮弁制作3(仕上げ)				
第13回	木彫仏手制作1(木取り、荒彫り)				
第14回	木彫仏手制作2(中彫り)				
第15回	木彫仏手制作3(仕上げ)、総評				
【教科書・参考書】					
日本彫刻史基礎資料集成(中央公論美術出版)、日本の美術(至文堂)、原色日本の美術(小学館)、『仏像彫刻のすすめ』松久朋琳著(日貿出版社)2016年。					
【学生へのメッセージ】					
ノミ等道具類については大学所有の道具類を使用するが、より深い学修の為にノミ(切り出し刀、平ノミ)の購入を強く勧める。道具の購入先等は随時相談を受け付ける。また授業では刃物を使用するため、受講に当たっては細心の注意を払ってほしい。技術を習得することは非常に難しいことである。だがその分作品が完成した時には例えようもない喜びがある。真剣に取り組んだ時間に応じて、身体は技術を習得しているという実感を体験してほしい。					
【オフィスアワー】					
個別相談は事前の予約制にて対応するため、相談を希望する際は必ずポートフォリオ手帳を作成・持参し、自身の学習記録に基づいた具体的な対話ができるよう準備してください。					
【実務経験】					
長年に渡る仏像制作修復の実績に基づいた授業を行います。					

年度	区分		分野		
令和8年度	全専攻共通 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[B_sse4] [49]【文芸2(制作)】ゼミナールⅡ 鈴木義孝				
区分	後期(15回)	単位	必修(1)	形式	演習
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	鈴木義孝	スズキ ヨシタカ	suzuki yoshitaka [suzuki(a)]		
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
文学・芸術分野のファシリテーターとして、企画力や交渉力を実践的に学びつつ、仏像制作を進める上で必要な基礎技術の習得を目的とする。					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
立体(三次元)を制作する上での俯瞰的感覚を育てる。 コンピテンシー：地域理解、異文化理解、構想力、実行力					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
テキスト又は原型を手本として、木彫による摸刻を課題として授業を進めてゆく。各学生の理解度や作業速度に応じて個別に指導・提案を行ってゆく。また学生同士のグループディスカッションにより、相互補助(教え合い)を促し技術を高めていく。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
技術の習得は一朝一夕に得られるものではないため、できるだけ工作実習室での練習が必要となる。事前・事後学修として、講義中の指示に基づいた内容を2時間以上要する。					
【成績評価(方法・基準)】					
レポート(25%)、完成作品の修得程度による採点(25%)、授業への取り組み姿勢(25%)、事前・事後学修を含む受講時間外制作(25%)で評価する。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	木彫仏足制作1(型紙作成、木取) 履修ガイダンス				
第2回	木彫仏足制作2(荒彫、中彫り)				
第3回	木彫仏足制作3(仕上げ彫)				
第4回	粘土仏頭制作1(道具の使用方法、芯棒作成)				
第5回	粘土仏頭制作2(荒彫り)				
第6回	粘土仏頭制作3(中彫り) 「ゼミナールⅢ・Ⅳ」および「卒業論文」の履修に関する説明会(予定)				
第7回	粘土仏頭制作4(仕上げ彫り)				
第8回	木彫仏頭制作1(型紙作成、木取)				
第9回	木彫仏頭制作2(荒彫)				
第10回	木彫仏頭制作3(小作り)				
第11回	木彫仏頭制作4(小作り)				
第12回	木彫仏頭制作5(仕上げ彫)				
第13回	木彫仏頭制作6(仕上げ彫)				
第14回	木彫仏頭制作7(彩色)				
第15回	台作成、総評				
【教科書・参考書】					
日本彫刻史基礎資料集成(中央公論美術出版)、日本の美術(至文堂)、原色日本の美術(小学館)、『仏像彫刻のすすめ』松久朋琳著(日貿出版社)2016年。					
【学生へのメッセージ】					
授業では刃物を使用するため、受講に当たっては細心の注意を払ってほしい。技術を習得することは非常に難しいことである。だがその分作品が完成した時には例えようもない喜びがある。真剣に取り組んだ時間に応じて、身体は技術を習得しているという実感を体験してもらいたい。					
【オフィスアワー】					
個別相談は事前の予約制にて対応するため、相談を希望する際は必ずポートフォリオ手帳を作成・持参し、自身の学習記録に基づいた具体的な対話ができるよう準備してください。					
【実務経験】					
長年に渡る仏像制作修復の実績に基づいた授業を行います。					

年度	区分		分野		
令和8年度	全専攻共通 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[c_sse3] [--]【福祉2】ゼミナールI 手塚知子				
区分	前期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	手塚知子		テヅカ トモコ	tezuka tomoko [tezuka(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
主に福祉学専攻を対象に、福祉学の各分野の基礎知識の修得を図り、学生各自が興味関心をもつ福祉分野についての知見を深めることを目的とする。講義と演習を取り入れ、各自が興味関心をもった内容に関して、課題を設定し、調べてまとめ、発表する機会を設定する。課題研究の方法や問題意識をゼミ生同士が共有し、意見交換を行う。適宜、学外学修を取り入れることがある。本学修は、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がる。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
福祉学に対する研究を行っていく上で必要な基礎知識を身につけることを目標とする。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、情報収集力、読解力、口頭発表力、論理的思考力、課題設定力、計画力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義と演習により授業を進める。文献収集の方法、文献講読、観察、レポート作成について概説し、各自が関心を持つ内容について担当を決めて定期的に発表する。また各自の課題に応じて、地域の施設を利用した学修を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、授業終了時に指示された内容を次回までに行うこと。事後の学習では、専門用語の復習を行うと共に、関連の資料を利用して授業で扱った内容理解を深めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
学修課題の提出（30%）、質疑応答への参加（30%）、最終レポート（20%）、授業内発表（20%）により総合的に評価する。提出された学修課題に対してはコメント付して返却し、フィードバックを行う。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション 授業の進め方に関する導入 各自の興味関心の報告				
第2回	大学での学び レポートの書き方				
第3回	レポート・論文に適した文章表現と引用のルール				
第4回	文献や資料の集め方 概説				
第5回	文献や資料の集め方 蔵書検索システム、データベースの活用				
第6回	研究の方法 種類と研究の計画				
第7回	福祉分野に関する文献の解説1 児童福祉				
第8回	福祉分野に関する文献の解説2 児童福祉（学修課題の設定と発表）				
第9回	福祉分野に関する文献の解説3 高齢者福祉				
第10回	福祉分野に関する文献の解説4 高齢者福祉（学修課題の設定と発表）				
第11回	レポート発表 コメント1				
第12回	福祉分野に関する文献の解説5 障害者福祉				
第13回	福祉分野に関する文献の解説6 障害者福祉（学修課題の設定と発表）				
第14回	レポート発表 コメント2				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
授業時に随時指示します。参考書：『福祉系学生のためのレポート＆卒論の書き方（三訂）』川村匡由（中央法規出版）2018年、『図解で学ぶ保育＋教育レポート・論文の書き方』井戸ゆかり（萌文書林）2026年、『はじめてでも、ふたたびでも、これならできる！レポート・論文のまとめ方』新田誠吾（すばる舎）2019年。					
【学生へのメッセージ】					
各自の関心を共有し、相互に触発し合いながら多くのことを学びましょう。					
【オフィスアワー】					
火曜日11:55-12:25、木曜日11:55-12:25					
【実務経験】					
峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員の経験を活かして授業します。					

年度	区分		分野		
令和8年度	全専攻共通 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[C_sse4] [--]【福祉2】ゼミナールII 手塚知子				
区分	後期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	手塚知子		テヅカ トモコ	tezuka tomoko [tezuka(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
主に福祉学専攻を対象に、ゼミナール に続き福祉学の各分野の基礎知識の修得を図り、学生各自が興味関心を持つ福祉分野の知見を深め、研究分野希望調査票案の作成を目指す。適宜、学外学修を取り入れることがある。本学修は、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がる。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
福祉学に対する研究を行っていく上で必要な基礎知識を身につけ、自らの言葉でまとめ、発表する力量形成を目的とする。コンピテンシー：多様な学問の考え方、情報収集力、口頭表現力、論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義と演習を取り入れ、学生各自が興味関心をもった内容に関して、課題を設定し、調べて発表する機会を設定する。また、各自の課題に応じて、地域の施設を利用し実地での学修を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。事前の学習では、授業終了時に指示された内容を次回までに行うこと。事後の学習では、専門用語の復習を行うと共に、関連の資料を利用して授業で扱った内容理解を深めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
学修課題の提出（40%）、最終レポート（20%）質疑応答への参加（20%）、授業内発表（20%）により総合的に評価する。提出された学修課題に対してはコメント付して返却し、フィードバックを行う。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	授業の進め方に関する導入 【共通】履修ガイダンス（予定）				
第2回	研究分野希望調査票についての解説 研究倫理について				
第3回	福祉分野に関する文献の解説1 地域福祉				
第4回	福祉分野に関する文献の解説2 地域福祉（学修課題の設定と発表）				
第5回	福祉分野に関する文献の解説3 社会保障				
第6回	福祉分野に関する文献の解説4 社会保障（学修課題の設定と発表） 【共通】「ゼミナールIII・IV」および「卒業論文」の履修に関する説明会（予定）				
第7回	レポート発表 コメント1				
第8回	福祉分野に関する文献の解説5 更生保護				
第9回	福祉分野に関する文献の解説6 更生保護（学修課題の設定と発表）				
第10回	福祉分野に関する文献の解説7 現代社会と福祉課題				
第11回	福祉分野に関する文献の解説8 現代社会と福祉課題（学修課題の設定と発表）				
第12回	福祉分野に関する文献の解説9 各自の関心に基づく文献調査				
第13回	福祉分野に関する文献の解説10 各自の関心に基づく文献報告				
第14回	レポート発表 コメント2				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
授業時に随時指示します。参考書：『福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方（三訂）』川村匡由著（中央法規出版）2018年、 『図解で学ぶ保育+教育レポート・論文の書き方』井戸ゆかり（萌文書林）2026年、『はじめてでも、ふたたびでも、これなら できる！レポート・論文のまとめ方』新田誠吾（すばる舎）2019年。					
【学生へのメッセージ】					
各自の関心を共有し、相互に触発しあいながら多くのことを学びましょう。					
【オフィスアワー】					
火曜日11:55-12:25、木曜日11:55-12:25					
【実務経験】					
峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員の経験を活かして授業します。					

年度	区分		分野		
令和8年度	全専攻共通 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[e_sse4] [40]【日蓮3】ゼミナールⅢ 桑名法晃				
区分	前期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	桑名法晃		クワナ ホウコウ	kuwana hoko [hkuwana(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮教学の研究方法を身につけ、日蓮聖人遺文を中心とする教学書の講読・発表を通して、深く読み込む力を養い、卒業論文作成に必要な基礎学力・応用力の修得を目的とします。2年次ゼミナールで修得した基礎学力をさらに向上させ、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、自らの資質を向上させ、社会的自立を図るために必要な能力を育成します。この学修は、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」およびSDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」に繋がります。キーワード：日蓮教学、文献学、研究方法					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
日蓮教学の研究を行い卒業論文を作成するために必要となる学力を修得することが到達目標となります。コンピテンシー：文章表現力、批判的思考力、論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
日蓮教学研究を行う上で必要となる文献の探し方・調べ方・扱い方を教授し、文献講読と発表を通して文献資料を深く読み込む力を徹底して修得させていきます。具体的には、テキストとして用いる文献を講読し、毎回各自発表を行い、学生同士ディベートしながら授業を進めていきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回、事前学修および事後学修として、それぞれ2時間以上の学修を必要とします。担当者を定めて発表を行うため、事前学修では、テキストとして用いる文献を精読し、発表の準備を行ってください。事後学修では、発表時に指摘された点を踏まえ、関連文献を参照しながら理解をさらに深めてください。					
【成績評価（方法・基準）】					
発表（40%）、レポート（60%）により総合的に評価します。発表内容については個別指導を行い、レポートについてはコメントを付して返却します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション：授業の進め方の説明および各自のテーマに基づく発表				
第2回	研究方法1：研究テーマの設定				
第3回	研究方法2：研究課題（問い）の立て方				
第4回	先行研究の探し方				
第5回	GPS-Academic（社会で活躍するために大切な「問題解決力」を測るテスト）				
第6回	資料収集と整理				
第7回	テキスト講読1				
第8回	テキスト講読2				
第9回	テキスト講読3				
第10回	受講者発表と討議1				
第11回	受講者発表と討議2				
第12回	受講者発表と討議3				
第13回	受講者発表と討議4				
第14回	受講者発表と討議5				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
受講生のテーマに応じてテキストを選択する。参考書についても授業の中において随時紹介していく。					
【学生へのメッセージ】					
自ら選んだテーマに基づいて卒業論文を執筆するための土台となる重要な授業です。難解な文章であっても繰り返し読み込み、着実に力を養っていきましょう。					
【オフィスアワー】					
令和8年度教員オフィスアワーをご参照ください。質問はメール（hkuwana(a)min.ac.jp）でも可。					
【実務経験】					
日蓮宗教師としての経験を活かして日蓮聖人の教えとは何かについての指導を行います。					

年度	区分			分野	
令和8年度	全専攻共通 専門科目			ゼミナール・卒業論文	
講義名	[E_sse5] [75]【日蓮3】ゼミナールⅣ 桑名法晃				
区分	後期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	桑名法晃		クワナ ホウコウ	kuwana hoko [hkuwana(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮教学の研究方法を身につけ、日蓮聖人遺文を中心とする教学書の講読・発表を通して、深く読み込む力を養い、卒業論文作成に必要な基礎学力・応用力の修得を目的とします。2年次ゼミナール・ゼミナールⅢで修得した基礎学力をさらに向上させ、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、自らの資質を向上させ、社会的自立を図るために必要な能力を育成します。この学修は、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」およびSDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」に繋がります。キーワード：日蓮教学、文献学、研究方法					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
日蓮教学の研究を行い卒業論文を作成するために必要となる学力を修得することが到達目標となります。コンピテンシー：文章表現力、批判的思考力、論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
日蓮教学研究に関する文献講読と発表を通して文献資料を深く読み込む力を徹底して修得させていきます。具体的には、テキストとして用いる文献を講読し、各自発表を行い、学生同士ディベートしながら授業を進めていきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回、それぞれ2時間以上の事前・事後学修を必要とする。担当者を定めて発表を行うため、事前学修では、テキストとして用いる文献を精読し、発表の準備を行う。事後学修では、発表時に指摘された点を踏まえ、関連文献を参照しながら理解をさらに深める。					
【成績評価（方法・基準）】					
発表（40%）、レポート（60%）により総合的に評価します。発表内容については個別指導を行い、レポートについてはコメントを付して返却します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	受講生発表と討議 1				
第3回	受講生発表と討議 2				
第4回	文献講読 1				
第5回	文献講読 2				
第6回	文献講読 3				
第7回	受講生発表と討議 3				
第8回	受講生発表と討議 4				
第9回	論文の作成法 1				
第10回	論文の作成法 2				
第11回	文献講読 4				
第12回	文献講読 5				
第13回	受講生発表と討議 5				
第14回	受講生発表と討議 6				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
受講生のテーマに応じてテキストを選択する。参考書についても授業の中において随時紹介していく。					
【学生へのメッセージ】					
難解な文章も繰り返し繰り返し読み込み、力を養っていきましょう。後期中で、卒業論文の具体的なテーマを決めていただきます。常に問題意識と明確な目標をもって学を深めていきましょう。					
【オフィスアワー】					
令和8年度教員オフィスアワーをご参照ください。質問はメール（hkuwana(a)min.ac.jp）でも可。					
【実務経験】					
日蓮宗教師としての経験を活かして日蓮聖人の教えとは何かについての指導を行います。					

年度	区分			分野	
令和8年度	全専攻共通 専門科目			ゼミナール・卒業論文	
講義名	[f_sse4] [48]【日蓮3】ゼミナールⅢ 塩田宝樹				
区分	前期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	塩田宝樹		シオタ ホウジュ	shiota hoju [shiota(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本ゼミナールは、卒業論文執筆に必要な基礎学力・応用力の修得を目的とします。履修学生が原始仏教、アビダルマ仏教、パーリ仏教、日本仏教において関心のある事項について問いを立ててもらい、その問いを解決するためにどのように情報を集めるべきか、どのように資料や文献分析していくか、実践しながら学修します。 キーワード：仏教学、文献学、研究方法					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
仏教学の研究を行い、卒業論文を作成するために必要となる学力を修得することが到達目標となります。 コンピテンシー：情報収集力、情報分析力、読解力、文章表現力、批判的思考力、論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
仏教学研究を行う上で必要となる問いの立て方、文献の探し方・調べ方・扱い方、論文の書き方を教授するので、それらを実践してもらいます。また、各自発表を行ってもらい、学生同士ディベートしながら授業を進めていきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行い本ゼミナールで教授したことを授業時間外でも実践してもらいます。具体的には、文献の収集や現行の作成を行ってもらいます。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への参加姿勢（40%、発言回数やワークの成果物など）、課題レポート（60%）を目安に総合的に評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス				
第2回	問いの立て方				
第3回	文献の探し方、調べ方				
第4回	二次研究の収集				
第5回	GPS-Academic（社会で活躍するために大切な「問題解決力」を測るテスト）				
第6回	二次研究の整理法				
第7回	参考文献表の作り方				
第8回	二次文献整理の実践1				
第9回	二次文献整理の実践2				
第10回	受講生発表と討議1				
第11回	受講生発表と討議2				
第12回	受講生発表と討議3				
第13回	一次文献の選定				
第14回	一次文献の購読				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
受講生のテーマや興味・関心に応じてテキストを選択します。参考書についても授業の中において随時紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
仏教学研究の基礎や卒業論文執筆に向けた基本的なスキルを身につけるためのゼミナールです。毎回出席して、卒業論文執筆に向けてしっかりと準備をしていきましょう。授業にはノートパソコンを持参するようにしてください。所持していない場合は事前に相談してください。					
【オフィスアワー】					
オフィスアワーや授業の前後、出講日の休み時間など、できる限り対応します。質問や相談が長くなりそうであれば、予めメールでアポイントメントを取ってください。					

年度	区分			分野	
令和8年度	全専攻共通 専門科目			ゼミナール・卒業論文	
講義名	[F_sse5] [87]【日蓮3】ゼミナールⅣ 塩田宝樹				
区分	後期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	塩田宝樹		シオタ ホウジュ	shiota hoju [shiota(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本ゼミナールは、前期開講ゼミナールⅢで身につけた卒業論文執筆に必要な基礎学力・応用力をより高めることを目的とします。履修学生が原始仏教、アビダルマ仏教、パーリ仏教、日本仏教において関心のある事項について問いを立ててもらい、その問いを解決するためにどのように情報を集めるべきか、どのように資料や文献分析していくか、実践しながら学修します。キーワード：仏教学、文献学、研究方法					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
仏教学の研究を行い、卒業論文を作成するために必要となる学力を修得することが到達目標となります。コンピテンシー：情報収集力、情報分析力、読解力、文章表現力、批判的思考力、論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
ゼミナールⅢで選定した一次文献の購読を中心に行っていきます。各自レジюме作成や発表を基に、学生同士ディベートしながら授業を進めていきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行い本ゼミナールで教授したことを授業時間外でも実践してもらいます。具体的には、文献の収集や現行の作成を行ってもらいます。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への参加姿勢（40%、発言回数やワークの成果物など）、課題レポート（60%）を目安に総合的に評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス				
第2回	一次文献の購読 1				
第3回	一次文献の購読 2				
第4回	一次文献の購読 3				
第5回	受講生発表と討議 1				
第6回	受講生発表と討議 2				
第7回	一次文献の購読 4				
第8回	一次文献の購読 5				
第9回	一次文献の購読 6				
第10回	レポートの作成 1				
第11回	レポートの作成 2				
第12回	受講生発表と討議 3				
第13回	受講生発表と討議 4				
第14回	受講生発表と討議 5				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
受講生のテーマや興味・関心に応じてテキストを選択します。参考書についても授業の中において随時紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
仏教学研究の基礎や卒業論文執筆に向けた基本的なスキルを身につけるためのゼミナールです。毎回出席して、卒業論文執筆に向けてしっかりと準備をしていきましょう。授業にはノートパソコンを持参するようにしてください。所持していない場合は事前に相談してください。					
【オフィスアワー】					
オフィスアワーや授業の前後、出講日の休み時間など、できる限り対応します。質問や相談が長くなりそうであれば、予めメールでアポイントメントを取ってください。					
【実務経験】					
多数の論文執筆等の経験を活かした授業を展開します。					

年度	区分	分野
令和8年度	全専攻共通 専門科目	ゼミナール・卒業論文

講義名	[g_sse4] [--]【日蓮3】ゼミナールⅢ 庵谷行遠
-----	-------------------------------

区分	前期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	--	--	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	庵谷行遠	オオタニ ギョウオン	otani gyoon [gohtani(a)]
------	------	------------	--------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

本ゼミナールは日蓮教学と教学史を中心に、研究文献及び史料の講読を主として文献学的ゼミナールを行う。日蓮教学の研究方法を身につけ、日蓮聖人遺文を中心とする史料の講読・発表を通して、深く読み込む力を養い、卒業論文作成に必要な基礎学力・応用力の修得を目的とする。2年次ゼミナールで修得した基礎学力をさらに向上させ、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、自らの資質を向上させ、社会的自立を図るために必要な能力を育成する。このことはSDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋がる。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

本ゼミナールの到達により、卒業論文を作成するために必要となる学力を修得し実践できる。(1)研究文献及び史料の講読を行うことにより「読解力」を養い、(2)祖伝・日蓮教団史・日蓮教学史に対する「情報収集力」「分析力」を養い、(3)先行研究に対し「論理的構成力」を培い「批判的思考力」を修得し実践できる。コンピテンシー：文章表現力、論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力

【授業方法（フィードバックの内容）】

日蓮教学研究を行う上で必要となる文献の探し方・調べ方・扱い方・論文の書き方を教授する。受講者は演習を主としてテキストの文献を講読し、各自発表を行い受講者同士議論し考えながら資料を深く読み込む力を修得する。

【授業外学修の方法（時間数）】

毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行う。本ゼミナールで教授したことを授業時間外でも実践する。毎回担当者を決めて発表を行うため、事前学修では、テキストとして用いる文献を収集し読み込み、原稿を作成し発表準備を行う。受講後は、随時指示された史料などを使用しノートの整理を行い、講義内容の理解を深める学修（2時間以上）を行う。

【成績評価（方法・基準）】

課題レポート（30%）、授業内発表（30%）、質疑応答への積極的な参加（40%）により総合的に評価する。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	ガイダンス
第2回	研究方法
第3回	参考文献の検索と使用・参考文献表の作り方
第4回	GPS-Academic（社会で活躍するために大切な「問題解決力」を測るテスト）
第5回	研究文献及び資料の収集と整理（資料の取り扱い）
第6回	二次研究の収集と整理
第7回	受講者発表と討議1（資料読解と術語理解）
第8回	受講者発表と討議2（資料読解と術語理解）
第9回	受講者発表と討議3（資料読解と術語理解）
第10回	受講者発表と討議4（資料読解と術語理解）
第11回	受講者発表と討議5（資料読解と術語理解）
第12回	受講者発表と討議6（資料読解と術語理解）
第13回	受講者発表と討議7（資料読解と術語理解）
第14回	受講者発表と討議8（資料読解と術語理解）
第15回	まとめ 卒業論文のテーマ・論題について

【教科書・参考書】

受講者のテーマに応じてテキストを選択する。参考書については授業中に随時紹介する。

【学生へのメッセージ】

卒業論文執筆に向けた基本的なスキルを身につけるためのゼミナールである。受講者は文献及び史料について発表を行う。問題意識をもって毎回出席すること。難解な文章も繰り返し読み込み、力を養うこと。

【オフィスアワー】

令和8年度教員オフィスアワー参照。質問はメール（gohtani(a)min.ac.jp）でも可。

【実務経験】

日蓮宗教師の資格を活かし、日蓮教学史を中心に研究文献の取扱い等を教授する。

年度	区分	分野
令和8年度	全専攻共通 専門科目	ゼミナール・卒業論文

講義名	[G_sse5] [--]【日蓮3】ゼミナールⅣ 庵谷行遠
-----	-------------------------------

区分	後期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	--	--	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	庵谷行遠	オオタニ ギョウオン	otani gyoon [gohtani(a)]
------	------	------------	--------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

本ゼミナールは日蓮教学と教学史を中心に、研究文献及び史料の講読を主として文献学的ゼミナールを行う。日蓮教学の研究方法を身につけ、日蓮聖人遺文を中心とする史料の講読・発表を通して、深く読み込む力を養い、卒業論文作成に必要な基礎学力・応用力の修得を目的とする。2年次ゼミナールで修得した基礎学力をさらに向上させ、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、自らの資質を向上させ、社会的自立を図るために必要な能力を育成する。このことはSDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋がる。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

本ゼミナールの到達により、卒業論文を作成するために必要となる学力を修得し実践できる。(1)研究文献及び史料の講読を行うことにより「読解力」を養い、(2)祖伝・日蓮教団史・日蓮教学史に対する「情報収集力」「分析力」を養い、(3)先行研究に対し「論理的構成力」を培い「批判的思考力」を修得し実践できる。コンピテンシー：文章表現力、論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力

【授業方法（フィードバックの内容）】

日蓮教学研究を行う上で必要となる文献の探し方・調べ方・扱い方・論文の書き方を教授する。受講者は演習を主としてテキストの文献を講読し、各自発表を行い学生同士議論し考えながら資料を深く読み込む力を修得する。

【授業外学修の方法（時間数）】

毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行う。本ゼミナールで教授したことを授業時間外でも実践する。毎回担当者を決めて発表を行うため、事前学修では、テキストとして用いる文献を収集し読み込み、原稿を作成し発表準備を行う。受講後は、随時指示された史料などを使用しノートの整理を行い、講義内容の理解を深める学修（2時間以上）を行う。

【成績評価（方法・基準）】

課題レポート（30%）、授業内発表（30%）、質疑応答への積極的な参加（40%）により総合的に評価する。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	ガイダンス（研究の目的と課題）
第2回	受講者発表と討議1（資料読解と術語理解）
第3回	受講者発表と討議2（資料読解と術語理解）
第4回	受講者発表と討議3（資料読解と術語理解）
第5回	受講者発表と討議4（資料読解と術語理解）
第6回	受講者発表と討議5（資料読解と術語理解）
第7回	受講者発表と討議6（資料読解と術語理解）
第8回	受講者発表と討議7（資料読解と術語理解）
第9回	受講者発表と討議8（資料読解と術語理解）
第10回	受講者発表と討議9（資料読解と術語理解）
第11回	受講者発表と討議10（資料読解と術語理解）
第12回	受講者発表と討議11（資料読解と術語理解）
第13回	受講者発表と討議12（資料読解と術語理解）
第14回	受講者発表と討議13（資料読解と術語理解）
第15回	まとめ 卒業論文執筆に向けて目次・問題設定

【教科書・参考書】

受講者のテーマに応じてテキストを選択する。参考書については授業中に随時紹介する。

【学生へのメッセージ】

卒業論文執筆に向けた基本的なスキルを身につけるためのゼミナールである。受講者は文献及び史料について発表を行う。問題意識をもって毎回出席すること。難解な文章も繰り返し読み込み、力を養うこと。

【オフィスアワー】

令和8年度教員オフィスアワー参照。質問はメール（gohtani(a)min.ac.jp）でも可。

【実務経験】

日蓮宗教師の資格を活かし、日蓮教学史を中心に研究文献の取扱い等を教授する。

年度	区分		分野		
令和8年度	全専攻共通 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[i_sse4] [44]【文芸3(論文)・日蓮3】ゼミナールⅢ 白 景皓				
区分	前期(15回)	単位	必修(1)	形式	演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	白 景皓		ハク ケイコウ	bai jinghao [bai(a)]	
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
本ゼミナールは、文学・芸術分野における卒業論文作成に必要な基礎学力および応用力の修得を目的とする。履修学生は主として身延山に所在する仏像・文化財・宗教文化に関心を持っているため、それらを対象とした研究を通して、資料の読み方、文化財の観察方法、研究資料の収集方法、先行研究の整理方法などを学ぶ。本ゼミナールの学修により、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」につながる。キーワード：仏教文化、文化財研究、文学・芸術研究					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
文学・芸術学分野における研究の基礎方法を理解し、卒業論文を作成するために必要となる学力を修得することを到達目標とする。具体的には、文化財や仏教美術を対象とした研究に必要な資料収集力、情報分析力、読解力、文章表現力を身につけると共に、批判的思考力、論理的思考力、研究課題設定能力、研究構成力、研究計画立案能力などを総合的に養うことを目標とする。コンピテンシー：情報収集力、情報分析力、読解力、文章表現力、批判的思考力、論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
文学・芸術研究を進める上で必要となる研究テーマの設定方法、文献の探し方・読み方、文化財資料の調査方法、研究資料の整理方法、論文の構成や執筆方法などを段階的に指導する。学生には各自の研究テーマに関する発表を行ってもらい、その内容について教員および学生同士で討論を行いながら研究を深めていく。必要に応じて身延山周辺の文化財や仏像を実際に観察しながら、実践的な研究方法についても指導を行う。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行い、本ゼミナールで扱った研究方法や内容について授業外でも実践してもらおう。具体的には、研究テーマに関連する文献資料の収集・読解、文化財や仏像に関する資料調査、研究ノートの作成、発表準備、レポート作成などを行う。					
【成績評価(方法・基準)】					
授業への参加姿勢および発表、討論への参加状況(40%)、研究レポートおよび研究発表内容(60%)の割合を目安として総合的に評価する。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ガイダンス				
第2回	研究の目的の立て方1				
第3回	研究の目的の立て方2				
第4回	参考文献の探し方・調べ方				
第5回	GPS-Academic(社会で活躍するために大切な「問題解決力」を測るテスト)				
第6回	二次研究の収集と整理法				
第7回	参考文献表の作り方1				
第8回	参考文献表の作り方2				
第9回	二次文献整理の実践1				
第10回	二次文献整理の実践2				
第11回	受講生発表と討議1				
第12回	受講生発表と討議2				
第13回	一次文献の選定				
第14回	一次文献の講読				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
受講生のテーマや興味・関心に応じてテキストを選択する。参考書についても授業の中において随時紹介する。					
【学生へのメッセージ】					
文学・芸術学研究の基礎や卒業論文執筆に向けた基本的なスキルを身につけるためのゼミナールである。毎回出席して、卒業論文執筆に向けてしっかりと準備をしていこう。授業にはノートパソコンを持参するようにしてください。所持していない場合は事前に相談してください。					

【オフィスアワー】

火・水・木曜日のオフィスアワー時間。質問や相談が長くなりそうであれば、予めメールでアポイントメント (bai(a)min.ac.jp) を取ってください。質問はメールでも可。

【実務経験】

多数の論文執筆等の経験を活かした授業を展開します。

年度	区分		分野		
令和8年度	全専攻共通 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[l_sse5] [83]【文芸3(論文)・日蓮3】ゼミナールⅣ 白 景皓				
区分	後期(15回)	単位	必修(1)	形式	演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	白 景皓		ハク ケイコウ	bai jinghao [bai(a)]	
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
本ゼミナールは、前期開講ゼミナールⅢで身につけた卒業論文研究に必要な基礎学力・応用力をさらに発展させ、卒業論文の完成へと導くことを目的とする。履修学生には、仏教文化、日本宗教文化、仏教美術、文化財研究などに関心のある研究課題について、先行研究の整理、資料分析、考察の深化を行いながら、研究内容を論文として体系的にまとめる方法を学修してもらう。その過程で、研究発表、討論、論文執筆を繰り返し行いながら、研究を完成させる能力を養う。本ゼミナールの学修により、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」につながる。 キーワード：仏教文化、文化財研究、文学・芸術研究					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
文学・芸術学分野における研究を自立的に進め、卒業論文を完成させるために必要な学力を修得することを到達目標とする。具体的には、文化財や仏教美術などの研究対象について適切な研究課題を設定し、資料収集・資料分析を行い、論理的に研究成果をまとめる能力を身につけることを目標とする。あわせて、読解力、文章表現力、批判的思考力、論理的思考力、研究構成力、研究計画遂行能力などを総合的に養うことを目指す。 コンピテンシー：情報収集力、情報分析力、読解力、文章表現力、批判的思考力、論理的思考力、課題設定力、研究計画力、発表・討論力					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
ゼミナールでは、卒業論文の執筆と完成を中心に授業を進める。各自の研究テーマに基づいて研究発表を行い、その内容について教員および学生同士で討論を行いながら研究内容を深化させる。また、論文の構成、注の付け方、参考文献の整理方法などについても具体的に指導し、段階的に卒業論文を完成させていく。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行い、本ゼミナールで扱った研究内容や研究方法を授業外でも実践してもらう。具体的には、研究テーマに関する文献資料の収集、読解、資料整理、論文執筆、研究発表の準備などを行う。					
【成績評価(方法・基準)】					
授業への参加姿勢および発表、討論への参加状況(40%)、研究レポートおよび研究発表内容(60%)の割合を目安として総合的に評価する。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ガイダンス				
第2回	一次文献の講読1				
第3回	一次文献の講読2				
第4回	一次文献の講読3				
第5回	一次文献の講読4				
第6回	受講生発表と討議1				
第7回	受講生発表と討議2				
第8回	一次文献の講読5				
第9回	一次文献の講読6				
第10回	一次文献の講読7				
第11回	レポートの作成1				
第12回	レポートの作成2				
第13回	受講生発表と討議3				
第14回	受講生発表と討議4				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
受講生のテーマや興味・関心に応じてテキストを選択する。参考書についても授業の中において随時紹介する。					
【学生へのメッセージ】					
文学・芸術学研究の基礎や卒業論文執筆に向けた基本的なスキルを身につけるためのゼミナールである。毎回出席して、卒業論文執筆に向けてしっかりと準備をしていこう。授業にはノートパソコンを持参するようにしてください。所持していない場合は事前に相談してください。					
【オフィスアワー】					
火・水・木曜日のオフィスアワー時間。質問や相談が長くなりそうであれば、予めメール(bai(a)min.ac.jp)でアポイントメントを取ってください。質問はメールでも可。					

【実務経験】

多数の論文執筆等の経験を活かした授業を展開します。

年度	区分		分野		
令和8年度	全専攻共通 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[j_sse4] [50]【文芸3(制作)】ゼミナールⅢ 鈴木義孝				
区分	前期(15回)	単位	必修(1)	形式	演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	鈴木義孝		スズキ ヨシタカ	suzuki yoshitaka [suzuki(a)]	
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
仏像制作を前提として、基本的技術の修得を行う。					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
立体(三次元)を制作する上での俯瞰的感覚を育てる。 コンピテンシー：地域理解、異文化理解、構想力、実行力					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
テキスト又は原型を手本としてデッサン、粘土原型制作を課題として授業を進めていく。各学生の理解度や作業速度に応じて個別に指導・提案を行ってゆく。また学生同士のグループディスカッションにより、相互補助(教え合い)を促し技術を高めていく。今後の卒業制作を念頭におき、制作を通じたアクティブ・ラーニング型授業を展開し、各自の課題点やテーマを確実なものとしてゆく。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
技術の修得は一朝一夕に得られるものではないため、できるだけ工作実習室での練習が必要となる。事前・事後学修として、講義中の指示に基づいた内容を2時間以上要する。					
【成績評価(方法・基準)】					
レポート(25%)、完成作品の修得程度による採点(25%)、授業への取り組み姿勢(25%、発言回数やワークの成果物など)、事前・事後学修を含む受講時間外制作(25%)で評価する。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	授業の進め方、諸注意(安全啓蒙)				
第2回	デッサン・粘土原型制作参考仏選定				
第3回	デッサン1(アタリ取り)				
第4回	GPS-Academic(社会で活躍するために大切な「問題解決力」を測るテスト)				
第5回	デッサン2(面付け・全体量の調整)				
第6回	デッサン3(衣文の表現)				
第7回	デッサン4(明暗部の調整と強調)				
第8回	デッサン5(細部描き込み、仕上げ)				
第9回	粘土原型制作道具の作成と調整				
第10回	粘土原型制作1(芯棒作成)				
第11回	粘土原型制作2(荒付け)				
第12回	粘土原型制作3(全体量の調整)				
第13回	粘土原型制作4(衣文表現)				
第14回	粘土原型制作5(表面処理)				
第15回	総評				
【教科書・参考書】					
日本彫刻史基礎資料集成(中央公論美術出版)、日本の美術(至文堂)、原色日本の美術(小学館)、『仏像彫刻のすすめ』松久朋琳著(日貿出版社)2016年。					
【学生へのメッセージ】					
ノミ等道具類については大学所有の道具類を使用するが、より深い学修の為にノミ(切り出し刀、平ノミ)の購入を強く勧める。道具の購入先等は随時相談を受け付ける。また授業では刃物を使用するため、受講に当たっては細心の注意を払ってほしい。技術を修得することは非常に難しいことである。だがその分作品が完成した時には例えようもない喜びがある。真剣に取り組んだ時間に応じて、身体は技術を修得しているという実感を体験してほしい。					
【オフィスアワー】					
事前予約にて相談の上対応します。					
【実務経験】					
長年に渡る仏像制作修復の実績に基づいた授業を行います。					

年度	区分			分野	
令和8年度	全専攻共通 専門科目			ゼミナール・卒業論文	
講義名	[J_sse5] [89]【文芸3(制作)】ゼミナールⅣ 鈴木義孝				
区分	後期(15回)	単位	必修(1)	形式	演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	鈴木義孝		スズキ ヨシタカ	suzuki yoshitaka [suzuki(a)]	
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
仏像制作を進める上で必要な基礎技術の修得を目的とする。					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
立体(三次元)を制作する上での俯瞰的感覚を育てる。 コンピテンシー:地域理解、異文化理解、構想力、実行力					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
テキスト又は原型を手本として、木彫による摸刻を課題として授業を進めてゆく。各学生の理解度や作業速度に応じて個別に指導・提案を行ってゆく。また学生同士のグループディスカッションにより、相互補助(教え合い)を促し技術を高めていく。今後の卒業制作を念頭におき、制作を通じたアクティブ・ラーニング型授業を展開し、各自の課題点やテーマを明確なものとしてゆく。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
技術の修得は一朝一夕に得られるものではないため、できるだけ工作実習室での練習が必要となる。事前・事後学修として、講義中の指示に基づいた内容を2時間以上要する。					
【成績評価(方法・基準)】					
レポート(25%)、完成作品の修得程度による採点(25%)、授業への取り組み姿勢(25%、発言回数やワークの成果物など)、事前・事後学修を含む受講時間外制作(25%)で評価する。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	木彫地藏菩薩制作1(型紙作成)、諸注意(安全啓蒙)				
第2回	木彫地藏菩薩制作2(木取)				
第3回	木彫地藏菩薩制作3(木取)				
第4回	木彫地藏菩薩制作4(荒彫)				
第5回	木彫地藏菩薩制作5(荒彫)				
第6回	木彫地藏菩薩制作6(小作り)				
第7回	木彫地藏菩薩制作7(小作り)				
第8回	木彫地藏菩薩制作8(仕上げ彫)				
第9回	木彫地藏菩薩制作9(仕上げ彫)				
第10回	木彫大黒天制作1(型紙制作)				
第11回	木彫大黒天制作2(木取)				
第12回	木彫大黒天制作3(荒彫)				
第13回	木彫大黒天制作4(小作り)				
第14回	木彫大黒天制作5(仕上げ彫)				
第15回	木彫大黒天制作6(着色)、総評				
【教科書・参考書】					
日本彫刻史基礎資料集成(中央公論美術出版)、日本の美術(至文堂)、原色日本の美術(小学館)、『仏像彫刻のすすめ』松久朋琳著(日貿出版社)2016年。					
【学生へのメッセージ】					
授業では刃物を使用するため、受講に当たっては細心の注意を払ってほしい。技術を修得することは非常に難しいことである。だがその分作品が完成した時には例えようもない喜びがある。真剣に取り組んだ時間に応じて、身体は技術を修得しているという実感を体験してもらいたい。					
【オフィスアワー】					
事前予約にて相談の上対応します。					
【実務経験】					
長年に渡る仏像制作修復の実績に基づいた授業を行います。					

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 専門科目				ゼミナール・卒業論文
講義名	[p_sst6] [19]【日蓮4】卒業論文 桑名法晃				
区分	通年（30回）	単位	必修（8）		形式 演習
授業年次	--	--	--	4年	
担当教員	桑名法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko [hkuwana(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮聖人教学・日蓮教学史をテーマとした卒業論文を執筆するための指導を行います。本学の定めるディプロマ・ポリシーの内、特に日蓮学専攻に求められる、仏教学・仏教史・日蓮教学・日蓮教団史の専門知識を学修し仏教者として総合的・多角的な知識を身につけ、日蓮宗僧侶として布教現場に即応できる力を身につけた人材の育成を目的とします。 キーワード：日蓮教学、文献学、卒業論文					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
卒業論文を執筆するために必要な能力、先行研究の収集・整理、「読解力」「批判的思考力」「論理的思考力」「文章表現力」「課題設定力」「構想力」「計画力」、課題解決力等を修得し、卒業論文を完成することを目標とします。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
個々のテーマに即して、年間計画に沿った徹底した指導を行います。毎回課題を出し、授業までにメールで提出してもらい、問題点を中心に授業を進めていきます。また、定期的に発表を行い、学生同士ディベートしながら授業を進めていきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、毎回の課題に取り組み、事後学修（2時間以上）は授業中に指摘された点を中心に、さらに理解を深めるための努力を行い、卒業論文に反映させていく。					
【成績評価（方法・基準）】					
卒業論文（90%）、口頭試問（10%）により総合的に評価します。卒業論文はコメントを付し返却します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション：授業の進め方の説明および各自のテーマに基づく発表				
第2回	研究テーマの設定				
第3回	先行研究の収集と整理 1				
第4回	先行研究の収集と整理 2				
第5回	研究方法の検討				
第6回	目次の作成 1				
第7回	目次の作成 2				
第8回	資料収集と読み込み 1				
第9回	資料収集と読み込み 2				
第10回	中間発表と討議 1				
第11回	参考文献の作成 1				
第12回	参考文献の作成 2				
第13回	論文作成 1				
第14回	論文作成 2				
第15回	進捗状況の発表と討議				
第16回	進捗状況の発表と目次訂正				
第17回	論文作成 3				
第18回	論文作成 4				
第19回	論文作成 5				
第20回	論文作成 6				
第21回	論文作成 7				
第22回	中間発表と討議 2				
第23回	中間発表と討議 3				
第24回	論文作成 8				
第25回	論文作成 9				
第26回	論文作成10				
第27回	卒業論文提出				
第28回	口頭試問に向けた指導 1				
第29回	口頭試問に向けた指導 2				

第30回	まとめ
【教科書・参考書】	
それぞれのテーマに応じて随時指示します。	
【学生へのメッセージ】	
日蓮聖人の教えを信解体得するためには多くの犠牲と困難が伴うものである。覚悟をもって努めた者にしか分からない境地がある。退転することなく継続して取り組み、前進されたい。	
【オフィスアワー】	
令和8年度教員オフィスアワーをご参照ください。質問はメール（ hkuwana(a)min.ac.jp ）でも可。	
【実務経験】	
多数の論文執筆等の経験を活かした授業を展開します。	

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 専門科目				ゼミナール・卒業論文
講義名	[q_sst6] [05]【日蓮4】卒業論文 望月真澄				
区分	通年（30回）	単位	必修（8）		形式 演習
授業年次	--	--	--	4年	
担当教員	望月真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho [smochi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
卒業論文を執筆するために必要な研究方法や書き方等について指導する。途中で卒論の中間報告を行い、完成まで指導する。口頭試問の対応についても指導する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
卒業論文を執筆するために、論文の書き方、資料引用の方法、使用する資料の読解について指導するので、これを受けて論文を完成することを到達目標とする。卒論を完成することにより「論理的思考力」「構想力」「文章表現力」が身につく。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
ステップアップの形で指導を行うため、指導を受ける前に事前学修（2時間）を、指導後に事後学修（2時間）を行い、次回の卒論指導に臨むこと。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
基本的には毎週1回指導するが、それ以外にもメールやオンライン等にて指導する。指導の際は、毎回事前学修2時間以上、事後学修2時間以上が必要となる。					
【成績評価（方法・基準）】					
提出された論文の作成過程（60%）及び卒論口頭諮問（40%）を併せて評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	研究方法 1				
第2回	研究方法 2				
第3回	資料蒐集 1				
第4回	資料蒐集 2				
第5回	資料蒐集 3				
第6回	資料蒐集 4				
第7回	資料蒐集 5				
第8回	資料読解 1				
第9回	資料読解 2				
第10回	資料読解 3				
第11回	資料読解 4				
第12回	資料読解 5				
第13回	資料読解 1				
第14回	資料読解 2				
第15回	中間報告				
第16回	資料蒐集 6				
第17回	資料蒐集 7				
第18回	資料蒐集 8				
第19回	資料蒐集 9				
第20回	資料蒐集10				
第21回	論文の書き方 1				
第22回	論文の書き方 2				
第23回	論文の書き方 3				
第24回	論文の書き方 4				
第25回	論文の書き方 5				
第26回	総合学修 1				
第27回	総合学修 2				
第28回	総合学修 3				
第29回	まとめ 1				
第30回	まとめ 2				

【教科書・参考書】
特になし。卒論の論題に関する文献や資料等を授業中に紹介する。
【学生へのメッセージ】
指定した指導日には必ず出席すること。指導日以外にも対応するので、その際はメールで連絡してください。 卒論指導のための1日合宿を実施する場合があります。
【オフィスアワー】
授業の開始前、終了後に卒論に関する質問等に対応する。研究室でも受け付ける。卒論内容に関して質問等があれば随時メール（smochi(a)min.ac.jp）で対応する。
【実務経験】
日蓮宗教師の資格（44年）を有し、身延山学芸員として勤務経験（42年）がある。

年度	区分				分野	
令和8年度	全専攻共通 専門科目				ゼミナール・卒業論文	
講義名	[r_sst6] [29]【日蓮4】卒業論文 塩田宝樹					
区分	通年（30回）		単位	必修（8）		形式 演習
授業年次	--	--	--	4年		
担当教員	塩田宝樹		シオタ ホウジュ		shiota hoju [shiota(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
本指導は原始仏教、アピダルマ仏教、パーリ仏教、日本仏教に関連するテーマで執筆される卒業論文を完成させるために指導を行うことを目的とします。具体的には、(1)本学のディプロマ・ポリシーで特に日蓮学専攻に求められる、仏教学に関する専門知識を身につける、(2)一次資料講読を行うことにより「読解力」を養い日蓮宗僧侶として キーワード：仏教学、文献学、卒業論文						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
仏教学の研究を行い、卒業論文を作成することが到達目標となります。 コンピテンシー：情報収集力、情報分析力、読解力、文章表現力、批判的思考力、論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
仏教学研究を行う上で必要となる問いの立て方、文献の探し方・調べ方・扱い方、論文の書き方はゼミナールⅢ・Ⅳで培っていると思いますので、それらを実践してもらいます。具体的には、卒業論文を作成し、各自進捗状況に応じて発表を行ってもらい、学生同士ディベートしながら授業を進めていきます。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行ってもらいます。具体的には、文献の収集や現行の作成に取り組んでもらいます。						
【成績評価（方法・基準）】						
授業への参加姿勢（40%、発言回数やワークの成果物など）、卒業論文の出来（60%）を目安に総合的に評価します。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	ガイダンス					
第2回	研究テーマの設定					
第3回	先行研究の整理と検討1：どのような先行研究があるか？					
第4回	先行研究の整理と検討2：各先行研究の主張は？					
第5回	先行研究の整理と検討3：どのような問題点があるか？					
第6回	参考文献表の作成1：参考文献表の作り方					
第7回	参考文献表の作成2：実践					
第8回	現状報告					
第9回	一次文献の解読など1：一次文献の準備					
第10回	一次文献の解読など2：校訂など					
第11回	一次文献の解読など3：解読など					
第12回	目次の作成					
第13回	研究方法の検討1：問題点を解決するには？					
第14回	研究方法の検討2：具体的な方法の検討					
第15回	前期のまとめ					
第16回	現状報告会					
第17回	個別指導1					
第18回	個別指導2					
第19回	個別指導3					
第20回	個別指導4					
第21回	個別指導5					
第22回	中間報告					
第23回	個別指導6					
第24回	個別指導7					
第25回	個別指導8					
第26回	個別指導9					
第27回	個別指導10					
第28回	個別指導11					
第29回	成果発表1					

第30回	成果発表 2
【教科書・参考書】	
受講生のテーマや興味・関心に応じてテキストを選択します。参考書についても授業の中において随時紹介します。	
【学生へのメッセージ】	
卒業論文は学生生活の集大成です。今まで身につけた知識、スキルをフル稼働して執筆してください。毎回出席して、卒業論文を少しずつ書いていきましょう。授業にはノートパソコンを持参するようにしてください。所持していない場合は事前に相談してください。	
【オフィスアワー】	
オフィスアワーや授業の前後、出講日の休み時間など、できる限り対応します。質問や相談が長くなりそうであれば、予めメールでアポイントメントを取ってください。	
【実務経験】	
多数の論文執筆等の経験を活かした授業を展開します。	

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 専門科目				ゼミナール・卒業論文
講義名	[s_sst6] [--]【日蓮4】卒業論文 庵谷行遠				
区分	通年（30回）		単位	必修（8）	形式 演習
授業年次	--	--	--	4年	
担当教員	庵谷行遠		オオタニ ギョウオン		otani gyoon [gohtani(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本卒業論文指導は日蓮教学・日蓮教学史・日蓮教団史の関連論文について、卒業論文執筆における指導を行い、日蓮学専攻に求められる以下に掲げる能力を修得させる。(1)仏教学・仏教史・日蓮教学・日蓮教団史の専門知識。(2)一次資料・研究文献の講読を行うことによる「読解力」。(3)日蓮聖人・日蓮教団史を主なテーマとする「情報収集力」「分析力」。(4)先行研究の精査による「論理的構成力」「批判的思考力」。このことはSDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋がる。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
「読解力」「情報収集力」「分析力」「論理的構成力」「論理的思考力」「批判的思考力」「文章表現力」「課題設定力」「課題解決力」「構想力」「計画力」等の卒業論文を執筆するために必要な能力を修得し、卒業論文を完成することができる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
個々の論題に即して、年間計画に沿って指導を行う。各自課題を設定し、進捗状況に応じて発表を行い、問題点を中心に卒業論文執筆者同士でディベートを通して解決を図り、卒業論文を作成する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行う。事前学修（2時間以上）は、文献を収集し各自の課題に取り組む。事後学修（2時間以上）は、授業中に指摘された点を中心にノートを整理し、講義内容の理解を深めるための努力を尽くし、卒業論文の作成に取り組む。					
【成績評価（方法・基準）】					
卒業論文（60%）、口頭試問（20%）、質疑応答への積極的な参加（20%）により総合的に評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	卒論指導オリエンテーション				
第2回	研究方法 問題提起				
第3回	研究テーマの設定				
第4回	先行研究の収集・整理・検討				
第5回	先行研究における問題の所在				
第6回	参考文献の検索と使用・参考文献一覧表の作り方				
第7回	目次の作成（全体の構成）				
第8回	現状報告				
第9回	資料収集と読み込み				
第10回	卒業論文作成 1				
第11回	卒業論文作成 2				
第12回	卒業論文作成 3 現状報告				
第13回	卒業論文作成 4				
第14回	卒業論文作成 5				
第15回	前期のまとめ 進捗状況の発表と夏期休暇中の課題				
第16回	進捗状況の報告と目次の修正				
第17回	卒業論文作成 6				
第18回	卒業論文作成 7				
第19回	卒業論文作成 8 現状報告				
第20回	卒業論文作成 9				
第21回	卒業論文作成10				
第22回	卒業論文作成11 現状報告				
第23回	卒業論文作成12				
第24回	卒業論文作成13				
第25回	卒業論文作成14 現状報告				
第26回	卒業論文作成15 現状報告				
第27回	卒業論文提出				
第28回	口頭試問に向けた指導 1				

第29回	口頭試問に向けた指導 2
第30回	まとめ 成果発表
【教科書・参考書】	
受講者の論題に応じてテキストを選択する。参考書についても授業の中において随時紹介する。	
【学生へのメッセージ】	
受講者が自ら選択した論題・史料について発表してもらおう。問題意識をもって毎回出席すること。これまでに身につけた知識・能力を最大限に稼働して継続的に取り組み、常に学問に身を浸して卒業論文を作成すること。	
【オフィスアワー】	
令和8年度教員オフィスアワー参照。質問はメール（gohtani(a)min.ac.jp）でも可。	
【実務経験】	
日蓮宗教師の資格を活かし、日蓮教学等に関する卒業論文作成の指導をする。	

年度	区分			分野
令和8年度	全専攻共通 専門科目			ゼミナール・卒業論文
講義名	[t_sst6] [25]【文芸4(論文)・日蓮4】卒業論文 白 景皓			
区分	通年(30回)	単位	必修(8)	形式 演習
授業年次	--	--	4年	
担当教員	白 景皓	ハク ケイコウ	bai jinghao [bai(a)]	
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】				
<p>本授業は、法華仏教、日本仏教、仏教文化などに関連するテーマで執筆される卒業論文を完成させるための研究指導を目的とする。履修学生には、これまでのゼミナールで身につけた研究方法を基礎として、研究課題の設定、先行研究の整理、文献資料の収集・読解、法華文学などの資料観察および分析を行いながら、研究内容を論理的な学術論文としてまとめる能力を養ってもらう。特に、『法華経』を中心とする日本仏教思想の理解と、日本における法華仏教の具体的な研究対象を通して、文学・芸術分野における研究の実践的能力を高めることを目指す。本授業の学修により、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」につながる。 キーワード：法華仏教、仏教文化、卒業論文</p>				
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】				
<p>法華仏教、日本仏教、仏教文化などの分野に関する研究を自立的に進め、卒業論文を完成させるために必要な学力を修得することを到達目標とする。具体的には、研究テーマに即した文献資料の収集力、情報分析力、文献読解力、文章表現力を身につけると共に、批判的思考力、論理的思考力、研究課題設定能力、研究構成力、研究計画遂行能力などを総合的に養うことを目標とする。 コンピテンシー：情報収集力、情報分析力、読解力、文章表現力、批判的思考力、課題設定力、構想力、計画力</p>				
【授業方法(フィードバックの内容)】				
<p>卒業論文の執筆指導を中心に授業を進める。学生は各自の研究テーマに基づいて研究の進捗状況を報告し、その内容について教員が指導を行うと共に、学生同士の討論を通して研究内容を深化させる。また、論文の構成方法、引用・注記の方法、参考文献の整理方法などについても具体的に指導し、研究成果を卒業論文として体系的にまとめることができるよう支援する。</p>				
【授業外学修の方法(時間数)】				
<p>毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行い、本授業で指導した研究方法を授業外でも実践してもらう。具体的には、研究テーマに関連する文献資料の収集・読解、資料整理、仏教文化、仏教文学に関する資料調査、論文執筆、研究発表の準備などを行う。</p>				
【成績評価(方法・基準)】				
<p>授業への参加姿勢および研究発表の状況(40%)、卒業論文の提出(60%)の割合を目安として総合的に評価する。</p>				
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】				
第1回	ガイダンス			
第2回	研究テーマの設定			
第3回	先行研究の整理と検討1：先行研究の紹介			
第4回	先行研究の整理と検討2：各先行研究の主張のまとめ			
第5回	先行研究の整理と検討3：先行研究の問題点			
第6回	参考文献表の作成1：参考文献の整理法			
第7回	参考文献表の作成2：参考文献の作成法			
第8回	参考文献表の作成3：実践			
第9回	現状報告会1			
第10回	一次文献の読解など1：一次文献の準備			
第11回	一次文献の読解など2：校訂など			
第12回	一次文献の読解など3：読解など			
第13回	目次の作成			
第14回	研究方法の検討1：問題点の解決のため			
第15回	研究方法の検討2：具体的な方法の検討			
第16回	現状報告会2			
第17回	個別指導1			
第18回	個別指導2			
第19回	個別指導3			
第20回	個別指導4			
第21回	個別指導5			
第22回	中間報告会			
第23回	個別指導6			
第24回	個別指導7			

第25回	個別指導 8
第26回	個別指導 9
第27回	個別指導10
第28回	個別指導11
第29回	成果発表会 1
第30回	成果発表会 2
【教科書・参考書】	
受講生のテーマや興味・関心に応じてテキストを選択する。参考書についても授業の中において随時紹介する。	
【学生へのメッセージ】	
卒業論文は学生生活の集大成である。今まで身につけた知識、スキルをフル稼働して執筆してください。毎回出席して、卒業論文を少しずつ書いていこう。授業にはノートパソコンを持参するようにしてください。所持していない場合は事前に相談してください。	
【オフィスアワー】	
オフィスアワーや授業の前後、出講日の休み時間など、できる限り対応する。質問や相談が長くなりそうであれば、予めメール（bai(a)min.ac.jp）でアポイントメントを取ってください。	
【実務経験】	
多数の論文執筆等の経験を活かした授業を展開します。	

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 専門科目				ゼミナール・卒業論文
講義名	[u_sst6] [31]【文芸4(制作)】卒業論文 鈴木義孝				
区分	通年(30回)	単位	必修(8)		形式 演習
授業年次	--	--	--	4年	
担当教員	鈴木義孝		スズキ ヨシタカ		suzuki yoshitaka [suzuki(a)]
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
この大学で学んできた技術の集大成として仏像を制作する。					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
自ら決定した制作仏・目標に向け計画的に作業を進める。また作業において困難な状況に置かれても、それを乗り越えるための自助努力や、アクティブ・ラーニングを展開することによる他者からの気づきを促す。コンピテンシー：情報収集力、課題設定力、計画力、構想力、実行力					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
制作する仏像を決定し、実際に仏像等を制作する。技術的に個人差があるので、授業の内容については、ある程度流動的に行うつもりでいる。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
技術の修得は一朝一夕に得られるものではないため、できるだけ工作実習室での練習が必要となる。事前・事後学修として、講義中の指示に基づいた内容を2時間以上要する。					
【成績評価(方法・基準)】					
作品(50%)、講義への取り組み姿勢(25%、発言回数やワークの成果物など)、事前・事後学修(25%)で評価する。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	授業の進め方、諸注意(安全啓蒙)				
第2回	参考仏の選定				
第3回	デッサン1(アタリ取り)				
第4回	デッサン2(面付け)				
第5回	デッサン3(全体量の調整)				
第6回	デッサン4(衣文の表現)				
第7回	デッサン5(明暗部の調整と強調)				
第8回	デッサン6(細部描き込み、仕上げ)				
第9回	粘土原型1(芯棒作成)				
第10回	粘土原型2(荒付け)				
第11回	粘土原型3(全体量の調整)				
第12回	粘土原型4(衣文表現)				
第13回	粘土原型5(仕上げ)				
第14回	木彫1(型紙作成)				
第15回	木彫2(木取り1)				
第16回	木彫3(木取り2)				
第17回	木彫4(荒彫1)				
第18回	木彫5(荒彫2)				
第19回	木彫6(荒彫3)				
第20回	木彫7(小作り1)				
第21回	木彫8(小作り2)				
第22回	木彫9(小作り3)				
第23回	木彫10(仕上げ彫1)				
第24回	木彫11(仕上げ彫2)				
第25回	木彫12(仕上げ彫3)				
第26回	木彫13(持仏作成)				
第27回	卒業制作・論文提出				
第28回	口頭試問プレゼンテーション作成指導1				
第29回	口頭試問プレゼンテーション作成指導2				
第30回	総評				

【教科書・参考書】
それぞれのテーマに応じて随時指示する。
【学生へのメッセージ】
技術修得の難しさはゼミナールⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを受講してきた学生は痛いほど感じていることと思う。困難を克服してきた学生には全身全霊で卒業制作に取り組み、この大学で得た知識や技術を全て投入してもらいたい。
【オフィスアワー】
事前予約にて相談の上対応します。
【実務経験】
長年に渡る仏像制作修復の実績に基づいた授業を行います。

年度	区分				分野
令和8年度	全専攻共通 専門科目				ゼミナール・卒業論文
講義名	[w_sst6] [27]【福祉4】卒業論文 叶 寧				
区分	通年（30回）		単位	必修（8）	形式 演習
授業年次	--	--	--	4年	
担当教員	叶 寧		ヨウ ネイ		ye ning [ye(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本授業は、以下を目的としている。(1)論文講読を通じた専門的知識、論理的思考、文章理解力を修得する。(2)ディスカッションやゼミ発表を通して、プレゼンテーション能力を養うことを目指す。(3)卒業研究に向けて基本的ルールを学んだ上で、研究テーマや研究手法を明確化する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
(1)関連領域に関する文献講読等を通して専門的な文献を読み解く力を修得すると同時に、社会福祉における様々な問題を通して自身の興味関心を広げ/絞り込むことができる。(2)社会福祉研究とは何か、また文献検索の方法や引用文献の書き方など、論文執筆の基本的なルールに関する学びを通して、卒業研究に向け各自テーマや研究方法を明確化できる。(3)学びや福祉実践（実習、ボランティア、アルバイトなど）からテーマを明確化し、テーマに着目した背景やどのような研究方法で行うのか、着手発表を行うことができる。コンピテンシー：課題設定力、構想力、批判的思考力、論理的思考力、情報収集力、情報分析力、文章表現力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
法律制度政策等の検索方法、文献収集の方法、レポート作成等に取り組み、自らの気づきや学びを具体的に文章化する。また各自の問題関心についてゼミ生同士で意見交換を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
各自の関心課題に関する文献について事前と事後学修（それぞれ2時間以上）を行う。事前学修：文献講読の場合は、必ず予習して概要を理解した上で、キーワードを調べる等をして授業に参加してください。次回授業内容に合わせて、具体的な準備や下調べを行ってください。事後学修：卒業研究に向けては、各自、授業での学びを深めて、文献を収集・講読したり、福祉実践にアクセスするなどして、主体的に進めてください。これらをとおり、不明な点を見つける。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取組み姿勢（60%、発言回数やワークの成果物など）、レポート（20%）、発表（20%）により総合的に評価する。提出されたレポートに対し、コメントを付して返すか、解説を行う。テストに対しては、解説を行う。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション、今後のゼミの進め方など、学生一人ひとりの関心領域の確認				
第2回	社会福祉関連領域の法律制度政策の検索方法				
第3回	厚生労働省等で公開されている一次データの質問項目および結果概要を検索				
第4回	論文等の文献収集の方法の確認				
第5回	関心領域の文献講読とディスカッション（討議）1（どのような視点で講読するのかを考える）				
第6回	関心領域の文献講読とディスカッション（討議）2（内容の論理性を重点的に検討する）				
第7回	卒業論文のテーマに関するディスカッション（討議）				
第8回	各自卒業論文作成のための研究背景の収集				
第9回	各自卒業論文作成のための調査データの収集				
第10回	論文構成の確認				
第11回	目次の作成				
第12回	各自の卒業論文のための研究方法の検討、調査にあたる倫理上の必要な事項の学び（文献研究について）				
第13回	各自の卒業論文のための研究方法の検討、調査にあたる倫理上の必要な事項の学び（調査研究について）				
第14回	実証研究する場合の調査概要の作成				
第15回	実証研究する場合の調査概要の作成、まとめ				
第16回	オリエンテーション、後期の目指す目標、学生一人ひとりの関心領域の再確認				
第17回	法律制度政策の検索方法、文献収集の方法、レポート作成の仕方についての再確認				
第18回	各自の関心領域、観点と近い論文を見つけ、その論文構成と各自前期作成した論文構成を照らし合わせて再確認をする				
第19回	研究方法（社会調査法）の内容を復習し、調査にあたる倫理上の必要な事項の再確認				
第20回	引用・参考文献の書き方の再確認				
第21回	作成された目次の再確認				
第22回	卒業論文の原稿作成1（個別指導の場合もある）				
第23回	卒業論文の原稿作成2（フィードバックしながら進行してもらう）				
第24回	卒業論文の原稿作成3（研究方法の章を重点的に検討する）				

第25回	卒業論文の原稿作成 4 (結果の部分を重点的に検討する)
第26回	卒業論文の原稿作成 5 (考察の部分を重点的に検討する)
第27回	卒業論文の原稿作成 6 (論文の一貫性について検討する)
第28回	卒業論文の提出のための課題検討 1 (提出できたための確認)
第29回	卒業論文の提出のための課題検討 2 (口頭試問のための発表内容の内容準備)
第30回	まとめ
【教科書・参考書】	
授業のなかで適宜紹介する。	
【学生へのメッセージ】	
各自の関心を共有し、そのうえ、上記のコンピテンシーの向上のため、相互に励まし合い、共同成長を目指す。知りたい、学びたい、探究したいという好奇心、態度、姿勢があれば一緒に協力しあって、学んでいこう。関心のある点を出発点として、論文にまとめる実践過程を体験しよう。	
【オフィスアワー】	
授業担当時の前後、大学HPのオフィスアワーをご参照ください。討論の時間がかかりそうな場合は、メール (ye(a)min.ac.jp) にてアポイントを取ってください。	
【実務経験】	
学術論文の投稿経験があるだけでなく、論文の書き方に関するゼミナールへの参加経験も豊富である。この経験を授業に活用していく。	

年度	区分				分野		
令和8年度	全専攻共通 専門科目				ゼミナール・卒業論文		
講義名	[x_sst6] [-]【福祉4】卒業論文 井沼 一						
区分	通年（30回）		単位	必修（8）		形式	演習
授業年次	--	--	--	4年			
担当教員	井沼 一		イヌマ ハジメ		inuma hajime		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
共通テーマを「福祉」として、その中で、それぞれが関心のあるテーマを選択する。「福祉」といっても、その範囲は広いので、まずは、自分の関心がどこにあるかを明らかにすることから出発してみましょう。ディズニーリゾートは福祉と関係あるでしょうか。ジブリの物語はどうでしょうか。チームマネジメントや幼老複合施設、ナラトロジーを切り口に、好きなものを参照して迫っていきけるのです。 題材・テーマ探しの際、映像資料（ドキュメンタリー番組等）も用いる。							
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】							
(1)自分が好きなことを調べてまとめ、卒論を作ってみよう。(2)自分の好きなことをネット・文献から概観する。(3)取り上げるテーマ・対象を決める。(4)研究計画を立て、書いていく。(5)卒業研究を計画的に進め、卒業論文を完成。 コンピテンシー：情報収集力、情報分析力、読解力、文章表現力、批判的思考力、論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
春学期は卒業研究を段階的に進めるために、テーマ発表、関連文献報告、調査計画を報告。秋学期は卒業論文の完成に向けて個別に進めていきます。卒業研究のテーマ発表、関連文献報告などに対して、講義中にコメントします。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
本授業の準備学習・復習時間は（各2時間）を標準とします。							
【成績評価（方法・基準）】							
卒論テーマ・参考文献などの報告（40%）、卒業論文（60%）							
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】							
第1回	オリエンテーション（授業計画の説明）、春学期の予定						
第2回	テーマの設定・調べる1						
第3回	テーマの設定・調べる2						
第4回	テーマの設定・調べる3						
第5回	文献リスト作成1						
第6回	文献リスト作成2						
第7回	ネット記事検索1：執筆者が明らかなもののみ利用						
第8回	ネット記事検索2：執筆者が明らかなもののみ利用						
第9回	言いたいことを整理1						
第10回	言いたいことを整理2						
第11回	研究計画を立てる1						
第12回	研究計画を立てる2						
第13回	研究計画を立てる3						
第14回	全体を整える						
第15回	春学期 おわりに・ふりかえり						
第16回	オリエンテーション（授業計画の説明）、秋学期の予定						
第17回	第1章「はじめに」を書く1						
第18回	第1章「はじめに」を書く2						
第19回	第2章「経緯」を書く1						
第20回	第2章「経緯」を書く2						
第21回	第2章「経緯」を書く3						
第22回	第3章「考察」を書く1						
第23回	第3章「考察」を書く2						
第24回	第3章「考察」を書く3						
第25回	第4章「展望・課題」を書く1						
第26回	第4章「展望・課題」を書く2						
第27回	第4章「展望・課題」を書く3						
第28回	報告会1						
第29回	報告会2						

第30回	秋学期 おわりに・ふりかえり
【教科書・参考書】	
毎回、資料を配布する。参考書：『よくわかる卒論の書き方[第2版]』白井利明 高橋一郎（ミネルヴァ書房）2013年、『メディアの卒論[第2版]：テーマ・方法・実際』藤田真文編（ミネルヴァ書房）2016年。	
【学生へのメッセージ】	
卒論というと、身構えてしまいますが、自分が興味あること、好きなものを調べていく学習です。興味あること、好きなものを教えてください。	
【オフィスアワー】	
令和8年度教員オフィスアワーを参照すること。	
【実務経験】	
介護福祉士・居宅支援専門員・社会福祉士として、訪問系事業所にて20年携わった経験や地域活動を活かした講義を展開します。	

年度	区分			分野	
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目			日蓮学系科目	
講義名	[A_mnb2] [01] 日蓮教団史【僧階】				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	望月真澄	モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho [smochi(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮聖人のご入滅から近代までの日蓮教団の展開について、時代ごとに講義していく。DVD・ビデオ・画像データといった映像・画像資料も活用する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
日蓮教団と他の日蓮系教団を比較することにより、日蓮教団の歴史と特徴を理解してもらうことを到達目標とする。教団の歴史を学び、資料を講読することにより、「論理的思考力」「構想力」「読解力」が身につく。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
毎回の授業はパワーポイントを用いて行う。これに併せて具体的な教団史関係の資料を紹介し、資料から知ることのできる教団史について講義する。時には各時代の教団史の問題点をあげてディスカッションすることもある。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）と事後学修（2時間以上）を行うこと。小テストを随時行うが、このテストは前回までの授業の復習を兼ねている。この小テストを実施するときは事前に知らせるので、その時はテスト範囲を復習しておくことが重要である。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（20%）、随時行う小テスト（50%）、授業に取り組む姿勢（30%、発言回数やワークの成果物など）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	授業の概要 中世・近世・近代における日蓮教団の動向				
第2回	六老僧について				
第3回	門流の成立				
第4回	日蓮宗の京都進出				
第5回	東国から上洛と寛正の盟約				
第6回	天文法難				
第7回	西国・東国への展開				
第8回	日親の諫暁と永祿の規約				
第9回	安土宗論				
第10回	受・不受の論争				
第11回	檀林教育と仏教書の出版				
第12回	祖師信仰と霊場参詣				
第13回	明治維新と廃仏毀釈				
第14回	在家仏教運動と大正・昭和期の日蓮宗				
第15回	全体のまとめ				
【教科書・参考書】					
参考書：『日蓮宗普通試験検定テキスト』日蓮宗普通試験検定委員会編、日蓮宗新聞社、2024年。『禁制不受不施派の研究』宮崎英修著（平楽寺書店）1959年、『日蓮宗布教の研究』影山堯雄著（平楽寺書店）1975年、『近世日蓮宗の祖師信仰と守護神信仰』望月真澄著（平楽寺書店）2002年、『日親・日奥』北村行遠・寺尾英智編（吉川弘文館）2004年。					
【学生へのメッセージ】					
小テストを随時実施するので授業に欠席しないこと。 参考書『日蓮宗普通試験検定テキスト』（宗門史）を読んでから授業に入ると理解しやすいと思います。					
【オフィスアワー】					
授業内容に関する質問等があれば授業の開始前・終了後に研究室や教室で対応する。その他の時間帯における質問等はメール（smochi(a)min.ac.jp）で対応する。					
【実務経験】					
宗教法人代表役員として勤務経験（31年）あり。日蓮宗寺院の現状を踏まえて授業を行います。					

年度	区分			分野	
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目			日蓮学系科目	
講義名	[B_mnb3] [03] 教化学【僧階】				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	桑名貫正		クワナ カンショウ	kuwana kansyo [kkuwana(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>教化とは、衆生に教えを説き仏道に導き、利益を与えることである。その教化方法には、随自意・随他意・四悉檀等が見られる。また、釈尊の悟り内容は三時説の重視に従い、布教上の展開において異なりが見られる。これらの教化上の諸問題について概説する。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
<p>教化学とは、教学を基として布教現場に活かす学問であり、布教現場に立脚した教学のあり方を論理的に探求し思考力を高める学問である。具体的には、釈尊・法華経・日蓮聖人の教法を修得して現代に活かし、人々を覚知へと導くための方策を探り、教化の実行力を高めることにある。コンピテンシー：多様な学問の考え方、異文化理解、情報収集力、情報分析力、読解力、聴解力、文章表現力、批判的思考力、論理的思考力、構想力、実行力</p>					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
<p>キーワードを挙げ、講義資料を読みながら、その言葉・項目について詳説し、ディスカッションをしながら、問題点について共に考えていく。</p>					
【授業外学修の方法（時間数）】					
<p>毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。その方法については授業中に説明する。</p>					
【成績評価（方法・基準）】					
<p>学期末レポート（50%）、授業参加の状況と授業への取り組み姿勢（50%、発言回数やワークの成果物など）も重視する。</p>					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	イントロダクション：教化学について				
第2回	釈尊の出自と釈尊の教化法 1				
第3回	釈尊の教化法 2				
第4回	釈尊の教化法 3				
第5回	一仏乗の思想について				
第6回	法華経の譬喩について 1				
第7回	法華経の譬喩について 2				
第8回	中国仏教における布教展開 1				
第9回	中国仏教における布教展開 2				
第10回	日本仏教における布教展開 1				
第11回	日本仏教における布教展開 2				
第12回	日蓮聖人における布教展開 1				
第13回	日蓮聖人における布教展開 2				
第14回	日蓮聖人における布教展開 3				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
<p>テキストは当方で用意して配布する。参考書：『教化学概論ノート』浜島典彦著（ミック刊）2004年。</p>					
【学生へのメッセージ】					
<p>教化学に関する総合的理解を得るために、講義資料に基づいて復習すること。また次回講義資料も毎回事前に配布するのでしっかり予習して授業に臨むこと。</p>					
【オフィスアワー】					
<p>授業の前後に教室にて対応します。</p>					
【実務経験】					
<p>宗教法人妙法寺代表役員・布教師としての経験から、布教現場での実例を示し布教現場で即応できる授業を展開します。</p>					

年度	区分		分野	
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目	
講義名	[C_mnb3] [05] 立正安国論概説【僧階】			
区分	前期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--
担当教員	都守基一		ツモリ キイチ	tsumori kiichi [tumori(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
日蓮聖人の主著であり、本学の「建学の精神」のよりどころでもある『立正安国論』について、その書誌と内容、成立の由来、遺文中の位置等を概説する。				
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】				
正しい見識により社会に貢献する「立正安国」の精神を学ぶことにより、「構想力」「計画力」「実行力」が養われる。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
毎回配布するプリントをもとに講義を進めると共に、指定した教科書の音読、ならびにプレゼンテーションやICT機器を用いた授業を行う。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学修（2時間以上）は、シラバスに記載した参考書による予習を行い、事後学修（2時間以上）は、配布プリントの内容に基づき復習を行うこと。				
【成績評価（方法・基準）】				
プレゼンテーション（50%）、学力確認テスト（40%）、授業参画度（10%）で評価する。				
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】				
第1回	立正安国論の概要			
第2回	立正安国論成立の背景（鎌倉の仏教界）			
第3回	立正安国論成立の背景（続出する災害）			
第4回	奏進後の経緯（立正安国論の新たな意味づけ）			
第5回	立正安国論の真蹟			
第6回	立正安国論の写本			
第7回	立正安国論の文体と用字			
第8回	立正安国論の「国」字について			
第9回	立正安国論に関する新出資料			
第10回	上奏本の「天台沙門」の意味			
第11回	広本の文献的問題			
第12回	立正安国論に関する伝承			
第13回	立正安国論全文の音読			
第14回	プレゼンテーション			
第15回	総括			
【教科書・参考書】				
教科書：『立正安国論私訳』都守基一編（私家版）2025年。参考書：『日蓮聖人全集』第一巻（春秋社）1992年、『日蓮聖人御遺文講義 第一巻』鈴木一成著（日蓮聖人御遺文研究会）1931年。				
【学生へのメッセージ】				
後期の「立正安国論講読」と併せて履修し、『立正安国論』に基づく建学の精神を大いに発揮してもらいたい。				
【オフィスアワー】				
授業時間の前後に教室または非常勤講師控室にて受け付ける。				
【実務経験】				
常圓寺日蓮仏教研究所主任としての経験を活用した授業を展開します。				

年度	区分		分野		
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[D_mnb3] [07] 立正安国論講読【僧階】				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	都守基一		ツモリ キイチ	tsumori kiichi [tumori(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮聖人の主著であり、本学の「建学の精神」のよりどころでもある『立正安国論』本文を講読し、聖人の仏法と国家と災害についての考え方を学ぶ。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
テキスト音読を繰り返すことにより、古文・漢文のリズムに慣れ、「読解力」「文章表現力」「論理的思考力」の基礎が養われる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
指定した教科書の音読と、配布プリントによる解説、ならびにプレゼンテーションやICT機器を用いた授業を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、指定の参考書による予習、事後学修（2時間以上）は、配布プリントによる復習を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
プレゼンテーション（50%）、学力確認テスト（40%）、授業参画度（10%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	題号と撰号の解説				
第2回	十番問答（十問九答）の概要説明				
第3回	第一問答（災難の由来）の講読				
第4回	第二問答（災難の経証）の講読				
第5回	第三問答（破法破国の悪比丘）の講読				
第6回	第四問答（法然『選択集』の誤り）の講読				
第7回	第五問答（悪法流布と亡国の先例）の講読				
第8回	第六問答（上奏の先例と必然）の講読				
第9回	第七問（仏法と国家の関係）の講読				
第10回	第七答（謗法の人を禁断すべきこと）の講読				
第11回	第八問答（斬罪か止施か）の講読				
第12回	第九問（二難なお残せり）の講読				
第13回	第九答（立正安国の理想郷）と第十問（客の領解）の講読				
第14回	プレゼンテーション 立正安国論について自分の考えを発信しよう				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
教科書：『立正安国論私訳』都守基一編（私家版）2025年。参考書：『日蓮聖人全集』第一巻（春秋社）1992年、『日蓮聖人御遺文講義 第一巻』鈴木一成著（日蓮聖人御遺文研究会）1931年。					
【学生へのメッセージ】					
前期の「立正安国論概説」と併せて履修し、『立正安国論』の主題であり、今日的課題でもある「災難」について考えてほしい。					
【オフィスアワー】					
授業時間の前後に教室または非常勤講師控室にて受け付ける。					
【実務経験】					
常圓寺日蓮仏教研究所主任としての経験を活用した授業を展開します。					

年度	区分	分野
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目	日蓮学系科目

講義名	[E_mnb3] [09] 宗学概論【僧階】
-----	------------------------

区分	前期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
----	---------	----	------------	----	----

授業年次	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	桑名法晃	クワナ ホウコウ	kuwana hoko [hkuwana(a)]
------	------	----------	--------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

本授業では、宗学の意味、五義、三大秘法など、宗学の基本的事項について学修します。日蓮学専攻のディプロマ・ポリシーが掲げる日蓮教学を中心とした専門知識を学修し、仏教者として総合的・多角的な知識を身につけるための基幹授業となります。この学修は、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」およびSDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」に繋がります。キーワード：日蓮聖人教学、五義、三大秘法

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

宗学の内容を総合的に理解することにより、宗学の意味と意義を深く認識し、自発的に考察を進め、自身の考えを発表する力を養うことを目標とします。コンピテンシー：情報収集力、情報分析力、情報構成力、会話力、文章表現力、口頭発表力、論理的思考力

【授業方法（フィードバックの内容）】

ICTを積極的に活用し受講生の理解に資するよう授業を進めます。講義を通して、宗学をどのように受け止め、どのように活かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表（プレゼンテーション）し、グループディスカッションを行います。

【授業外学修の方法（時間数）】

この授業では、各回の授業につき、事前・事後学修を合わせて平均4時間程度の学修が必要です。事前学修（約2時間）では、各回の授業内容について、シラバスに記載された教科書・参考書を用いて調査や予習を行い、疑問点を整理します。事後学修（約2時間）では、参考書を活用しながらノートの整理を行い、課題を見いだすと共に、理解を深めて内容の定着を図ります。

【成績評価（方法・基準）】

中間レポート課題（40%）、期末課題レポート（60%）で総合的に評価します。レポートについてはコメントを付して返却します。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	オリエンテーション：宗学とは
第2回	宗祖
第3回	宗義の体系
第4回	五義 1
第5回	五義 2
第6回	日蓮聖人の法華経受容
第7回	三大秘法
第8回	本門の本尊
第9回	本門の戒壇
第10回	本門の題目
第11回	信行
第12回	即身成仏・霊山往詣
第13回	弘経の方軌 摂受・折伏
第14回	祈祷・僧俗
第15回	まとめ

【教科書・参考書】

教科書：教育リソースを提供します。『真訓両読 妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年。『昭和定本日蓮聖人遺文集』立正大学日蓮教学研究所編（総本山身延久遠寺）1988年、もしくは『日蓮聖人遺文集』立正大学日蓮教学研究所編（総本山身延久遠寺）2008年。参考書：『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）1978年、『宗義大綱読本』日蓮宗宗務院教務部編（日蓮宗新聞社）1989年など。授業中に適宜参考書を紹介していきます。

【学生へのメッセージ】

講義内容の関係から「日蓮学入門」を受講し、しっかり理解した上で併せて受講することを望みます。

【オフィスアワー】

令和8年度教員オフィスアワーをご参照ください。質問はメール（hkuwana(a)min.ac.jp）でも可。

【実務経験】

日蓮宗教師としての経験を活かして日蓮聖人の教えとは何かについての指導を行います。

年度	区分				分野
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目				日蓮学系科目
講義名	[F_mnb3] [11] 寺院資料論【学芸(選択)】				
区分	前期 (15回)		単位	選択 (2)	
授業年次	--	2年	3年	4年	
担当教員	望月真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho [smochi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本授業は日本の寺院に所蔵されているさまざまな資料(史料)の種類や資料の性格等について学ぶ。特に日蓮宗寺院(身延山久遠寺等)に所蔵される資料を検討素材として授業を進めていく。					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
本授業を受講することによって、寺院資料がどのようなものであるのか理解できることを到達目標とする。本授業を受講することにより、論理的思考力、構想力、読解力、評価力が身につく。					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
画像資料や実際の資料をみて授業を進めるが、実際に寺院資料が所蔵されている寺院の見学も行う。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
毎回2時間以上の事前・事後学修を行う。寺院資料にはさまざまな種類があるが、特に関心のある寺院資料について、予め調べておくと他の資料についても理解しやすいと思います。					
【成績評価(方法・基準)】					
授業に対する取り組み姿勢(50%、発言回数やワークの成果物など)、質疑応答への参加(20%)、学力確認レポート(30%)で評価する。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	寺院資料とは何か				
第3回	寺院に所蔵される資料の種類				
第4回	寺院資料 建造物				
第5回	寺院資料 古文書・古記録				
第6回	寺院資料 典籍				
第7回	寺院資料 彫刻				
第8回	寺院資料 絵画				
第9回	寺院資料 工芸品				
第10回	寺院資料 考古資料				
第11回	寺院資料 仏具・荘厳具				
第12回	寺院資料の保存 虫払・曝涼				
第13回	寺院資料の形態 卷子本・冊子本				
第14回	寺院資料の形態 掛幅				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
教科書：特になし。参考書：『寺宝護持の心得』日蓮宗宗宝霊跡審議会編(日蓮宗宗務院)1996年。『身延山史料調査報告書』身延町教育委員会2004年。					
【学生へのメッセージ】					
身近な寺院に存在する寺院資料を予め見ておくこと。					
【オフィスアワー】					
授業内容に関する質問等があれば授業の開始前・終了後に研究室や教室で対応する。その他の時間帯の質問等はメール(smochi(a)min.ac.jp)で対応する。					
【実務経験】					
博物館学芸員(42年)として寺院資料を取り扱った経験を授業に役立てる。					

年度	区分		分野	
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目	
講義名	[G_mnb3] [13] 日蓮教学史【僧階】			
区分	前期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式 講義
授業年次	--	--	3年	4年
担当教員	庵谷行遠		オオタニ ギョウオン	otani gyoon [gohtani(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
日蓮宗教師歴20年以上の経験を積んだ教員が、専門分野の基本的知識である「日蓮教学の歴史」について概説する。日蓮聖人の教えが、これまでどのように伝えられてきたか（日蓮聖人以降の先師たちの日蓮教学受容）を各門流毎に理解する。このことはSDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋がる。				
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】				
日蓮聖人以降の先師たちが、日蓮聖人の教学をどのように受容し解釈したかを説明できる。そのために「多様な学問の考え方」「異文化理解」、資料の「読解力」「批判的思考力」「論理的思考力」「表現力」を修得し実践できる。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
指定の参考書と配布プリント（適宜）によって講義をすすめる。授業中にディベートにて各自の考えを発言してもらい、各自の向学心を高める。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学修（2時間以上）は、参考書を基に教学史上のキーワードや先師の教学について調べて問題意識をもつ。事後学修（2時間以上）は、配布資料を読み直し、講義内容の理解を深め次回の講義に備える。				
【成績評価（方法・基準）】				
学期末レポート（80%）、授業内発表と質疑応答への積極的な参加（20%）により総合的に評価する。				
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】				
第1回	日蓮教学史を学ぶ意義			
第2回	日蓮教学史の概要1（日本仏教における日蓮教団）			
第3回	日蓮教学史の概要2（日本仏教と仏教伝来）			
第4回	日蓮聖人直弟の教学1（日朗・日昭・日頂・日持）			
第5回	日蓮聖人直弟の教学2（日向）			
第6回	五一相対と本迹論（日興）			
第7回	中山門流の教学・四条門流の教学			
第8回	日朝と身延門流の教学			
第9回	浜門流・六条門流の教学			
第10回	日什門流の教学			
第11回	日陣門流の教学			
第12回	日隆門流の教学			
第13回	日真門流の教学・室町期富士門流の教学			
第14回	江戸前期の教学			
第15回	江戸後期の教学・まとめ			
【教科書・参考書】				
教科書：指定なし。参考書：『日蓮宗新・電子聖典 日蓮宗事典』（日蓮宗wiki版）2021年、『日蓮宗学説史』望月歆厚著（平楽寺書店）1968年、『日蓮宗信仰の種々相』執行海秀著（教育新潮社）1966年、『日蓮宗教学史』執行海秀著（平楽寺書店）1960年。				
【学生へのメッセージ】				
講義内容の関係から「日蓮教団史」を受講し、しっかり理解した上で受講することを望む。				
【オフィスアワー】				
令和8年度教員オフィスアワー参照。質問はメール（gohtani(a)min.ac.jp）でも可。				
【実務経験】				
日蓮宗教師としての経験を活かして日蓮教学の歴史について指導を行う。				

年度	区分		分野		
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[H_mnb4] [15] 日蓮教学と近代社会《遠隔授業》				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	岡田文弘		オカダ フミヒロ	okada fumihiro [ookada(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本授業は、近代における日蓮の仏教の多彩な展開を検討してゆくことで、教学史の基礎的な知識とそれを実践に活かすためのアイデアを獲得することを目的とします。日蓮思想の広がり多様性をたどることで、卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）に掲げる「日蓮教団史の専門知識」を身につけます。また、近代における日蓮系仏教教団の活動への反省もしくは再評価を通し、SDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」に繋がります。キーワード：近代化、政治性、在家仏教運動、宗門運動					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
近代における日蓮思想の展開について基本的な知識を体系的に理解し、「多様な学問の考え方」を身につけます。近代の先人たちの業績について検討することを通して「批判的思考力」を身につけ、日蓮宗の今後を考えていく上での「構想力」「改善力」を養い、布教実践の現場での問題解決ができるようになります。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
この授業は同時双方向型（ライブ配信）の遠隔授業（初回のみ対面授業）です。ファイル・キャビネットにアップした資料を中心に講義を進めます。また毎回、質問・意見等を記入してもらい（Googleフォーム使用）、翌週の授業の冒頭でフィードバック（回答や補足説明など）を行います。ディベートの機会も適宜設けます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行う。事前学修は、シラバス・事前配布資料・参考書を基に各テーマについて自分の問題意識に従って疑問点や興味のある点をメモしておく。事後学修は、学修した内容を自分なりに整理して文章化し、Googleフォームに記入する。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業参加度（50%：Googleフォームを用いた毎回の質問・意見等の記入。多様な知識の修得・批判的思考力の習熟の度合いを測る）およびレポート（50%：学んだことを今後の布教実践に活かす上での構想力・改善力を測る）により、総合的に評価を行います。レポートには最終回で講評を行い、フィードバックとします。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス（シラバス確認） 対面				
第2回	「日蓮宗」の成立				
第3回	教学革新の試み：優陀那日輝				
第4回	文献学と民衆信仰：小川泰堂				
第5回	長松清風と本門仏立講				
第6回	国柱会概論：田中智学の活動				
第7回	本多日生の活動				
第8回	内村鑑三『代表的日本人』の日蓮観				
第9回	日蓮主義と文学：高山樗牛（付：姉崎正治）				
第10回	日蓮主義と文学：宮沢賢治				
第11回	日蓮思想と革命思想：北一輝				
第12回	国家主義との関わり：石原莞爾				
第13回	日蓮系新宗教1：第二次世界大戦前				
第14回	日蓮系新宗教2：第二次世界大戦後				
第15回	まとめ：授業全体の要点確認とレポート講評				
【教科書・参考書】					
教科書：レジュメをもって代替とする（「岡田文弘講義関係キャビネット」からダウンロードすること）。参考書：『シリーズ日蓮4 近現代の法華運動と在家教団』西山茂編（春秋社）2014年、『近代日本の日蓮主義運動』大谷栄一（法蔵館）2001年、『講座日蓮4（日本近代と日蓮主義）』田村芳朗・宮崎英修編（春秋社）1972年。					
【学生へのメッセージ】					
授業中に指示した参考書を始めとする関連書籍を読むことが望ましい。またなるべく双方向の授業とするため、質問・意見等の記入に注力すること。					

【オフィスアワー】

随時、メール（ookada(a)min.ac.jp）でアポイントメントを取ってください。

【実務経験】

日蓮宗布教研修所で講師担当経験。社会に還元や貢献のできる日蓮思想の学びを志向します。

年度	区分	分野
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目	日蓮学系科目

講義名	[l_mnb4] [17] 日蓮教学と現代社会《遠隔授業》
-----	-------------------------------

区分	後期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
----	---------	----	------------	----	----

授業年次	--	--	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	岡田文弘	オカダ フミヒロ	okada fumihiro [ookada(a)]
------	------	----------	----------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

日蓮聖人の思想は単に知識として学べば良いだけでなく、それを現実の社会問題の解決や改善に活かすという実践が求められます。本授業では日蓮聖人の思想を学び、その社会生活への応用を、皆さんと一緒に考えてゆきます。この授業を通して、卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）に掲げる「布教現場に即応できる力」を身につけ、SDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」の達成への一助とします。 キーワード：現代、社会貢献、Engaged Buddhism

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

日蓮教学に立脚して現代社会を捉えることで、現代社会についての基本的な理解を深め、諸問題を自身の課題として受け止め、その解決にむけて主体的に取り組むことができる力を養います。また社会問題のトピックについて自身の見解を効果的に発信できるようにします。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、異文化理解、情報収集力、情報分析力、読解力、会話力、口頭発表力、論理的思考力、実行力

【授業方法（フィードバックの内容）】

この授業は同時双方向型（ライブ配信）の遠隔授業（初回のみ対面授業）です。ファイル・キャビネットにアップした資料を中心に講義を進めます。また毎回、質問・意見等を記入してもらい（Googleフォーム使用）、翌週の授業の冒頭でフィードバック（回答や補足説明など）を行います。ディベートの機会も適宜設けます。

【授業外学修の方法（時間数）】

この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行う。事前学修は、シラバス・事前配布資料・参考書を基に各テーマについて自分の問題意識に従って疑問点や興味のある点をメモしておく。事後学修は、学修した内容を自分なりに整理して文章化し、Googleフォームに記入する。

【成績評価（方法・基準）】

授業参画度（50%：ディベートでの発言・Googleフォームへの記入を課して、会話力や論理的思考力・口頭発表力を測る）およびレポート（50%：情報の収集力と分析力を測る）により、総合的に評価を行います。レポートには最終回で講評を行い、フィードバックとします。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	ガイダンス（シラバス確認） 対面
第2回	現代における日蓮思想の親和性と異質性
第3回	宗教間の衝突をめぐる問題1：諸事例の概観
第4回	宗教間の衝突をめぐる問題2：私たちはどう対処すべきか
第5回	「宗教離れ」の問題1：諸事例の概観
第6回	「宗教離れ」の問題2：私たちはどう対処すべきか
第7回	政治と宗教1：諸事例の概観
第8回	政治と宗教2：私たちはどう対処すべきか
第9回	環境問題
第10回	生命倫理
第11回	ジェンダー問題1：諸事例の概観
第12回	ジェンダー問題2：私たちはどう対処すべきか
第13回	高齢化社会の問題
第14回	現代における日蓮思想の有効性
第15回	まとめ：授業全体の要点確認とレポート講評

【教科書・参考書】

教科書：レジュメ等を使用（「岡田文弘講義関係キャビネット」からダウンロードすること）。参考書：『日蓮聖人の教え』庵谷行亨著（山喜房佛書林）2012年、『法華信仰の道』庵谷行亨（日蓮宗新聞社）1998年、『日蓮聖人の教えと現代社会』庵谷行亨（山喜房佛書林）1993年。

【学生へのメッセージ】

ディスカッション主体の授業にしていきたいので、受講生の皆さんが主体的に問題意識を持つことが求められます。自由に発言がしやすい場となるよう、最大限に努めます。

【オフィスアワー】

随時、メール（ookada(a)min.ac.jp）でアポイントメントを取ってください。

【実務経験】

日蓮宗布教研修所で講師担当経験。社会に還元や貢献のできる日蓮思想の学びを志向します。

年度	区分		分野		
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[J_mnb4] [19] 日蓮学特講Ⅰ				
区分	前期 (15回)	単位	選択 (2)	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	庵谷行遠		オオタニ ギョウオン		otani gyoon [gohtani(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本授業では仏教思想・法華思想に基づいて構築された日蓮思想の考察を、日蓮聖人遺文五大部の一つ『撰時抄』の講読をもって行う。『撰時抄』の講読を通して、本学日蓮学専攻のディプロマ・ポリシーが掲げる日蓮教学を中心とした専門知識を学修し、仏教者として総合的・多角的な知識を身につける。このことはSDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋がる。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
(1)研究文献及び史料の講読を行うことにより読解力を養い、(2)また日蓮聖人の思想的内面を史料より収集、分析する。(3)さらに先行研究に対し論理的思考力を培い、批判的思考力を修得する。本授業と「日蓮学特講Ⅱ」を受講することにより五大部すべての講読を行うこととなり、日蓮聖人の思想の変遷について理解できる。コンピテンシー：読解力、情報収集力、情報分析力、論理的思考力、批判的思考力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
毎回、担当箇所を割り当てて発表を行う。資料 (遺文) などに対する意見・疑問などについて受講者全員でグループディスカッションして考究する。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) として、資料の語句を調べて内容を把握し、発表に備える。事後学修 (2時間以上) として、内容についての読み直しを行い、理解の整理を行う。					
【成績評価 (方法・基準)】					
課題レポート (50%)、授業内発表と質疑応答への積極的な参加 (50%) により総合的に評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	『撰時抄』 解題				
第3回	『撰時抄』 講読 1 仏法と時				
第4回	『撰時抄』 講読 2 五五百歳の経説 1 諸師の料簡				
第5回	『撰時抄』 講読 3 五五百歳の経説 2 法華経広宣流布				
第6回	『撰時抄』 講読 4 五五百歳の経説 3 法華経の行者の受難				
第7回	『撰時抄』 講読 5 正像弘通への指摘 1 正像諸師の弘通				
第8回	『撰時抄』 講読 6 正像弘通への指摘 2 天台大師・伝教大師の弘通				
第9回	『撰時抄』 講読 7 三宗の誤り 1 未弘の秘法と三つの災い				
第10回	『撰時抄』 講読 8 三宗の誤り 2 浄土宗・禅宗・真言宗を破折する				
第11回	『撰時抄』 講読 9 慈覚大師円仁				
第12回	『撰時抄』 講読10 末法の法華経流布と導師 1 三度の高名				
第13回	『撰時抄』 講読11 末法の法華経流布と導師 2 法華経の行者と門下激励				
第14回	『撰時抄』 講読12 不惜身命の折伏弘通				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
テキストについては随時指示する。参考書：『日蓮辞典』宮崎英修編 (東京堂出版) 1978年、『昭和定本日蓮聖人遺文』立正大学日蓮教学研究所編 (身延山久遠寺) 1954年、『妙法蓮華経開結』法華経普及会 (平楽寺書店) 1924年、その他授業の中で適宜紹介する。					
【学生へのメッセージ】					
『撰時抄』の理解を得るために、講義資料に基づいて復習・予習して授業に臨むこと。					
【オフィスアワー】					
令和8年度教員オフィスアワー参照。質問はメール (gohtani(a)min.ac.jp) でも可。					
【実務経験】					
日蓮宗教師としての経験を活かして日蓮学について指導を行う。					

年度	区分		分野		
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[K_mnb4] [21] 日蓮学特講 II				
区分	後期 (15回)	単位	選択 (2)	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	庵谷行遠		オオタニ ギョウオン		otani gyoon [gohtani(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本授業では仏教思想・法華思想に基づいて構築された日蓮思想の考察を、日蓮聖人遺文五大部の一つ『報恩抄』の講読をもって行う。『報恩抄』の講読を通して、本学日蓮学専攻のディプロマ・ポリシーが掲げる日蓮教学を中心とした専門知識を学修し、仏教者として総合的・多角的な知識を身につける。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
本授業受講にて(1)研究文献及び史料の講読を行うことにより読解力を養い、(2)また日蓮聖人の思想的内面を史料より収集、分析する。(3)さらに先行研究に対し論理的思考力を培い、批判的思考力を修得できる。本授業と「日蓮学特講I」を受講することにより五大部すべての講読を行うこととなり、聖人の思想の変遷を理解できる。コンピテンシー：読解力、情報収集力、情報分析力、論理的思考力、批判的思考力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
毎回、担当箇所を割り当てて発表を行う。資料 (遺文) などに対する意見・疑問などについて受講生全員でグループディスカッションし、共有し考える。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) として、資料の語句を調べて内容を把握し、発表に備える。事後学修 (2時間以上) として、内容についての読み直しを行い、理解の整理を行う。					
【成績評価 (方法・基準)】					
課題レポート (50%)、授業内発表と質疑応答への積極的な参加 (50%) により総合的に評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	『報恩抄』 解題				
第3回	『報恩抄』 講読 1 報恩の要旨				
第4回	『報恩抄』 講読 2 報恩のための宗旨				
第5回	『報恩抄』 講読 3 法華経に対する疑難を破す				
第6回	『報恩抄』 講読 4 釈尊の受難				
第7回	『報恩抄』 講読 5 天台大師の呵責謗法と受難				
第8回	『報恩抄』 講読 6 伝教大師の呵責謗法				
第9回	『報恩抄』 講読 7 真言諸師の謗法罪				
第10回	『報恩抄』 講読 8 日蓮聖人の呵責謗法と受難				
第11回	『報恩抄』 講読 9 恩師道善房の死と日蓮聖人の回向				
第12回	『報恩抄』 講読10 法華経の肝心				
第13回	『報恩抄』 講読11 末法流布の三大秘法				
第14回	『報恩抄』 講読12 題目五字の流布				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
テキストについては随時指示する。参考書：『日蓮辞典』宮崎英修編 (東京堂出版) 1978年、『昭和定本日蓮聖人遺文』立正大学日蓮教学研究所編 (身延山久遠寺) 1954年、『妙法蓮華経開結』法華経普及会 (平楽寺書店) 1924年、その他授業の中で適宜紹介する。					
【学生へのメッセージ】					
『報恩抄』の理解を得るために、講義資料に基づいて復習・予習して授業に臨むこと。					
【オフィスアワー】					
令和8年度教員オフィスアワー参照。質問はメール (gohtani(a)min.ac.jp) でも可。					
【実務経験】					
日蓮宗教師としての経験を活かして日蓮学について指導を行う。					

年度	区分		分野		
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[L_mnb3] [23] 日蓮宗の歴史資料【僧階】				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	桑名法晃		クワナ ホウコウ	kuwana hoko [hkuwana(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮教団史・教学史の史料、特に近世初期に京都を中心として活躍した草山元政の著作である『草山要路』を通して、基礎的な史料読解力をつけることを目的とします。この学修は、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋がります。キーワード：日蓮教学、文献学、史料読解					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
本授業を受講することにより、江戸時代に成立した『草山要路』の講読を通して、著作者である元政の心情をくみ取り、近世日蓮教団の展開を理解し、文献史料の読解力を養うことを目標とします。コンピテンシー：読解力、情報収集力、情報分析力、論理的思考力、批判的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
ICTを積極的に活用し、受講生の理解を深めるよう授業を進めます。受講生には毎回課題（テキストの割り当て）を提示し、順次発表（プレゼンテーション）を行ってもらい、その内容についてグループディスカッションを実施します。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回、事前学修および事後学修として、それぞれ2時間以上の学修を必要とします。担当者を定めて発表を行うため、事前学修では、テキストとして用いる文献を精読し、発表の準備を行ってください。事後学修では、発表時に指摘された点を踏まえ、関連文献を参照しながら理解をさらに深めてください。					
【成績評価（方法・基準）】					
発表（60%）、学期末レポート（40%）により総合的に評価します。発表内容については個別指導を行い、レポートについてはコメントを付して返却します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション：近世初期における日蓮教団の展開				
第2回	草山元政の生涯 1				
第3回	草山元政の生涯 2				
第4回	『草山要路』の購読 1：草山要路序				
第5回	『草山要路』の購読 2：起信第一				
第6回	『草山要路』の購読 3：決疑第二				
第7回	『草山要路』の購読 4：持戒第三				
第8回	『草山要路』の購読 5：衣食第四				
第9回	『草山要路』の購読 6：住处第五				
第10回	『草山要路』の購読 7：知識第六				
第11回	『草山要路』の購読 8：誦経第七				
第12回	『草山要路』の購読 9：止静第八				
第13回	『草山要路』の購読 10：志学第九				
第14回	『草山要路』の購読 10：指帰第十				
第15回	全体のまとめ				
【教科書・参考書】					
テキスト：教育リソースを提供します。参考書：『艸山拾遺上巻』梅本正雄編（本満寺）1978年、『草山要路 清らかな生き方』関戸堯海（山喜房仏書林）1997年、『草山要路読解』三木浄達（妙法寺）1993年など。授業中に適宜参考書を紹介していきます。					
【学生へのメッセージ】					
『草山要路』は元政の代表的著作の一つで、元政自身の生き方を象徴するものです。集る門下のために修道の要旨を示し、草山の学風の大本を明らかにしたとされる重要著作です。漢詩文であり、内容も決して平易なものではありませんが、関連資料も多く紹介していきますので、繰り返し読み返し、理解を深めていきましょう。					
【オフィスアワー】					
令和8年度教員オフィスアワーをご参照ください。質問はメール（hkuwana(a)min.ac.jp）でも可。					
【実務経験】					
日蓮宗宗宝霊跡審議会専門員としての実務経験を活かし、日蓮宗の歴史資料に関する知見を教授します。					

年度	区分		分野		
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[M_mnb3] [25] 日蓮聖人真蹟研究【僧階】				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	桑名法晃		クワナ ホウコウ	kuwana hoko [hkuwana(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮聖人の思想と行動を究明する基本的資料が、日蓮聖人が書き遺された「遺文」である。本授業は日蓮聖人の自筆遺文（真蹟）について多角的に学び、日蓮聖人遺文の基礎的知識の修得を目的とする。この学修は、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」およびSDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」に繋がる。 キーワード：日蓮聖人遺文、文献学、古文書学					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
日蓮聖人遺文の内容を総合的に学修することにより、遺文の中で真蹟の持つ意味を理解し、日蓮聖人真蹟遺文の読解力を養うことを目標とする。 コンピテンシー：読解力、論理的思考力、構想力、批判的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
ICTを積極的に活用し受講生の理解に資するよう授業を進めます。授業を通して、日蓮聖人の遺文とは何かという基礎的な学びと、真蹟遺文を読む力を養います。真蹟遺文の読解にあたっては、課題を提示して受講生が発表し、グループディスカッションを行います。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、各回の授業につき、事前・事後学修を合わせて平均4時間程度の学修が必要です。事前学修（約2時間）では、各回の授業内容について、シラバスに記載された教科書・参考書を用いて調査や予習を行い、疑問点を整理します。事後学修（約2時間）では、参考書を活用しながらノートの整理を行い、課題を見いだすと共に、理解を深めて内容の定着を図ります。					
【成績評価（方法・基準）】					
中間レポート課題（40%）、期末課題レポート（60%）で総合的に評価します。レポートについてはコメントを付して返却します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	日蓮聖人遺文の内容1：著作と消息（手紙）				
第3回	日蓮聖人遺文の内容2：函録・要文・写本				
第4回	祖書学とは				
第5回	料紙の使用法と書状の特徴				
第6回	日蓮聖人遺文の蒐集1：中山・身延				
第7回	日蓮聖人遺文の蒐集2：富士・京都				
第8回	日蓮聖人遺文の編集				
第9回	日蓮聖人遺文の継承と伝来1：写本と刊本				
第10回	日蓮聖人遺文の継承と伝来2：編纂				
第11回	真蹟書状1の解題				
第12回	真蹟書状1の講読				
第13回	真蹟書状2の解題				
第14回	真蹟書状2の講読				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：教育リソースを提供します。参考書：『日蓮聖人教学の研究』浅井要麟（平楽寺書店）1945年、『日蓮聖人真蹟集成』全10巻、立正安国会編（法蔵館）1976年、『ご真蹟にふれる』中尾堯（日蓮宗新聞社）1994年、『日蓮聖人書体字典』松本慈恵編（国書刊行会）1991年など。					
【学生へのメッセージ】					
日蓮聖人の教学を理解するためには、御遺文の総合的な理解が欠かせません。また御真蹟を直接拝読することで、『昭和定本日蓮聖人遺文』などの活字遺文集からは知ることのできない多くの情報を得ることができます。繰り返し御真蹟に触れることで、次第に文字も読み取れるようになります。継続して取り組んでいきましょう。					
【オフィスアワー】					
令和8年度教員オフィスアワーをご参照ください。質問はメール（hkuwana(a)min.ac.jp）でも可。					
【実務経験】					
日蓮宗宗宝霊跡審議会専門員としての実務経験を活かし、御真蹟に関する知見を教授します。					

年度	区分				分野		
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目				日蓮学系科目		
講義名	[N_mnb4] [27] 開目抄概説【僧階】						
区分	前期（15回）		単位	必修（2）日蓮学専攻		形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年			
担当教員	都守基一			ツモリ キイチ		tsumori kiichi [tumori(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日蓮聖人が門下への「かたみ」として書き残された『開目抄』について概説し、聖人の行動と思想、とくに法難の意義や宗教的自覚について勉強します。							
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】							
主師親三徳と儒外内三道から説き起こし、寿量文底の一念三千と法華經の行者の自覚を明かした『開目抄』を学ぶことにより、「多様な学問の考え方」と択一的価値観の矛盾的相即を理解し、「批判的思考力」と「論理的思考力」を養うことができる。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
指定の参考書と配布プリントによる講義、およびプレゼンテーションやICT機器を用いた授業を行う。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学修（2時間以上）は、指定参考書による予習、事後学修（2時間以上）は、配布プリントによる復習を行うことを望みます。							
【成績評価（方法・基準）】							
学力確認テスト（80%）、課題発表などの授業への取り組み姿勢（20%）を基準として総合的に評価します。							
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】							
第1回	『開目抄』の概要						
第2回	述作の由来（日蓮聖人と佐渡）						
第3回	大意と構成						
第4回	遺文上の位置						
第5回	主師親三徳						
第6回	儒教と外道						
第7回	諸經と法華經						
第8回	寿量文底の一念三千						
第9回	二乗作仏						
第10回	久遠実成						
第11回	本因本果の法門						
第12回	法華經の難信						
第13回	罪業意識と発願						
第14回	法華經の行者と法難						
第15回	諸天不守護の疑問						
【教科書・参考書】							
教科書：『開目抄私訳』都守基一編（私家版）2025年、『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）1988年。参考書：『日本の仏典9 日蓮』小松邦彰・渡辺宝陽著（筑摩書房）1988年、『開目抄講讀』上・下 茂田井教亨述（山喜房佛書林）1988年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。							
【学生へのメッセージ】							
後期の「開目抄講讀」と併せて受講し、日蓮聖人遺文中の最長編を読了した満足感を味わってほしい。							
【オフィスアワー】							
授業時間の前後に教室または非常勤講師控室にて受け付ける。							
【実務経験】							
常圓寺日蓮仏教研究所主任としての経験を活用した授業を展開します。							

年度	区分				分野
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目				日蓮学系科目
講義名	[O_mnb4] [29] 開目抄講読【僧階】				
区分	後期（15回）		単位	必修（2）日蓮学専攻	
形式	講義				
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	都守基一		ツモリ キイチ		tsumori kiichi [tumori(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮聖人遺文の中で『観心本尊抄』と共に重要とされている『開目抄』の講読を通して、主師親三徳・二乗作仏・久遠実成・一念三千・三大誓願・摂受と折伏など、重要教義についての理解を深める。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
テキスト音読を繰り返すことにより、日蓮聖人遺文のリズムに慣れ、「読解力」「文章表現力」「論理的思考力」の基礎が養われる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
指定の教科書の輪読、配布プリントによる解説と共に、プレゼンテーションやICT機器を用いた授業を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、指定参考書による予習、事後学修（2時間以上）は、配布プリントによる復習を行うことを望みます。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（80%）、課題発表などの授業への取り組み姿勢（20%）を基準として総合的に評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	釈尊と諸菩薩諸天の師弟関係				
第2回	法華経と具足の法門				
第3回	分身諸仏と地涌の菩薩				
第4回	本仏本土の開顕				
第5回	本尊に迷う諸宗				
第6回	一念三千の仏種				
第7回	已今当と六難九易				
第8回	三箇の勅宣と二箇の諫暁				
第9回	三類の強敵				
第10回	念仏宗と禅宗				
第11回	三大誓願				
第12回	滅罪と成仏				
第13回	摂受と折伏				
第14回	三仏の慈悲とその継承				
第15回	プレゼンテーション（『開目抄』について自分の考えを発信しよう）				
【教科書・参考書】					
教科書：『開目抄私訳』都守基一編（私家版）2025年、『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）1988年。参考書：『日本の仏典9 日蓮』小松邦彰・渡辺宝陽著（筑摩書房）1988年、『開目抄講讀 上・下』茂田井教亨述（山喜房佛書林）1988年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
前期の「開目抄概説」と併せて受講し、大事なものを見失っている人々の「目」を「開」かせようとして法難を耐え忍んだ日蓮聖人のお心を感じてほしい。					
【オフィスアワー】					
授業時間の前後に教室または非常勤講師控室にて受け付ける。					
【実務経験】					
常圓寺日蓮仏教研究所主任としての経験を活用した授業を展開します。					

年度	区分	分野
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目	日蓮学系科目

講義名	[P_mnb5] [31] 観心本尊抄概説【僧階】
-----	---------------------------

区分	前期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
----	---------	----	------------	----	----

授業年次	--	--	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	桑名法晃	クワナ ホウコウ	kuwana hoko [hkuwana(a)]
------	------	----------	--------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

本授業では、日蓮聖人遺文の中でも最も重要とされる『観心本尊抄』の概要について学修します。具体的には、対告者、述作由来、遺文中における位置づけ、要旨など、『観心本尊抄』に関する基本的事項を概説します。これらの学修を通して、仏教者として必要とされる総合的・多角的な知識の修得を目指します。 キーワード：観心本尊抄、日蓮聖人、述作由来

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

法開頭の書とされている『観心本尊抄』の概要を総合的に理解することにより、日蓮教学における『観心本尊抄』の位置づけと重要性を把握し、自発的に考察を深め、自身の考えを発表する力を養うことを目標とします。 コンピテンシー：情報分析力、読解力、会話力、文章表現力、口頭発表力、論理的思考力

【授業方法（フィードバックの内容）】

講義を通して、『観心本尊抄』の内容をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表（プレゼンテーション）し、全員で意見交換（ディスカッション）をおこないます。オープンな教育リソースを活用して理解を深め学修の成果を発信します。

【授業外学修の方法（時間数）】

この授業では、各回の授業につき、事前・事後学修を合わせて平均4時間程度の学修が必要です。事前学修（約2時間）では、各回の授業内容について、シラバスに記載された教科書・参考書を用いて調査や予習を行い、疑問点を整理します。事後学修（約2時間）では、参考書を活用しながらノートの整理を行い、課題を見いだすと共に、理解を深めて内容の定着を図ります。

【成績評価（方法・基準）】

学力確認テスト（80%）、課題発表（授業中に課題に関する学修成果を発表）・意見交換（発表者に対する質問や意見）などの授業への取り組み姿勢（20%）を基準として総合的に評価します。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	オリエンテーション
第2回	『観心本尊抄』の概要
第3回	『観心本尊抄』の真蹟・写本
第4回	『観心本尊抄』述作の由来
第5回	『観心本尊抄』の題号
第6回	『観心本尊抄』の大意
第7回	『観心本尊抄』の構成
第8回	『観心本尊抄』の遺文上の位置 1
第9回	『観心本尊抄』の遺文上の位置 2
第10回	『観心本尊抄副状』
第11回	『観心本尊抄』の要文 1
第12回	『観心本尊抄』の要文 2
第13回	『観心本尊抄』全文の音読 1
第14回	『観心本尊抄』全文の音読 2
第15回	観心本尊抄概説のまとめ

【教科書・参考書】

教科書：『昭和定本日蓮聖人遺文集』立正大学日蓮教学研究所編（総本山身延久遠寺）1988年もしくは『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（総本山身延山久遠寺）2008年。参考書：『観心本尊抄・仏典講座』38 浅井円道著（大蔵出版）1982年、『本尊抄講讀』上・中・下 茂田井教亨述（山喜房佛書林）1987年、『観心本尊抄の世界』上 庵谷行亨著（日蓮宗新聞社）2022年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。

【学生へのメッセージ】

後期の観心本尊抄講読と併せて履修し、「身に当たっての大事」とされる『観心本尊抄』について信解体得されることを望みます。

【オフィスアワー】

令和8年度教員オフィスアワーをご参照ください。質問はメール（hkuwana(a)min.ac.jp）でも可。

【実務経験】

日蓮宗教師としての経験を活かし、信解に重きをおいた授業を展開します。

年度	区分		分野		
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[Q_mnb5] [33] 観心本尊抄講読【僧階】				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	桑名法晃		クワナ ホウコウ	kuwana hoko [hkuwana(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮聖人遺文の中で最も重要とされている『観心本尊抄』の講読を通して、観心・十界互具・受持譲与・本尊などの日蓮教学の基本的事項について学修します。『観心本尊抄』の学修を通して仏教者としての総合的・多角的知識を身につけます。キーワード：観心本尊抄、日蓮聖人、観心、本尊					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
『観心本尊抄』を講読することにより、『観心本尊抄』の内容を体系的に理解し、主体的に考察を深め、自身の意見を発表する力を養うことを目標とします。コンピテンシー：情報分析力、読解力、会話力、文章表現力、口頭発表力、論理的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講読を通して、『観心本尊抄』の内容をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表（プレゼンテーション）し、全員で意見交換（ディスカッション）をおこないます。オープンな教育リソースを活用して理解を深め学修の成果を発信します。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、各回の授業につき、事前・事後学修を合わせて平均4時間程度の学修が必要です。事前学修（約2時間）では、各回の授業内容について、シラバスに記載された教科書・参考書を用いて調査や予習を行い、疑問点を整理します。事後学修（約2時間）では、参考書を活用しながらノートの整理を行い、課題を見いだすと共に、理解を深めて内容の定着を図ります。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（80%）、課題発表（授業中に課題に関する学修成果を発表）・意見交換（発表者に対する質問や意見）などの授業への取り組み姿勢（20%）を基準として総合的に評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	摩訶止観結成理境の文				
第2回	一念三千の名目出処				
第3回	百界千如と一念三千との相違				
第4回	理具十界の文証・現証				
第5回	人界具仏界の難信と現証				
第6回	事具の一念三千				
第7回	受持と譲与				
第8回	不常住の依正				
第9回	三千常住と本門の肝心				
第10回	本尊の相貌				
第11回	流通の時は末法を正意とす				
第12回	本化の菩薩を末法流通の師とす				
第13回	今末法の初に本化出現して、本門題目と本門本尊を流通す				
第14回	総結				
第15回	観心本尊抄講読のまとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『昭和定本日蓮聖人遺文集』立正大学日蓮教学研究所編（総本山身延久遠寺）1988年もしくは『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（総本山身延山久遠寺）2008年。参考書：『観心本尊抄・仏典講座38』浅井円道（大蔵出版）1982年、『本尊抄講讀』上・中・下 茂田井教亨述（山喜房佛書林）1987年、『観心本尊抄の世界』上 庵谷行亨（日蓮宗新聞社）2022年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
前期の観心本尊抄概説と併せて履修し、「身に当たっての大事」とされる『観心本尊抄』について信解体得されることを望みます。					
【オフィスアワー】					
令和8年度教員オフィスアワーをご参照ください。質問はメール（hkuwana(a)min.ac.jp）でも可。					
【実務経験】					
日蓮宗教師としての経験を活かし、信解に重きをおいた授業を展開します。					

年度	区分				分野
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教学系科目
講義名	[A_mbs2] [01] サンスクリット語				
区分	後期 (15回)		単位	選択 (2)	形式 講義と演習
授業年次	1年	2年	3年	--	
担当教員	塩田宝樹		シオタ ホウジュ		shiota hoju [shiota(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>サンスクリット語のテキストを読むための基礎力を獲得するために必要な文法力と語彙力を養うことを目的とします。文法の説明は講義形式で行い、その後に演習形式で短文を和訳してもらいます。サンスクリット語の学習やそれに関連するインドの歴史・文化、仏教経典を学修することによって、SDGs5の目標「ジェンダー平等を実現しよう」、SDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」、SDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」に繋がります。 キーワード：サンスクリット語、文法、原典</p>					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
<p>中期インド・アリア語に属する標準的なパーニニ文法に基づく名詞などの格変化、動詞の語尾変化など基本的な文法事項を修得して、サンスクリット語仏典講読のための基礎力を身につけてもらいます コンピテンシー：外国語リテラシー、異文化理解、読解力</p>					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
<p>テキストの文法解説を行いながら、練習問題を解いてもらいます。最初は教員が解答の解説を行いますが、途中からは受講生が板書をして、自らその解を示してもらいます。一方的に情報を提供するのではなく、受講生と対話しながら授業を進めていきたいと思っておりますので、積極的に質問等をしてください。また、アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーの提出も求めます。学習した内容や授業で理解できなかったことを時間内で手短かにまとめて提出してください。次週の授業でフィードバックを行います。</p>					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
<p>毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行ってください。1日にまとめて学修するより、毎日短時間学修することをお勧めします。粘り強く、地道に頑張ろう。身体的な学修方法については授業内で指示します。主に、学んだ文法事項を的確に運用できるか確認するための練習問題を解くことを課題として課します。</p>					
【成績評価 (方法・基準)】					
<p>授業参加の様子 (30%、授業内のリアクションペーパー)、課題への取り組み (30%、予習・復習のための課題)、学力確認テスト (40%、筆記試験もしくは期末課題レポート) を総合的に評価する。</p>					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ガイダンス：サンスクリット語とは何か、文字と発音				
第2回	サンスクリット語の品詞、動詞1：語幹の作り方、人称、数、態など				
第3回	動詞2：法、直接法現在の活用など、名詞1：格				
第4回	名詞2：母音語幹の活用 (a-語幹など)				
第5回	名詞3：母音語幹の活用 (u-語幹など)				
第6回	名詞4：子音語幹の活用				
第7回	形容詞、数詞				
第8回	代名詞				
第9回	動詞3：第1種活用				
第10回	動詞4：第2種活用				
第11回	動詞5：第二次活用				
第12回	動詞6：アオリスト、完了				
第13回	動詞7：完了と使役、条件法				
第14回	動詞8：分詞など				
第15回	まとめ：原典を読んでみよう				
【教科書・参考書】					
<p>教科書：教育リソースを提供する。参考書：『サンスクリット語初等文法』J. ゴンダ著、辻直四郎校閲、鎧淳訳 (春秋社) 1974年、『サンスクリット文法』辻直四郎著 (岩波全書) 1974年、『新・サンスクリットの基礎』上・下、菅沼晃著 (平河出版社) 1994-1997年など。辞書：『漢訳対照梵和大辞典 (増補改訂版)』荻原雲来編纂 (講談社) 1979年など。</p>					
【学生へのメッセージ】					
<p>語学は一朝一夕では修得できません。日々地道に取り組んでいきましょう。授業はできる限り出席すること。サンスクリット語が少しでも読めるようになると、仏教学の面白さが格段に増すと思います。頑張ってください。</p>					

【オフィスアワー】

授業の前後や出講日の休み時間など、できる限り対応します。質問や相談が長くなりそうであれば、予めメールでアポイントメントを取ってください。

年度	区分	分野
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目	仏教学系科目

講義名	[B_mbs2] [03] 漢文
-----	------------------

区分	後期 (15回)	単位	選択 (2)	形式	講義
----	----------	----	--------	----	----

授業年次	1年	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	桑名貫正	クワナ カンショウ	kuwana kansyo [kkuwana(a)]
------	------	-----------	----------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

漢文は中国語という外国語で、中国の純粋な記載言語としての文語文であるが、その形を模倣した日本人の文章も含む。仏教漢文の法華経要文を繰り返し訓読することにより、句読点・返り点・送りがな・読まない文字・二度読む文字・返読文字等の読解力を自然に修得させ、受講生がより漢文に慣れ親しむことができるよう、その要文の内容について解説を行う。

【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】

仏教を研究する上で、漢文体で書かれた仏教文献が多く、漢文読解力は仏書研究上、必要不可欠である。そこで、漢文学修の基礎として、私達が手にしている妙法蓮華経を中心に学修し、漢文に慣れ親しみ、漢文読解力・文章表現力を身につけることを授業の目標とする。コンピテンシー：異文化理解、外国語リテラシー、情報分析力、読解力、文章表現力、論理的思考力、構想力、実行力

【授業方法 (フィードバックの内容)】

妙法蓮華経の要文をテキストとし、漢文の訓読を反復することを中心として、その要文の内容理解を深め、漢文に慣れ親しむ。繰り返し訓読を重ねることにより、漢文読解の力が養えられる。また要文・語句の理解のためにディスカッションをしながら、漢文の訓読の訓練に重点を置き習練する。

【授業外学修の方法 (時間数)】

事前学修は、各回の講義内容・テキストの配布資料により、事前学修を2時間以上行うこと。事後学修は、配布資料に基づき授業の復習を2時間以上行うこと。

【成績評価 (方法・基準)】

授業内の漢文読解修得度テスト (50%)、授業への取り組み状況 (50%) も重視する。

【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】

第1回	序品第一の要文・文殊師利菩薩と弥勒菩薩との修行の相違
第2回	方便品第二の要文・諸法実相の内容
第3回	方便品第二の要文・諸仏の世に出現する理由
第4回	譬喩の要文・成仏の理解
第5回	法師品第十の要文・成仏の方法 末法悪世に生まれた理由・衣座室の修行
第6回	提婆達多品第十二の要文・悪人成仏と女人成仏
第7回	勸持品第十三の要文・二十行の偈
第8回	如来寿量品第十六の要文・娑婆の本国土性の開頭
第9回	如来寿量品第十六の要文・良医良薬の譬え 毎自の悲願
第10回	分別功德品第十七の要文・仏の寿命の聞説の功德 一念信解の功德
第11回	常不軽菩薩品第二十の要文 但行礼拝
第12回	如来神力品第二十一の要文 別付嘱・四句の要法
第13回	観世音菩薩普門品第二十五の要文 供養の真意 観音の名前の因縁
第14回	普賢菩薩勸発品第二十八の要文 四法成就等
第15回	まとめ

【教科書・参考書】

教科書：本山頂妙寺蔵版『妙法蓮華経 (改正訓点・句読・清濁)』(平楽寺書店)2004年。プリントを配布する。参考書：法華経普及会編『真訓両読 妙法蓮華経並開結』(平楽寺書店)2000年、岩波文庫『法華経 上・中・下』坂本幸男・岩本裕訳注(岩波書店)1997年。

【学生へのメッセージ】

これまで、漢文に接する機会はありませんでしたが、反復練習をすれば、容易にそのコツが得られ、日蓮学専攻専門科目のレポート・卒業論文等において大いに役立つであろう。

【オフィスアワー】

授業時間の前後に教室にて対応する。

【実務経験】

宗教法人妙法寺代表役員・布教師としての経験から、漢文経典の読解法について教授します。

年度	区分		分野		
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目		仏教学系科目		
講義名	[C_mbs2] [05] チベット語《遠隔授業》				
区分	前期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	槇殿伴子		マキドノ トモコ		makidono tomoko [tomokomakidono(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
チベットの文字とチベット語の基礎的文法を講義する。それと共に、簡単なチベット文を解説することで、自分一人でチベット語仏典を講読する方法を解説する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
チベット語の基礎文法を修得することにより、(1)チベットの「異文化を理解」し、(2)チベット語の「外国語リテラシー」を獲得し、(3)チベット語文章の「読解力」を獲得することができる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
この授業は同時双方向型（ライブ配信）の遠隔授業（15回）である。教科書に従って、チベット語文法の基礎を学ぶ。ただし、チベット語のできない学生には、教科書の和訳を用意する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、シラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。事後学修（2時間以上）は、学修した文字・単語を覚え、講義内容の理解を含め次回に備えること。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポート（30%）、授業への取り組み（70%）で評価を行う。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション / チベット文字				
第2回	チベット語の綴り字				
第3回	名詞				
第4回	助詞				
第5回	動詞 1				
第6回	動詞 2				
第7回	代名詞				
第8回	動詞 3				
第9回	継続用法				
第10回	譲歩				
第11回	引用				
第12回	関係詞節				
第13回	命令法				
第14回	尊敬語				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：A Primer for Classical Literary Tibetan. Vol 1. Grammar. Second Edition. Rockwell, John Jr. 1991. 参考書：Manual of Standard Tibetan: Language and Civilization. Nicolas Tournadre & Sangda Dorje. Ithaca, New York, Boulder, Colorado: Snow Lion. 『チベット語初等文法（新訂版）』高橋尚夫・前田亮道・倉西憲一・吉澤秀和（大正大学出版会）2021年、H.A. イェシュケ編 『蔵英辞典』（臨川書店）1987年。					
【学生へのメッセージ】					
チベット語を身につけることは、チベット語文献を読むためや、チベット旅行を容易にするための手段である。チベット語に興味があるだけでは、学修が続かないので、明確な目的をもって学んでもらいたい。					
【オフィスアワー】					
随時、メール（tomokomakidono(a)min.ac.jp）でアポイントメントを取ってください。					
【実務経験】					
高等教育機関で9年間の指導経験を有する					

年度	区分			分野	
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目	
講義名	[D_mbs3] [07] 大乘仏教概論【僧階】				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	望月海慧		モチヅキ カイエ		mochizuki kaie [imochi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
インドにおいて仏教の改革運動として誕生した大乘仏教についてその成立から展開までを講義する。具体的には、様々な大乘経典から論書への展開を経て金剛乘に至るインド仏教の思想的変遷を解説する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
インドにおける大乘仏教の展開を理解することにより、仏教の改革運動から其滅亡までの歴史を理解し「情報収集力」、インドにおけるヒンドゥーとの融合と東アジアへの流布の背景を分析し「情報分析力」、インドにおける仏教思想の展開を総合的に理解する「論理的思考力」ことができる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義であるから、教科書として用いるテキストに従って講義をしていく。それゆえにノートに要点を筆記することに終始することになるであろう。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、テキストをあらかじめ読んできて、問題点を明らかにして仏教辞典などを用いて予習をしておくこと。事後学修（2時間以上）は、講義内容を整理して、次回との関連を明らかにしておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（70%）、授業への取り組み（30%）で評価を行う。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	大乘仏教とは何か				
第2回	大乘仏教起源論				
第3回	上座部仏教と大乘仏教				
第4回	戒律と教団				
第5回	菩薩思想				
第6回	般若経				
第7回	華嚴経				
第8回	法華経				
第9回	浄土経典				
第10回	中観思想				
第11回	瑜伽行唯識思想				
第12回	如来蔵思想				
第13回	仏教論理学				
第14回	密教				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎 1 インド編』大正大学仏教学部編（大正大学出版会）2016年。参考書：『シリーズ大乘仏教 全10巻』桂紹隆他編（春秋社）2011年、『講座・大乘仏教 全10巻』平川彰他編（春秋社）1981年。					
【学生へのメッセージ】					
日本に伝わった仏教が、本来はどのような姿だったのかを考えながら、インドの仏教を理解してもらいたい。					
【オフィスアワー】					
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限					
【実務経験】					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授した経験を活かして授業を行います。					

年度	区分				分野
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教学系科目
講義名	[E_mbs3] [09] 中国仏教概論【僧階】				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	諏訪是隆		スワ ゼリユウ		suwa zeryu [suwa(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日本仏教を理解するには、仏教の東漸についての知識を必須である。なかでも、中国においての格義に代表される特異な受容と発展は日本仏教の展開に大きな影響を与えている。その伝来と転換の歴史を概観することで、学生諸君の仏教理解、またその背景にある国家的思想を読み解くことを目的とする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
中国仏教を概観することにより、現時点での仏教、天台教学、日蓮聖人の教えをどの程度理解し、自分のものになっているかを確認することを目標にします。その上で学生諸君が一個人として何を学び、何を道標にするのが深く考えることを目指します。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義形式を中心としますが、学生諸君との双方向的な対話形式をとります。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
常に何、なぜかを念頭におき、大学生活の中、日常において、思想が人間に与える影響を考えて講義に臨んでください。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（50%：発言回数やワークの成果物など）、レポート（50%：理解度、認識力、創造力、最終講義提出）を評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス / 仏教の伝来と需要				
第2回	仏教の中国伝播（後漢）				
第3回	魏・晋の仏教－格義仏教－				
第4回	五胡十六国の仏教				
第5回	江南東晋の仏教				
第6回	南北朝の仏教－隋・唐仏教の背景－				
第7回	諸学派の興隆と発展				
第8回	仏教の社会的発展				
第9回	隋代の仏教				
第10回	隋代の諸宗				
第11回	唐代の仏教				
第12回	唐代の諸宗				
第13回	仏教の転換期				
第14回	異民族支配下の仏教				
第15回	明・清以後の仏教 / 学期末レポート提出				
【教科書・参考書】					
参考書：『中国仏教史』鎌田茂雄（大東出版社）					
【学生へのメッセージ】					
身延山大学に縁ある学生の皆さんは、日蓮聖人について少なからず知識を持ち合わせ、日蓮聖人の教えが中国天台宗の教学に依拠するところが大きいことを理解されていると思います。その天台教学を生み出した中国仏教の歴史に触れることは、日蓮聖人の教えを理解する一助となります。講義を通して、天台や日蓮聖人の教えに触れ、感動できれば幸いと考えています。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室や非常勤講師控室にて対応します。					

年度	区分				分野
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教学系科目
講義名	[F_mbs3] [11] 日本仏教概論【僧階】				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	4年	
担当教員	塩田宝樹		シオタ ホウジュ		shiota hoju [shiota(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
紀元前5世紀、釈尊によって開かれた仏教は、中央アジアや中国、朝鮮半島を經由して6世紀に日本へ伝播した。本授業では、仏教伝来してから明治期までの日本における仏教の歴史を中心に概説する。日本における仏教や文化、歴史を学修することによって、SDGs5の目標「ジェンダー平等を実現しよう」、SDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」に繋がる。キーワード：日本、仏教、仏教史					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
日本に伝来した仏教がどのように社会に定着し、日本社会に展開していったのか理解することを到達目標とする。仏教史を学び、資料を講読することにより、「論理的思考力」「構想力」「読解力」が身につく。コンピテンシー：多様な学問の考え方、情報収集力、情報分析力、読解力、文章表現力、論理的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義形式で行うが、ディスカッション・ディベートを積極的に行いたいと思います。こちらの問いかけに対してリアクションするだけでなく、積極的に質問してください。また毎時間リアクションペーパーの提出を求めます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行ってまいります。事前学修：参考文献等の通読。事後学修：授業ノートの整理と学修内容の確認。詳細については授業で説明します。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業参加態度（40%、授業内のリアクションペーパー）、課題レポート（60%）を目安に、総合的に評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス				
第2回	古代仏教：仏教伝来				
第3回	古代仏教：聖徳太子と飛鳥文化				
第4回	奈良仏教：国分寺と東大寺				
第5回	奈良仏教：律令制下の仏教				
第6回	平安仏教：天台真言宗の成立				
第7回	鎌倉仏教：浄土系の展開				
第8回	鎌倉仏教：禅系の展開				
第9回	鎌倉仏教：法華系の展開				
第10回	室町仏教：禅宗の展開と教団一揆				
第11回	安土桃山仏教：織豊政権と仏教				
第12回	江戸仏教：幕藩体制と仏教				
第13回	江戸仏教：庶民仏教の展開				
第14回	明治仏教：神仏分離と廃仏毀釈				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：教育リソースを提供する。参考書：『日本仏教史：思想史としてのアプローチ』末木文美士（新潮社）2017年、『日本仏教史年表』平岡定海他（雄山閣）1999年、『図説日本仏教の歴史』飛鳥時代・平安時代・鎌倉時代・室町時代・江戸時代・明治時代（佼成出版社）1996年、『日本仏教史辞典』大野達之助編（東京堂出版）1979年、『日本仏教史 10巻』辻善之助（岩波書店）1969年。					
【学生へのメッセージ】					
仏教通史で学修した内容は修得済みであるという前提で講義を行うため、仏教通史の履修を済ませてください。各地域仏教概論と併せて学修することで、仏教への理解が深まります。					
【オフィスアワー】					
オフィスアワーや授業の前後、出講日の休み時間など、できる限り対応します。質問や相談が長くなりそうであれば、予めメールでアポイントメントを取ってください。					

年度	区分				分野
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教学系科目
講義名	[G_mbs3] [13] 東南アジア仏教概論				
区分	後期 (15回)	単位	選択 (2)		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	4年	
担当教員	塩田宝樹		シオタ ホウジュ		shiota hoju [shiota(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
インドからスリランカを経由して、東南アジア全域に広がっていった上座部仏教の歴史について概観する。スリランカ・東南アジア地域における仏教や文化、歴史を学修することによって、SDGs5の目標「ジェンダー平等を実現しよう」、SDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」、SDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」に繋がる。キーワード：東南アジア、上座部仏教、南伝仏教					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
大乘仏教とは違った発展をしている東南アジア仏教国について、思想的な特徴を認識し、歴史の変遷を理解し、その上で各国の現代仏教事情を儀礼と習俗、政治と仏法との関係から論じられるようになることを目的とする。コンピテンシー：多様な学問の考え方、異文化理解、外国語リテラシー、情報収集力、情報分析力、読解力、文章表現力、論理的思考力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
講義形式で行うが、ディスカッション・ディベートを積極的に行いたいと思います。こちらの問いかけに対してリアクションするだけでなく、積極的に質問してください。Googleフォームを用いたリアクションペーパーの提出を求めます。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行ってまいります。事前学修：参考文献等の通読。事後学修：授業ノートの整理と内容の確認。詳細については授業で説明します。					
【成績評価 (方法・基準)】					
授業参加態度 (40%、授業内のリアクションペーパー)、課題レポート (60%) を目安に、総合的に評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ガイダンス、仏教の成立とサンガの発展				
第2回	三蔵の成立とサンガの分裂、部派仏教へ				
第3回	スリランカ仏教史1：スリランカの現状、スリランカへの伝播				
第4回	スリランカ仏教史2：無畏山寺派と祇多林寺派				
第5回	スリランカ仏教史3：大乘仏教の進出				
第6回	スリランカ仏教史4：ブッダゴーサによる教理確立				
第7回	スリランカ仏教史5：ブッダゴーサ以降の僧侶たち				
第8回	スリランカ仏教史6：サンガ統廃合後のスリランカ仏教				
第9回	ミャンマー仏教史1：ミャンマーの現状、ミャンマーへの伝播				
第10回	ミャンマー仏教史2：ミャンマーにおけるサンガの成立				
第11回	ミャンマー仏教史3：王権とサンガの関係、近代以降のミャンマー仏教				
第12回	タイ仏教史1：タイの現状、タイ地域への伝播				
第13回	タイ仏教史2：タイ系民族の建国と上座部仏教				
第14回	タイ仏教史3：中世以降のタイ仏教				
第15回	東南アジア他地域における仏教、まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：教育リソースを提供する。参考書：『上座仏教事典』パリー学仏教文化学会上座仏教事典編集委員会編 (めこん) 2016年、『静と動の仏教』奈良康明・下田正弘編 (佼成出版社) 2011年。					
【学生へのメッセージ】					
仏教通史で学修した内容は修得済みであるという前提で講義を行うため、仏教通史の履修を済ませてください。各地域仏教概論と併せて学修することで、仏教への理解が深まります。					
【オフィスアワー】					
オフィスアワーや授業の前後、出講日の休み時間など、できる限り対応します。質問や相談が長くなりそうであれば、予めメールでアポイントメントを取ってください。					
【実務経験】					
タイをはじめとする東南アジア各国における研修経験を活用した授業を展開します。					

年度	区分				分野
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教学系科目
講義名	[H_mbs3] [15] チベット仏教概論《遠隔授業》				
区分	後期（15回）		単位	選択（2）	
形式	講義				
授業年次	--	2年	3年	4年	
担当教員	楨殿伴子		マキドノ トモコ		makidono tomoko [tomokomakidono(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
チベットに伝えられた仏教伝承から、チベット仏教の各宗派の歴史と思想、および内陸アジアにおける展開について解説する。本授業の教科書には、マシュー・カプスタイン著『Tibetan Buddhism』を採用し、その内容に基づいて、チベット仏教の思想史と教義史を中心に概説する。一般的に、日本におけるチベット仏教についての学問は論理学派に偏重して行われてきているが、本授業では、修禅学派を中心に解説し、教科書も修禅学派の視点を取り入れた教科書を選定した。そのことは本授業の特徴であり、従来の学問の偏重にバランスを取った視点でチベット仏教を概観することを目的とする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
チベットの仏教を理解することで、ヒマラヤ北部地域における仏教文化の特色を理解し「地域理解」、他地域の仏教文化との相違を知ることができ「異文化理解」、今は滅びてしまったインドの大乗仏教の特色を理解する「情報収集力」ができる。チベット仏教の瞑想学派の理解を深めることで、日本仏教を含む東アジア仏教全体の仏教思想史を俯瞰し、より深く理解できるようになることを目的とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
この授業は同時双方向型（ライブ配信）の遠隔授業（15回）です。教科書に従って、チベット仏教を講義する。英文の教科書を読みこみ、毎週、学生さんが主体的に発表することで授業を進めていきます。割り当てられた箇所を丁寧に予習し、積極的な授業への参加を期待します。教科書が英文で書かれているため、その内容の理解には、英語力が必須ですが、語学力に関わらず、講義では、解説を十分にいきます。興味があれば授業外学修が可能なように配慮します。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、テキストをあらかじめ読んできて、問題点を明らかにして仏教辞典などを用いて予習をしておくこと。事後学修（2時間以上）は、講義内容を整理して、次回との関連を明らかにしておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポート（20%）、授業への取り組み（80%）で評価を行う。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション：チベットの死者の書				
第2回	神々・鬼神・人間世界				
第3回	チベットにおける神仏習合				
第4回	浄化法に見るチベット仏教の諸相				
第5回	前伝期チベット仏教1 ソンツェンガムボ王				
第6回	前伝期チベット仏教2 サムイェの宗論とその影響				
第7回	埋蔵経（テルマ）：修禅学派における役割				
第8回	後伝期チベット仏教を理解するためのキー・コンセプト：心・空性・如来蔵・自心仏（修禅学派の解釈を中心に）				
第9回	アティシャと観自在信仰				
第10回	2つのカダム宗				
第11回	『宝性論』の二つの解釈学派：修禅学派と論理学派				
第12回	チベット仏教の諸宗派：特に修禅を重視する宗派について				
第13回	リメ運動				
第14回	今日のチベット仏教				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：Kapstein, Matthew T. 2014. 『Tibetan Buddhism: A Very Short Introduction』 New York : Oxford University Press. 参考書：Ian A. Baker. 2019. 『Tibetan Yoga: Principles and Practices』 London: Thames & Hudson. van Schaik, Sam. 2011. Tibet: A History. New Haven and London: Yale University Press. 『新アジア仏教史09チベット 須弥山の仏教世界』（佼成出版社）2010年、『チベット仏教思想史』望月海慧（身延山大学）1998年、『原典訳チベットの死者の書』川崎信定（ちくま学芸文庫）1993年。その他：『NHK スペシャルチベット死者の書』（DVD）、『Seven Years in Tibet』（DVD）、『Kundun』（DVD）					
【学生へのメッセージ】					
授業では映像を取り入れ、視覚的にチベット仏教文化の理解を深めます。チベット仏教は現在も存在する仏教なので、実際にチベットの僧院を訪問し、どのような仏教なのかを体験してもらいたい。					

【オフィスアワー】

随時、メール (tomokomakidono(a)min.ac.jp) にてアポイントメントを作ってください。

【実務経験】

高等教育機関で9年間の指導経験を有する

年度	区分		分野	
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目		仏教学系科目	
講義名	[l_mbs2] [17] 中国天台学【僧階】			
区分	前期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--
担当教員	庵谷行遠		オオタニ ギョウオン	otani gyoon [gohtani(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
日蓮教学の土台を支える天台教学について詳究する。日蓮聖人は天台教学に立脚して自身の教理を構築した。従って、日蓮宗の僧階を取得するにおいて、天台学を理解することは欠かせない。本学日蓮学専攻のディプロマ・ポリシーが掲げる日蓮教学を中心とした専門知識を学修し、仏教者として総合的・多角的な知識を身につける。これはSDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋がる。 キーワード：天台三大部、法華経、一念三千				
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】				
(1)日蓮学の根幹をなす天台学を修めることにより、日蓮学専攻科目の総理解を深ることができる。(2)天台学の論理的思考力を応用し、本学の教育方針である「行学二道」に対し、自ら計画を立てて能動的に取り組める。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、読解力、論理的思考力				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
参考書と配布プリント（適宜）によって講義を進める。授業で解説した概念について、その場でディスカッションを行い、理解を深める。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
この授業では、毎回の授業ごとに事前・事後学修を合わせて平均4時間程度の学修を行う。事前学修（約2時間）では、授業計画を確認し、次回の講義で扱うキーワード（例：一念三千）について辞書や参考書を用いて調べ学修を行う。事後学修（約2時間）では、資料を読み直し、講義内容の理解を深め次回に備える。				
【成績評価（方法・基準）】				
学期末課題レポート（70%）、授業内発表と質疑応答への積極的な参加（30%）により総合的に評価する。				
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】				
第1回	ガイダンス / 中国天台学の研究法と参考書			
第2回	天台大師智顛			
第3回	天台三大部 キーワード：法華玄義、法華文句、摩訶止観			
第4回	天台教学の根本構造 キーワード：一心三観、三惑、三諦、三智			
第5回	天台宗の歴史と思想 キーワード：四種三昧			
第6回	天台教学とはなにか キーワード：教観二門			
第7回	教相門1 キーワード：三種教相			
第8回	教相門2 キーワード：五時と五味			
第9回	教相門3 キーワード：化儀の四教、化法の四教			
第10回	教相門4 キーワード：行位、六即			
第11回	教相門5 キーワード：仏身、仏土			
第12回	観心門1 キーワード：三種止観、五略十広			
第13回	観心門2 キーワード：方便、正修			
第14回	観心門3 キーワード：一念三千			
第15回	中国天台学の総括			
【教科書・参考書】				
教科書：指定なし。参考書：『昭和校訂天台四教儀』関口真大校訂（山喜房佛書林）1935年、『天台思想入門：天台宗の歴史と思想』鎌田茂雄著（講談社）1984年。辞典類：『日蓮宗新・電子聖典 日蓮宗事典』（日蓮宗wiki版）2021年、『日蓮聖人遺文辞典（教学篇）』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）2003年。				
【学生へのメッセージ】				
中国天台学の理解を得るために、講義資料に基づいて復習・予習して授業に臨むこと。				
【オフィスアワー】				
令和8年度教員オフィスアワー参照。質問はメール（gohtani(a)min.ac.jp）でも可。				
【実務経験】				
日蓮宗教師としての経験を活かして中国天台学について指導を行う。				

年度	区分	分野
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目	仏教学系科目

講義名	[J_mbs2] [19] 日本天台学【僧階】
-----	-------------------------

区分	後期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
----	---------	----	------------	----	----

授業年次	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	庵谷行遠	オオタニ ギョウオン	otani gyoon [gohtani(a)]
------	------	------------	--------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

日蓮教学の土台を支える天台教学について詳究する。日蓮聖人は天台教学に立脚して自身の教理を構築した。従って、日蓮宗の僧階を取得するにおいて、天台学を理解することは欠かせない。本学日蓮学専攻のディプロマ・ポリシーが掲げる日蓮教学を中心とした専門知識を学修し、仏教者として総合的・多角的な知識を身につける。これはSDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋がる。 キーワード：最澄、比叡山、法華経

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

日本天台宗の成立・展開を理解し、その後の鎌倉仏教への影響を批判的に考察できる。(1)日蓮学の根幹をなす天台学を修めることにより、日蓮学専攻科目の総理解を深めることができる。(2)天台学の論理的思考力を応用し、本学の教育方針である「行学二道」に対し、自ら計画を立てて能動的に取り組める。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、読解力、論理的思考力、批判的思考力

【授業方法（フィードバックの内容）】

参考書と配布プリント（適宜）によって講義を進める。授業で解説した概念について、その場でディスカッションを行い、理解を深める。

【授業外学修の方法（時間数）】

この授業では、毎回の授業ごとに事前・事後学修を合わせて平均4時間程度の学修を行う。事前学修（約2時間）では、授業計画を確認し、次回の講義で扱うキーワード（例：密教）について辞書や参考書を用いて調べ学修を行う。事後学修（約2時間）では、資料を読み直し、講義内容の理解を深め次回に備える。

【成績評価（方法・基準）】

学期末課題レポート（70%）、授業内発表と質疑応答への積極的な参加（30%）により総合的に評価する。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	ガイダンス 日本仏教における天台学
第2回	最澄の生涯と教え
第3回	最澄と『法華経』
第4回	最澄と徳一
第5回	比叡山延暦寺
第6回	日本天台宗の諸師
第7回	台密
第8回	三界
第9回	六道
第10回	日蓮聖人の法脈と三時
第11回	五重相対と四種三段
第12回	一念三千
第13回	四信五品
第14回	成仏
第15回	日本天台学の総括と学期末レポートの解説

【教科書・参考書】

教科書：指定なし。参考書：『伝教大師最澄』大久保良峻著（法蔵館）2021年、『天台学探尋』大久保良峻編著（法蔵館）2014年。辞典類：『日蓮宗新・電子聖典 日蓮宗事典』（日蓮宗wiki版）2021年、『日蓮聖人遺文辞典（教学篇）』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）2003年。

【学生へのメッセージ】

日本天台学の理解を得るために、講義資料に基づいて復習・予習して授業に臨むこと。

【オフィスアワー】

令和8年度教員オフィスアワー参照。質問はメール（gohtani(a)min.ac.jp）でも可。

【実務経験】

日蓮宗教師としての経験を活かして日本天台学について指導を行う。

年度	区分			分野	
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目	
講義名	[K_mbs3] [21] 仏教学概論【僧階】				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	望月海慧		モチヅキ カイエ		mochizuki kaie [imochi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
仏教学の基礎的知識を修得するために基本的な仏教用語の意味を学びます。仏教学の伝統において教科書として用いられてきた『阿毘達磨俱舍論』に基づいて仏教教義の基本を解説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
本授業では、仏典に出てくる仏教用語の基礎知識を修得することを目的とする。これらの用語を理解することにより、経典の言葉の意味を知り「情報収集力」、それを現代日本語で解説できるようになり「情報分析力」、仏教の意味を考えて「論理的思考力」、人に伝えられるようになる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
古来より仏教学の教科書として用いられてきた『阿毘達磨俱舍論』を用いて講義を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。その方法については授業中に説明する。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（70%）、授業への取り組み（30%）で評価を行う。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	小乗と大乘について				
第3回	アビダルマについて				
第4回	『阿毘達磨俱舍論』とヴァスバンドゥ				
第5回	存在の基盤について				
第6回	認識について				
第7回	存在について				
第8回	世界の形成について				
第9回	行為について				
第10回	煩惱について				
第11回	修行階梯について				
第12回	智について				
第13回	禅定について				
第14回	我について				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
テキスト：『阿毘達磨俱舍論』世親（ヴァスバンドゥ）（大正新脩大蔵経、No.1558）。参考書：『俱舍論』桜部建（大蔵出版）1981年、『存在の分析』桜部建（角川文庫）1996年、『俱舍：絶ゆることなき法の流れ』青原令知編（自照社出版）2015年。					
【学生へのメッセージ】					
『阿毘達磨俱舍論』は、奈良時代より仏教学の教科書として用いられているテキストであるので、僧侶としての基本的な学修内容を学んでもらいたい。					
【オフィスアワー】					
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限					
【実務経験】					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授した経験を活かして授業を行います。					

年度	区分		分野		
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目		仏教学系科目		
講義名	[L_mbs4] [23] 仏教学Ⅰ(中観)				
区分	前期(15回)	単位	選択(2)	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	望月海慧		モチヅキ カイエ		mochizuki kaie [imochi(a)]
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
我などの存在の基盤となるものを徹底的に批判することで、仏教の基本的教義である縁起・空性思想を論証しようとしたナーガールジュナのの中観思想について解説をする。テキストとしてアティシャの『菩提道灯論』を用いて講義する。					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
本授業では、インドにおける大乘仏教の2大学派の1つであるナーガールジュナの空思想のインドにおける展開を理解し(情報分析力)、他学派との思想的相違を理解し(批判的思考力)、釈尊の縁起の思想がどのように解説されているのかを理解する(論理的思考力)ことができる。					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
アティシャの『菩提道灯論』に基づいて講義を行う。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
事前学修(2時間以上)は、テキストをあらかじめ読んできて、問題点を明らかにして仏教辞典などを用いて予習をしておくこと。事後学修(2時間以上)は、講義内容を整理して、次回との関連を明らかにしておくこと。					
【成績評価(方法・基準)】					
学力確認テスト(70%)、授業への取り組み(30%)で評価を行う。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	ナーガールジュナと『中論』				
第3回	パーヴィヴェーカとチャンドラキールティ				
第4回	カマラシーラとシャーンタラクシタ				
第5回	ハリバドラとアピサマヤ文献				
第6回	アティシャと三宝帰依				
第7回	三種のブドガラ				
第8回	三宝帰依				
第9回	発菩提心				
第10回	小乗戒				
第11回	菩薩戒				
第12回	神通と止観				
第13回	空性論証				
第14回	金剛乗				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書:『全訳アティシャ 菩提道灯論』望月海慧(起心書房)2015年。参考書:『シリーズ大乘仏教6 空と中観』桂紹隆他編(春秋社)2012年、『講座・大乘仏教7 中観思想』平川彰他編(春秋社)1982年。					
【学生へのメッセージ】					
仏教の歴史にはさまざまな時代・地域においてそれぞれの仏教思想が成立している。その源流であるインドの仏教に興味を持って学んでほしい。					
【オフィスアワー】					
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限					
【実務経験】					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授した経験を活かして授業を行います。					

年度	区分			分野	
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目	
講義名	[M_mbs4] [25] 仏教学Ⅱ(唯識)				
区分	後期(15回)	単位	選択(2)		形式 講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	望月海慧		モチヅキ カイエ		mochizuki kaie [imochi(a)]
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
<p>仏教の基本的教義である縁起・空性思想を心のあり方により分析した唯識思想について、アサンガが著した『撰大乘論』に基づいて解説する。</p>					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
<p>本授業では、インドにおける大乘仏教の2大学派の1つである瑜伽行唯識派の開祖であるアサンガの唯識思想を理解し(情報分析力)、小乗の教義との相違を理解し(批判的思考力)、仏教の修行階梯がどのようにまとめられているのかを理解する(論理的思考力)ことができる。</p>					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
アサンガの『撰大乘論』に基づいて唯識思想の各教義について講義を行う。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
<p>事前学修(2時間以上)は、テキストをあらかじめ読んできて、問題点を明らかにして仏教辞典などを用いて予習をしておくこと。事後学修(2時間以上)は、講義内容を整理して、次回との関連を明らかにしておくこと。</p>					
【成績評価(方法・基準)】					
期末レポート(70%)、授業に取り組む姿勢(30%、発言回数やワークの成果物など)で評価を行う。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	マイトレーヤトアサンガ				
第3回	ヴァスバンドゥ				
第4回	唯識思想の展開				
第5回	アーラヤ識説				
第6回	三性説				
第7回	唯識性				
第8回	六波羅蜜				
第9回	薯n				
第10回	菩薩戒				
第11回	禅定				
第12回	無分別智				
第13回	涅槃				
第14回	三身説				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
<p>参考書：長尾雅人『撰大乘論 上・下』講談社、上田義文『撰大乘論講読』春秋社、勝呂信静・下川辺季由『新国訳大蔵経 撰大乘論釈』大蔵出版。</p>					
【学生へのメッセージ】					
<p>仏教の歴史にはさまざまな時代・地域においてそれぞれの仏教思想が成立している。その源流であるインドの仏教に興味を持って学んでほしい。</p>					
【オフィスアワー】					
月曜日第3時限目並びに木曜日第3時限目					
【実務経験】					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授した経験を活かして授業を行います。					

年度	区分	分野
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目	仏教学系科目

講義名	[N_mbs4] [27] 仏教学特講Ⅰ
-----	----------------------

区分	前期 (15回)	単位	選択 (2)	形式	講義と演習
----	----------	----	--------	----	-------

授業年次	--	--	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	金 炳坤	キム ビョンコン	kim byungkon [kim(a)]
------	------	----------	-----------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

我々が当然視する「法華教学史」は真実か。本講義では、海東（朝鮮半島）最古の法華経疏、元暁『法華宗要』（T34, No.1725）を講読します。元暁は吉蔵・智顛・基といった中国諸師を深く吸収しつつ独自の統合を試みた、教学史の「空白」を埋める鍵となる存在です。本講義では既存の史観を批判的に捉え直し、未確定な教学上の位置づけを解明します。一文一行を丹念に読み解く「密読」を通じ、高度な探求を志す者の参加を求めます。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

(1)『法華宗要』を正確に読解し、その論理構造を説明できる。(2)元暁と中国諸師（吉蔵・智顛・基等）の思想的共通点と相違点を分析・指摘できる。(3)教学史上の空白とされる文献群の位置づけについて、文献の根拠に基づき自らの見解を論述できる。
コンピテンシー：情報分析力、論理的思考力、批判的考察力

【授業方法（フィードバックの内容）】

講読形式を中心とし、受講者による発表と徹底した議論を通じて能動的な学修を促します。資料はGoogleドライブ等で随時提供します。提出された発表内容やリアクションペーパーに対しては、次回の授業内で全体講評を行い、優れた論点や誤読しやすい箇所を重点的に解説・フィードバックします。

【授業外学修の方法（時間数）】

本講義は2単位として、1回につき計4時間の学修を厳格に課します。【事前学修（2時間）】指定箇所の精読、語注作成、論点の整理を行うこと。いつ指名されても回答できる準備を求める。【事後学修（2時間）】議論を踏まえ、先行研究や吉蔵・基等の関連経疏と比較調査を行い、自身の考察を深化させること。

【成績評価（方法・基準）】

授業内発表（40%）：読解の正確さと先行研究の調査状況。質疑応答への参加（20%）：議論への積極的かつ建設的な関与。期末レポート（40%）：教学史上の位置づけに関する独創的かつ論理的な考察。欠席・準備不足は大幅な減点対象とする。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	ガイダンス（元暁の生涯、海東仏教の特色）
第2回	第一 初述大意 (1)：仏出世の大意（870c10-c15）
第3回	第一 初述大意 (2)：開権示実の巧妙（870c16-c23）
第4回	第二 辨経宗 (1)：能乗の人（871a8-a14）
第5回	第二 辨経宗 (2)：一乗の理と教（871a25-b21）
第6回	第二 辨経宗 (3)：一乗の因（性因・作因）（871b21-c13）
第7回	第二 辨経宗 (4)：一切善根の一乗帰結（871c14-c24）
第8回	第二 辨経宗 (5)：一乗の果（本有・始起）（871c25-a11）
第9回	第二 辨経宗 (6)：願と菩提の満不満（872a12-b11）
第10回	第二 辨経宗 (7)：四法相應の一乗（872b12-c5）
第11回	第五 明教撰門 (1)：三法輪説と「不了義」説（874b23-c5）
第12回	第五 明教撰門 (2)：深密経・対法論の証拠（874c6-c20）
第13回	第五 明教撰門 (3)：三種法輪（根本・枝末・撰末帰本）（874c21-a7）
第14回	第五 明教撰門 (4)：法華経は「了義」か否か（875a8-b21）
第15回	総括（元暁の判教論と「和諍」）

【教科書・参考書】

教科書：指定なし。適宜プリント配布およびGoogleドライブへのアップロードを行う。参考書：吉蔵『法華玄論』、智顛『法華玄義』、慈恩基『法華玄賛』など比較対象文献を授業中に適宜紹介する。

【学生へのメッセージ】

本講義は「知識の暗記」ではなく「未知の思想の解明」を目指す研究の場です。大学院レベルの高度な文献講読を行うため、相應の覚悟と主体性が不可欠です。既存の通説に安住せず、自らの眼で原典を読み抜き、仏教学の新たな地平を切り拓きたいと願う学生の挑戦を期待します。冷やかしの受講は厳に慎んでください。

【オフィスアワー】

火曜日5時限目。408研究室にて。質問はメール（kim(a)min.ac.jp）でも随時受け付けます。

【実務経験】

新羅史学会（韓国）での編集委員や東アジア仏教研究会（日本）の幹事経験を活かし、日韓両国の最新の研究動向を反映した専門性の高い授業を展開します。

年度	区分	分野
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目	仏教学系科目

講義名	[O_mbs4] [29] 仏教学特講 II
-----	------------------------

区分	後期 (15回)	単位	選択 (2)	形式	講義と演習
----	----------	----	--------	----	-------

授業年次	--	--	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	金 炳坤	キム ビョンコン	kim byungkon [kim(a)]
------	------	----------	-----------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

我々が当然視する「法華教学史」は真実か。本講義では、海東（朝鮮半島）最古の法華経疏、元暁『法華宗要』（T34, No.1725）を講読します。元暁は吉蔵・智顛・基といった中国諸師を深く吸収しつつ独自の統合を試みた、教学史の「空白」を埋める鍵となる存在です。本講義では既存の史観を批判的に捉え直し、未確定な教学上の位置づけを解明します。一文一行を丹念に読み解く「密読」を通じ、高度な探求を志す者の参加を求めます。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

(1)『法華宗要』を正確に読解し、その論理構造を説明できる。(2)元暁と中国諸師（吉蔵・智顛・基等）の思想的共通点と相違点を分析・指摘できる。(3)教学史上の空白とされる文献群の位置づけについて、文献の根拠に基づき自らの見解を論述できる。
コンピテンシー：情報分析力、論理的思考力、批判的考察力

【授業方法（フィードバックの内容）】

講読形式を中心とし、受講者による発表と徹底した議論を通じて能動的な学修を促します。資料はGoogleドライブ等で随時提供します。提出された発表内容やリアクションペーパーに対しては、次回の授業内で全体講評を行い、優れた論点や誤読しやすい箇所を重点的に解説・フィードバックします。

【授業外学修の方法（時間数）】

本講義は2単位として、1回につき計4時間の学修を厳格に課します。【事前学修（2時間）】指定箇所の精読、語注作成、論点の整理を行うこと。いつ指名されても回答できる準備を求める。【事後学修（2時間）】議論を踏まえ、先行研究や吉蔵・基等の関連経疏と比較調査を行い、自身の考察を深化させること。

【成績評価（方法・基準）】

授業内発表（40%）：読解の正確さと先行研究の調査状況。質疑応答への参加（20%）：議論への積極的かつ建設的な関与。期末レポート（40%）：教学史上の位置づけに関する独創的かつ論理的な考察。欠席・準備不足は大幅な減点対象とする。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	ガイダンス・第四 釈題名 (1)：妙法の四義（巧・勝・微・絶）（874a14-b7）
第2回	第四 釈題名 (2)：蓮華の比喻（通・別）（874b8-b22）
第3回	第三 明能詮用 (1)：開示の二用（872c6-c10）
第4回	第三 明能詮用 (2)：開方便門（方便の四義）（872c11-c18）
第5回	第三 明能詮用 (3)：出入の門（板竹の門）（872c19-c29）
第6回	第三 明能詮用 (4)：示真実相（所示の真実）（873a1-a14）
第7回	第三 明能詮用 (5)：能示の用（即開之示・異開之示）（873a15-a24）
第8回	第三 明能詮用 (6)：合明開示（四種の勝用）（p873a25-b2）
第9回	第三 明能詮用 (7)：用三為一・將三致一（873b3-b7）
第10回	第三 明能詮用 (8)：会三歸一の問答 (1)（873b8-b22）
第11回	第三 明能詮用 (9)：会三歸一の問答 (2)（873b23-c5）
第12回	第三 明能詮用 (10)：因果の歸結（四句の分別）（873c6-c21）
第13回	第三 明能詮用 (11)：五乗の摂受と等流因（873c22-a3）
第14回	第三 明能詮用 (12)：破三立一の意義（874a4-a13）
第15回	総括（既存教学史の再検討と位置づけの確定）

【教科書・参考書】

教科書：指定なし。適宜プリント配布およびGoogleドライブへのアップロードを行う。参考書：吉蔵『法華玄論』、智顛『法華玄義』、慈恩基『法華玄賛』など比較対象文献を授業中に適宜紹介する。

【学生へのメッセージ】

本講義は「知識の暗記」ではなく「未知の思想の解明」を目指す研究の場です。大学院レベルの高度な文献講読を行うため、相應の覚悟と主体性が不可欠です。既存の通説に安住せず、自らの眼で原典を読み抜き、仏教学の新たな地平を切り拓きたいと願う学生の挑戦を期待します。冷やかしの受講は厳に慎んでください。

【オフィスアワー】

火曜日5時限目。408研究室にて。質問はメール（kim(a)min.ac.jp）でも随時受け付けます。

【実務経験】

新羅史学会（韓国）での編集委員や東アジア仏教研究会（日本）の幹事経験を活かし、日韓両国の最新の研究動向を反映した専門性の高い授業を展開します。

年度	区分				分野
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教実践系科目
講義名	[A_mbp2] [23] 法要実践Ⅰ【僧階】				
区分	前期（15回）	単位	必修（1）日蓮学専攻		形式 実技
授業年次	1年	2年	3年	--	
担当教員	村上通明		ムラカミ ツウミョウ		murakami tsumyou [murakami(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
『宗定日蓮宗法要式』を用いてその理念を解説し、その内容を実習する。宗定7曲の声明を実唱し、その所作を実習する。法要に必要な袈裟、衣の扱いや、柄香炉、中啓等の法具の扱い方、引金、鑊鉢、木鉦等の鳴らし物の扱いを実習する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
日蓮宗の法要儀式の規範書である『宗定日蓮宗法要式』の講義によって「読解力」を養い、本宗の統一的法要式に対する「論理的思考力」や「多様な学問の考え方」の理解を深め、その理念に基づいた法要実習を繰り返し実践することによって「実行力」を身につけることを目標とします。また、法要式に関わる多くの書籍を学ぶことによって得られた知識を基として、現代社会に適応する計画力を養うことを目標とします。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
『宗定日蓮宗法要式』の内容に従って宗定の法式声明の理念を講義し、その理念に基づいて法要式の実習を行う。実習を重ねることによって、実技修得の機会を高め、法式声明の実践がすなわち修行であることを理解できるようにする。課題解決や自主学修支援の為にいつでも質問を受け付け、学修状況を把握する。リアクションペーパーの提出を求め各自の向学心を高めていきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、内容の理解を深めること。事後学修（2時間以上）は、受講後は内容が修得できるように反復すること。授業中に指示した関連書籍を読み、復習しつつ受講することが望ましい。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業内発表（2回の発表、50%）、授業参画度（20%、リアクションペーパー等）、学力確認レポート（30%）により総合的に評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	宗定七曲声明実習・二大得意・音調と発声法・諸種要文				
第2回	「宗定日蓮宗法要式」の内容について・道場偈・発声法・方便品・諸種要文				
第3回	同上 道場偈・発声法・所作・欲令衆・諸種要文				
第4回	同上 三宝礼・発声法・所作・自我偈・諸種要文				
第5回	同上 切散華・発声法・所作・神力偈・宝塔偈（真読、訓読）・諸種要文				
第6回	同上 切散華・発声法・所作・華皿、華葩、中啓の扱い方・別付属・諸種要文				
第7回	同上 切散華・発声法・鉢の奏法・以要言之・諸種要文				
第8回	声明実唱テスト（道場偈、三宝礼、切散華）				
第9回	「宗定法要式」の内容について・咒讃・発声法・方便品・居鉢の所作・諸種要文				
第10回	同上 咒讃・発声法・鑊鉢の奏法・出鉢の所作・欲令衆・諸種要文				
第11回	衣帯について・袈裟、衣の扱い方・諸種要文				
第12回	「宗定法要式」の内容について・三帰・発声法・所作・神力偈・諸種要文				
第13回	同上 奉送・発声法・所作・別付属・以要言之・諸種要文				
第14回	声明実唱テスト（咒讃、三帰、奉送）				
第15回	法要実習・まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『宗定日蓮宗法要式』（日蓮宗）2002年。参考書：『妙行日課』（平楽寺書店）1916年、『新編日蓮宗信行要典』宮崎英修編著（平楽寺書店）1967年、『日蓮宗事典』（日蓮宗）1981年、『原文対訳立正安国論』北川前肇編（大東出版社）1999年、CD日蓮宗声明（日蓮宗声明師会連合会）2005年、『充治園禮誦儀記』優陀那院日輝和上著（日蓮宗声明師会連合会）2011年。法華経要品（真読、訓読の読める経本）					
【学生へのメッセージ】					
日蓮宗教師資格取得に必要な信行道場入場に必要内容である。受講にあたり、あらかじめ指示した参考書は必ず読んでおくこと。さらに受講後は「まとめノート」の作成が必須である。授業中に配布した資料は、クリアファイル等に保存し、毎回授業に持参すること。数珠、中啓を持っている学生は授業に持参してください。					
【オフィスアワー】					
毎週金曜日4時限目の授業の前後に教室にて対応します。					

【実務経験】

日蓮宗声明師会講師19年、信行道場の指導13年の経験を活用した授業を展開します。

年度	区分				分野
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教実践系科目
講義名	[B_mbp3] [17] 法要実践Ⅱ【僧階】				
区分	後期（15回）		単位	必修（1）日蓮学専攻	形式 実技
授業年次	1年	2年	3年	--	
担当教員	村上通明		ムラカミ ツウミョウ		murakami tsumyou [murakami(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
『宗定日蓮宗法要式』『法華懺法』『礼法華式』の本を用いてその理念を解説し、その内容を学び実習する。また、本宗の理念に基づいた葬儀式や追善法要について学び、その所作を実習する。法要に必要な袈裟、衣の扱いや、花皿、柄香炉等の法具の扱い、引金、木鉦等の鳴らし物の扱いを実習する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
日蓮宗の法要儀式の規範書である『宗定日蓮宗法要式』に示される「法要とは三宝帰依の純一無雑なる信仰が最高度に具現化されたものでなければならない」との精神を理解した上で、法要儀式の基本を反復修練することによって、将来の本宗教師として依って立つ根幹を伝えたい。各種教本を学ぶことによって「読解力」を養い、本宗の統一的法要式に対する「論理的思考力」を深め、それを実践する「実行力」を身につけることを目標とします。また、法要式に関わる多くの書籍を学ぶことによって得られた知識を基として、現代社会に適應する「計画力」を養うことを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
『宗定日蓮宗法要式』の内容に従って宗定の法式声明の理念を講義し、その理念に基づいて法要式の実習を行う。実習を重ねることによって、実技修得の機会を高め、法式声明の実践がすなわち修行であることを理解できるようにする。課題解決や自主学修支援にタブレットを用い、いつでも質問を受け付け、学修状況を把握する。リアクションペーパーの提出を求め各自の向学心を高めていきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、内容の理解を深めること。事後学修（2時間以上）は、受講後は内容が修得できるように反復すること。授業中に指示した関連書籍を読み、復習しつつ受講することが望ましい。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業内発表（2回の発表、50%）、授業参画度（20%、リアクションペーパー等）、学力確認レポート（30%）で総合的に評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	宗定七曲声明実習、七方便・開経偈（真読、訓読）・諸種要文				
第2回	道場偈・三宝礼・切散華・諸種要文				
第3回	勧請・開経偈について・諸種要文				
第4回	対揚・発声法・諸種要文				
第5回	対揚・発声法・所作・諸種要文				
第6回	対揚・発声法・所作・柄香炉の扱い方・諸種要文				
第7回	対揚・誠敬文の唱え方・諸種要文				
第8回	声明実唱テスト（対揚）				
第9回	御会式法要について・高祖讃・献香、献華の唱え方と所作・諸種要文				
第10回	お会式について・讃歎の文と麈尾について・諸種要文				
第11回	衣帯について・袈裟、衣の扱い方・諸種要文				
第12回	勧請文、回向文について・諸種要文				
第13回	葬儀式について・葬儀要文の唱え方・諸種要文				
第14回	声明実唱テスト（勧請、回向、葬儀要文）				
第15回	法要実習・まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『法華懺法・禮法華儀式』（日蓮宗声明師会連合会）2020年、『宗定日蓮宗法要式』（日蓮宗）2002年。参考書：『妙行日課』（平楽寺書店）1916年、『新編日蓮宗信行要典』宮崎英修編著（平楽寺書店）1967年、『日蓮宗事典』（日蓮宗）1981年、『原文対訳立正安国論』北川前肇編（大東出版社）1999年、CD日蓮宗声明（日蓮宗声明師会連合会）2005年、『充治園禮誦儀記』優陀那院日輝和上著（日蓮宗声明師会連合会）2011年。					
【学生へのメッセージ】					
日蓮宗教師資格取得に必要な内容である。受講にあたり、あらかじめ指示した参考書は必ず読んでおくこと。さらに受講後は「まとめノート」の作成が必須である。授業中に配布した資料は、クリアファイル等に保存し、毎回授業に持参すること。中啓を持っている学生は授業に持参してください。					

【オフィスアワー】

毎週金曜日 4 時限目の授業の前後に教室にて対応します。

【実務経験】

日蓮宗声明師会講師19年、信行道場の指導13年の経験を活用した授業を展開します。

年度	区分	分野
令和8年度	日蓮宗専攻 専門科目	仏教実践系科目

講義名	[C_mbp4] [05] 法要実践 III
-----	------------------------

区分	前期 (15回)	単位	必修 (1)	形式	実技
----	----------	----	--------	----	----

授業年次	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	村上通明	ムラカミ ツウミョウ	murakami tsumyou [murakami(a)]
------	------	------------	--------------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

『宗定日蓮宗法要式』を用いてその理念を解説し、その内容を実習する。宗定七曲の声明を実唱し、その所作を実習する。法要に必要な各種の袈裟、衣の扱いやたたみ方を実習する。払子、中啓、柄香炉等の法具の扱い方、引金、繞鉢、木鈺等の鳴らし物の扱いを実習する。

【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】

日蓮宗の法要儀式の規範書である『宗定日蓮宗法要式』の講義によって「読解力」を養い、本宗の統一的法要式に対する「論理的思考力」や「多様な学問の考え方」の理解を深め、その理論に基づいた法要実習を繰り返し実践することによって「実行力」を身につけることを目標とします。また、法要式に関わる多くの書籍を学ぶことによって得られた知識を基として、現代社会に適応する計画力を養うことを目標とします。

【授業方法 (フィードバックの内容)】

『宗定日蓮宗法要式』の内容に従って宗定の法式声明の理念を講義し、その理念に基づいて法要式の実習を行う。実習を重ねることによって、実技修得の機会を高め、法式声明の実践がすなわち修行であることを理解できるようにする。課題解決や自主学修支援の為にいつでも質問を受付、学修状況を把握する。リアクションペーパーの提出を求め各自の向学心を高めていきます。

【授業外学修の方法 (時間数)】

事前学修 (2時間以上) は、受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、内容の理解を深めること。事後学修 (2時間以上) は、受講後は修得出来るように反復すること。授業中に指示した関連書籍を読み、復習しつつ受講することが望ましい。

【成績評価 (方法・基準)】

授業内発表 (2回の発表、60%)、授業参画度 (40%、リアクションペーパー等) により総合的に評価する。

【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】

第1回	宗定七曲声明実習・開経偈 (真読、訓読)・諸種要文
第2回	「宗定日蓮宗法要式」の歴史と理念について・方便品真読・諸種要文
第3回	「宗定日蓮宗法要式」の内容について・欲令衆・諸種要文
第4回	鳴らし物、法具の扱い方について・自我偈真読・諸種要文
第5回	導師所作について・払子、中啓、焼香、礼拝の作法・自我偈訓読・諸種要文
第6回	勧請文、回向文の読み方、作り方について・神力偈・諸種要文
第7回	導師所作について・礼盤昇降、御宝前所作・別付属・諸種要文
第8回	声明実唱テスト (導師所作、勧請文)
第9回	葬儀式について (教師の葬儀)・葬儀要文・別付属・繞鉢・諸種要文
第10回	葬儀式について (教師の葬儀)・葬儀要文・神力偈・繞鉢・諸種要文
第11回	衣帯について、袈裟、衣の扱いとたたみ方・諸種要文
第12回	葬儀式について (在家の葬儀)・引導文・葬儀要文・方便品、欲令衆・諸種要文
第13回	葬儀式について (在家の葬儀)・引導文・葬儀要文・自我偈真読・諸種要文
第14回	声明実唱テスト (引導文、葬儀要文)
第15回	法要実習・まとめ

【教科書・参考書】

教科書：『宗定日蓮宗法要式』(日蓮宗)2002年。参考書：『妙行日課』(平楽寺書店)1916年、『新編日蓮宗信行要典』宮崎英修編著(平楽寺書店)1967年、『日蓮宗事典』(日蓮宗)1981年、『原文対訳立正安国論』北川前肇編(大東出版社)1999年、CD日蓮宗声明(日蓮宗声明師会連合会)2005年、『充洽園禮誦儀記』優陀那院日輝和上著(日蓮宗声明師会連合会)2011年、法華経要品(真読、訓読の読める本)

【学生へのメッセージ】

日蓮宗教師資格取得に必要な、信行道場入場に必要な内容である。受講にあたり、あらかじめ指示した参考書は必ず読んでおくこと。さらに受講後は「まとめノート」の作成が必須である。授業中に配布した資料は、必ずクリアファイル等に保存し、毎回授業に持参すること。法華経要品(真読、訓読の読める本)、数珠を持参すること。

【オフィスアワー】

毎週金曜日5時限目の授業の前後に教室にて対応する。

【実務経験】

日蓮宗声明師会講師19年、信行道場の指導13年の経験を活用した授業を展開します。

年度	区分			分野	
令和8年度	日蓮宗専攻 専門科目			仏教実践系科目	
講義名	[D_mbp4] [06] 法要実践 IV				
区分	後期 (15回)	単位	必修 (1)	形式	実技
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	村上通明		ムラカミ ツウミョウ		murakami tsumyou [murakami(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
『宗定日蓮宗法要式』『法華懺法』『礼法華式』の本を用いてその理念を理解し、その内容を解説し、その内容を学び実習する。また本宗の理念に基づいた葬儀式や追善法要について学び、その所作を実習する。法要に必要な袈裟、衣の扱いや、花皿、柄香炉、払子、中啓等の法具の扱い、引金、鉢、木鉦、繞鉢等の鳴らし物の扱いを実習する。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
日蓮宗の法要儀式の規範書である『宗定日蓮宗法要式』に示される「法要とは三宝帰依の純一無雑なる信仰が最高度に具現化されたものでなければならない」との精神を理解した上で、法要儀式の基本を反復修練することによって、将来の本宗教師として依って立つ根幹を伝えたい。各種教本を学ぶことによって「読解力」を身につける目標とする。また、法要式に関わる多くの書籍を学ぶことによって得られた知識を基として、現代社会に適應する「計画力」を養うことを目標とする。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
『宗定日蓮宗法要式』の内容に従って宗定の法式声明の理念を講義し、その理念に基づいて法要式の実習を行う。実習を重ねることによって、実技修得の機会を高め、法式声明の実践がすなわち修行であることを理解できるようにする。課題解決や自主学修支援にいつでも質問を受け付け、学修状況を把握する。リアクションペーパーの提出を求め各自の向学心を高めていきます。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、内容の理解を深めること。事後学修 (2時間以上) は、受講後は内容が修得できるように反復すること。授業中に指示した関連書籍を読み、復習しつつ受講することが望ましい。					
【成績評価 (方法・基準)】					
授業内発表 (60%)、授業参画度 (40%、リアクションペーパー等) により総合的に評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	宗定七曲声明実習・諸種要文				
第2回	御会式法要について・別付属・神力偈訓読・諸種要文				
第3回	四大法難会について・神力品真読・諸種要文				
第4回	得度授戒式について・自我偈真読・諸種要文				
第5回	十種供養式について・自我偈真読・諸種要文				
第6回	十種供養式について・自我偈訓読・諸種要文				
第7回	三帰・本門三帰について・宝塔偈 (真読、訓読) ・諸種要文				
第8回	声明実唱テスト (敬礼段、懺悔文、本門三帰)				
第9回	礼法華式について・以要言之・諸種要文				
第10回	法華懺法について・安樂行品・諸種要文				
第11回	衣帯について・袈裟、衣の扱い方・諸種要文				
第12回	法華懺法について・安樂行品・諸種要文				
第13回	法華懺法について・自我偈真読・諸種要文				
第14回	声明実唱テスト (十方礼仏、合殺)				
第15回	法要実習・まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『法華懺法・礼法華式』(日蓮宗声明師会連合会)2020年、『宗定日蓮宗法要式』(日蓮宗)2002年。参考書：『妙行日課』(平楽寺書店)1916年、『新編日蓮宗信行要典』宮崎英修編著(平楽寺書店)1967年、『日蓮宗事典』(日蓮宗)1981年、『原文対訳立正安国論』北川前肇編(大東出版社)1999年、CD日蓮宗声明(日蓮宗声明師会連合会)2005年、『充洽園禮誦儀記』優陀那院日輝和上著(日蓮宗声明師会連合会)2011年、法華経要品(真読、訓読の読める経本)					
【学生へのメッセージ】					
日蓮宗教師資格に必要な内容である。受講にあたり、あらかじめ指示した参考書は必ず読んでおくこと。さらに受講後は「まとめノート」の作成が必須である。授業中に配布した資料は、クリアファイル等に保存し、毎回持参すること。法華経要品、数珠、を持参して受講すること。					
【オフィスアワー】					
毎週金曜日5時限目の授業の前後に教室にて対応する。					

【実務経験】

日蓮宗声明師会講師19年、信行道場の指導13年の経験を活用した授業を展開します。

年度	区分				分野
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教実践系科目
講義名	[F_mbp3] [05] 読経 II				
区分	通年 (30回)		単位	選択 (2)	
形式	演習 (全期)				
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	塩田宝樹		シオタ ホウジュ		shiota hoju [shiota(a)]
	青木義聡		アオキ ギソウ		aoki gisou [aoki(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
現在までの檀林や門流の教育が受け継ぎ残された結果、法華經の読み方、読み癖について多種多様あり、教育法も師子相承に任され、曖昧な点が多い。本授業では、『妙法蓮華經』の真読ができるようになることを目的とする。 キーワード：読経、法華經、一部經					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
本授業の受講により、『妙法蓮華經』の読誦ができるようになることを目的とする。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、健康力、異文化理解、外国語リテラシー、読解力、傾聴力、会話力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
一々文々で繰り返し（オウム返し）で読経練習を行う。また、学生と対話しながら、読誦が難しい箇所については繰り返し練習を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）では、次回講義部分をあらかじめ読み、わからない箇所を確認しておく。事後学修（2時間以上）では、読んだ部分を反復練習すること。毎日一巻読誦すると2ヵ月ですらすら読めるようになります。					
【成績評価（方法・基準）】					
読経態度（30%）、授業への取り組み姿勢（30%、発言回数やワークの成果物など）、修得度（40%）を総合的に評価する。読経試験では学生に読経してもらい、修得度を確認する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス・オリエンテーション				
第2回	五の巻：提婆達多品第十二				
第3回	五の巻：勸持品第十三(1)				
第4回	五の巻：勸持品第十三(2)、安樂行品第十四(1)				
第5回	五の巻：安樂行品第十四(2)				
第6回	五の巻：安樂行品第十四(3)、從地涌出品第十五(1)				
第7回	五の巻：從地涌出品第十五(2)				
第8回	六の巻：如来寿量品第十六				
第9回	六の巻：分別功德品第十七(1)				
第10回	六の巻：分別功德品第十七(2)				
第11回	六の巻：分別功德品第十七(3)、隨喜功德品第十八(1)				
第12回	六の巻：隨喜功德品第十八(2)				
第13回	六の巻：隨喜功德品第十八(3)、法師功德品第十九(1)				
第14回	六の巻：法師功德品第十九(2)				
第15回	六の巻：法師功德品第十九(3)				
第16回	七の巻：常不輕菩薩品第二十(1)				
第17回	七の巻：常不輕菩薩品第二十(2)				
第18回	七の巻：如来神力品第二十一(1)				
第19回	七の巻：如来神力品第二十一(2)、屬累品第二十二(1)				
第20回	七の巻：屬累品第二十二(2)、藥王菩薩菩薩本事品第二十三(1)				
第21回	七の巻：藥王菩薩菩薩本事品第二十三(2)				
第22回	七の巻：藥王菩薩菩薩本事品第二十三(3)				
第23回	七の巻：藥王菩薩菩薩本事品第二十三(4)、妙音菩薩品第二十三(1)				
第24回	七の巻：妙音菩薩品第二十三(2)				
第25回	七の巻：妙音菩薩品第二十三(3)				
第26回	八の巻：觀世音菩薩普門品第二十五(1)				
第27回	八の巻：觀世音菩薩普門品第二十五(2)、陀羅尼品第二十六(1)				
第28回	八の巻：陀羅尼品第二十六(2)、妙莊嚴王本事品第二十七(1)				

第29回	八の巻：妙莊嚴王本事品第二十七(2)、普賢菩薩勸発品第二十八(1)
第30回	八の巻：普賢菩薩勸発品第二十八(2)、読経テスト
【教科書・参考書】	
一部経・三部経など、お経本の種類は問いませんが、お経本に直接仮名振りして頂くので、仮名付きではなく仮名無し本を準備すること。	
【学生へのメッセージ】	
授業ではお経本以外に筆記用具（特に赤鉛筆又は修正できる赤ペン）持参のこと。読経は僧侶として必要不可欠なことであり、今後絶対に必要なことであるので、授業以外にも練習を繰り返し行ってほしい。なお、本講義はある程度読経ができることを前提に授業を進めていく。そのため、要品の真読ができない学生は、しっかりと事前学習をした上で授業に臨むようにすること。	
【オフィスアワー】	
基本的に塩田が授業前後またはオフィスアワーの時間に対応する。青木に質問等がある場合は、塩田にメールでその旨連絡すること。	
【実務経験】	
塩田宝樹：日蓮宗修法師として一部経読誦会に出仕した経験を基に講義を行う。 青木義聡：日蓮宗修法師として一部経読誦会に出仕した経験を基に講義を行う。	

年度	区分		分野		
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目		仏教実践系科目		
講義名	[G_mbp5] [09] 寺院運営【僧階】				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	丸茂龍正	マルモ リュウショウ		marumo ryusho [marumo(a)]	
	山本玄雄	ヤマモト ゲンユウ		yamamoto genyu [yamamoto(a)]	
	塩田宝樹	シオタ ホウジュ		shiota hoju [shiota(a)]	
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
僧侶として学ばなければならないことは多々あるが、日蓮宗の教師、寺院教会の住職・担任を志す者は、宗門の一員として、社会の一員として学ばなければならない事柄はさらに多岐にわたります。宗教法人法や日蓮宗宗制を学び、更に僧侶や寺院をはじめ宗教界全体をとりまく現状を概説し、寺院運営或いは儀式等の課題を通じて、広くはSDGsについて考察し、将来の具体的な目標を持つことができるよう講義を行います。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
僧侶や寺院をはじめ宗教界全体をとりまく現状、特に世界全体で目標とするSDGsについて認識し、宗教者・僧侶として「多様な学問の考え方」を学び、「情報収集力」や「情報分析力」を高め、寺院運営或いは儀式等の「課題設定力」を身につけ、将来の具体的な「構想力」「計画力」「実行力」を持つことができるようになります。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
様々な資料を使用し、宗教を取り巻く現状を認識し、総説的ガイダンスと共に、専門分野の先生を招き、効果的に授業を行い、理解を深めます。学力確認テストは、授業内容を踏まえた課題となりますので、よく集中して臨んでください。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。特に、事後の復習を行い、多岐にわたる授業内容をよく整理しておく必要があります。また、時事的な話題にも触れていきますので、日頃からのニュース記事等を読んでおくことを勧めます。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（40%、発言回数やワークの成果物など）、学力確認テスト（60%）で、総合的に判断します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス				
第2回	宗教をとりまく環境 1				
第3回	宗教をとりまく環境 2 SDGsと宗教の課題				
第4回	日蓮宗の現状と課題				
第5回	宗教法人法と日蓮宗宗制概要 1				
第6回	宗教法人法と日蓮宗宗制概要 2				
第7回	宗教法人の税制と経理 1				
第8回	宗教法人の税制と経理 2				
第9回	人権教育 1 SDGsと人権について				
第10回	人権教育 2 SDGs5の目標「ジェンダー平等を実現しよう」について				
第11回	日蓮宗の教育制度				
第12回	寺院運営の現状と課題 1				
第13回	寺院運営の現状と課題 2 SDGsに関する取り組みについて				
第14回	寺院運営のリスクマネジメント				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
参考書：日蓮宗宗制、日蓮宗宗報、日蓮宗新聞他					
【学生へのメッセージ】					
専門分野の先生による貴重な内容も含まれます。特に日蓮宗の僧侶を志す学生は受講することを強く勧めます。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて、または法人事務局（丸茂）にて随時対応します。					
【実務経験】					
丸茂龍正：宗教法人瑞泉寺代表役員としての経験を活かした授業を行います。					
山本玄雄：宗教法人妙蓮寺副住職としての経験を活かした授業を行います。					
塩田宝樹：宗教法人宝塔寺代表役員としての経験を活かした授業を行います。					

年度	区分		分野		
令和8年度	日蓮学専攻 専門科目		仏教実践系科目		
講義名	[l_mbp5] [13] 布教実践 II				
区分	後期 (15回)	単位	選択 (2)	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	望月 豪		モチヅキ タケル		mochizuki takeru*
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮宗の布教方法に関する授業を行う。特に本講義では書写(題目・曼荼羅本尊)の理念と実践を教授する。					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
題目・曼荼羅本尊の書写を通して、理念および書写行の方法論等学び、それぞれひとりで実践できるようになることを目標とする。さまざまな形態の布教方法を学び実践することにより、「多様な学問の考え方」「構想力」「実行力」が身につく。					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
題目・曼荼羅本尊の理念を、筆によって表現できるようになることを目指し、書写実践を繰り返し行う。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。その方法については授業中に説明する。					
【成績評価(方法・基準)】					
教員への提出物(50%)、授業中の実践における取り組み(50%)で評価する。提出物については、第3回・第7回の授業において清書したものとする。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	題目の概要と理念				
第3回	題目の書写 実践1				
第4回	題目の書写 実践2				
第5回	題目の書写 清書				
第6回	曼荼羅本尊の概要と理念				
第7回	曼荼羅本尊の書写 実践1				
第8回	曼荼羅本尊の書写 実践2				
第9回	曼荼羅本尊の書写 実践3				
第10回	曼荼羅本尊の書写 実践4				
第11回	曼荼羅本尊の書写 実践5				
第12回	曼荼羅本尊の書写 実践6				
第13回	曼荼羅本尊の書写 清書1				
第14回	曼荼羅本尊の書写 清書2				
第15回	まとめ 題目・曼荼羅本尊とは				
【教科書・参考書】					
書写行の授業では、2回目の講義より実践を行うので必ず各自、書道用具並びに半紙を持参すること。本尊用紙は、大学事務局で購入すること。その他の参考書については、担当教員の講義の折に紹介する。					
【学生へのメッセージ】					
担当教員の都合により授業日程を変更する可能性があるが、その際は事前に受講生に連絡をする。各自で用意するもの：書道用具・半紙 大学事務局で購入するもの：本尊用紙					
【オフィスアワー】					
授業開始前および終了後に、担当教員が教室にて受け付ける。					
【実務経験】					
飯宮書道会 師範・読売書法会 幹事・日本書作院 同人、書道歴20年の経験を活かした授業を展開する。					

年度	区分				分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目
講義名	[A_mba2] [01] 仏教美術史【学芸(選択)】				
区分	後期 (15回)		単位	必修 (2) 文学・芸術専攻	形式 講義
授業年次	1年	2年	3年	--	
担当教員	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao [yanagi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>仏教の大意を理解するうえで、尊崇や敬愛を具体的に表現する手段として生まれた仏教美術を知ることの意義は大きい。その仏教美術の流れをインド、中国、日本に渡り、それらを広く概観し、日本美術に与えた影響を通して、仏像及び絵画等の作品をより身近に感じる様にしたい。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
<p>本授業を受講することにより、仏教美術の出現（特にガンダーラ等の仏像）から仏教美術の東進（中央アジア・中国）日本、飛鳥時代までを順を追って、各時代を代表する遺跡・寺院等の美術を中心に比較検討することができるようになる。コンピテンシー：地域理解、異文化理解、情報分析力、論理的思考力</p>					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
時代順に沿って、スライド・写真・動画等を用いて授業を進めていく。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
<p>受講前（2時間以上）にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後（2時間以上）はノートを整理して講義内容の理解に努めること。</p>					
【成績評価（方法・基準）】					
<p>学力確認テスト（50%）、授業への取り組み姿勢（25%、発言回数やワークの成果物など）、事前・事後学修（25%）で評価する。</p>					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	授業の進め方、その他概要				
第2回	仏教成立以前。エジプトからギリシャ美術の仏教美術への影響等				
第3回	アレキサンダー帝国の成立と仏教美術への関連				
第4回	大月氏と匈奴等の興亡と、クシャーナ朝カニシカ王の仏教美術				
第5回	ガンダーラ・マトゥーラの仏像。				
第6回	パーミアン大仏と石窟寺院内部の壁画				
第7回	シルクロードオアシス都市国家の興亡と仏教美術				
第8回	仏教美術の東進と、シルクロード石窟寺院				
第9回	敦煌・莫高窟の仏教美術				
第10回	前漢・後漢の宗教と、仏教美術の伝来				
第11回	三国・五胡十六国と北魏様式				
第12回	隋・唐の仏教美術				
第13回	聖徳太子と仏教				
第14回	法隆寺と飛鳥仏				
第15回	授業の総括				
【教科書・参考書】					
<p>進捗状況を鑑み、随時指示する。『日本の美術』（至文堂）、『日本の国宝』（朝日新聞社）、『原色日本の美術』（小学館）。</p>					
【学生へのメッセージ】					
<p>副専攻の学生は選択科目です。時間的余裕があれば、身延山山内の見学を行いたい。</p>					
【オフィスアワー】					
<p>水曜日 4・5 時限目、木曜日 4・5 時限目。質問はメール（yanagi(a)min.ac.jp）でも可。</p>					
【実務経験】					
<p>長年に渡る仏像制作修復の実績に基づいた授業を行います。</p>					

年度	区分				分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目
講義名	[B_mba2] [07] 仏像の基礎知識【学芸(選択)】				
区分	前期 (15回)	単位	必修 (2) 文学・芸術専攻		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao [yanagi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>仏像を知ることによって、仏教文化の知識を深めていきたい。仏教の大意を理解するうえで、尊崇や敬愛を具体的に表現する手段として生まれた仏教美術を知ることの意義は大きい。さらにインド中国より伝来した仏像の技法を日本独自に確立していった過程等を知ることによって、仏教美術の作品をより深く、身近に感じる様にしたい。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
<p>仏像を鑑賞する場合、それぞれ色々な方法があると思う。ここでは仏像の種類・時代などの方面から仏像の基礎知識を身につけ、仏像に触れあうことができるようにしたい。本授業は日本の仏像あるいは海外の仏像について学んでいきたい。本授業を受講することにより飛鳥から安土・桃山時代までを時代順に追って、各時代を代表する寺院等の美術を中心に比較検討することができるようになる。コンピテンシー：地域理解、異文化理解、情報分析力、論理的思考力</p>					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
<p>仏像は、如来・菩薩・明王などと様々な種類に分けられる。それぞれの姿・技義・制作年代をスライド・図を中心に解説し、できれば実物を鑑賞したい。</p>					
【授業外学修の方法（時間数）】					
<p>受講前（2時間以上）にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後（2時間以上）はノートを整理して講義内容の理解に努めること。</p>					
【成績評価（方法・基準）】					
<p>学力確認テスト（50%）、授業への取り組み姿勢（25%、発言回数やワークの成果物など）、事前・事後学修（25%）で評価する。</p>					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	授業の進め方				
第2回	仏像種類の概要（如来・菩薩・明王・天部・阿羅漢・肖像彫刻・その他）				
第3回	如来（釈迦・薬師・阿弥陀・大日・その他如来）				
第4回	菩薩（観音・弥勒・地藏・虚空蔵・文殊・普賢・その他菩薩）				
第5回	明王（不動・愛染・孔雀・五大明王・その他明王）				
第6回	天部（四天王・十二神将・梵天帝釈天・その他天部）				
第7回	羅漢・肖像彫刻				
第8回	その他仏教守護の仏像（八部衆・八大龍王・その他）				
第9回	飛鳥彫刻、法隆寺その他				
第10回	白鳳彫刻・東大寺法華堂				
第11回	天平彫刻・興福寺その他				
第12回	貞観弘仁・東寺その他				
第13回	藤原彫刻・平等院				
第14回	鎌倉彫刻・東大寺南大門その他				
第15回	授業のまとめ				
【教科書・参考書】					
<p>進捗状況を鑑み、随時指示する。『仏像大全書』（四季社）、『日本の美術』（至文堂）、『仏像彫刻の基礎知識』光森正士・岡田健著（至文堂）。</p>					
【学生へのメッセージ】					
<p>副専攻の学生は選択科目です。授業に合わせ身延山内の仏像見学を予定している。その折りには大勢の参加を望む。</p>					
【オフィスアワー】					
<p>事前予約にて相談の上対応します。</p>					
【実務経験】					
<p>長年に渡る仏像制作修復の実績に基づいた授業を行います。</p>					

年度	区分			分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目			仏教芸術系科目
講義名	[C_mba4] [09] 仏教彫刻の鑑賞と実践Ⅰ《2時間連続授業》			
区分	前期 (30回)	単位	必修 (2) R5以降選択	形式 講義と演習、実践
授業年次	--	2年	3年	--
担当教員	鈴木義孝		スズキ ヨシタカ	suzuki yoshitaka [suzuki(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
その時々に関画制作室で制作中の仏像を中心に制作過程を鑑賞する。仏像彫刻等の実践を行う。仏教の大要を理解するうえで、尊崇や敬愛を具体的に表現する手段として生まれた仏教美術を知ることの意義は大きい。その仏像を制作面から知ることによって、仏教美術の作品をより身近に感じようようにしたい。				
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】				
日本人にとって仏像に対する想いには特別なものがあり、様々な鑑賞方法がある。実際に仏像を制作する立場から授業を進め、仏像に対する理解を深めたい。本授業は日本の仏教美術、特に一般的に言われている日本史との相違について探求する。本授業を受講することにより飛鳥から鎌倉時代までを時代順に追って、各時代を代表する寺院等の美術を中心に比較検討することができるようになる。 コンピテンシー：地域理解、異文化理解、構想力、実行力				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
各時代の作例やその時々に関画制作室で制作中の仏像を中心に制作過程を鑑賞する。テキスト・石膏原型を用いて摸刻を行う。制作を行うには個人差があるため、遅れが生じた学生は授業外にも関画制作室にて制作可。また指定以外の仏像制作希望についても考慮する。また学生同士のグループディスカッションにより、相互補助を促し技術を高めていく。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
受講前（2時間以上）はテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後（2時間以上）はノートを整理して講義内容の理解に努めること。また制作工程の遅れている学生は事後学修として関画制作室での作業も可。				
【成績評価（方法・基準）】				
作品（50%）、授業への取り組み姿勢（25%、発言回数やワークの成果物など）、事前・事後学修（25%）で評価する。				
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】				
第1回	授業の進め方、木彫道具の説明、諸注意（安全啓蒙）1			
第2回	授業の進め方、木彫道具の説明、諸注意（安全啓蒙）2			
第3回	木材についての説明（性質、用途、作例）、仏像の鑑賞：仏像とは何か1			
第4回	木材についての説明（性質、用途、作例）、仏像の鑑賞：仏像とは何か2			
第5回	蓮弁制作1（型紙作成）、木取り、鋸の使用方法説明、仏像の鑑賞：仏像の印相1			
第6回	蓮弁制作2（型紙作成）、木取り、鋸の使用方法説明、仏像の鑑賞：仏像の印相2			
第7回	蓮弁制作3（荒彫）、刃物研磨（砥石についての説明）、仏像の鑑賞：仏像の儀軌1			
第8回	蓮弁制作4（荒彫）、刃物研磨（砥石についての説明）、仏像の鑑賞：仏像の儀軌2			
第9回	蓮弁制作5（中彫り）、刃物研磨（平ノミの研ぎ方）1、仏像の鑑賞：飛鳥時代1			
第10回	蓮弁制作6（中彫り）、刃物研磨（平ノミの研ぎ方）2、仏像の鑑賞：飛鳥時代2			
第11回	蓮弁制作7（中彫り）、刃物研磨（平ノミの研ぎ方の復習）1、仏像の鑑賞：飛鳥時代3			
第12回	蓮弁制作8（中彫り）、刃物研磨（平ノミの研ぎ方の復習）2、仏像の鑑賞：飛鳥時代4			
第13回	蓮弁制作9（仕上げ彫）、刃物研磨（丸ノミの研ぎ方）1、仏像の鑑賞：奈良時代1			
第14回	蓮弁制作10（仕上げ彫）、刃物研磨（丸ノミの研ぎ方）2、仏像の鑑賞：奈良時代2			
第15回	蓮弁制作11（仕上げ彫）、刃物研磨（丸ノミの研ぎ方の復習）1、仏像の鑑賞：奈良時代3			
第16回	蓮弁制作12（仕上げ彫）、刃物研磨（丸ノミの研ぎ方の復習）2、仏像の鑑賞：奈良時代4			
第17回	仏手制作1（型紙制作）、木取り、刃物研磨6（切り出し刀の研ぎ方）、仏像の鑑賞：奈良時代5			
第18回	仏手制作2（型紙制作）、木取り、刃物研磨6（切り出し刀の研ぎ方）、仏像の鑑賞：奈良時代6			
第19回	仏手制作3（荒彫）、仏像の鑑賞：平安時代1			
第20回	仏手制作4（荒彫）、仏像の鑑賞：平安時代2			
第21回	仏手制作5（中彫り）、仏像の鑑賞：平安時代3			
第22回	仏手制作6（中彫り）、仏像の鑑賞：平安時代4			
第23回	仏手制作7（中彫り）、仏像の鑑賞：平安時代5			
第24回	仏手制作8（中彫り）、仏像の鑑賞：平安時代6			
第25回	仏手制作9（仕上げ彫り）、仏像の鑑賞：平安時代7			
第26回	仏手制作10（仕上げ彫り）、仏像の鑑賞：平安時代8			
第27回	仏手制作11（仕上げ彫り）、台作成、仏像の鑑賞：仏師定朝1			

第28回	仏手制作12(仕上げ彫り)、台作成、仏像の鑑賞：仏師定朝2
第29回	総評1
第30回	総評2
【教科書・参考書】	
<p>仏像修復制作室作成のテキスト：『石膏像』。『日本の美術』（至文堂）、『日本彫刻史基礎資料集成』（中央公論美術出版）、『仏像持仏装飾大事典』（国書刊行会）。『仏像彫刻のすすめ』松久朋琳著（日貿出版社）2016年。</p>	
【学生へのメッセージ】	
<p>人数制限あり。作業が遅れた学生は授業外に事前・事後学修として彫ってもらう。ノミ等道具類については大学所有の道具類を使用するが、より深い学修の為にノミ（切り出し刀、平ノミ）の購入を強く勧める。道具の購入先等は随時相談を受け付ける。また授業では刃物を使用するため、受講に当たっては細心の注意を払ってほしい。</p>	
【オフィスアワー】	
事前予約にて相談の上対応します。	
【実務経験】	
長年に渡る仏像制作修復の実績に基づいた授業を行います。	

年度	区分				分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目
講義名	[D_mba4] [11] 仏教彫刻の鑑賞と実践 II 《2時間連続授業》				
区分	後期（30回）		単位	必修（2）R5以降選択	形式
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	鈴木義孝		スズキ ヨシタカ		suzuki yoshitaka [suzuki(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
各時代の作例やその時々に関画制作室で制作中の仏像を中心に制作過程を鑑賞する。仏像彫刻等の実践を行う。仏教の大意を理解するうえで、尊崇や敬愛を具体的に表現する手段として生まれた仏教美術を知ることの意義は大きい。その仏像を制作面から知ることによって、仏教美術の作品をより身近に感じる様にしたい。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
日本人にとって仏像に対する想いには特別なものがあり、様々な鑑賞方法がある。実際に仏像を制作する立場から授業を進め、仏像に対する理解を深めたい。本授業は日本の仏教美術、特に一般的に言われている日本史との相違について探求する。本授業を受講することにより飛鳥から安土・桃山時代までを時代順に追って、各時代を代表する寺院等の美術を中心に比較検討することができるようになる。コンピテンシー：地域理解、異文化理解、構想力、実行力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
現在関画制作室ではその時々に関画制作が行われている。それらの作業工程を鑑賞する。仏像修復制作室作成のテキスト・石膏原型を用いて摸刻を行う。制作を行うには個人差があるため、遅れが生じた学生は授業外にも関画制作室にて制作可。また指定以外の仏像制作希望についても考慮する。また学生同士のグループディスカッションにより、相互補助を促し技術を高めていく。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
技術の修得は一朝一夕に得られるものではないため、できるだけ工作実習室での練習が必要となる。事前・事後学修として、講義中の指示に基づいた内容を2時間以上要する。					
【成績評価（方法・基準）】					
作品（50%）、授業への取り組み姿勢（25%、発言回数やワークの成果物など）、事前・事後学修（25%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	授業の進め方、諸注意（安全啓蒙）1				
第2回	授業の進め方、諸注意（安全啓蒙）2				
第3回	仏足制作1（型紙作成）、木取、仏像の鑑賞 飛鳥～平安末期の復習1				
第4回	仏足制作3（型紙作成）、木取、仏像の鑑賞 飛鳥～平安末期の復習2				
第5回	仏足制作3（荒彫）、仏像の鑑賞 鎌倉時代1				
第6回	仏足制作4（荒彫）、仏像の鑑賞 鎌倉時代2				
第7回	仏足制作5（中彫り）、仏像の鑑賞 鎌倉時代3				
第8回	仏足制作6（中彫り）、仏像の鑑賞 鎌倉時代4				
第9回	仏足制作7（中彫り）、仏像の鑑賞 鎌倉時代5				
第10回	仏足制作8（中彫り）、仏像の鑑賞 鎌倉時代6				
第11回	仏足制作9（仕上げ彫）、仏像の鑑賞 仏師運慶1				
第12回	仏足制作10（仕上げ彫）、仏像の鑑賞 仏師運慶2				
第13回	仏足制作11（仕上げ彫）、仏像の鑑賞 仏師快慶1				
第14回	仏足制作12（仕上げ彫）、仏像の鑑賞 仏師快慶2				
第15回	大黒天像制作1（型紙作成）、木取、仏像の鑑賞 仏像制作方法1				
第16回	大黒天像制作2（型紙作成）、木取、仏像の鑑賞 仏像制作方法2				
第17回	大黒天像制作3（荒彫）、仏像の鑑賞 仏像制作方法1				
第18回	大黒天像制作4（荒彫）、仏像の鑑賞 仏像制作方法2				
第19回	大黒天像制作5（中彫り）、仏像の鑑賞 仏像制作方法3				
第20回	大黒天像制作6（中彫り）、仏像の鑑賞 仏像制作方法4				
第21回	大黒天像制作7（仕上げ彫り）、仏像の鑑賞 仏像制作現場見学1				
第22回	大黒天像制作8（仕上げ彫り）、仏像の鑑賞 仏像制作現場見学2				
第23回	大黒天像制作9（仕上げ彫り）、仏像の鑑賞 仏像制作現場見学3				
第24回	大黒天像制作10（仕上げ彫り）、仏像の鑑賞 仏像制作現場見学4				
第25回	大黒天像制作11（仕上げ彫り）、仏像の鑑賞 仏像制作現場見学5				
第26回	大黒天像制作12（仕上げ彫り）、仏像の鑑賞 仏像制作現場見学6				

第27回	大黒天像制作13(彩色、台作成))、仏像の鑑賞 仏像制作現場見学7
第28回	大黒天像制作14(彩色、台作成))、仏像の鑑賞 仏像制作現場見学8
第29回	総評1
第30回	総評2
【教科書・参考書】	
<p>仏像修復制作室作成のテキスト：『石膏像』。『日本の美術』（至文堂）、『日本彫刻史基礎資料集成』（中央公論美術出版）、『仏像持仏装飾大事典』（国書刊行会）。『仏像彫刻のすすめ』松久朋琳著（日貿出版社）2016年。</p>	
【学生へのメッセージ】	
<p>人数制限あり。前期開講『仏像彫刻の鑑賞と実践I』に続く内容である。作業が遅れた学生は授業外に事前・事後学修として彫ってもらう。ノミ等道具類については大学所有の道具類を使用するが、より深い学修の為にノミ（切り出し刀、平ノミ）の購入を強く勧める。道具の購入先等は随時相談を受け付ける。また授業では刃物を使用するため、受講に当たっては細心の注意を払ってほしい。</p>	
【オフィスアワー】	
事前予約にて相談の上対応します。	
【実務経験】	
長年に渡る仏像制作修復の実績に基づいた授業を行います。	

年度	区分			分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目			仏教芸術系科目
講義名	[E_mba4] [13] 仏像修復の鑑賞と実践Ⅰ			
区分	前期（15回）	単位	必修（2）R5以降選択	形式 講義と演習、実践
授業年次	--	2年	3年	--
担当教員	鈴木義孝	スズキ ヨシタカ	suzuki yoshitaka [suzuki(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
その時々に関画制作室で修復中の仏像を中心に修復過程を鑑賞する。仏像修復等の実践を行う。仏像修復を通じて、その技法を直接学ぶことにより日本における仏教美術の根底を探ることができる、また実際に簡単な修復作業を行うことは仏像の構造等を直接知ることができ、仏像を鑑賞する上でより深い感動を得ることができる。				
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】				
課題を通して、仏像修復を身近に感じてもらいたい。僧職を志す学生には、仏像等を修復に出す際の知識を身につける。本授業は仏像の構造を知る上でも役立ち、より専門的な仏像の知識を得ることができる。また課題によっては金箔・漆・胡粉等、日本古来からの技法についても知識として身につけることができる。 コンピテンシー：地域理解、情報収集力、構想力、改善力				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
現関画制作室では実際に仏像修復が行われている。過去行われた修復実例と合わせて修復課程等を紹介していく。実習作業では、修復に関連した課題を行う。作業においては個人差もあるため、遅れた学生は関画制作室において事前・事後学修で補う。また学生同士のグループワークにより、相互補助を促し技術を高めていく。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
受講前（2時間以上）にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後（2時間以上）はノートを整理して講義内容の理解に努めること。また、関画制作室にて課題に関する作業を事前・事後学修として行う可。				
【成績評価（方法・基準）】				
実習で行った課題作品（50%）、授業への取り組み姿勢（25%、発言回数やワークの成果物など）、事前・事後学修（25%）により総合的に評価します。				
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】				
第1回	授業の進め方、諸注意（安全啓蒙）			
第2回	仏像修復とは何か			
第3回	仏像修復方法紹介			
第4回	仏像修復実例、仏像修復現場見学			
第5回	仏像修復技法 1 記録の取り方			
第6回	仏像修復技法 2 表面の洗浄処理			
第7回	仏像修復技法 3 接着			
第8回	仏像修復技法 4 欠損箇所補填			
第9回	仏像修復技法 5 素地研ぎ出し			
第10回	仏像修復技法 6 胡粉下地作り			
第11回	仏像修復技法 7 下地研磨			
第12回	仏像修復技法 8 金箔下地塗			
第13回	仏像修復技法 9 金箔下地研磨			
第14回	仏像修復技法10 金箔貼り			
第15回	総評			
【教科書・参考書】				
『日本の美術 彫刻の保存と修理』（至文堂）、『日本彫刻史基礎資料集成』（中央公論美術出版）、『仏像持仏装飾大事典』（国書刊行会）。				
【学生へのメッセージ】				
仏像修復に関して、仏像修復制作室では多くの仏像修復が行われているがその時々によって鑑賞する仏像が違って来るので承知していて貰いたい。実習作業を行うため人数に制限がある。また課題の制作に関して個人差が大きいので、1回目の授業時に話し合ってから決める、さらに無理の場合には変更することがある。道具類については大学の道具を使用させるので、手入れ及び整理整頓には特に注意をするように。				
【オフィスアワー】				
事前予約にて相談の上対応します。				
【実務経験】				
長年に渡る仏像制作修復の実績に基づいた授業を行います。				

年度	区分			分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目			仏教芸術系科目
講義名	[F_mba4] [15] 仏像修復の鑑賞と実践 II			
区分	後期（15回）	単位	必修（2）R5以降選択	形式 講義と演習、実践
授業年次	--	2年	3年	--
担当教員	鈴木義孝		スズキ ヨシタカ	suzuki yoshitaka [suzuki(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
その時々に関画制作室で修復中の仏像を中心に修復過程を鑑賞する。前期開講「仏像修復の鑑賞と実践I」のより高度な修復技術の実践を行う。仏像修復を通じて、その技法を直接学ぶ事により日本における仏教美術の根底を探る事ができる、また実際に簡単な修復作業を行う事は仏像の構造等を直接知る事ができ、仏像を鑑賞する上でより深い感動を得る事ができる。				
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】				
課題を通して、仏像修復を身近に感じてもらいたい。僧職を志す学生には、仏像等を修復に出す際の知識を身につける。本授業は仏像の構造を知る上でも役立ち、より専門的な仏像の知識を得る事ができる。また課題によっては金箔・漆・胡粉等、日本古来からの技法についても知識として身につけることができる。 コンピテンシー：地域理解、情報収集力、構想力、改善力				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
現在関画制作室では実際に仏像修復が行われている。過去行われた修復実例と合わせて修復課程等を紹介していく。実習作業では、修復に関連した課題を行う。作業においては個人差もあるため、遅れた学生は関画制作室において事前・事後学修で補う。また学生同士のグループワークにより、相互補助を促し技術を高めていく。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
受講前（2時間以上）にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後（2時間以上）はノートを整理して講義内容の理解に努めること。また、関画制作室にて課題に関する作業を事前・事後学修として行う可。				
【成績評価（方法・基準）】				
実習で行った課題作品（50%）、授業への取り組み姿勢（25%、発言回数やワークの成果物など）、事前・事後学修（25%）で評価する。				
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】				
第1回	授業の進め方、諸注意（安全啓蒙）			
第2回	仏像修復技法について（保存と修復、その用例）			
第3回	仏像修復技法 1 課題の選定			
第4回	仏像修復技法 2 胡粉作り			
第5回	仏像修復技法 3 胡粉作り、下地塗			
第6回	仏像修復技法 4 下絵描き			
第7回	仏像修復技法 5 胡粉盛り上げ下地			
第8回	仏像修復技法 6 盛り上げ下地研磨			
第9回	仏像修復技法 7 下地塗			
第10回	仏像修復技法 8 下地研磨			
第11回	仏像修復技法 9 金箔貼り			
第12回	仏像修復技法10 彩色			
第13回	仏像修復技法11 彩色、截金			
第14回	仏像修復技法12 彩色、截金			
第15回	総評			
【教科書・参考書】				
『日本の美術 彫刻の保存と修理』（至文堂）、『日本彫刻史基礎資料集成』（中央公論美術出版）、『仏像持仏装飾大事典』（国書刊行会）。				
【学生へのメッセージ】				
仏像修復に関して、仏像修復制作室では多くの仏像修復が行われているがその時々によって鑑賞する仏像が違って来るので承知して貰いたい。実習作業を行うため人数に制限がある。前期開講『仏像修復の鑑賞と実践』に続く内容であることを留意すること。また課題の制作に関して個人差が大きいため、1回目の授業時に話し合っ決めて、さらに無理の場合には変更する事がある。道具類については大学の道具を使用させるので、手入れ及び整理整頓には特に注意するように。				
【オフィスアワー】				
事前予約にて相談の上対応します。				
【実務経験】				
長年に渡る仏像制作修復の実績に基づいた授業を行います。				

年度	区分				分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目
講義名	[G_mba2] [17] 書道実践				
区分	通年（30回）		単位	選択（2）	形式 講義と演習
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	秋山恵子		アキヤマ ケイコ		akiyama keiko [kakiyama(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
書道教育は文字を素材に自分を表現する生涯の自己形成の一端を担うものである。文字教育・芸術教育としての教育活動であり、個人の能力向上を目指します。具体的には書道史に残る古典の法帖や石碑を学び、書のもつ美の芸術を理解すると共に、日常生活に役立つ毛筆・硬筆の実技指導を行う。日本・中国文化において書体の変貌について学びながら学視力の向上を目指します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
楷書或いは年度により仮名実践又は写経実践を通して、手書き文字の大切さと魅力を学び人間力をより深める。中国・日本における文字の変遷について名品を鑑賞しながら理解を深め、異文化理解度を高めながら芸術文化を通してグローバル社会に対応できる日本人としてのアイデンティティある人材育成に努める。文字教育の大切さを学び、今後を担う学童への指導法を修得する。 コンピテンシー：異文化理解、傾聴力、課題設定力、構想力、計画力、実行力、改善力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
書とは徳業を積む一つの行学です。書道学修を通して実技の向上とグループワークを交えた作品発表をしながら生徒の主体的自主性を求めたアクティブ・ラーニング型の授業を展開する。事前目習い、手習いを重ね、五感を養うような講義と実技を行う。加えて芸術鑑賞の体験を通して自己研鑽を積み、書に対する学修意欲を高めてもらいたい。また、時に生徒の主体性を尊重して書道パフォーマンスや写経の卷子仕立に挑戦する年もある。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
中国・日本書道史の理解度を高めるための調べとして事前学修2時間以上、実技の向上の事後学修として2時間以上、芸術鑑賞体験として6時間（美術館鑑賞含む）を必要とする。美術館鑑賞などの校外学修（諸般の事情による変更の可能性あり）は現地集合現地解散とします。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（50%、積極的授業参加を評価）、レポート提出（20%）、作品評価・提出（30%）です。書道実践（第1回～第30回）受講をもって評価とする。年度により古典臨書による条幅作品、写経卷子仕立、又は仮名実習などでの評価あり。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	生活書道として硬筆での漢字の原理・原則を学ぶ 書道史、中国・日本の文字の歴史的変貌について				
第2回	書道芸術の美について理解を深め、書の学修の意義を学ぶ				
第3回	書体、書風、字形の研究と古典法帖の実技指導				
第4回	文房四宝、用材、執筆法の研究と実技指導（半紙）				
第5回	北魏、随、唐の楷書から学童楷書まで学ぶ（半紙）				
第6回	楷書作品の臨書、鑑賞、作品の制作（条幅）1 / レポート課題案課題指示				
第7回	楷書作品の臨書、鑑賞、作品の制作（条幅）2				
第8回	楷書作品の臨書、鑑賞、作品の制作（条幅）3				
第9回	楷書作品の臨書、鑑賞、作品の制作（条幅）4				
第10回	楷書作品の臨書、鑑賞、作品の制作（条幅）5				
第11回	楷書作品の臨書、鑑賞、作品の制作（条幅）6				
第12回	楷書作品の臨書、鑑賞、作品の制作（条幅）7				
第13回	楷書作品の臨書、鑑賞、作品の制作（条幅）8				
第14回	条幅作品完成生活と書				
第15回	最終作品発表・作品提出・表装代・レポート提出				
第16回	行書、草書の歴史的流れについて学ぶ				
第17回	王羲之を中心とした古典の臨書と鑑賞				
第18回	王羲之の古典臨書1 又は仮名実技書道実践1 又は写経の卷子実技指導1				
第19回	王羲之の古典臨書2 又は仮名実技書道実践2 又は写経の卷子実技指導2				
第20回	王羲之の古典臨書3 又は仮名実技書道実践3 又は写経の卷子実技指導3				
第21回	王羲之の書作品制作1 又はいろは歌の作品制作 又は写経卷子制作1				
第22回	王羲之の書作品制作2 又は仮名書道実践1 又は写経卷子制作2				
第23回	王羲之の書作品制作3 又は仮名書道実践2 又は写経卷子制作3				
第24回	王羲之の書作品制作4 又は散らし書きについて学修 又は写経卷子制作4				

第25回	王羲之倣書作品制作 5 又は散らし書き作品制作 1 又は写経卷子制作 5
第26回	王羲之倣書作品制作 6 又は散らし書き作品制作 2 又は写経卷子制作 6
第27回	王羲之倣書作品制作 7 又は散らし書き作品制作 3 又は写経卷子制作 7
第28回	王羲之倣書作品完成・提出 又は散らし書き作品制作 4 写経卷子完成・提出
第29回	校外学修（美術館鑑賞）
第30回	最終作品発表・作品提出・表装代・レポート提出
【教科書・参考書】	
参考書：『書道テキスト 第1巻 日本書道史』『中国書道史』古谷稔執筆担当（二玄社）、『書道テキスト 第2巻 中国書道史』玉村靈山執筆担当（二玄社）、『仮名のレッスン 入門編』村上翠亭監修（二玄社）他。	
【学生へのメッセージ】	
生涯教育として書に興味を持ち自主的な実技実践を行い自己形成に役立ててもらいたい。書の伝統文化を後世に残す担い手として行学二道に励み、直筆の必要性和精神安定の自己表現手段の一つとして書道の楽しさを知り、身につけてもらいたい。受講者は書道道具を持参してください。紙、墨等の消耗品については用意してありますので毎回購入していただきます。	
【オフィスアワー】	
提出物・レポート質問は授業時間内に受付けます。提出物は授業内の期日にて提出することが基本ですが授業の進行状況によっては事務局提出の年もある。	
【実務経験】	
秋山書道教室松恵書院主宰としての経験を活かした授業を展開します。	

年度	区分				分野		
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目		
講義名	[H_mba2] [19] かたちと見方・描き方《2時間連続授業》						
区分	前期（30回）		単位	必修（2）文学・芸術専攻		形式	演習
授業年次	--	2年	3年	--			
担当教員	永利郁乃		ナガトシ アヤノ		nagatoshi ayano [nagatoshi(a)]		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
「ものを見る」ということは、当たり前で日常で再考することもないが、実際には習慣に捕らわれ「見たつもり」になっていることがほとんどである。そのため、素描という手段によって改めて「見る」ことをとらえ直し、より深く見る技術を身につける。受講することにより、より深く対象をとらえ内包する価値を見出すことができるようになる。							
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】							
素描による対象観察によって、深いものの見方を身につける。多様な視点を持ち、視覚による情報収集力・分析力・構成力を獲得する。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、情報収集力、情報分析力、情報構成力							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
用意された観察目標に沿ったモチーフを鉛筆によって描く。鉛筆の持ち方やアタリの取り方といった基本的動作から指導する。全体講評を取り入れながら素描、観察を進める。素描後、学生同士の成果物を発表しあい、意見交換、技術向上を促進するためのグループディスカッションを行う。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学修（2時間以上）は、次回授業で行う資料について予め調べておくこと。事後学修（2時間以上）は、授業で学修した論点を各自整理し、所見を記録するまとめノートを作成する。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業への取り組み姿勢（50%、発言回数やワークの成果物など）、レポート・成果物（50%）により総合的に評価します。							
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】							
第1回	ガイダンス						
第2回	素描の基礎について						
第3回	道具の扱い方（デッサン道具の説明、デッサンの意味）						
第4回	鉛筆の使い方（濃淡で表現する）						
第5回	幾何学体を描く1（球体を表現する）						
第6回	幾何学体を描く2（球体の陰影を描く）						
第7回	幾何学体を描く3（直方体を表現する）						
第8回	幾何学体を描く4（直方体を表現するための遠近法）						
第9回	幾何学体を描く5（直方体の空間表現）						
第10回	幾何学体を描く6（他モチーフとの描き分け、陰影の表現）						
第11回	幾何学体を描く7（他モチーフとの陰影の表現）						
第12回	静物を描く1（複数のモチーフによる構図）						
第13回	静物を描く2（複数の素材の描き分け）						
第14回	静物を描く3（遠近法）						
第15回	静物を描く4（陰影の表現）						
第16回	静物を描く5（空間表現）						
第17回	花を描く1（植物を用いた構成デッサン）						
第18回	花を描く2（植物の質感の表現）						
第19回	花を描く3（植物の変化を描き分ける）						
第20回	花を描く4（植物と時間の表現）						
第21回	人体デッサン1（手をモチーフにした構成デッサン）						
第22回	人体デッサン2（人体の表現）						
第23回	人体デッサン3（骨格、筋肉）						
第24回	人体デッサン4（動き、質感）						
第25回	自画像を描く1（人体の表現）						
第26回	自画像を描く2（骨格、筋肉）						
第27回	自画像を描く3（動き、質感）						
第28回	自画像を描く4（空間、陰影の表現）						
第29回	まとめ1 見ること・描くこと						

第30回	まとめ2 表現すること
【教科書・参考書】	
適宜プリントを配布する。マルマン スケッチブック F8サイズを購入すること。(ガイダンスで説明する)『基礎から学ぶ空間デッサン』石川聡著 岡田浩志著(エムディエヌコーポレーション)2023年、その他参考書は講義中に適宜紹介する。	
【学生へのメッセージ】	
副専攻の学生は選択科目である。素描の実践を通して造形的なものの見方を獲得する。造形の語彙を増やし定着させるために「まとめノート」を作成すること。	
【オフィスアワー】	
提出物・レポート質問は授業時間内に受付けます。	
【実務経験】	
若草瓦会館長としての実務経験を活用した授業を行います。	

年度	区分			分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目			仏教芸術系科目
講義名	[l_mba3] [21] 音楽療法			
区分	通年（30回）	単位	選択（2）	形式
授業年次	--	2年	3年	--
担当教員	富山 美由紀		トミヤマ ミユキ	tomiyama miyuki [tomiyama(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
音楽には人の心や体を整える働きがあります。本講義ではその力を日常生活に活かす方法を学びます。ただ「聴く」だけでなく「他者、自身を整える道具として利用するもの」へ。高齢者施設、児童養護施設だけでなく、ショップやイベント施設など様々な現場で取り入れられている音楽を、音楽療法の視点からその可能性を探ります。また福祉現場での利用方法を学ぶことでSDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がります。 キーワード：芸術療法、音楽と心、環境音楽				
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】				
音楽療法の知識を得ることにより「多様な学問の考え方」や健康力への理解を深めます。音楽を聴く、歌う、カスタネットなどの簡単な楽器を用いる活動を通して実際の活動をプログラムすることにより「構想力」「計画力」「実行力」を養います。さらに対象者の動きや反応に注目し、その人に合った活動を考えることにより「評価力」「改善力」を身につけます。音楽はノン・バーバル（言葉のない）コミュニケーションであるため、音を通じたコミュニケーション能力を向上させます。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
講義と演習の複合形式。音楽療法の概論や対象者についての理解など、理論と、歌唱・ゲームなどの演習。様々な音楽を聴き、曲についてのディスカッションや歌唱・簡単な楽器を使ったゲームなどのグループワークを行います。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
毎回それぞれ（4時間以上）の事前・事後の学修を行うこと。学修内容は主に、定められた音楽の聴取やyoutubeなどを利用した音楽検索であり、詳細は都度授業中に指示します。				
【成績評価（方法・基準）】				
授業内での質疑応答への参加、課題の提出（50%）、期末提出レポート内容の課題理解度、考察の倫理性（50%）を総合的に評価します。				
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】				
第1回	音楽療法の定義、音楽療法って？			
第2回	音と脳のつながり			
第3回	リズムと身体の関係			
第4回	記憶と音楽			
第5回	音楽と感情			
第6回	セルフケアに使う音楽療法 1 どんな場面で音楽が有効か			
第7回	セルフケアに使う音楽療法 2 落ち込んだ時に			
第8回	セルフケアに使う音楽療法 3 集中したい時			
第9回	セルフケアに使う音楽療法 4 朝の音楽 / 夜の音楽			
第10回	セルフケアに使う音楽療法 5 不安を和らげる音楽			
第11回	セルフケアに使う音楽療法 6 音楽と呼吸			
第12回	コミュニケーションの音楽 1 場の空気を作る音楽			
第13回	コミュニケーションの音楽 2 言葉が要らない関わり			
第14回	コミュニケーションの音楽 3 支える音楽			
第15回	前半のまとめ（レポート提出）			
第16回	現場で利用されている音楽療法 高齢者施設 1 SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」			
第17回	現場で利用されている音楽療法 高齢者施設 2 SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」			
第18回	現場で利用されている音楽療法 児童施設 1 SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」			
第19回	現場で利用されている音楽療法 児童施設 2 SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」			
第20回	現場で利用されている音楽療法 精神科 1 SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」			
第21回	現場で利用されている音楽療法 精神科 2 SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」			
第22回	日常に使える音楽設計 1 街で使われている音楽			
第23回	日常に使える音楽設計 2 季節と音楽			
第24回	日常に使える音楽設計 3 時間と音楽			
第25回	日常に使える音楽設計 4 行事と音楽			
第26回	日常に使える音楽設計 5 経済と音楽			

第27回	実際に場面に合わせた音楽設計を立ててみましょう
第28回	実際に場面に合わせた音楽設計を立ててみましょう
第29回	総括 1
第30回	総括 2 (レポート提出あり)
【教科書・参考書】	
教科書：適宜プリントなどを配布、参考書：『音楽療法の手引』松井紀和（牧野出版）1980年『音楽療法の実際』松井紀和（牧野出版）1996年、『高齢者のための音楽レクリエーション』（メイツ出版）2018年、『音楽療法・レッスン・授業のためのセッション・ネタ帳』（音楽之友社）2005年。	
【学生へのメッセージ】	
音楽は不安を和らげたり気持ちを前向きにする力があります。本講義では音楽療法の視点を学びながら、音楽を通して自身を整え、回復する方法を学びます。将来、人とかがわる分野に進む学生だけでなく、ストレスとの向き合い方を学びたい学生にも役立つ内容です。専門知識や音楽経験は問いません。	
【オフィスアワー】	
木曜日8:50-12:25。メールアドレス (tomiyama(a)min.ac.jp)	
【実務経験】	
日本音楽療法学会認定音楽療法士として23年間音楽療法を実践。主宰する音楽教室で40年指導。ピアニストとして演奏会多数出演。	

年度	区分				分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目
講義名	[J_mba5] [23] 世界遺産研究《ラオス世界遺産仏像修復プロジェクト》				
区分	前期（15回）		単位	選択（2）	
形式	講義と演習				
授業年次	--	2年	3年	4年	
担当教員	鈴木義孝		スズキ ヨシタカ		suzuki yoshitaka [suzuki(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
ラオス・ルアンプラバン世界遺産地区を中心として、東南アジア全般における世界遺産研究を行います。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
身延山大学が行っている、世界遺産ラオス・ルアンプラバンの仏像修復プロジェクトを通してインド・インドシナの世界遺産に指定されている遺跡の学修を行う。 コンピテンシー：異文化理解、情報収集力、情報分析力、論理的思考力、計画力、実行力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
基本的にはラオス・ルアンプラバンの仏像修復プロジェクトに参加して、実際に修復や調査を行う。プロジェクトの実施がない場合に講義（スライド・ビデオ等使用）のみで進めて行きたい。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前（企画書あるいは予習）・事後（日報あるいは復習）の学修として、2時間以上を要する。各自問題意識をもって各講義を受講してもらいたい。					
【成績評価（方法・基準）】					
作業報告書（50%）、授業への取り組み姿勢（25%、発言回数やワークの成果物など）、事前・事後学修（25%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	授業の進め方、世界遺産の概略				
第2回	ラオス・ルアンプラバン、ランサーン王朝の歴史				
第3回	ラオス・ルアンプラバンの建築及び町並み				
第4回	ラオス・ルアンプラバン及びピエンチャンの仏像				
第5回	ラオス・ルアンプラバン仏像の修復過程				
第6回	インド・アジャンタ				
第7回	インド・エローラ				
第8回	スリランカ・アヌラダプラ他				
第9回	タイ・スコータイ遺跡				
第10回	タイ・アユタヤ遺跡				
第11回	ミャンマー・バガン				
第12回	カンボジア・バイヨン（仏教寺院）				
第13回	カンボジア・アンコールワット（ヒンドゥー教寺院）				
第14回	インドネシア・ボロブドゥール（大乘仏教寺院）				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
『ラオス・ルアンプラバン仏像修復プロジェクト日報及び報告書』（身延山大学東洋文化研究所所報）、TREASURES OF LUANG PRABANG』（Edition Route de la Soie）、『LAO BUDDHA』（S.O.M. INTERNATIONAL COMPANY, LIMITED）、『アジャンタ壁画』（NHK出版）。					
【学生へのメッセージ】					
世界遺産仏像修復プロジェクトは選抜制で厳しい審査が在るため、だれでも参加できるわけではない。したがってプロジェクト参加が基本なので、受講に際しては必ず担当教員の所まで受講の有無を確認に来ること。					
【オフィスアワー】					
事前予約にて相談の上対応します。					
【実務経験】					
ラオス世界遺産仏像修復プロジェクトユニットリーダーとしての実務経験を活かした授業を展開します。					

年度	区分	分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目	仏教芸術系科目

講義名	[K_mba5] [27] 文化財研究
-----	---------------------

区分	後期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	保坂康夫	ホサカ ヤスオ	hosaka yasuo [hosaka(a)]
------	------	---------	--------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

「文化財」あるいは「文化遺産」の理念は世界共通の概念であり、人類が形成し続ける歴史や文化の生きた証（あかし）そのものです。一度途絶えたら、二度と得られないかけがえのないものであり、大切に後世に伝えていかねばならないことを学生に考えてほしい。さらに、寺院は文化財の宝庫である事も意識してほしい。この講義を通して広義の仏教学や芸術の発展に寄与できる総合力を身につけることを目指します。また、この授業を通してSDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」の実現に貢献します。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

文化財研究とは遺跡出土遺物や絵画、彫刻、民具などを研究対象として、モノ自体の研究と同時に、それらが作り出された背景や自然環境や使用法を研究することで、日本および「地域理解」を目的とした学問である。有形・無形の文化財の保存と継承、また活用がいかに重要であるかの考察を通して、学生の「異文化理解」、「情報分析力」、「構想力」を身につけます。また、「文章表現力」や「口頭発表力」の向上も課題とします。

【授業方法（フィードバックの内容）】

主に電子ホワイトボードとパワーポイントによる画像資料の解説によって授業を進めます。同時に、配布資料を用いて解説を補足します。また、受講者には講義内容に応じた問いかけに対するその場での口答発表や、教室内でのグループディスカッションも行います。講義に対する質問事項を提出してもらうことも検討しています。進め方は受講者数に応じて変更する場合があります。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修（2時間以上）としては、参考書等に目を通し、自分なりの課題をもって授業にのぞんでください。事後学修（2時間以上）は、授業で配布した資料を読み返し、授業内容の再確認を行うと共に、事前学修で得た課題がどのように変化したかを整理してください。

【成績評価（方法・基準）】

学力確認テスト（60%）、授業中の口頭発表やグループディスカッションでの発言内容・回数など（40%）によって評価します。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	文化財と文化財政策
第2回	世界遺産
第3回	日本遺産
第4回	有形文化財 1 美術工芸品
第5回	有形文化財 2 建造物
第6回	無形文化財
第7回	民俗文化財
第8回	記念物 1 史跡
第9回	記念物 2 名勝・天然記念物
第10回	埋蔵文化財
第11回	伝統的建造物群保存地区
第12回	文化財修復と保存科学
第13回	文化財レスキュー
第14回	文化財保護の現在と講義の振り返り
第15回	まとめ、学力確認テスト

【教科書・参考書】

教科書：特に指定しません。授業で配布する資料を教材とします。参考書：『文化・学術法（現代行政法学全集25）』椎名慎太郎・稗貫俊文（ぎょうせい）1986年、『文化財政策 文化財保護の新たな展開に向けて』川村恒明・根木昭・和田勝彦（東洋大学出版会）2002年。

【学生へのメッセージ】

寺院は文化財の宝庫であり、その保護・保存の最先端の現場でもあります。文化財を大切に後世に伝えていかねばならないことを共に学びましょう。

【オフィスアワー】

毎週授業の前後に教室にて受け付けます。

【実務経験】

山梨県埋蔵文化財センターで文化財主事として文化財保護業務に合計24年間携わりました。

年度	区分	分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目	仏教芸術系科目

講義名	[L_mba5] [29] 仏教芸術特講Ⅰ
-----	-----------------------

区分	後期（15回）	単位	必修（2）文学・芸術専攻	形式	講義
----	---------	----	--------------	----	----

授業年次	--	--	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	永利郁乃	ナガトシ アヤノ	nagatoshi ayano [nagatoshi(a)]
------	------	----------	--------------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

仏教の「祈り」と「美」の関係を、客観的視点や西洋芸術との対比を通じて考察し、仏教精神がどのように造形に表れているかを探る。仏像や寺院空間を通じて、美しさの原理と仏教精神の総合的な理解を深めることができる。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

造形理論を学ぶことにより視覚情報の分析力を養う。また、多様な学問の考え方に触れその意味を検討することで地域と異文化の理解を広め、造形に内包された「祈り」の理解を深める。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、地域理解、異文化理解、情報分析力

【授業方法（フィードバックの内容）】

造形芸術の基本要素を歴史的な作品を提示しながら解説する。また「美」にまつわる科学的な知見を紹介することにより自然と造形の関連性、「かたち」に込められる「精神性」について検討する。各論点を討論を重ねることで造形の理解、基本的な素養を深めてゆく。素描後、学生同士の成果物を発表しあい、意見交換、技術向上を促進するためのグループディスカッションを行う。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修（2時間以上）は、次回授業で行う資料について調べておくこと。事後学修（2時間以上）は、授業で学修した論点を各自整理し、所見を記録する「まとめ」ノートを作成する。

【成績評価（方法・基準）】

授業への取り組み姿勢（50%、発言回数やワークの成果物など）、レポート（10%）、成果物（40%）により総合的に評価する。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	ガイダンス 祈りの造形
第2回	仏像の見方・顔の造形（正面）
第3回	仏像の見方・顔の造形（仏像の表情）
第4回	仏像の見方・顔の造形（仏像の持仏、装飾）
第5回	仏像の見方・顔の造形（横顔、表現方法について）
第6回	仏像の見方・顔の造形（横顔、塊を彫るための思考訓練）
第7回	仏像の見方・顔の造形（横顔、比率）
第8回	仏像の見方・全体のプロポーション（全体のバランス）
第9回	仏像の見方・全体のプロポーション（体の構造）
第10回	仏像の見方・全体のプロポーション（重心）
第11回	西洋彫刻から立体を読み解く（西洋彫刻と仏像の違い）
第12回	西洋彫刻から立体を読み解く（骨格構造）
第13回	西洋彫刻と仏像の立体表現
第14回	仏像の構造理解
第15回	まとめ 祈りと美

【教科書・参考書】

適宜プリントを配布する。マルマン スケッチブック F8サイズを購入すること（ガイダンスで説明する）参考書：『彫刻の美』本郷新（中央公論美術出版）1980年、『基礎から学ぶ空間デザイン』石川聡著 岡田浩志著（エムディエヌコーポレーション）2023年、『魅惑の仏像 1～20』（毎日新聞社）1986年、『日本美術の歴史 補訂版』辻 惟雄著（東京大学出版会）2021年、『カラー版 西洋美術史』高階秀爾著（美術出版社）2002年、その他参考書は講義中に適宜紹介する。

【学生へのメッセージ】

副専攻の学生は選択科目です。体感したことを言葉に置き換える習慣を身につけましょう。造形の語彙を増やし定着させるために「まとめノート」を作成してください。

【オフィスアワー】

提出物・レポート質問は授業時間内に受付けます。

【実務経験】

若草瓦会館長としての実務経験を活用した授業を行います。

年度	区分			分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目			仏教芸術系科目
講義名	[M_mba5] [31] 仏教芸術特講 II			
区分	後期（15回）	単位	必修（2）文学・芸術専攻	形式 講義
授業年次	--	--	3年	4年
担当教員	永利郁乃		ナガトシ アヤノ	nagatoshi ayano [nagatoshi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
造形的に対象を観察する技術を修得することにより仏像の美の構造を理解する。また、仏像造形の精神性を美学的な観点から考察する。受講することにより「祈り」と「造形」の関連性の理解を深めることができる。				
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】				
仏像の造形的な分析を通して獲得した「情報を構成」して表現につなげる。「多様な学問の考え方」に触れ、「地域文化」「異文化の理解」を踏まえて造形芸術の精神性の理解を深める。コンピテンシー：多様な学問の考え方、地域理解、異文化理解、情報分析力				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
仏像の造形的な分析を通して造形的な物の見方を实际的に解説する。また美学的な観点から仏像の精神性への理解を深める。素描後、学生同士の成果物を発表しあい、意見交換、技術向上を促進するためのグループディスカッションを行う。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学修（2時間以上）は、授業で行う資料について、下調べをしておくこと。事後学修（2時間以上）は、授業では体感による理解を重視するが、体感したものを言葉に置き換える技術の獲得を目標とする。「まとめノート」の作成を行うこと。				
【成績評価（方法・基準）】				
授業への取り組み姿勢（50%、発言回数やワークの成果物など）、レポート（10%）、成果物（40%）により総合的に評価します。				
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】				
第1回	ガイダンス 仏を写す			
第2回	彫刻造形の観察			
第3回	仏像の観察 比率・形の単純化 1			
第4回	仏像の観察 比率・形の単純化 2			
第5回	原始美術にみる祈りの造形			
第6回	飛鳥時代の祈りの造形			
第7回	天平時代の祈りの造形			
第8回	平安前期の祈りの造形			
第9回	平安後期の祈りの造形			
第10回	鎌倉時代の祈りの造形			
第11回	花の表現にみる歴史と造形性 1			
第12回	花の表現にみる歴史と造形性 2			
第13回	工芸芸術 手業の精神性			
第14回	民衆の祈りの造形			
第15回	まとめ 造形にあらわれる精神性			
【教科書・参考書】				
適宜プリントを配布する。マルマン スケッチブック F8サイズを購入すること（ガイダンスで説明する）参考書：『彫刻の美』本郷新（中央公論美術出版）1980年、『基礎から学ぶ空間デザイン』石川聡著 岡田浩志著（エムディエヌコーポレーション）2023年、『魅惑の仏像 1～20』（毎日新聞社）1986年、『日本美術の歴史 補訂版』辻 惟雄著（東京大学出版会）2021年、『カラー版 西洋美術史』高階秀爾著（美術出版社）2002年、その他参考書は講義中に適宜紹介する。				
【学生へのメッセージ】				
副専攻の学生は選択科目です。素描を伴った仏像造形の分析を通じ造形的なものの見方を獲得します。体感したことを言葉に置き換える習慣を身につけましょう。造形の語彙を増やし定着させるために「まとめノート」を作成してください。				
【オフィスアワー】				
提出物・レポート質問は授業時間内に受付けます。				
【実務経験】				
若草瓦会館長としての実務経験を活用した授業を行います。				

年度	区分				分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目
講義名	[N_mba3] [33] 仏教絵画Ⅰ				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）文学・芸術専攻		形式 講義と演習
授業年次	--	2年	3年	4年	
担当教員	永利郁乃		ナガトシ アヤノ		nagatoshi ayano [nagatoshi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
この授業では、仏教美術の中でも特に仏画や図像に焦点を当て、仏画の技法や特質を学ぶ。また実際に仏画を描き、自分の作品を制作することで仏教美術を知る入り口となると考える。仏教美術の表現や技術の変遷を、時代背景を踏まえて考察することで、信仰の変化や表現方法の変化について理解を深める。さらに、講義だけでなく実技も行い、実際に仏画を描くことで仏教美術をより身近に感じることを目的とする。仏教美術が今日の日本の美術に与えた影響を知ることによって、仏教絵画の初心者のための入門となることを目指す。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
本授業は日本の仏教美術について探求し、仏画に対する理解を深めることができる。また実技を行うことで、仏像や仏の姿を緻密に描く技術、色使いや筆遣いの修得が進むと共に、仏教の象徴や教義を深く学び、精神的な成長を促す。また各時代を代表する寺院等の仏画を中心に比較検討することができるようになる。この講義において必ず自分の作品を一つ完成し提出すること。 コンピテンシー：構想力、計画力、実行力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
プリントを用いて仏画の理解を深める。筆の扱い方等基本的なところを実技を通して学ぶ。作品を制作後、学生同士の成果物を発表しあい、意見交換、技術向上を促進するためのグループディスカッションを行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
制作においては個人差もあるため、遅れた学生は図画制作室において事前・事後学修で補う。受講前テキストの該当箇所を熟読し、制作手順を確認しておくこと。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。また受講後は時間内に達成できなかった制作工程を事後学修として行うことも可。					
【成績評価（方法・基準）】					
作品評価、提出（30%）、レポート（20%）、講義への取り組み姿勢（50%、発言回数やワークの成果物など）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス、授業の進め方				
第2回	筆の持ち方、運筆、技法について				
第3回	仏教絵画の鑑賞1 インドのアジャンタ石窟寺院の壁画～日本の仏画の始まり（平安時代）				
第4回	仏教絵画の鑑賞2 鎌倉時代～室町時代（禅宗）				
第5回	落款印とは 落款印デザイン作成				
第6回	篆刻作業1				
第7回	篆刻作業2				
第8回	仏画作品の鑑賞 作品制作 線の引き方				
第9回	仏画作品の鑑賞 作品の制作 構図				
第10回	仏画作品の鑑賞 作品の制作 原画からの模写				
第11回	仏画作品の鑑賞 作品の制作 墨による線画1				
第12回	仏画作品の鑑賞 作品の制作 墨による線画2				
第13回	仏画作品の鑑賞 作品の制作 顔彩による彩色1				
第14回	仏画作品の鑑賞 作品の制作 顔彩による彩色2				
第15回	最終作品発表・作品提出・レポート提出				
【教科書・参考書】					
適宜プリントを配布する。筆、顔彩、篆刻道具、色紙、大色紙用掛軸 たとうを購入すること（最初のガイダンスで詳細は説明する）。『仏画の鑑賞基礎知識』有賀祥隆著（至文堂）1991年、『日本美術全集9 水墨画とやまと絵』島尾新著（小学館）2014年、『基礎から学べる 仏画 パーツ別の表現&着彩のコツ』川端貴侑監修（至文堂）2023年、『思い通りに描く 仏画：仏画師、安達原玄の下絵を使って上達』安達原玄著（メイツ出版）2025年。					
【学生へのメッセージ】					
副専攻の学生は選択科目である。人数制限あり。仏画制作に遅れている学生は時間外の制作を行う場合がある。					
【オフィスアワー】					
提出物・レポート質問は授業時間内に受付けます。					

【実務経験】

若草瓦会館長としての実務経験を活用した授業を行います。

年度	区分			分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目			仏教芸術系科目
講義名	[O_mba3] [35] 仏教絵画 II			
区分	後期（15回）	単位	必修（2）文学・芸術専攻	形式 講義と演習
授業年次	--	--	3年	4年
担当教員	永利郁乃		ナガトシ アヤノ	nagatoshi ayano [nagatoshi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
この授業では、仏教美術の中でも特に仏画や図像に焦点を当て、仏画の技法や特質を学ぶ。また実際に仏画を描き、自分の作品を制作することで仏教美術を知る入り口となると考える。仏教美術の表現や技術の変遷を、時代背景を踏まえて考察することで、信仰の変化や表現方法の変化について理解を深める。さらに、講義だけでなく実技も行い、実際に仏画を描くことで仏教美術をより身近に感じることを目的とする。この授業では、仏教絵画 で制作する入門的な仏画とは違い、より高度な技法で制作する。自分で描く仏画モチーフを選ぶこと。				
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】				
本授業は日本の仏教美術について探求し、仏画に対する理解を深めることができる。また実技を行うことで、仏像や仏の姿を緻密に描く技術、色使いや筆遣いの修得が進むと共に、仏教の象徴や教えを深く学び、精神的な成長を促す。また各時代を代表する寺院等の仏画を中心に比較検討することができるようになる。この講義において必ず自分の作品を一つ完成し提出すること。 コンピテンシー：構想力、計画力、実行力				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
プリントを用いて仏画の理解を深める。筆の扱い方、彩色、箔押し等の技法を実技を通して学ぶ。作品制作後、学生同士の成果物を発表しあい、意見交換、技術向上を促進するためのグループディスカッションを行う。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
制作においては個人差もあるため、遅れた学生は図画制作室において事前・事後学修で補う。受講前テキストの該当箇所を熟読し、制作手順を確認しておくこと。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。また受講後は時間内に達成できなかった制作工程を事後学修として行うことも可能です。				
【成績評価（方法・基準）】				
作品・制作過程（50%）、講義への取り組み姿勢（25%、発言回数やワークの成果物など）、事前・事後学修（25%）で評価する。				
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】				
第1回	ガイダンス、授業の進め方			
第2回	技法、画材の説明			
第3回	仏画の鑑賞と実践 仏画モチーフの選定 1			
第4回	仏画の鑑賞と実践 仏画モチーフの選定 2			
第5回	下地作り 木版の成形			
第6回	下地作り 表面処理			
第7回	構図の考え方			
第8回	下絵の制作 1			
第9回	下絵の制作 2			
第10回	彩色の構成			
第11回	仏画制作 線画			
第12回	仏画制作 彩色 1			
第13回	仏画制作 彩色 2			
第14回	仏画制作 仕上げ			
第15回	最終作品発表・作品提出・レポート提出			
【教科書・参考書】				
適宜プリントを配布する。筆、彩色道具、木版を購入すること（最初のガイダンスで詳細は説明する）。「仏教絵画」を受講した学生はその講義で制作した落款印を持参すること。『仏画の鑑賞基礎知識』有賀祥隆著（至文堂）1991年、『日本美術全集9 水墨画とやまと絵』島尾新著（小学館）2014年、『基礎から学べる 仏画 パーツ別の表現&着彩のコツ』川端貴侖監修（至文堂）2023年、『思い通りに描く 仏画：仏画師、安達原玄の下絵を使って上達』安達原玄著（メイツ出版）2025年。				
【学生へのメッセージ】				
副専攻の学生は選択科目である。人数制限あり。仏画制作に遅れている学生は時間外の制作を行う場合がある。				
【オフィスアワー】				
提出物・レポート質問は授業時間内に受け付けます。				

【実務経験】

若草瓦会館長としての実務経験を活用した授業を行います。

年度	区分				分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目				文学・歴史学系科目
講義名	[A_mlh2] [01] 古典文学を読む				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）文学・芸術専攻		形式 講義
授業年次	1年	2年	3年	--	
担当教員	Jill Emma Strothman		ジル・エマ・ストロースマン	jill emma strothman [jill(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
古典文学をはるか昔の人々のものではなく、現代のわたしたちにも通じるものだと理解して、古典文学について語り合っ、俳句や川柳を作詞してみることを狙いとする楽しい授業です。文学に触れることによって、コミュニケーション力が上がります。また、短歌、俳句や川柳は生涯の趣味として素晴らしいです。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
日本文学を代表する数々の作品から万葉集万葉集、枕草子、源氏物語、方丈記、徒然草、百人一首と御伽草子を読み、古典に親しむことによって、異文化理解と読解力を得られます。本授業を受講することにより、古典文学はもとより、俳句にも親しみ、いつでも自らの気持ちを俳句や川柳などで表現できるようになり、文章表現力を得られます。最後に、中間発表が口頭なので、口頭発表力を得られます。コンピテンシー：異文化理解、文章表現力、口頭発表力、読解力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
作品を読んで解説をしているいろいろな意見がある場面について話しましょう。中間発表して、授業で扱わない作品や、扱った作品の別な部分について調べて発表していただきます。毎週、終わりの15分を使って、俳句や川柳を与えられた季語やテーマにあわせてみんなで考えます。自作俳句や川柳の発表、中間の学生発表など、学生主体のアクティブラーニングが多い授業です。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、前回までの作品の重要なデータをノートにまとめる。事後学修（2時間以上）は、授業で学修した作品を読み返して、発表の準備をする。受講の前後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
中間発表（30%）、学力確認テスト（40%）、授業に対する取り組み（30%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	俳句、川柳				
第2回	枕草子				
第3回	方丈記				
第4回	徒然草				
第5回	御伽草子				
第6回	万葉集				
第7回	中間発表				
第8回	源氏物語 1 歴史的背景と「桐壺」				
第9回	源氏物語 2 身代わりとしての紫				
第10回	源氏物語 3 罪と仏教：柏木、藤壺、六条御息所				
第11回	百人一首				
第12回	百人一首大会				
第13回	源氏物語 4 浮船の様々な選択を考えて				
第14回	往生要集、授業内容の復習				
第15回	まとめ及び振り返り				
【教科書・参考書】					
教科書：プリントを配ります。参考書：本授業受講中、学生自らの興味より選択します。					
【学生へのメッセージ】					
旧仏教芸術専攻の学生は選択科目です。難しいと思われがちな古典文学を気軽に楽しめるものだとわかって、好きになっていただきたい。					
【オフィスアワー】					
月曜日 5 時限目（相談したいことがある学生、あらかじめ連絡していただきたいです）					
【実務経験】					
世界各国における勉学の経験を活かし、文学の多様性について教授します。					

年度	区分				分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目				文学・歴史学系科目
講義名	[B_mlh2] [03] 古文書学				
区分	後期（15回）		単位	必修（2）	
形式	講義				
授業年次	1年	2年	3年	--	
担当教員	望月真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho [smochi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
古文書の読解は、歴史学や仏教史を研究するには必須である。そこで本授業では古文書学はどういう学問か、さらに、くずし字の基礎から読解に至るまで指導していく。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
古文書解読辞典を引きながら初歩的な古文書が解読できるようになることを到達目標とする。本授業を受講することにより：読解力、文章表現力、論理的思考力が身につく。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
古文書読解の授業は、実習形式とするのでノート、筆記用具、くずし字の書解読辞典を持参のこと。学外の古文書を研究する研究者に講義してもらうこともあります。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行う。事前学修では前回配付した古文書の理解を深めることを行い、事後学修では授業で取り組んだ古文書解読の誤字・脱字等を確認する。					
【成績評価（方法・基準）】					
通常授業の取り組み姿勢（30%、発言回数やワークの成果物など）、期末レポート（30%）、授業時間内に読解した古文書解読用紙の提出（40%）を総合的に評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	古文書学とは				
第3回	古文書の形態				
第4回	古文書の読解基礎 1 くずし字の基礎と用例				
第5回	古文書の読解基礎 2 くずし字の応用 漢字				
第6回	古文書の読解基礎 3 くずし字の応用 ひらがなとカタカナ				
第7回	古文書の読解実践 1 日蓮宗寺院の古文書 寺院縁起				
第8回	古文書の読解実践 2 日蓮宗寺院の古文書 宗門改め帳				
第9回	古文書の読解実践 3 日蓮宗寺院の古文書 過去帳				
第10回	古文書の読解実践 4 日蓮宗寺院の古文書 その他				
第11回	古文書の読解実践 5 身延山の古文書 寺院縁起				
第12回	古文書の読解実践 6 身延山の古文書 本末関係				
第13回	古文書の読解実践 7 身延山の古文書 支配関係				
第14回	古文書の読解実践 8 身延山の古文書 その他				
第15回	各回の授業のまとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『増訂近世古文書解読辞典』林英夫監修、栢書房、2011年 参考書：『くずし字用例辞典 普及版』児玉幸多編（東京堂出版）2016年。『入門近世文書字典』林英夫・中田易直編（栢書房）1975年。					
【学生へのメッセージ】					
解読してもらいたい古文書があったら授業に持参してください。					
【オフィスアワー】					
授業内容に関する質問等があれば授業の開始前・終了後に研究室や教室で対応する。その他の時間帯の質問等はメール（smochi(a)min.ac.jp）で対応する。					
【実務経験】					
博物館学芸員の時代に古文書を取り扱った経験を授業に役立てる。					

年度	区分	分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目	文学・歴史学系科目

講義名	[C_mlh2] [05] 宗教と文学
-----	---------------------

区分	前期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	1年	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	Jill Emma Strothman	ジル・エマ・ストロースマン	jill emma strothman [jill(a)]
------	---------------------	---------------	-------------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

様々な国の文学を通して宗教を考えるきっかけとなる授業です。日本では、神道と仏教がお互いに影響を与えてきましたが、中国だと、道教が深くかかわっています。キリスト教とイスラム教は、多少違ったメッセージを伝える宗教ですが、昔書かれた文字が正しかったかどうかなど、共通する課題もあります。違った考えを学ぶことによって、視野が広がります。また、異なる国の方と出会う際、ルールの違いから気を付ける点を知るなど、よりスムーズに接することができます。一歩進んだ自分になるため、一緒に学びましょう。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

本授業は中国、韓国、日本へと伝わって来た仏教や、キリスト教・イスラムなどの宗教の波はどのように文学に影響を与えてきたのかを探求することによって、異文化理解と読解力を得られます。それぞれの宗教の表現の仕方が違って文章表現の多様性を知り、文章表現力が豊かになります。中間発表は口頭なので、口頭表現力を得られます。本授業を受講することにより、それぞれの宗教文学作品から短めな例を用いて諸宗教文学と仏教文学を比較検討することができます。コンピテンシー：異文化理解、文章表現力、口頭発表力、読解力

【授業方法（フィードバックの内容）】

プリントを読んで、多少の歴史を学んで、話し合います。西遊記とThe Da Vinci Codeの回はDVDを用います。中間発表で日本以外の国の文学について自習的に研究して発表し、総合発表では、日本の文学について調べて発表してもらいます。基本的に参加型授業で、学生の発言時間が毎回あるうえ、中間の学生発表など、学生主体のアクティブラーニングが多い授業です。

【授業外学修の方法（時間数）】

毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。受講の前後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。

【成績評価（方法・基準）】

中間発表（30%）、授業への取り組み（30%）、学力確認テスト（40%）で評価する。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	どんぐりと山猫（日本）
第2回	西遊記（中国）
第3回	杜子春（中国版 vs 日本版）
第4回	中国の仏教文学に大きな影響を与えた道教：老子・荘子・天問（中国）
第5回	韓国の昔話（日本と比較しましょう）
第6回	三国史記（韓国）
第7回	春香伝（韓国）
第8回	中間発表
第9回	千夜一夜（アラビア）
第10回	日本文学
第11回	往生要集 vs Danteの神話の天国と地獄
第12回	ベトナムとラオスの昔話（日本と比較しましょう）
第13回	The Da Vinci Code
第14回	古事記と日本書紀
第15回	まとめ及び振り返り

【教科書・参考書】

教科書：適宜プリントを配布する。参考書：受講生の興味に応じ、適宜指示します。

【学生へのメッセージ】

知らない国のほんの少しの知識を身につけることで、シルクロードを渡って来た仏教、そしてイスラム・キリスト教など他の宗教がどのように人々の考えを変えたかについて事前に予習し、もっと知りたいと興味を持って復習してほしい。

【オフィスアワー】

月曜日 5 時限目（相談したいことがある学生、あらかじめ連絡していただきたいです）

【実務経験】

世界各国における勉学の経験を活かし、文学の多様性について教授します。

年度	区分	分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目	文学・歴史学系科目

講義名	[D_mlh3] [07] 考古学概論
-----	---------------------

区分	前期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	長澤宏昌	ナガサワ コウショウ	nagasawa kosyo [nagasawa(a)]
------	------	------------	------------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

あらゆる生命体の中で、人間だけが行ってきた葬送行為やその儀礼を知ることは、言い換えれば人間らしさを確認することでもある。埋葬の歴史を通じて改めてそれを意識すると同時に、葬送行為を簡略化もしくは不要なものとする現代社会の実態を知ること、僧侶を目指す学生諸君がこれから何を為すべきかを、学生と共に考える。講義は埋葬の歴史を中心に据えるが、一般常識として旧石器時代から近世までの時代概観も行なう。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

仏教考古学とは、遺跡からの出土品や伝世品を通して、仏教の成り立ちや変遷を学ぶことを目的とするが、この講義では、考古学の成果に基づき仏教伝来以前の日本列島の埋葬や信仰形態を理解することに主眼を置き、埋葬や信仰の意識が希薄になっている現代社会との対比を行う。それにより、遺物や遺構から何がわかるかという「情報収集力」「情報分析力」「論理的思考力」を育み、僧侶を目指す学生に、これからの社会で「何をなすべきか」の「構想力」を高めてもらうためである。

【授業方法（フィードバックの内容）】

講義により、埋葬や信仰の歴史及び遺跡出土仏教関係遺物・遺構の概説を行う。日本においては、古墳時代前期以前は基本的には仏教とは無縁であるが、旧石器時代以降、頑なな埋葬や信仰への思いを学ぶことによって、現代社会で急激におろそかにされつつある祖先や家族・一族の繋がりを再確認する。

【授業外学修の方法（時間数）】

毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。授業の理解度を確保するため、翌週に前授業の内容を400字詰め1枚程度のレポートとして提出することを義務付ける。総括ではこのレポートの状況を基に重点項目を設定し、学生の理解を深めることとする。

【成績評価（方法・基準）】

学力確認テスト（60%）、授業への取り組み姿勢（20%、発言回数やワークの成果物など）、毎回の授業内容をまとめたレポート（20%）で評価する。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	仏教考古学の定義と講座内容概説
第2回	発掘調査の理論 / 旧石器時代の信仰と埋葬
第3回	縄文時代の埋葬と信仰 1
第4回	縄文時代の埋葬と信仰 2
第5回	弥生時代の埋葬と信仰
第6回	古墳時代の埋葬と信仰
第7回	古代・中世の埋葬と信仰
第8回	寺院跡の調査 甲斐国分寺の調査例
第9回	近世・近現代の埋葬と信仰
第10回	伝来した仏教と埋葬儀礼との関わり（古墳と仏教）
第11回	遺跡にみられる先祖供養の痕跡
第12回	民俗学から見た先祖観
第13回	現代社会の状況
第14回	謙虚さを考える
第15回	まとめと学力確認テスト（解説を含む）

【教科書・参考書】

教科書：『今、先祖観を問う：埋葬の歴史と現代社会』長澤宏昌（石文社）初回授業時に頒布する。参考書：『仏教考古学講座』（雄山閣）、『仏教考古学辞典』（雄山閣）。

【学生へのメッセージ】

講義で学ぶことと、現代社会の仏教を取り巻く状況をしっかり理解し、それらがいかに乖離しているかに気付いてほしいと同時に、その認識のもと僧侶として何をなすべきかを考えてほしい。

【オフィスアワー】

授業の前後に教室にて対応します。

【実務経験】

山梨県考古博物館学芸員・山梨県埋蔵文化財センター文化財主事の実務経験による調査・研究の実例を紹介し、仏教考古学が理解できる授業とします。

年度	区分	分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目	文学・歴史学系科目

講義名	[E_mlh3] [09] 民俗学概論
-----	---------------------

区分	前期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	小高絢子	オダカ アヤコ	odaka ayako
------	------	---------	-------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

なぜ正月には門松を飾ってお節料理を食べるのか、なぜ葬式の後には清めの塩を渡されるのか、祭りはなぜ行われるのか、われわれは妖怪をどのように描いてきたのか 本講義ではこのような日本民俗学の基本的なトピックをとりあげながら、われわれの日常に“あたりまえ”にある慣習や伝承の背景にどのような人々の生活・思考・文化・歴史があるかを一歩踏み込んで考える、民俗学の姿勢を学びます。 キーワード 柳田國男、年中行事、地域調査

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

(1)民俗学に関する基本的な概念・理論・用語・歴史などを身につけ、おおまかに説明できるようになること、(2)われわれの日常生活の背景にある伝承や慣習に触れることで、人々の生活、思考、文化を多角的に検討する能力を涵養すること、(3)学んだ知識を発展させて自身の制作・研究活動に活用できるようになることを目指します。自己や他者の文化を理解するための多角的な視野を育てることは、SDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」に繋がります。 コンピテンシー：地域理解、異文化理解、情報収集力、論理的思考力

【授業方法（フィードバックの内容）】

原則は対面の講義形式で行います。キャビネットにアップした資料に沿って、適宜写真や映像資料などを用いながら講義を進めます。小テスト・期末レポートの提出にあたっては、Googleフォーム等のICTツールを活用します。毎授業、インターネットに接続可能なスマートフォン・タブレット・PCなどを持参してください。

【授業外学修の方法（時間数）】

この授業では、毎回の授業ごとに事前・事後学修を合わせて平均4時間程度の学修を行ってください。事前学修（約2時間）：授業テーマに関して自身が持っているイメージや、知っている知識をノート等にまとめておく。事後学修（約2時間）：授業の復習をした上で小テストに回答する。事前・事後学修共に、分からない語句や読めない漢字があった場合は事典や辞書を用いて調べる。

【成績評価（方法・基準）】

学修成果物（50%、毎授業ごとの小テスト）、期末レポート（50%）により総合評価を行います。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	ガイダンス：日本民俗学とはなにか
第2回	民俗学と俗信
第3回	「あの世」と「この世」
第4回	生活の中の神々
第5回	妖怪
第6回	ハレとケ、ケガレ
第7回	祭り
第8回	災害
第9回	人生儀礼
第10回	死と葬送
第11回	年中行事・期末レポートの説明
第12回	食と民俗
第13回	口承文芸(1)：昔話と伝説
第14回	口承文芸(2)：現代の語り
第15回	全体のまとめ：芸術と民俗

【教科書・参考書】

教科書：レジュメをもって代替とします（紙媒体の配布は行わないため、各自ファイルキャビネットからダウンロードすること）。参考書：『知っておきたい日本の年中行事事典』福田アジオほか（吉川弘文館）2012年。その他の参考文献は各回のレジュメに記載する。

【学生へのメッセージ】

授業では絵画や漫画・アニメなどの資料も活用するため、芸術やサブカルチャーに関心のある学生も歓迎しています。

【オフィスアワー】

本授業の前後、もしくは火・水・木曜日のオフィスアワー（大学事務室を通じて予約してください）。

【実務経験】

なし

年度	区分				分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目				文学・歴史学系科目
講義名	[F_mlh3] [11] 世界宗教史				
区分	前期（15回）	単位	選択（2）R2以前は必修		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	4年	
担当教員	小高絢子		オダカ アヤコ		odaka ayako
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>宗教がどのような形でわれわれの生活に関わってくるかは、その時々時代・社会状況によって大きく異なっています。本講義では、過去から現代に至るまでの諸宗教の歴史と動向を取り上げながら、グローバル化・多様化する日本において多くの人々の価値観を理解し共生していくための手立てとしての、宗教学の基本的知識と主体的な思考力を身につけます。具体的には、第2回目～第6回目にかけて諸宗教の基本的知識（歴史・特徴・宗教状況）を確認し、第8回目～第14回目ではそれらの宗教と社会との関わりにおいて注目すべきテーマや宗教現象について取り上げます。 キーワード：伝統宗教、スピリチュアリティ、カルト、多文化共生、宗教リテラシー</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
<p>(1)現代の諸宗教に関する基礎知識（歴史・特徴・宗教状況）を得ること、(2)現代の日本社会において宗教と関わる領域で注目されるテーマや宗教現象について、その概要を説明できること、(3)その背景にある社会状況や、多様な価値観を理解した上で、自身の考えを述べられるようになることを目指します。 自己や他者の宗教文化を知り、多様な価値観を理解することは、SDGs5の目標「ジェンダー平等を実現しよう」、SDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」、SDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」に繋がります。 コンピテンシー：地域理解、異文化理解、論理的思考力</p>					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
<p>原則は対面の講義形式で行います。キャビネットにアップした資料に沿って、適宜写真や映像資料などを用いながら講義を進めます。受講生同士のグループディスカッションや映像資料の視聴を通じた意見共有などのアクティブラーニングを取り入れます。課題や中間・期末レポートの提出にあたっては、Googleフォーム等のICTツールを活用します。毎授業、インターネットに接続可能なスマートフォン・タブレット・PCなどを持参してください。小テストや中間・期末テストの解説は授業内もしくはファイルキャビネット経由で行います。</p>					
【授業外学修の方法（時間数）】					
<p>この授業では、毎回の授業ごとに事前・事後学修を合わせて平均4時間程度の学修を行ってください。事前学修（約2時間）：授業テーマに関して自身が持っているイメージや、知っている知識をノート等にまとめる。事後学修（約2時間）：授業の復習をした上で課題に回答する。事前・事後学習共に、分からない語句や読めない漢字があった場合は事典や辞書を用いて調べる。</p>					
【成績評価（方法・基準）】					
<p>学修成果物（50%、毎授業ごとの小テストもしくは課題）、中間・期末テスト（25%×2回＝50%）により総合評価を行います。</p>					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンスとイントロダクション：授業の目的・内容・成績評価の説明、次回授業に向けたアンケートの実施				
第2回	現代日本の宗教状況・現代日本人の宗教意識：宗教は衰退したのか？				
第3回	日本と世界の諸宗教：仏教・神道・儒教・道教				
第4回	日本と世界の諸宗教：キリスト教・ユダヤ教				
第5回	日本と世界の諸宗教：イスラーム・ヒンドゥー教				
第6回	日本と世界の諸宗教：新宗教				
第7回	中間テストとフィードバック：前期の授業内容に関するテストの実施、解説				
第8回	宗教とスピリチュアリティ：スピリチュアルブーム・スピリチュアル市場				
第9回	宗教と観光：聖地巡礼ブーム・パワースポット				
第10回	宗教とジェンダー：女性観・女人禁制				
第11回	宗教と移民：オールドカマーとニューカマー・国外布教				
第12回	宗教と社会貢献：震災復興・ケア				
第13回	宗教と政治：政教分離・ファンダメンタリズム				
第14回	宗教とカルト問題：宗教的コミュニケーション・マインドコントロール				
第15回	まとめ：期末テストとフィードバック、授業の振り返り				
【教科書・参考書】					
<p>教科書：レジュメをもって代替とします（紙媒体の配布は行わないため、各自ファイルキャビネットからダウンロードすること）。参考書：『宗教社会学を学ぶ人のために』井上順孝編（世界思想社）2016年、『世界は宗教とどうしてつきあっている』山中弘・藤原聖子編（弘文堂）2013年、『宗教学入門』棚次正和・山中弘編（ミネルヴァ書房）2005年。その他の参考文献は各回のレジュメに記載する。</p>					

【学生へのメッセージ】
「敵を知り己を知れば百戦危うからず」。他者を知ることによって自己の理解が深まるように、諸宗教を知ることには自らを知ることにもつながります。宗門大学で諸宗教を学ぶことの意義を是非、感じてください。
【オフィスアワー】
本授業の前後、もしくは火・水・木曜日のオフィスアワー（大学事務室を通じて予約してください）。
【実務経験】
なし

年度	区分		分野		
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目		文学・歴史学系科目		
講義名	[G_mlh3] [13] ポップカルチャー論【社教(選択)】《遠隔授業》				
区分	前期 (15回)	単位	必修 (2)	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	岡田文弘		オカダ フミヒロ	okada fumihiro [ookada(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本授業では近代以前の大衆文化と社会教育のありようから検討をはじめ、今日のポップ・カルチャーの興盛までをたどり、講義毎に社会的に包摂されてきたポップ・カルチャーを社会教育的視野で捉え、その理解を深めます。この授業を通して、卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）に掲げる「芸術の発展に寄与できる総合力」を身につけ、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」の達成への一助とします。 キーワード：社会教育、大衆文化、地域振興					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
日常的に身近な文化であり、かつ娯楽の要素の強いポップ・カルチャーを学術的なアプローチによって検討することで「多様な学問の考え方」「批判的思考力」、社会教育との連携する力を身につけ、これからの日本文化を作っていくための知識や「構想力」を獲得し、これらを通して社会における文化振興や創作活動ができるようにする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
この授業は同時双方向型（ライブ配信）の遠隔授業（初回のみ対面授業）です。ファイル・キャビネットにアップした資料を中心に講義を進めます。また毎回、質問・意見等を記入してもらい（Googleフォーム使用）、翌週の授業の冒頭でフィードバック（回答や補足説明など）を行います。ディベートの機会も適宜設けます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行う。事前学修は、シラバス・事前配布資料・参考書を基に各テーマについて自分の問題意識に従って疑問点や興味のある点をメモしておく。事後学修は、学修した内容を自分なりに整理して文章化し、Googleフォームに記入する。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業参画度（50%：Googleフォームを用いた毎回の質問・意見等の記入。多様な知識の修得・批判的思考力の習熟の度合いを測る）およびレポート（50%：学んだことを社会教育に連携させるための構想力を測る）により、総合的に評価を行います。レポートには最終回で講評を行い、フィードバックとします。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス（シラバス確認） 対面授業				
第2回	中世の大衆文化				
第3回	近世の大衆文化				
第4回	近代化とポップ・カルチャー				
第5回	ポップ・カルチャーと文学				
第6回	ポップ・カルチャーと視覚芸術1：美術				
第7回	ポップ・カルチャーと視覚芸術2：演劇・映画				
第8回	ポップ・カルチャーと視覚芸術3：漫画・アニメ				
第9回	ポピュラー音楽1：洋楽				
第10回	ポピュラー音楽2：邦楽				
第11回	文化的遺産の社会への還元：社会教育の観点から1：事例				
第12回	文化的遺産の社会への還元：社会教育の観点から2：応用				
第13回	ポップ・カルチャーと宗教1：平成以前				
第14回	ポップ・カルチャーと宗教2：平成以降				
第15回	まとめ：授業全体の要点確認とレポート講評				
【教科書・参考書】					
教科書：レジュメをもって代替とする（岡田文弘講義関係キャビネットからダウンロードすること）。参考書：『NHK ニッポン戦後サブカルチャー史』宮沢章夫（NHK出版）2014年、『ラバーソウルの弾みかた ビートルズと60年代文化のゆくえ』佐藤義明（平凡社）2004年、『植草甚一スクラップブック』植草甚一（晶文社）2004-2005年、『動物化するポストモダン』東浩紀（講談社）2001年。					
【学生へのメッセージ】					
ポップ・カルチャーを大学の授業で扱う試みは近年増えつつありますが、まだ試行錯誤の段階にあります。今までにない、新しい形の学びを作っていきたいので、主体的・積極的な参加をお願いします。なお本学の性格を加味し、宗教（特に仏教）とポップ・カルチャーの関わりも視野に入れます。					

【オフィスアワー】

随時、メール（ookada(a)min.ac.jp）でアポイントメントを取ってください。

【実務経験】

東京大学仏教青年会館にて一般講座の講師を担当（2015-2019年）。文化的遺産の一般社会への還元につながる授業を作っていきます。

年度	区分		分野		
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目		文学・歴史学系科目		
講義名	[H_mlh4] [17] 現代サブカルチャー論《遠隔授業》				
区分	後期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	岡田文弘		オカダ フミヒロ	okada fumihiro [ookada(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本授業では現代（20世紀以降）の「文学」「映画」「音楽」などにおけるコンテンツを検討し、サブカルチャーにおける多様な表現上の刷新を学ぶことで、卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）に掲げる「芸術の発展に寄与できる総合力」を身につけます。また修得した知識を地域振興や社会教育に繋ぐための考究を通し、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」の達成への一助とします。 キーワード：社会教育、大衆文化、地域振興					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
大学で扱う題材としてはまだ新味のあるサブカルチャーを、学術的なアプローチによって検討することで「多様な学問の考え方」を身につける。またプレゼンテーションを行うことで「課題設定力」「口頭発表力」を養い、これらを通して社会における文化振興や創作活動ができるようにする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
この授業は同時双方向型（ライブ配信）の遠隔授業（初回のみ対面授業）です。ファイル・キャビネットにアップした資料を教材に用います。授業内でディベートを行った上で、Googleフォームを用いて質問・コメント等を提出してもらいます。（その質問等については、翌週の授業の冒頭でフィードバックを行います）。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行う。事前学修は、シラバス・事前配布資料・参考書を基に各テーマについて自分の問題意識に従って疑問点や興味のある点をメモしておく。事後学修は、学修した内容を自分なりに整理して文章化し、Googleフォームに記入する。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業参画度（70%：ディベートでの発言、Googleフォームへの記入等。授業内で提示した多様な学術的知識への理解度を測る）、および発表（30%：第13・14回で実施。課題設定力・口頭発表力を測る）により、総合的に評価を行います。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス（シラバス確認） 対面授業				
第2回	サブカルチャーとは何か 1：概論				
第3回	サブカルチャーとは何か 2：学生からのレスポンス				
第4回	サブカルにおける文学				
第5回	サブカルにおける視覚芸術				
第6回	サブカルにおける音楽				
第7回	サブカルにおける娯楽				
第8回	ネット時代の文化				
第9回	中間報告：発表に向けて				
第10回	地域におけるサブカルチャー				
第11回	サブカルと宗教 1：事例				
第12回	サブカルと宗教 2：文化教育としての可能性				
第13回	発表 1				
第14回	発表 2：予備・講評				
第15回	まとめ：授業全体の要点確認				
【教科書・参考書】					
教科書：レジュメをもって代替とする（岡田文弘講義関係キャビネットからダウンロードすること）。参考書：『若い読者のためのサブカルチャー論講義録』宇野常寛（朝日新聞出版）2018年、『NHK ニッポン戦後サブカルチャー史 深掘り進化論』宮沢章夫（NHK出版）2017年、『オタク学入門』岡田斗司夫（太田出版）1996年。					
【学生へのメッセージ】					
受講生の皆さんには、最新流行の若者文化に接しているというadvantageがあります。また皆さんの興味関心に基づくことで主体的・積極的な授業参加を促します（したがって効果的な双方向授業になることが期待できる）。既存の枠に囚われない、まさに「サブカル」と呼べるような自由度の高い授業を一緒に作っていきましょう。					
【オフィスアワー】					
随時、メール（ookada(a)min.ac.jp）でアポイントメントを取ってください。					

【実務経験】

東京大学仏教青年会館にて一般講座の講師を担当（2015-2019年）。文化的遺産の一般社会への還元につながる授業を作っていきます。

年度	区分				分野	
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目				文学・歴史学系科目	
講義名	[l_mlh3] [15] 児童文学					
区分	前期（15回）		単位	選択（2）		形式 講義
授業年次	--	--	3年	4年		
担当教員	伊東久実		イトウ クミ		ito kumi [ito(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
児童文学の歴史について、基礎的な知識の修得を目指す。また、児童文学の代表的な作品について、その特徴の理解を促す。さらに、作品のテーマについて自分なりの問題意識をもち、積極的に考察する力を高める。 キーワード：児童文学、絵本、ブックトーク)						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
児童文学についての基礎的な知識を身につけ、鑑賞力を高めることができる。児童文学への興味・関心が深まる。児童文学と社会や文化の関わりについて、自分なりの課題意識を持てる。互いに意見を交わすことにより、表現力やコミュニケーション力が向上する。 コンピテンシー：異文化理解、読解力、文章表現力、口頭発表力、批判的・論理的思考力、課題設定力、評価力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
児童文学作品を取り上げて、作品の背景や特色について考察すると共に、グループディスカッションでの意見交換を行いながら作品の面白さ、楽しさを味わう。さらに、グループディスカッションでは、作品から得た課題意識を共有する。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
事前学修（2時間以上）は、シラバスに則して次回の授業資料に目を通し、作品を読んでおく。事後学修（2時間以上）は、授業後に指示された課題と、授業内で取り上げた作品や作家の関連資料を読む。						
【成績評価（方法・基準）】						
授業内発表（3回・60%）、質疑応答への参加（40%）により総合的に判断します。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	児童文学とは何か					
第2回	児童文学の発生と「子ども観」					
第3回	児童文学の歴史 1 明治期まで					
第4回	児童文学の歴史 2 大正期を中心に					
第5回	児童文学の歴史 3 現代児童文学の出発					
第6回	作品を読む 1 日本の児童文学					
第7回	作品を読む 2 海外の児童文学					
第8回	絵本の広がり					
第9回	作品を読む 3 日本の絵本					
第10回	作品を読む 4 日本の絵本					
第11回	作品を読む 5 海外の絵本					
第12回	ブックトーク 第1回目					
第13回	ブックトーク 第2回目					
第14回	児童文学にできること					
第15回	全体のまとめ 発表					
【教科書・参考書】						
各回ごと適宜資料を配布する。参考書等は、各回の内容に応じて適宜紹介する。						
【学生へのメッセージ】						
授業内で推薦する作品については、図書館などを利用して出来るだけ多く読むように心がけて欲しい。また、意見交換の機会には、積極的に取り組む姿勢を期待します。						
【オフィスアワー】						
火曜日（15:30-17:00）と金曜日（15:30-17:00）						
【実務経験】						
私立幼稚園教諭、国立大学附属幼稚園教諭として行った保育実践を生かして、児童文学の魅力や役割について講義します。						

年度	区分				分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目				文学・歴史学系科目
講義名	[J_mlh5] [23] 現代文学論				
区分	後期（15回）		単位	選択（2）	
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	白 景皓		ハク ケイコウ		bai jinghao [bai(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本授業では、日本近現代文学理論を中心に、その形成背景と思想的特徴について学ぶ。特に、日本近代文学理論がどのように西洋文学思想や批評理論の影響を受けながら形成されたのか、またそれらが東アジアの文学思想、とりわけ中国近現代文学研究にどのような影響を与えたのかについて考察する。具体的には、日本近現代文学理論の主要な概念や批評方法を取り上げ、文学作品の読解と理論の関係を理解すると共に、文学理論によってSDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」とSDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」につながる。 キーワード：日本近現代文学理論、文学批評、比較文学、文化理解、東アジア文学					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
日本近現代文学理論の基本的な概念や思想背景を理解し、文学理論を用いて文学作品や文化現象を分析する能力を身につけることを到達目標とする。具体的には、文学理論に関する基礎知識の修得、文学作品を理論的視点から読解する読解力、文学と社会・文化との関係を多角的に考察する批判的思考力、そして自らの考察を論理的に表現する文章表現力を養うことを目標とする。 コンピテンシー：異文化理解、情報収集力、文章表現力、口頭表現力、論理的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
本授業は対面授業を基本とし、講義と資料読解を組み合わせる。本授業では日本近現代文学理論の主要な概念や批評方法について解説すると共に、具体的な文学作品や評論を取り上げながら理解を深める。また、学生による意見交換や期末の発表を通して、文学理論の多様な解釈について討論を行う。授業中の発言や提出された課題については、次回授業などでフィードバック（Google Form（リアクション・ペーパー））を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
本授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うことが求められる。事前学修としては、授業で扱う評論や文学作品を読み、内容を理解しておくこととします。事後学修としては、授業内容を整理し、文学理論の概念を自分なりにまとめると共に、課題レポート（Google Form（リアクション・ペーパー））の作成などを行う。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への参加姿勢および授業中の発言への参加状況を（20%）、期末の発表を（30%）、第2から第15回までの課題レポートを（50%）の割合を目安として総合的に評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス：授業の目的・方法・評価方法の説明				
第2回	日本近代文学の成立と文学観の変化				
第3回	近代文学理論の成立とリアリズム文学観：坪内逍遙『小説神髓』				
第4回	ロシア文学の影響と日本リアリズム文学：二葉亭四迷と写実主義				
第5回	翻訳文学と近代文学思想の形成：森鷗外と西洋文学思想				
第6回	『文学論』と近代文学の心理分析：夏目漱石の文学理論				
第7回	日本自然主義文学：田山花袋・島崎藤村と文学のリアリズム				
第8回	象徴主義と浪漫主義文学：北原白秋・与謝野晶子などの文学思想				
第9回	新感覚派文学とモダニズム：川端康成・横光利一と都市文化				
第10回	日本近代文学批評の成立：小林秀雄と近代文学批評				
第11回	日本文学理論と西洋文学思想：ロマン主義・自然主義・モダニズムの比較				
第12回	日本文学理論の中国への影響：魯迅・周作人など中国近代文学との関係				
第13回	東アジア文学と近代文学理論：日本・中国文学の比較文学的視点				
第14回	文学理論による作品分析：文学理論を用いた作品読解の実践				
第15回	期末の発表				
【教科書・参考書】					
必要に応じて授業内で随時紹介する。基本的な参考文献として以下の書籍を挙げる。参考書：『日本近代文学史』ドナルド・キーン（中公文庫）2011年、『日本近代文学大事典』日本近代文学館編（講談社）1984年。					
【学生へのメッセージ】					
文学作品は単なる物語ではなく、その時代の社会・思想・文化を映し出す重要な文化資料でもある。本授業では、日本近現代文学の理論や背景を学びながら、文学作品を読む力と、自分の考えを論理的に表現する力を身につけていく。文学に関する専門知識がなくても構わないが、授業で扱う作品や資料を事前に読んでくると、そして授業中に積極的に意見を述べる姿勢を期待する。					

【オフィスアワー】

授業終了後または事前にメール（bai(a)min.ac.jp）で予約した時間に研究室で対応する。授業内容に関する質問やレポート作成、学習方法についての相談などがある場合は、遠慮なく相談してください。

【実務経験】

進学塾において、日本文学に関する教育指導を5年間行った経験を有する。

年度	区分		分野		
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目		文学・歴史学系科目		
講義名	[K_mlh4] [19] 東洋史特講				
区分	後期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	小高絢子		オダカ アヤコ	odaka ayako	
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
東洋の歴史を概観しつつ、現代までつながる宗教文化的背景や、周辺地域との交流史を学びます。具体的には、インド・イスラム・中国世界の原始から近世、近代に至るまでの発展・交流の歴史を扱います。さらに、受講生自身の問題関心に即して、過去の事柄を現在の社会問題に引き付けて、理解、反省する姿勢を養います。 キーワード：東洋史、比較宗教、比較文化。ナショナリズム					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
(1)インド・イスラム・中国世界の成り立ちや、その宗教文化的背景について説明できること、(2)「植民地」「ナショナリズム」といったキーワードを説明できること、(3)過去の歴史を現代の視点から見つめることで、人類社会のあるべき姿について自身の考えを述べられることを目指します。古代から現代に至る東洋の歴史や文化的背景の多様性を理することは、SDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」に繋がります。 コンピテンシー：地域理解、異文化理解、批判的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
原則は対面の講義形式で行います。ファイルキャビネットにアップした資料に沿って、適宜写真や映像資料などを用いながら講義を進めます。また、講義形式に加えて、学生自身の調べ学習にもとづいた口頭発表と、学生間での質疑応答のアクティブラーニングを取り入れます。課題の提出にあたっては、Googleフォーム等のICTツールを活用します。毎授業、インターネットに接続可能なスマートフォン・タブレット・PCなどを持参してください。学修成果物やレポートのフィードバックは授業内もしくはファイルキャビネット経由で行います。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回の授業ごとに事前・事後学修を合わせて平均4時間程度の学修を行ってください。事前学修（約2時間）：授業テーマに関して自身が持っているイメージや、知っている知識をノート等にまとめる。事後学修（約2時間）：授業の復習をした上で、授業のテーマに関連する最新の新聞記事を調べ、リアクションペーパー・発表資料・期末レポートを作成する。事前・事後学習共に、分からない語句や読めない漢字があった場合は事典や辞書を用いて調べる。					
【成績評価（方法・基準）】					
学修成果物（40%、リアクションペーパー×2回）、授業内発表（20%）、期末レポート（40%）により総合評価を行います。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス・東洋史とは何か				
第2回	古代文明・先住民と宗教				
第3回	インド社会の成り立ちと仏教				
第4回	インド社会の交流と発展				
第5回	インド社会の植民地化とナショナリズム				
第6回	イスラム世界の成り立ちとイスラーム				
第7回	イスラム世界の交流と発展				
第8回	イスラム世界と近代の軍事改革				
第9回	中国世界の成り立ちと儒仏道				
第10回	中国世界の交流と発展				
第11回	中国ナショナリズムの形成				
第12回	現代史への接続：発表テーマの分担・期末レポートの説明				
第13回	発表とフィードバック：中東・イスラム				
第14回	発表とフィードバック：インド・ヒンドゥー				
第15回	発表とフィードバック：中国・中国社会主義				
【教科書・参考書】					
教科書：レジュメをもって代替とします（紙媒体の配布は行わないため、各自ファイルキャビネットからダウンロードすること）。参考書：『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158』吉澤誠一郎監修（ミネルヴァ書房出版）2021年、『アジア史概説』宮崎市定（中公文庫）2018年、『宗教学入門』棚次正和・山中弘編（ミネルヴァ書房）2005年。					
【学生へのメッセージ】					
東洋史を通して諸国の歴史・宗教・政治について知ること、現代社会のニュースや時事へのアンテナも伸びるような学びにしていきたいでしょう。					

【オフィスアワー】
本授業の前後、もしくは火・水・木曜日のオフィスアワー（大学事務室を通じて予約してください）。
【実務経験】
なし

年度	区分		分野		
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目		文学・歴史学系科目		
講義名	[L_mlh4] [21] 日本史特講				
区分	前期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	保坂康夫		ホサカ ヤスオ		hosaka yasuo [hosaka(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>「日本史の変革期」における社会と宗教について、「ホモ・コミュニカンス」（交流する人間）の視点から考えることを目的とします。20世紀前半に世界大戦を経て形成された「構造人類学」が提示するこの視点に立って考察し、人間の行動の複雑さや奥深さを読み解き、広義の仏教学や芸術の発展に寄与できる総合力を身につけることを目指します。この授業を通してSDGs1の目標「貧困をなくそう」やSDGs2の目標「飢餓をゼロに」、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」の実現に貢献します。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
<p>これまでに身につけていた各自の日本史に関する理解をさらに深めると共に、歴史事象を読み直す作業を通して当時の社会を考察することによって「批判的思考力」、「多様な学問の考え方」、「論理的思考力」を身につけます。また、「文章表現力」や「口頭発表力」の向上も課題とします。</p>					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
<p>主に電子ホワイトボードとパワーポイントによる画像資料の解説によって授業を進めます。同時に、史資料や研究論文を紹介した配布資料を用いて説明します。また、受講者にはそれぞれの日本史変革期に対する認識について講義内容と対比して考察しその場での口答発表や、教室内でのグループディスカッションも行います。講義に対する質問事項を提出してもらうことも検討しています。進め方は受講者数に応じて変更する場合があります。</p>					
【授業外学修の方法（時間数）】					
<p>事前学修（2時間以上）としては、参考書等に目を通し、自分なりの課題をもって授業にのぞんでください。事後学修（2時間以上）は、授業で講読した史料・研究文献を読み返し、授業内容の再確認を行うと共に、事前学修で得た課題がどのように変化したかを整理してください。</p>					
【成績評価（方法・基準）】					
<p>学力確認テスト（60%）、授業中の口頭発表やグループディスカッションでの発言内容・回数など（40%）によって評価します。</p>					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	日本史の主人公 人間の定義と歴史叙述				
第2回	日本列島への人類居住開始と宗教生活の始まり				
第3回	土器の出現と縄文の宗教				
第4回	水田農耕の出現と地域社会の深化				
第5回	「戦（いくさ）」の始まり・「日本人」の形成・弥生神殿				
第6回	卑弥呼の共立とヤマト王権の展開				
第7回	仏教の導入と律令国家の建設				
第8回	班田収受制と税体系の変遷				
第9回	政治権力の分散化と荘園公領制				
第10回	中世農民の流動化と中世貨幣経済・市場				
第11回	武田氏館と甲府城築城				
第12回	地租改正と市場経済の時代の到来				
第13回	世界恐慌・世界大戦とGHQ占領政策・農地改革				
第14回	現代史へのまなざしと講義の振り返り				
第15回	まとめ、学力確認テスト				
【教科書・参考書】					
<p>教科書：特に指定しません。授業ごとに配布する資料を教材とします。参考書：『構造人類学のフィールド』小田亮（世界思想社）1994年、『[新訳]大転換 市場社会の形成と崩壊』カール・ポラニー（東洋経済新報社）2009年。</p>					
【学生へのメッセージ】					
<p>変化し続ける現代社会を読み解くための視点を得るために共に学びましょう。</p>					
【オフィスアワー】					
<p>毎週授業の前後に教室にて受け付けます。</p>					
【実務経験】					
<p>山梨県埋蔵文化財センターと山梨県立考古博物館で日本歴史究明に関連する業務に合計31年間携わりました。</p>					

年度	区分				分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目				博物館学系科目
講義名	[a_mmu2] [05] 博物館概論【学芸(実要)・社教(選択)】				
区分	前期 (15回)	単位	必修 (2) 文学・芸術専攻		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	望月真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho [smochi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
現在も多種多様な博物館が全国各地で誕生している。この博物館のあり方を考える場合、その館の性格や社会的機能を正確に把握することが必要である。博物館の定義から博物館の今日までの歴史をたどり、博物館が現代社会に果たしている役割についてみていくことにする。生涯学習施設である地域の博物館の機能やその役割を通じて、人々がよい教育を受ける必要性について学んでいくことがSDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋がる。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
博物館とはどういう施設が理解することを到達目標とする。現代の博物館のあり方について学ぶことにより、「情報収集力」「構想力」「評価力」が身につく。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
生涯学習社会にあって、市民の学習ニーズが多様化、高度化しており、博物館への期待が高まるばかりである。このことを理解するために、新しく開館した博物館を例にとり、その特徴や活動内容についてみていきたい。視聴覚教材も使い、タブレット端末等のICT機器を使用して双方向授業を行う。授業中に実際の博物館資料を用いて実習することもある。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、該当する教科書の部分を読んでおく。事後学修 (2時間以上) は、授業で学んだ主な博物館用語や事項を次回授業までに確認しておく。					
【成績評価 (方法・基準)】					
学力確認テスト (70%)、授業に取り組む姿勢 (30%)、発言回数やワークの成果物などで評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	博物館で学ぶ内容				
第2回	博物館学とは何か SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」				
第3回	博物館の歴史				
第4回	博物館の基本的機能				
第5回	学芸員の役割				
第6回	博物館の種類				
第7回	博物館を支える仕組み				
第8回	博物館を支える人々				
第9回	現代社会と博物館 SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」				
第10回	学校教育と博物館				
第11回	生涯学習と博物館 SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」				
第12回	文化財保護と博物館				
第13回	博物館の現状と課題				
第14回	期待される博物館				
第15回	総括と学力確認テスト (解説を含む)				
【教科書・参考書】					
教科書：『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 (芙蓉書房出版)。参考書：『博物館体験』高橋順一訳 (雄山閣)、『新しい地域博物館活動』村上義彦 (雄山閣)。					
【学生へのメッセージ】					
副専攻の学生は選択科目です。博物館学芸員資格を取得し、将来博物館関係の業務に携わることを希望する学生や社会教育主事として文化財を担当する学生に焦点をあてた授業とする。					
【オフィスアワー】					
授業の開始前、終了後に質問等を研究室や教室で受け付ける。その他の時間帯に質問等があればメール (smochi(a)min.ac.jp) で対応する。					
【実務経験】					
博物館学芸員として勤務経験 (42年) あり、博物館の現状を踏まえて授業を進めていく。					

年度	区分				分野		
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目				博物館学系科目		
講義名	[b_mmu3] [07] 博物館資料論【学芸(実要)・社教(選択)】						
区分	前期 (15回)		単位	必修 (2) 文学・芸術専攻		形式	講義
授業年次	--	2年	3年	--			
担当教員	望月真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho [smochi(a)]		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
博物館が担う役割として、資料の収集・整理・保存・展示・調査研究・教育普及活動といった活動があるが、その中で資料がどのような位置を占めているのか講義していく。特に、博物館資料の種類・分類・整理の方法について、寺院博物館資料を例に講義していきたい。博物館資料の取扱方についても実習する。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】							
博物館資料にはどのようなものがあるか把握できることを到達目標とする。資料に関する情報について学ぶことにより、「情報収集力」「情報分析力」「情報構成力」「批判的思考力」が身につく。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
広く博物館学を学ぼうとする学生を対象とするが、博物館学芸員として必要な知識を修得してもらうため、専門的かつ実務的な内容にするつもりである。ICT機器や視聴覚教材を用いて授業を行う。そして、受講生がタブレット端末等のICT機器を利用して双方向授業を行う。授業中に実際の博物館資料の取り扱い方について実習する。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
事前学修 (2時間以上) は、該当する教科書の部分を読んでおく。事後学修 (2時間以上) は、授業で学んだ主な博物館用語や事項を次回授業までに確認しておく。							
【成績評価 (方法・基準)】							
期末レポート (40%)、授業に取り組む姿勢 (40%、発言回数やワークの成果物など)、質疑応答への参加 (20%) によって総合評価する。							
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】							
第1回	博物館資料とは何か						
第2回	博物館資料の収集・整理 1						
第3回	博物館資料の収集・整理 2						
第4回	博物館資料の調査・研究 1						
第5回	寺院博物館の調査・研究 2						
第6回	寺院博物館の取り扱い 1						
第7回	寺院博物館の取り扱い 2						
第8回	博物館資料の保存・修復 1						
第9回	博物館資料の保存・修復 2						
第10回	博物館資料と情報 1						
第11回	博物館資料と情報 2						
第12回	博物館資料の可能性						
第13回	博物館資料の調査方法 1						
第14回	博物館資料の調査方法 2						
第15回	総括						
【教科書・参考書】							
教科書：『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 (芙蓉書房出版)、『寺宝護持の心得』日蓮宗勸学院監修 (日蓮宗新聞社)、参考書：『博物館技術学』青木豊 (雄山閣)、『アーカイブズの科学』上・下 国文学研究資料館史料館編 (柏書房)。							
【学生へのメッセージ】							
副専攻の学生は選択科目です。博物館学芸員資格を取得し、将来博物館関係の業務に携わることを希望する学生に焦点をあてた授業とする。							
【オフィスアワー】							
授業の開始前、終了後に質問等があれば対応する。その他の時間帯に質問等があればメール (smochi(a)min.ac.jp) で対応します。							
【実務経験】							
博物館学芸員として勤務経験 (42年) あり、博物館の現状を踏まえて授業を進めていく。います。							

年度	区分			分野	
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目			博物館学系科目	
講義名	[c_mmu3] [09] 博物館情報・メディア論【学芸(実要)】				
区分	後期（15回）		単位	必修（2）R5以前	形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	海老沼 真治		エビヌマ シンジ		ebinuma shinji [ebinuma(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
博物館では、収蔵資料に関する情報、学芸員による調査・研究によって得られた情報など、膨大な量の情報を取り扱います。こうした情報は、最終的には広く公開して社会に還元し、利者に活用してもらうものですから、誰にでもわかりやすい形で記録し、発信される必要があります。博物館における情報の集積・管理・活用や、博物館情報を活用するための様々なメディアに関する基礎知識について概説します。また新型コロナウイルス感染症の影響で、博物館でもオンラインによる様々なサービスの提供を行うことが、これまで以上に盛んになり、その動きは今も続いています。こうした現在の状況も踏まえて、博物館の情報発信にどのようなことが求められるか、受講者と共に考えていきたいと思えます。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
博物館において情報をいかに集積・管理するか、集められた情報をどのように公開するか、その場合にどのような媒体（メディア）を用いるか、発信にあたり留意するべき点は何か、などの課題について考えることを通して、受講者が博物館における情報・メディアの取り扱いについて理解を深めることを目標とします。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、地域理解、情報収集力、情報分析力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
博物館情報・メディアに関する一般論的な講義と共に、様々な博物館の事例を取り上げ、受講者と共に考えていきます。授業中に、内容についての発言や小レポートの提出を求めることがあります。また、博物館の実地見学を行い、実際に博物館で行われている情報管理・発信の状況を説明することも予定しています。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、参考書をあらかじめ読んでおくこと。事後学修（2時間以上）は、配布したレジュメを読み直すと共に、紹介した博物館のウェブサイト等を確認すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
期末レポート（40%）、授業への取組の姿勢（60%、発言回数やワークの成果物など）によって評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス、現代の博物館事情				
第2回	博物館における情報・メディアの意義 1：博物館における情報、情報の作成・整備等について				
第3回	博物館における情報・メディアの意義 2：博物館におけるメディア、メディアとしての博物館等について				
第4回	博物館情報の蓄積と管理				
第5回	博物館資料のデータベース化 1：博物館におけるデータベースの概要、類型等について				
第6回	博物館資料のデータベース化 2：博物館データベースの具体的な運用事例等について				
第7回	博物館資料のデジタル化（デジタル・アーカイブス）				
第8回	情報の公開 1：館内における情報公開				
第9回	情報の公開 2：インターネットによる情報公開				
第10回	情報の公開 3：情報の公開と保護				
第11回	博物館と知的財産				
第12回	博物館の情報をめぐる環境				
第13回	事例研究 1：山梨県立博物館における情報管理				
第14回	事例研究 2：山梨県立博物館における情報公開				
第15回	博物館における情報のこれから、まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：レジュメを配布して授業を進めます。参考書：『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編（芙蓉書房出版）2012年、『博物館学 2』大堀哲・水嶋英治編著（学文社）2012年、『博物館情報・メディア論』日本教育メディア学会編（ぎょうせい）2013年、『歴史情報学の教科書 歴史のデータが世界をひらく』後藤真・橋本雄太編（文学通信）2019年、『発信する博物館 持続可能な社会に向けて』小川義和・五月女賢司編（ジダイ社）2021年、『ミュージアムの未来をつくる 博物館情報・メディア論』阿児雄之ほか編著（美学出版）2025年。そのほか、講義の内容に応じて紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
実際に博物館の見学を行うので「事例研究 1・2」の出席を重視します。博物館は時代の移り変わりと共に、その活動は常に変化していきます。授業だけでなく、状況が許せば実際に各地の博物館を見学し、どのような活動がなされているか考えることを心がけるようにしてください。現在では博物館も様々なメディアを用いて情報発信を行っています。ホームページだけでなく、SNSなど様々な手段で博物館の情報を収集してみてください。					

【オフィスアワー】

授業の前後に教室にて対応します。

【実務経験】

山梨県立博物館学芸員20年。博物館での実際の業務や課題等も授業内容に反映します。

年度	区分	分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目	博物館学系科目

講義名	[d_mmu4] [11] 博物館展示論【学芸(実要)】
-----	------------------------------

区分	後期（15回）	単位	必修（2）R5以前	形式	講義
----	---------	----	-----------	----	----

授業年次	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	保坂康夫	ホサカ ヤスオ	hosaka yasuo [hosaka(a)]
------	------	---------	--------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

博物館展示論とは、博物館学の一分野である。展示は、学び体感しようとする主体が集う「生涯学習の場」である博物館の活動の根幹である。「収集資料を調査・研究」し、新たに生み出した知識体系を示すのが展示であり、学芸員として最も手腕が示される場面である。半面、「収集資料の保存」にとっては危険を伴う局面でもあるのが展示であり、確実な知識と認識のもとに展示に臨む必要がある。「見学者の理解」が着実に進み、収集資料にとって最適な展示を行う理論と方法を学ぶことを目的とする。また、博物館学芸員になることで、博物館活動を通して、誰もが平等に質の高い教育を受けられる環境をつくるSDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」実現に貢献します。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

博物館展示論の知識を体系的に修得し、「多様な学問の考え方」を深く理解し、「情報収集力・分析力・構成力」や、「文章表現力・口頭発表力」を獲得することで、学芸員として基礎的な知識や資質を身につけ、実際に博物館展示を担うことができるようになることを目標とする。

【授業方法（フィードバックの内容）】

教科書にそって博物館展示論を概説し、重要な概念などについて配布資料でさらに深く解説する。各回の授業内容に応じて、タブレットなどICT機器を利用して現在実施されている博物館展示の情報を検索・収集し、分析・再構成してその内容をまとめてグループディスカッションや口頭発表を行う。さらにより一層理解を深めるために、具体的に博物館の展示例を見学し、その内容を口頭発表する。

【授業外学修の方法（時間数）】

各回の講義内容について、教科書や参考書による事前学修を毎回2時間以上実施すること。事後学修では、教科書・配布資料を読み直し、ノートをまとめる作業を2時間以上行うこと。

【成績評価（方法・基準）】

知識の修得度や文章表現力を評価する学力確認テストで（60%）、情報検索成果口頭発表を5回以上実施し、各回の口頭発表力、情報収集力、分析力、構成力の評価で（40%）。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	展示の目的とその歴史
第2回	展示資料の調査と収集（ICT機器を利用した検索調査 / 口頭発表）
第3回	展示の構想と企画
第4回	展示の設計、施行（ICT機器を利用した検索調査 / 口頭発表）
第5回	展示と法令
第6回	博物館展示の実際（博物館見学）
第7回	展示の環境と設備、見学博物館のプレゼンテーション
第8回	展示作業（ICT機器を利用した検索調査 / 口頭発表）
第9回	展示の照明と音響（ICT機器を利用した検索調査 / 口頭発表）
第10回	展示と解説・展示解説書の作成
第11回	人文系の展示（ICT機器を利用した検索調査 / 口頭発表）
第12回	自然系の展示（ICT機器を利用した検索調査 / 口頭発表）
第13回	展示のあり方
第14回	博物館展示の総合的検討
第15回	博物館展示論のまとめと総括

【教科書・参考書】

『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編（芙蓉書房出版）2012年、および配布資料。

【学生へのメッセージ】

今求められている博物館の展示とはいかなるものか、実際の博物館展示はどのようなものがあるか、展示手法による見易さ、理解しやすさ、楽しさを考える。

【オフィスアワー】

授業の前後に教室にて対応します。

【実務経験】

山梨県立考古博物館学芸課長 6 年、同博物館次長 1 年。博物館学芸員の現場実体が理解できる授業とする。

年度	区分	分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目	博物館学系科目

講義名	[e_mmu4] [13] 博物館教育論【学芸(実要)】
-----	------------------------------

区分	前期（15回）	単位	必修（2）R5以前	形式	講義
----	---------	----	-----------	----	----

授業年次	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	保坂康夫	ホサカ ヤスオ	hosaka yasuo [hosaka(a)]
------	------	---------	--------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

博物館教育論は、博物館学の一分野で「社会教育施設」としての博物館を認識するための授業である。人間の教育に対する考え方は常に変化しているが、基本的には学習しようとする「主体性」を引き出し、育てることが重要である。教育には「学校教育」と「生涯学習」とがあるが、博物館教育は両者にかかわり、学習の機会と素材とを提供し続けることが求められている。これらに対応可能な、博物館内外での活動についての理念と方法論を学ぶことを目的とする。また、博物館学芸員になることで、博物館活動を通して、誰もが平等に質の高い教育を受けられる環境をつくるSDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」実現に貢献します。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

博物館教育論の知識を体系的に修得し、「多様な学問の考え方」を深く理解し、「情報収集力・分析力・構成力」や「文章表現力・口頭発表力」を獲得することで、学芸員として基礎的な知識や資質を身につけ、実際に博物館教育活動を行うことができるようになることを目標とする。

【授業方法（フィードバックの内容）】

教科書にそって博物館教育論を概説し、重要な概念などについて配布資料でさらに深く解説する。各回の授業内容に応じて、タブレットなどICT機器を利用して現在実施されている博物館教育活動の情報を検索・収集し、分析・再構成してその内容をまとめてグループディスカッションや口頭発表を行う。さらに、より一層理解を深めるために、具体的に博物館の教育実践例を見学し、その内容を口頭発表する。

【授業外学修の方法（時間数）】

各回の講義内容について、教科書や参考書による事前学修を毎回2時間以上実施すること。事後の学修では、教科書・配布資料を読み直し、ノートをまとめる作業を2時間以上行うこと。

【成績評価（方法・基準）】

知識の修得度や文章表現力を評価する学力確認テストで（60%）、情報検索成果口頭発表を5回以上実施し、各回の口頭発表力、情報収集力、分析力、構成力の評価で（40%）。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	博物館教育史
第2回	世界水準の博物館教育（ICT機器を利用した検索調査 / 口頭発表）
第3回	学芸員の教育的役割
第4回	ボランティアの養成（ICT機器を利用した検索調査 / 口頭発表）
第5回	博学連携と生涯学習
第6回	展示と展示解説
第7回	博物館見学
第8回	ワークショップ、見学博物館のプレゼンテーション（ICT機器を利用した検索調査 / 口頭発表）
第9回	ハンズオンとアウトリーチ（ICT機器を利用した検索調査 / 口頭発表）
第10回	子どものための展示と歴史系博物館・科学館の実践例（ICT機器を利用した検索調査 / 口頭発表）
第11回	子どものための展示の動物園・水族館の実践例
第12回	子どものための展覧
第13回	教育目標と計画、評価
第14回	博物館教育論の課題・展望
第15回	博物館教育論のまとめと総括

【教科書・参考書】

『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編（芙蓉書房出版）2012年、および配布資料。

【学生へのメッセージ】

博物館学芸員にとって博物館教育とはどのようなものであるのか、とくに社会的要求にどのように応えるのかを、参加者や見学者の立場に立って考えてほしい。

【オフィスアワー】

授業の前後に教室にて対応します。

【実務経験】

山梨県立考古博物館学芸課長 6 年、同博物館次長 1 年。博物館学芸員の現場実体が理解できる授業とする。

年度	区分				分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目				博物館学系科目
講義名	[f_mmu4] [15] 博物館資料保存論【学芸・社教(選択)】				
区分	後期 (15回)		単位	必修 (2) R5以前	
形式	講義				
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	望月真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho [smochi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
博物館資料の理念として、保存と活用することによって国民の文化的向上と世界文化の進歩に貢献することが謳われている。よって、資料保存の基本理念から、博物館で行われている資料保存の実態やその具体的方法等について講義していく。博物館資料の保存について、よりよい方法を学ぶことにより、SDGs7の目標「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」、SDGs13の目標「気候変動に具体的な対策を」に繋がる。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
博物館における資料保存の必要性について理解できるようにする。資料保存に関する情報やその保存状況等を理解することにより、「情報収集力」「情報分析力」「情報構成力」「論理的思考力」が身につく。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
授業は、実際の寺院資料をもとに、保存について考える形の授業とする。視聴覚教材も使い、タブレット端末等のICT機器を使用して双方向授業を行う。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、次回授業で講義する教科書の部分を読んでおく。事後学修 (2時間以上) は、授業で学修した主な博物館用語や事項を次回授業までに確認しておく。					
【成績評価 (方法・基準)】					
学修レポート (30%)、資料の取り扱い等の授業に取り組む姿勢 (40%)、質疑応答への参加 (30%) により総合的に評価します。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	資料保存の意義 SDGs7の目標「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」、SDGs13の目標「気候変動に具体的な対策を」				
第2回	資料保存の目的				
第3回	資料の保存と修復 1				
第4回	資料の保存と修復 2				
第5回	資料の保存と修復 3				
第6回	資料の保存と環境 1				
第7回	資料の保存と環境 2				
第8回	資料の保存と環境 3				
第9回	資料保存の実態と実際 1				
第10回	資料保存の実態と実際 2				
第11回	資料保存の実態と実際 3				
第12回	博物館資料の保存と活用の問題 SDGs7の目標「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」、SDGs13の目標「気候変動に具体的な対策を」				
第13回	災害と博物館資料				
第14回	学外資料見学				
第15回	全体のまとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 (芙蓉書房出版)。					
【学生へのメッセージ】					
「博物館概論」「博物館資料論」修得後に履修してもらいたい。学外の博物館・資料を見学する場合があるが、その際は事前に受講生に連絡します。					
【オフィスアワー】					
授業の開始前、終了後に質問等があれば研究室、教室で対応する。その他の時間帯に質問等があればメール (smochi(a)min.ac.jp) で対応します。					
【実務経験】					
博物館学芸員として勤務経験 (42年) あり、博物館の現状を踏まえて授業を進めていく。					

年度	区分			分野	
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目			博物館学系科目	
講義名	[g_mmu4] [17] 博物館経営論【学芸】				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）R5以前	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	海老沼 真治		エビヌマ シンジ		ebinuma shinji [ebinuma(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
近年、博物館をめぐる環境は厳しく、予算減少や人員削減、閉館・休館の危機にある博物館も少なくありません。加えて「観光への寄与」や「稼ぐ」ことへの過度な要求など、新たな困難も生じています。こうした状況の中で必要性が高まっているのが、博物館を「経営する」視点です。博物館は誰のためにあり何を指すのか、社会や地域にどのように貢献し、そのためにどのような事業を展開するか、そうした博物館の活動をいかに評価するかなど、博物館経営に必要な論点を概説します。また新型コロナウイルス、諸物価高騰などの影響で、深刻な経営危機を経験した博物館もあり、これまでの博物館経営や評価の見直しも求められています。博物館にとって真に必要な活動やその評価について、受講者と共に考えてみたいと思います。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
博物館経営に関連する今日的課題と経営上の基礎的な知識を修得すると共に、博物館が抱える課題を解決するためにどのように取り組むかを考え、実践できる能力を養うことを目標とします。コンピテンシー：多様な学問の考え方、地域理解、情報収集力、批判的思考力、課題設定力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
博物館経営に関する一般論的な講義と共に、様々な博物館の事例から、各地の博物館で実際に展開されている経営のあり方について、受講者と共に考えていきます。授業中に、内容についての発言や小レポートの提出を求めることがあります。また博物館の実地見学も行う予定です。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、参考書をあらかじめ読んでおくこと。事後学修（2時間以上）は、教科書・レジュメを読み直すと共に、授業で紹介した博物館のウェブサイト等を確認し、現在の運営・活動状況を把握すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
期末レポート（40%）、授業への取組の姿勢（60%、発言回数やワークの成果物など）によって評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス、現代の博物館事情				
第2回	博物館経営（ミュージアム・マネージメント）の意義1： ミュージアム・マネージメントの定義や要素、博物館の経営上の特性等について				
第3回	同上2：日本におけるミュージアム・マネージメント導入の経緯、博物館における公共性等について				
第4回	博物館の法・制度、博物館行政				
第5回	博物館の経営形態1：国立博物館、公立博物館の経営形態について				
第6回	同上2：公立博物館の経営形態（とくに指定管理者制度）、私立博物館の経営形態について				
第7回	博物館施設の運営と管理				
第8回	博物館の組織				
第9回	博物館の使命と評価1：博物館における評価の経緯や社会的背景、評価に必要な要素や手順について				
第10回	同上2：博物館評価の具体的事例について				
第11回	博物館の広報・営業				
第12回	博物館と社会連携・ネットワーク				
第13回	事例研究1：山梨県立博物館の施設・組織と経営				
第14回	同上2：山梨県立博物館における評価のあり方				
第15回	博物館経営の実際と課題、まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：レジュメを配布して授業を進めます。参考書：『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編（芙蓉書房出版）2012年、『博物館学2』大堀哲・水嶋英治編著（学文社）2012年、『博物館経営論』佐々木亨・亀井修著（放送大学教材）2013年、『非営利組織の経営』P.F.ドラッカー著、上田惇生・田代正美訳（ダイヤモンド社）1991年7月、『博物館の未来を考える』『博物館の未来を考える』刊行会編（中央公論美術出版）2021年。そのほか、講義の内容に応じて紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
実際に博物館の見学を行うので、その出席を重視します。博物館は時代の移り変わりと共に、その活動は常に変化していきます。授業だけでなく、実際に各地の博物館を見学し、どのような活動がなされているか考えることを心がけるようにしてください。とくに博物館経営では、現在の社会・経済の状況がその活動に反映される場合がありますので、時事問題にも関心を寄せ、博物館とどのような関わりがありそうかも考えてみてください。また令和5年4月より、改正博物館法が施行されました。関係法規については授業でも取り上げますが、受講前に目を通しておいてください。					

【オフィスアワー】

授業の前後に教室にて対応します。

【実務経験】

山梨県立博物館学芸員20年。博物館での実際の業務や課題等も授業内容に反映します。

年度	区分				分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目				社会教育士系科目
講義名	[A_mse2] [01] 生涯学習支援論Ⅰ【社教】				
区分	前期（15回）		単位	選択（2）	
形式	講義				
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	栗田真司		クリタ シンジ		kurita shinji [kurita(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
ソーシャル・キャピタルに着目した生涯学習支援の考え方、生涯学習施設と専門職員の役割、生涯学習の評価体系、生涯学習資源などについて学びます。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
学習者の多様な特性に応じた生涯学習支援に関する知識・技能を修得します。 コンピテンシー：地域理解、構想力、計画力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、指示された課題について調査し自分の意見をまとめておく。事後学修（2時間以上）は、授業を振り返り、要点を整理する。					
【成績評価（方法・基準）】					
事前学修、調べ学習の発表、グループ討議、振り返りシートなど授業への参加点（participation points）（70%）、総括試験（30%）の結果に基づき、総合的に評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ソーシャル・キャピタルと生涯学習支援				
第2回	多様化する学習機会と行政の役割				
第3回	生涯学習支援の財政的課題				
第4回	生涯学習の評価体系				
第5回	社会的不利益層（障害者、高齢者、外国人など）に対する生涯学習支援				
第6回	生涯学習コーディネーターの役割				
第7回	生涯学習としてのプロフェッショナル・ボランティア（プロボラ）				
第8回	アウトリーチによる生涯学習支援の実践				
第9回	生涯学習資源の収集・提供				
第10回	社会教育主事、公民館主事の役割				
第11回	社会教育委員、公民館運営審議会委員、図書館協議会委員等行政委嘱委員の役割				
第12回	図書館司書、博物館学芸員、青少年教育施設・社会体育施設の専門職員等の役割				
第13回	生涯学習支援のためのソーシャル・ネットワークの活用法				
第14回	EUの生涯学習指導者養成				
第15回	総括 振り返りとシェアリング				
【教科書・参考書】					
講義の中で適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。					
【オフィスアワー】					
毎週水曜日の4時限目を予定（予約が必要）					
【実務経験】					
大学コンソーシアムでの実務経験に基づいた授業を行います。					

年度	区分				分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目				社会教育士系科目
講義名	[B_mse3] [05] 生涯学習支援論 II【社教】				
区分	後期（15回）		単位	選択（2）	
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	栗田真司		クリタ シンジ		kurita shinji [kurita(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
コミュニティ、協働学習、まちづくり、参加型学習の意義について解説します。それをもとに実際にワークショップを計画し、模擬実践します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
コミュニティ、協働学習、まちづくり、参加型学習の意義について理解し、それをもとに実際にワークショップを計画し、生涯学習支援活動を実践するための基礎的な能力を身につけます。 コンピテンシー：地域理解、構想力、計画力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
実際にワークショップを計画し、模擬実践します。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、指示された課題について調査し自分の意見をまとめておく。事後学修（2時間以上）は、授業を振り返り、要点を整理する。					
【成績評価（方法・基準）】					
事前学修、調べ学習の発表、グループ討議、振り返りシートなど授業への参加点（participation points）（70%）、総括試験（30%）の結果に基づき、総合的に評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	コミュニティ政策の変遷				
第2回	地域の課題解決としての協働学習				
第3回	日本古来の協働学習：結い、無尽、手間借り				
第4回	生涯学習としてのまちづくり事業の鍵はアソシエーション				
第5回	まちづくりと街づくりと町づくり 田村明の実践				
第6回	生涯学習としてのまちづくり、地域活性化、地域おこし				
第7回	「ないものねだり」から「あるものさがし」へ				
第8回	「コミュニティ」の再検討 地縁団体と知縁団体（テーマ別団体）				
第9回	ニューパブリック・マネジメントと指定管理者制度				
第10回	参加型学習におけるファシリテーターの心得				
第11回	ファシリテーションとコーチングの実際				
第12回	ローレンス・ハルプリンのワークショップ理論				
第13回	ワークショップのプランニング				
第14回	ワークショップの模擬実践				
第15回	プレゼンテーションと総括				
【教科書・参考書】					
講義の中で適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
受講前に各回のテーマについて自分の考えをまとめておきましょう。板書を写すだけにならないノートの取り方についても学びます。受講後は、ノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えましょう。					
【オフィスアワー】					
毎週水曜日の4時限目を予定（予約が必要）					
【実務経験】					
大学コンソーシアムでの実務経験に基づいた授業を行います。					

年度	区分				分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目				社会教育士系科目
講義名	[C_mse2] [03] 社会教育経営論Ⅰ【社教】				
区分	前期（15回）		単位	選択（2）	形式 講義
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	栗田真司		クリタ シンジ		kurita shinji [kurita(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会教育計画の計画体系と評価体系、学習展開計画案、各地の具体的な推進計画について解説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を修得します。 コンピテンシー：地域理解、構想力、計画力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、指示された課題について調査し自分の意見をまとめておく。事後学修（2時間以上）は、授業を振り返り、要点を整理する。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業中の小テストや課題など（60%）、地域課題の発表（40%）により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	対話型討論：「社会教育とは何を指すのか」				
第2回	教育基本法第13条（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）				
第3回	社会教育計画の計画体系と評価体系				
第4回	社会教育計画の具体的な学習展開計画案				
第5回	社会教育計画の実例の検討				
第6回	社会教育関連施設のネットワーク化				
第7回	人的ネットワークの活用（NPO、地縁団体、アソシエーション、人材バンク）				
第8回	コーディネーターによる学習支援（橋渡し、循環、情報提供、コーチングなど）				
第9回	社会教育調査とデータの活用				
第10回	学習成果を発表する場づくり				
第11回	子ども読書活動推進計画				
第12回	芸術文化振興に関する計画				
第13回	スポーツ振興に関する計画				
第14回	家庭の教育力向上の支援、親学力向上推進計画				
第15回	総括 振り返りとシェアリング				
【教科書・参考書】					
講義の中で適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。					
【オフィスアワー】					
毎週水曜日の4時限目を予定（予約が必要）					
【実務経験】					
大学コンソーシアムやまなしでの実務経験に基づいた授業を行います。					

年度	区分				分野
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目				社会教育士系科目
講義名	[D_mse3] [07] 社会教育経営論Ⅱ【社教】				
区分	後期（15回）		単位	選択（2）	
形式	講義				
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	栗田真司		クリタ シンジ		kurita shinji [kurita(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていく方法論や実際の具体的な事例について解説します。授業全体が、SDGs11の目標「住み続けられるまちづくりを」と関連しています。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
多様な主体と連携・協働を図りながら、生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を修得し、発表します。コンピテンシー：地域理解、構想力、計画力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、指示された課題について調査し自分の意見をまとめておく。事後学修（2時間以上）は、授業を振り返り、要点を整理する。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業中の小テストや課題など（60%）、期末のプレゼンテーション（40%）により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	まちづくり・地域活性化策としての社会教育：SDGs11の目標「住み続けられるまちづくりを」と関連して				
第2回	社会教育と住民参加				
第3回	社会教育施設と専門職員・コーディネーターが果たす役割				
第4回	地域フィールドワークによる学習課題の抽出				
第5回	学習成果の公開と評価				
第6回	ヨコのネットワークとタテのネットワーク				
第7回	青少年の居場所づくりと青少年リーダーの育成				
第8回	障害者と共に学ぶ仕組み				
第9回	事例の検討：静岡県富士宮市、長野県飯田市				
第10回	事例の検討：徳島県上勝町、長野県下條村				
第11回	事例の検討：滋賀県長浜市、石川県輪島市				
第12回	事例の検討：長野県飯山市、京都府美山町				
第13回	事例の検討：新潟県村上市、大分県豊後高田市				
第14回	プレゼンテーション				
第15回	総括 振り返りとシェアリング				
【教科書・参考書】					
講義の中で適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。					
【オフィスアワー】					
毎週水曜日の4時限目を予定（予約が必要）					
【実務経験】					
大学コンソーシアムやまなしでの実務経験に基づいた授業を行います。					

年度	区分				分野	
令和8年度	文学・芸術専攻 専門科目				社会教育士系科目	
講義名	[E_rmse4] [09] 社会教育課題研究【社教】					
区分	前期（15回）		単位	選択（2）		形式 講義
授業年次	1年	2年	3年	4年		
担当教員	栗田真司		クリタ シンジ		kurita shinji [kurita(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
地域の生涯学習及び社会教育の特性と課題について理解を図ると共に、その課題に対する対応策、支援策について検討する。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
それぞれ地域の社会教育の課題について調査・研究し、各自で「なぜ は、 なのか」という具体的な問題点を導き出す。次にその問題点に対する対応策、支援策を具体的に検討し社会教育プログラムとして計画する。 コンピテンシー：論理的思考力、理解力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
受講者によるプレゼンテーション・演習形式で授業を進めます。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
事前学修（2時間以上）は、指示された課題について調査し自分の意見をまとめておく。事後学修（2時間程度）は、授業を振り返り、要点を整理する。						
【成績評価（方法・基準）】						
地域課題に対する分析力（30%）、支援策の立案（30%）、発表内容（40%）。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	社会教育の現状					
第2回	社会教育の課題					
第3回	社会教育施設の現状					
第4回	社会教育施設の課題					
第5回	問題の所在					
第6回	研究目的の策定					
第7回	研究方法					
第8回	プログラムの立案方法 ハルプリンの集団思考法					
第9回	プログラムデザイン					
第10回	パワーポイントによるプレゼンテーション資料の作成					
第11回	べちゃくちゃ方式の要点					
第12回	べちゃくちゃ方式による中間発表					
第13回	プレスリリースの手法					
第14回	プレゼンテーション					
第15回	総括 振り返りとシェアリング					
【教科書・参考書】						
授業の中で紹介します。						
【学生へのメッセージ】						
各自のノートパソコンを持参してください。。						
【オフィスアワー】						
毎週水曜日の4時限目を予定（予約が必要）						
【実務経験】						
大学コンソーシアムでの実務経験に基づいた授業を行います。						

年度	区分				分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[1_mwt1] [01] 介護総論				
区分	前期 (15回)	単位	選択 (2)	形式	講義
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	佐々木 さち子		ササキ サチコ	sasaki sachiko [sasaki(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
介護を必要とする人の、尊厳ある生活を学び、介護を取り巻く状況や介護問題などを幅広く理解する。この科目では、専門職に求められる役割について、介護の視点で知識・技術の修得を目標にする。この授業内容を理解することは、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
「介護福祉士」について、資格が誕生した経緯や求められる職業意識、そして介護福祉士の法的根拠を理解する。さらに、介護における専門職団体の活動や介護福祉士がもつべき職業倫理について学ぶ。介護保険サービスとは何かを考え、その提供の場を取り巻く歴史的展開や現在の姿、利用する人々と介護のあり方を明確にする。介護福祉士の法的根拠を理解することで「多様な学問の考え方」ができる。職業倫理や介護保険を講義することで「情報収集力」が深められ、人権と利用者の介護の講義は「論理的思考力」ができる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
介護問題の現状、専門職団体の活動、職業倫理、介護サービスを提供する場の理解をしていくためにアサイメント（宿題）を出していく。課題を基にディスカッション方式で行っていく。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（80%）、小テスト（20%）によって評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	介護が誕生した社会的背景				
第3回	介護福祉士制度制定の経緯				
第4回	求められる介護福祉士像				
第5回	社会福祉士及び介護福祉士法				
第6回	介護における専門職団体の活動				
第7回	介護福祉士の基本理念				
第8回	利用者の人権と介護（介護従事者の倫理、介護実践の場で求められる倫理、その他）				
第9回	利用者の人権と介護（身体拘束禁止、高齢者虐待、児童虐待、その他）				
第10回	介護を必要とする人の理解				
第11回	障害のある人の暮らしの理解				
第12回	介護を必要とする人の生活環境				
第13回	諸外国における介護				
第14回	介護サービス提供の場の特性（病院関連）				
第15回	まとめ 介護施設で働くための留意点				
【教科書・参考書】					
教科書：『介護の基本』介護福祉士養成講座編集委員会編集（中央法規出版）。その他、適宜プリントを配布する。					
【学生へのメッセージ】					
介護福祉士の倫理の学びを通して、介護福祉士として人間性、資質を学んで欲しい。					
【オフィスアワー】					
出校日は火曜日、授業の前後に非常勤講師控室（大学事務室隣）が教室にて受け付けます。					
【実務経験】					
JR東京総合病院他約20年以上の看護師経験を活かし、医療的ケアや介護福祉士に必要な医療的知識を伝える授業を行う。					

年度	区分				分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[2_mwt1] [03] ボランティア論				
区分	前期 (15回)	単位	必修 (2) 福祉学専攻	形式	講義
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	手塚知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko [tezuka(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
近年、被災地などでボランティア活動が注目され、ボランティアの活動領域も年々広がってきています。そもそもボランティアとは何なのか。私たちはなぜ何のためにボランティア活動をするのか。ボランティア活動の基礎となるボランティアの考え方を「自発性」「無償性」「公共性」の視点から概説します。これら3点を理解することはSDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」SDGs17の目標「パートナーシップで目標を達成しよう」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
ボランティアの基礎知識を体系的に修得すると共に、ボランティア活動を行う意義を自ら考察する力をつけることを目標とします。コンピテンシー：地域理解、情報収集力、情報分析力、批判的思考力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
ボランティアの本質の検討を通して、私たちの生活とボランティア活動を取り巻く諸問題について追究します。具体的には、ボランティア活動に関する問題について正確に理解するように講義すると同時に、受講生自身が自分の生活に引き付けて思考できるようディスカッションを行います。また、実際にボランティア実践をしている方達との交流を通して現実のボランティア活動について深く理解できるような授業を行います。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、毎回の授業で出される課題を行う。事後学修 (2時間以上) は、授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する。					
【成績評価 (方法・基準)】					
授業内発表 (20%)、質疑応答への参加 (40%)、学力確認レポート (40%) によって評価する。レポートはコメントを付して返却する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	授業についてオリエンテーション				
第2回	ボランティアとは				
第3回	ボランティア活動の沿革 (海外)				
第4回	ボランティア活動の沿革 (日本)				
第5回	ボランティア活動の内容				
第6回	ボランティア活動における信頼関係を構築していくために				
第7回	ボランティア活動におけるリーダーシップ、ファシリテーション				
第8回	地域課題の発見とボランティア活動				
第9回	中間プレゼンテーション				
第10回	ボランティア活動の実際 1				
第11回	ボランティア活動の実際 2				
第12回	地域で必要なボランティア活動 1				
第13回	地域で必要なボランティア活動 2				
第14回	最終プレゼンテーション				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
『これだけは身につけておきたいボランティアの実践スキル』久米隼 (日本橋出版) 2024、『これだけは理解しておきたいボランティアの基礎』久米隼 (日本橋出版) 2021、『学生のためのボランティア論』岡本榮一・菅井直也・妻鹿ふみ子 (大阪ボランティア協会) 2006年、『ボランティア論』川村匡由編著 (ミネルヴァ書房) 2006年、『ボランティアってなんだっけ?』猪瀬浩平 (岩波書店) 2020年、『ボランティアもう一つの情報社会』金子郁容 (岩波書店) 1992年。					
【学生へのメッセージ】					
受講者は5月～7月の週末にボランティア参加 (2回程度) があります。理論と実践を結び付け、理解を深めましょう。					
【オフィスアワー】					
火曜日11:55-12:25、木曜日11:55-12:25					
【実務経験】					
峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員の経験を活かして授業します。					

年度	区分				分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[3_mwt2] [05] ソーシャルワークの基盤と専門職【社福(実1要)】				
区分	前期 (15回)	単位	必修 (2)福祉学専攻	形式	講義
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	井沼 一		イヌマ ハジメ	inuma hajime	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
ソーシャルワーカーの役割と意義を理解し、ソーシャルワークの概念やその範囲、他の機関との連携など、ソーシャルワーク実践を行うために必要な理念について学修します。援助活動の基本を理解し、援助技術を修得することを目指します。このような福祉に関する理念を学修することはSDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」につながります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
(1)社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。(2)ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。(3)ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。(4)相談援助に関する基本的な理論、実践モデルを理解し、専門職の基盤を作ることを目標とします。専門職としてのコンピテンシー（倫理的かつ専門的行動、多様性と差異への取り組み、人権尊重と正義の推進、等）を培う。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
ソーシャルワーク実践の基盤となる専門性について、効果的に学修を進めていくため、PowerPointを活用し、実践現場で応用できるような様々な課題を提示します。授業終了後は、自分の考えをまとめるため、授業内容や感想等をリアクションペーパーに記述する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、該当する教科書の章を読むこと。事後学修（2時間以上）は、授業で学んだ内容が実社会ではどのように具現化されているかをリアクションペーパーにまとめて提出。					
【成績評価（方法・基準）】					
中間レポート（20%、第8回）、期末レポート（70%）、授業参画度（10%、毎回のリアクションペーパーなど）により総合評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション（授業計画の説明）				
第2回	社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ1	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士			
第3回	社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ2	社会福祉士の定義、精神保健福祉士の定義			
第4回	社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ3	社会福祉士の専門性			
第5回	社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ4	社会福祉士に求められるコンピテンシー			
第6回	ソーシャルワークの概念				
第7回	ソーシャルワークの原理				
第8回	ソーシャルワークの理念				
第9回	ソーシャルワークの源流、基礎確立、発展				
第10回	ソーシャルワークの展開期と統合化				
第11回	日本におけるソーシャルワークの形成過程				
第12回	ソーシャルワークの倫理：専門職倫理の概念				
第13回	ソーシャルワークの倫理：倫理綱領				
第14回	ソーシャルワークの倫理：倫理的ジレンマ				
第15回	まとめ、ふりかえり				
【教科書・参考書】					
毎回、資料を配布する。教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。					
【学生へのメッセージ】					
ソーシャルワークについて学ぶことは、社会福祉の核心に触れることです。クライアントの生活の質やウェルビーイングを高める専門職を、想像力豊かに実践しましょう。					
【オフィスアワー】					
令和8年度教員オフィスアワーを参照すること。					
【実務経験】					
介護福祉士・居宅支援専門員・社会福祉士として、訪問系事業所にて20年携わった経験や地域活動を活かした講義を展開します。					

年度	区分				分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[4_mwt2] [07] ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）【社福(実I要)】				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻	形式	講義
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	井沼 一		イヌマ ハジメ	inuma hajime	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
ソーシャルワーカーの役割と意義を理解し、ソーシャルワークの概念やその範囲、他の機関との連携など、ソーシャルワーク実践を行うために必要な理念について学修します。援助活動の基本を理解し、援助技術を修得することを目指します。このような福祉に関する理念を学修することはSDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」につながります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
(1)ソーシャルワーカーの職域と求められる役割について理解する。(2)ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。(3)ミクロ・メゾ・マクロにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。(4)総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。専門職としてのコンピテンシー（倫理的かつ専門的行動、多様性と差異への取り組み、人権尊重と正義の推進、等）を培う。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
ソーシャルワーク実践の基盤となる専門性について、効果的に学修を進めていくため、PowerPointを活用し、実践現場で応用できるような様々な課題を提示します。授業終了後は、自分の考えをまとめるため、授業内容や感想等をリアクションペーパーに記述する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、該当する教科書の章を読むこと。事後学修（2時間以上）は、授業で学んだ内容が実社会ではどのように具現化されているかをリアクションペーパーにまとめて提出すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
中間レポート（20%、第8回）、期末レポート（70%）、授業参画度（10%、毎回のリアクションペーパーなど）により総合評価。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション（授業計画の説明） ソーシャルワーク専門職の国家資格と地域共生社会の実現に向けた期待				
第2回	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 1 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲				
第3回	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 2 社会福祉士の職域と役割				
第4回	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 3 多様な組織・機関・団体における専門職				
第5回	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 4 諸外国の動向				
第6回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 1 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象				
第7回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 2 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける課題状況の把握				
第8回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 3 ソーシャルワーク専門職のグローバル定義				
第9回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 4 ミクロ・メゾ・マクロレベルの介入の考え方				
第10回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 5 ミクロ・メゾ・マクロレベルでの実践の展開と考え方				
第11回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 6 ミクロ・メゾ・マクロレベルの連関性とそれに基づく支援の実際				
第12回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 1 総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点				
第13回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 2 ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容				

第14回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 3 多職種連携およびチームアプローチの意義と内容
第15回	まとめ、ふりかえり
【教科書・参考書】	
毎回、資料を配布する。教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。	
【学生へのメッセージ】	
ソーシャルワークについて学ぶことは、社会福祉の核心に触れることです。クライアントの生活の質やウェルビーイングを高める専門職を、想像力豊かに実践しましょう。	
【オフィスアワー】	
令和8年度教員オフィスアワーを参照すること。	
【実務経験】	
介護福祉士・居宅支援専門員・社会福祉士として、訪問系事業所にて20年携わった経験や地域活動を活かした講義を展開します。	

年度	区分				分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[5_mwt2] [09] ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ【社福(実I要)】				
区分	後期 (15回)	単位	必修 (2)福祉学専攻	形式	講義
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	檜木博之		ナラキ ヒロユキ		naraki hiroyuki [naraki(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会福祉推進のための相談援助（ソーシャルワーク）の意義・形態・方法を明確にし、ソーシャルワーク実践のために必要な知識と方法論を学修することにより実践に必要な知識や技術を修得する。この授業内容を理解することは、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
(1)人と環境との相互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。(2)ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。(3)ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。(4)コミュニティワークの概念とその展開について理解する。(5)ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。 コンピテンシー：情報分析力、課題設定力、実行力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書を中心に講義形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、該当の教科書を事前に読み、課題を明確にしておく。事後学修（2時間以上）は、授業で行った内容を教科書で確認し、リアクションペーパーにまとめる。レポート課題を作成する。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（45%）、レポート（10%）、リアクションペーパーの内容（45%）の配分で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ソーシャルワークとは何か システム理論（一般システム論・サイバネティクス）				
第2回	生態学理論				
第3回	パイオ・サイコ・ソーシャルモデル				
第4回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ				
第5回	ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ1：医学モデル 生活モデル ストレングスモデル				
第6回	同上2：心理社会的・機能的・問題解決・課題中心・危機介入アプローチ				
第7回	同上3：行動変容・エンパワメント・ナラティブ・解決施行アプローチ				
第8回	ソーシャルワークの過程 ケースの発見：アウトリーチ スクリーニング				
第9回	同上2：インテーク：意義・目的・方法・留意点・契約				
第10回	同上3：アセスメント：意義・目的・方法・留意点				
第11回	同上4：プランニング：意義・目的・方法・留意点・支援方針・効果と限界の予測				
第12回	同上5：支援の実施：意義・目的・方法・留意点				
第13回	同上6：モニタリング：意義・目的・方法・留意点・効果測定				
第14回	同上7：支援の終結と事後評価：意義・目的・方法・留意点				
第15回	同上8：アフターケア/まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法 [共通科目]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。					
【学生へのメッセージ】					
ソーシャルワークとは、人と環境に働きかけるものです。その方法は福祉以外の場面でも応用できるものであることを承知して受講されたい。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
社会福祉士、医療機関にて16年間、医療ソーシャルワーカーとして勤務した経験を活用した授業を展開します。					

年度	区分				分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[6_mwt2] [11] 高齢者福祉論【社福(実)要】				
区分	前期 (15回)	単位	必修 (2) 福祉学専攻		形式 講義
授業年次	1年	2年	--	--	
担当教員	叶 寧		ヨウ ネイ		ye ning [ye(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。この授業内容を理解することは、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて概説する。 コンピテンシー：健康力、地域理解、情報収集力、情報分析力、情報構成力、読解力、傾聴力、会話力、計画力、実行力、評価力、改善力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
教科書、参考書、各種資料を通して、受講者の高齢者への理解度を深めていく。また同時に今後必要とされる資料を読み取る力を高めていきます。加えて現実に起きている高齢者問題についてグループ討議などの方法で、多角的にものを考える力つけていく。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、各回の講義内容についてシラバスに記載した教科書、参考書による学修を行うこと。事後学修 (2時間以上) は、配布プリントの内容について授業の復習を行うことを望む。					
【成績評価 (方法・基準)】					
受講状況 (60%、リアクションペーパーをはじめとする提出物の記述内容により授業の理解度を評価すると共に、グループディスカッションや発表などの参加度等も含め、毎回の受講状況を総合的に評価する)、期末課題 (40%、提出された内容により、課題理解度、表現の適正さ、考察の論理性等を総合的に評価する)					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	高齢者の定義と特性				
第2回	高齢者の生活実態 (介護需要、介護予防)				
第3回	高齢者を取り巻く社会環境				
第4回	高齢者福祉の歴史				
第5回	高齢者福祉の理念 (人権の尊重、尊厳の保持、介護保険法)				
第6回	高齢者観の変遷 (敬老思想、エイジズム、社会的弱者、アクティブエイジング)				
第7回	高齢者福祉制度の発展過程				
第8回	高齢者に対する法制度				
第9回	老人福祉法				
第10回	高齢者の医療の確保に関する法律				
第11回	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律				
第12回	育児・介護休業法の概要				
第13回	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割				
第14回	高齢者と家族等に対する支援の実際				
第15回	高齢者領域における社会福祉士の役割				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 2 高齢者福祉』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 (中央法規) 2021年。参考書：『社会福祉学』平岡公一他 (有斐閣) 2011年、『よくわかる高齢者心理学』佐藤真一 (ミネルバ書房) 2016年、『高齢者福祉論 [第2版] (新・はじめて学ぶ社会福祉1)』杉本敏夫 (ミネルバ書房) 2018年。					
【学生へのメッセージ】					
今日、世界の高齢化は急速に進展し、これまで高齢化が進行してきた先進地域はもとより、開発途上地域においても、高齢化が急速に進展することが見込まれています。老化、自立の概念、医療、介護、社会保障等の一連の課題と対策に関する法律・制度政策について現状調べを一緒に行います。現存の制度政策等では対応できているのか、さらに対応できていない場合に今後どのように対処していくのか学生各自の考えをもち、授業内外における検討・議論ができるように期待しています。なお、社会福祉士国家試験の新カリキュラムでは必修科目ですので、受験希望者は必ず受講してください。					
【オフィスアワー】					
授業担当時の前後、大学HPのオフィスアワーをご参照ください。					
【実務経験】					
市町村の事業を受託している社会福祉協議会において、生活困窮者自立支援事業の相談員としての勤務経験を活かした授業を展開する。					

年度	区分				分野	
令和8年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目	
講義名	[7_mwt1] [13] 保育原理					
区分	後期（15回）		単位	選択（2）		形式 講義
授業年次	1年	2年	--	--		
担当教員	伊東久実		イトウ クミ		ito kumi [ito(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
保育の基本的な理念や意義について概説します。保育における子ども理解を基盤として、子どもとのかかわり方や子育て支援の在り方について具体的に理解を促します。保育原理を学ぶことによって、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がります。 キーワード：保育の基本、子ども理解、現代的課題						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
保育実践に必要となる子どもの理解や発達の捉え方、さらに保育の制度や現状について理解することができます。また、子育て支援の内容や方法について、施設の活動に参加することで理解を深めることができます。 コンピテンシー：論理的思考力、批判的思考力、口頭発表力、会話力、傾聴力、計画力、実行力、改善力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
主として講義形式ですが、グループディスカッションなど活発な意見交流を促し双方向授業を行います。理解を深めるために地域の保育所、児童館等で実際に学ぶフィールドワークも含めます。保育施設訪問後のフィードバックを大切にします。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
事前学修（2時間以上）は、テキストの指定された箇所を熟読し、疑問点等を明確にする。事後学修（2時間以上）は、ノート（実習ノートも含む）や配布資料を整理し授業内容の理解に努める。						
【成績評価（方法・基準）】						
学力確認テスト（60%）、授業参画度（40%）により総合評価します。テストに対しては、解説を行います。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	保育とは何か 1					
第2回	保育とは何か 2					
第3回	保育の基本となること 1：自ら育つものを育てる					
第4回	保育の基本となること 2：社会全体で子どもを育てる					
第5回	保育の基盤としての子ども観					
第6回	保育における「子ども理解」とは					
第7回	現代の子育てと子育て支援：子育て支援の必要性 SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」について					
第8回	児童館での子育て支援活動（計画）					
第9回	児童館での子育て支援活動（準備）					
第10回	児童館での子育て支援活動（実技）					
第11回	フィードバック					
第12回	子どもの発達を捉える「まなざし」					
第13回	子ども理解を深めるために：発達の捉え方					
第14回	保育の現状と課題：倉橋惣三『育ての心』を読む					
第15回	まとめ					
【教科書・参考書】						
教科書：『新しい保育講座 保育原理』渡邊英則（ミネルヴァ書房）2018年。参考書：『子ども理解と援助』高嶋景子著（ミネルヴァ書房）2011年、『育ての心（上）倉橋惣三文庫』津守真著（フレーベル館）1988年						
【学生へのメッセージ】						
保育のよりよいあり方について、積極的に学ぶことを希望します。保育施設等訪問は、時間割を調整して別の日時に実施することもあるので注意すること。						
【オフィスアワー】						
火曜日（15:30-17:00）と金曜日（15:30-17:00）						
【実務経験】						
私立幼稚園教諭、国立大学附属幼稚園教諭として行った保育実践を生かして、保育内容・方法と保育の現代的課題について講義します。						

年度	区分				分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[8_mwt4] [19] 青少年問題と社会教育【社教(選択)】				
区分	前期 (15回)		単位	選択 (2)	
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	栗田真司		クリタ シンジ		kurita shinji [kurita(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
青少年問題の背景にある青少年を取り巻く家庭、学校、地域社会などの環境の変化や、青少年自身の問題、大人や社会の価値観が引き起こす問題などの特性と心理学的支援方法、社会教育の方法について解説します。それを踏まえて、各自が1つの問題を取り上げ、その問題を解決するための具体的な援助方法について考察し、自分の考えを発表します。この授業を理解することはSDGs3の目標「すべての人々に健康と福祉を」SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
青少年を取り巻く諸問題について理解し、問題の解決につながる青少年の社会教育活動を計画し、実践するための基礎的な能力を身につけることが目標です。 コンピテンシー：情報収集力、情報分析力、課題設定力、改善力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
青少年問題の背景にある青少年を取り巻く家庭、学校、地域社会などの環境の変化や、青少年自身の問題、大人や社会の価値観が引き起こす問題などについて、その問題を解決するための具体的な援助方法について考察し、自分の考えを発表します。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
毎回 (2時間以上) の事前・事後学修を行うことを望みます。その方法については授業中に説明します。					
【成績評価 (方法・基準)】					
事前学修、調べ学習の発表、グループ討議、振り返りシートなど授業への参加点 (participation points) (70%)、総括試験 (30%) の結果に基づき、総合的に評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	青少年とは誰を指すのか、青少年問題とはどのようなものか				
第2回	青少年問題1：不登校、いじめ、虐待、引きこもり				
第3回	青少年問題2：発達障害を含む障害、非行・犯罪、貧困、ニート				
第4回	中央青少年問題協議会 (1949年) 以降の社会教育の経緯				
第5回	地域教育力：学校教育・地域社会教育・家庭教育の協働				
第6回	少子化・超高齢社会がもたらす青少年への影響				
第7回	同年齢交流と異年齢交流の意義：競争意識と愛他意識				
第8回	自然体験活動、生活体験活動の特性と課題				
第9回	青少年問題への心理学的支援1：臨床心理学的視点による子ども理解				
第10回	青少年問題への心理学的支援2：認知行動療法の実践				
第11回	SNSなどのソーシャルメディアとメディアリテラシー：多くの友人よりもたった一人の親友				
第12回	人生における宗教や芸術のもつ意義と日本における問題点				
第13回	家庭でも学校でもない青少年の居場所づくり：新・放課後子ども総合プラン				
第14回	新しい社会教育施設：児童青少年センター「ゆう杉並」の挑戦				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
文部科学省『高等学校学習指導要領解説公民編』2018年、栗田真司『子どもの心を育てるコミュニケーション』学術研究出版、2017年。					
【学生へのメッセージ】					
受講前に各回のテーマについて自分の考えをまとめておきましょう。板書を写すだけのノートにならないノートの取り方についても学びます。受講後は、ノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えましょう。					
【オフィスアワー】					
毎週水曜日の4時限目を予定 (予約が必要)					
【実務経験】					
大学コンソーシアムでの実務経験に基づいた授業を行います。					

年度	区分	分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目	福祉理論系科目

講義名	[9_mwt3] [21] 家庭教育【社教(選択)】
-----	----------------------------

区分	後期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	1年	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	手塚知子	テヅカ トモコ	tezuka tomoko [tezuka(a)]
------	------	---------	---------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

家庭で子どもを教育する際の基礎知識の修得を目指す。また、学生自身が子どもや保護者の支援方法の視点を培うことができるよう具体的に説明をする。現代の家庭教育について子どもや家庭教育をめぐる諸問題について各回で取り上げ受講生の理解を深める。この授業を理解することはSDGs3の目標「すべての人々に健康と福祉を」に繋がります。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

現代の家庭教育における諸問題について考察し、子どもの発達過程における家庭教育の役割やその方法について理解することを目的とする。授業を通じて、受講生は、家庭教育の現状と課題について理解すると共に、家庭で保護者がすぐにチャレンジできる知識や技術を修得できる。コンピテンシー：健康力、地域理解、実行力

【授業方法（フィードバックの内容）】

毎回テーマにそって講義を進める。内容によって演習、ディスカッションも行う。授業の中では家庭で子どもを教育する場合の知識や技術について具体的に紹介する。受講生同士アイデアを出し合い、できる限り多くの知識・技術を修得できるようにする。

【授業外学修の方法（時間数）】

毎回それぞれ（2時間以上）の事前・事後学修を行うこと。事前に、予め次回テーマを伝えるので、それに関する情報収集等の予習を行うこと。

【成績評価（方法・基準）】

学力確認テスト（60％）、質疑応答への参加（40％）で総合的に評価する。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	シラバスの確認、自己紹介、家庭教育とは？
第2回	現代の家庭教育における課題1 家庭を取り巻く社会状況
第3回	現代の家庭教育における課題2 子どもと社会
第4回	現代の家庭教育における課題3 親子関係
第5回	子どもの発達と家庭教育1 乳幼児期
第6回	子どもの発達と家庭教育2 児童期
第7回	子どもの発達と家庭教育3 青年期
第8回	遊ぶこととしつけ
第9回	しつけをバッドサイクルからグッドサイクルへ、家庭教育のポイント
第10回	家庭教育がうまくいかなるとき 無条件の子育ての諸原則
第11回	子どもの発達を促す日常生活の工夫1 子どもへのことば掛け
第12回	子どもの発達を促す日常生活の工夫2 生活スキル、ソーシャルスキルの身につけ方
第13回	子どもの発達を促す日常生活の工夫 学習スキルの身につけ方
第14回	育てにくい子どもの家族支援
第15回	まとめ：授業全体の振り返り

【教科書・参考書】

教科書：毎回プリントを配布する。参考書：『育てにくい子の家族支援、親が不安・自責・孤立しないために支援者ができること』高山恵子著（合同出版）2021、『発達に気になる子へのソーシャルスキルの教え方』鴨下賢一編著（中央法規）2020年、『発達に気になる子へのスモールステップではじめる生活動作の教え方』鴨下賢一編著（中央法規）2020年、『無条件の愛情 自主性を育む家庭教育』アルフィー・コーン著、友野清文・飯牟禮光里訳（丸善プラネット）2020年、『イラスト版 発達障害児の楽しくできる感覚統合：感覚とからだの発達をうながす生活の工夫と遊び』太田篤志著（合同出版）2019年、『発達に気になる子への生活動作の教え方』鴨下賢一編著（中央法規）2019年、『現代の家庭教育』田中理恵編著（放送大学教育振興会）2018年、『家庭教育論』住田正樹著（放送大学教育振興会）2013年、『むずかしい子を育てるペアレント・トレーニング』野口啓示著（明石書店）2013年。

【学生へのメッセージ】

社会状況に応じて子どもを取り巻く家庭のようすは変化しています。家庭教育は生活を通して子どもに行う、すべての教育の基盤となる教育です。講義ではディスカッションを通して、多様な意見や考えに触れる機会を設けたいと思います。主体的な参加を求めます。

【オフィスアワー】

火曜日11:55-12:25、木曜日11:55-12:25

【実務経験】

峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員の経験を活かして授業します。

年度	区分			分野	
令和8年度	福祉学専攻 専門科目			福祉理論系科目	
講義名	[A_mwt3] [25] 障害者福祉論【社福(実II要)】				
区分	前期 (15回)	単位	必修 (2)福祉学専攻	形式	講義
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	高木寛之		タカギ ヒロユキ	takagi hiroyuki [takagi(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
障害者の生活実態とこれを取巻く社会情勢について理解し、障害者の自立支援のための法律と支援の方策、専門職の役割等について考える。この授業を理解することはSDGs3の目標「すべての人々に健康と福祉を」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
共生社会を目指すため、障害者自立支援法における専門職の役割と実際について適確な知識と判断力を持つこと。コンピテンシー：多様な学問の考え方、健康力、地域理解、情報収集力、情報分析力、情報構成力、読解力、傾聴力、会話力、計画力、実行力、評価力、改善力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
テキストによって進める。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、事前に配布する資料を予習すること。事後学修（2時間以上）は、授業で提示したポイントや考え方をノートに整理すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（20%、発言回数やワークの成果物など）、中間レポート（30%）、小テスト（50%）の割合で総合的に評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	障害者の生活実態：障害者が置かれている状況を中心に				
第2回	「障害」とは、「障害者」とは：改正障害者基本法、法律上の定義、障害者福祉の歩み				
第3回	障害者福祉の思想と理念1：障害の概念 障害者観、人権尊重 障害者の権利に関する条約、障害者虐待防止法				
第4回	障害者福祉の思想と理念2：ノーマライゼーション、インクルージョン、自立生活の思想				
第5回	障害者福祉の思想と理念3：リハビリテーション、エンパワメント、QOL				
第6回	DVDを鑑賞し課題をまとめる：障害者運動草創期を戦った人々				
第7回	障害者自立支援制度1：障害者自立支援法・障害者総合支援法の創設の背景及び目的				
第8回	障害者自立支援制度2：障害者総合支援法の仕組みと基礎的理解				
第9回	障害者総合支援法における組織及び団体、相談支援事業所の役割と実際				
第10回	障害者総合支援法における専門職の役割と実際、他職種連携、ネットワーク				
第11回	障害者が利用する各種制度：保健・医療、教育、雇用・労働				
第12回	障害者を支援する生活基盤：経済生活、生活環境				
第13回	障害者福祉の関連分野：スポーツ、芸術、ボランティア				
第14回	当事者参加と諸活動				
第15回	まとめ：障害者福祉の課題と展望				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉 第2版』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2025年。					
【学生へのメッセージ】					
日頃から図書館を活用し、福祉に関係するニュース等をスクラップするなど、自分なりの勉強方法を見つけて欲しい。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に非常勤講師控室（大学事務室隣）か教室にて受け付けます。					
【実務経験】					
山梨県介護支援専門員研修向上委員会委員としての経験を活用した授業を展開します。					

年度	区分		分野		
令和8年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[B_mwt2] [27] 社会福祉調査の基礎【社福(実II要)】				
区分	後期 (15回)	単位	必修 (2)福祉学専攻	形式	講義
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	井沼 一		イヌマ ハジメ	inuma hajime	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会調査は社会の実態を把握するために必須な手法であると同時に、世論調査など普段の生活においても身近なものです。社会福祉の視点で、社会調査の目的、歴史と社会的意義について概説します。既存の社会調査の活用方法、および基本的な社会調査の設計方法を題材とします。この授業を理解することはSDGs3の目標「すべての人々に健康と福祉を」につながります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
社会調査に関する基本的事項、社会調査の目的、歴史、方法論、各種調査方法とその長所と短所、調査倫理など知識と設計、分析の技術的な技能の修得を目標とします。専門職としてのコンピテンシー（倫理的かつ専門的行動、多様性と差異への取り組み、人権尊重と正義の推進、等）を培う。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
資料を用いての講義形式がベースに、可能な範囲で授業内で調査に関連するワーク、一般に公開されている社会調査データを探し解釈した結果の発表・グループワーク等も行います。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ（2時間以上）の事前・事後学修を行うこと。課題学修や講義中に作成したノートを見直しを行い、理解を深め不明点を明確にすること。					
【成績評価（方法・基準）】					
中間レポート（20%、第8回）、期末レポート（70%）、授業参画度（10%、毎回のリアクションペーパーなど）により総合評価。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション（授業計画の説明）、社会福祉調査の意義と目的および社会福祉の歴史的関係				
第2回	社会福祉調査における倫理と個人情報保護				
第3回	社会福祉調査のデザイン				
第4回	量的調査の方法 1 量的調査の概要、種類と方法				
第5回	量的調査の方法 2 質問紙の作成方法と留意点				
第6回	量的調査の方法 3 質問紙の配布と回収				
第7回	量的調査の方法 4 量的調査の集計と分析				
第8回	質的調査の方法 1 質的調査の概要と方法、サンプリング				
第9回	質的調査の方法 2 質的データの収集法、記録の方法と留意点				
第10回	質的調査の方法 3 ナラティブアプローチ				
第11回	質的調査の方法 4 グラウンデッドセオリーアプローチ 1				
第12回	質的調査の方法 5 グラウンデッドセオリーアプローチ 2				
第13回	質的調査の方法 6 グラウンデッドセオリーアプローチ 3				
第14回	ソーシャル・ワークにおける評価				
第15回	まとめ・ふりかえり：混合研究法へ向けて				
【教科書・参考書】					
毎回、資料を配布する。教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座5 社会福祉調査の基礎』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。参考書：『グラウンデッド・セオリー・アプローチ 改訂版：理論を生みだすまで（ワードマップ）』戈木クレイグヒル滋子（新曜社）2016年。					
【学生へのメッセージ】					
調査というと、身構えてしまいがちですが、自分が興味あること、好きなものにあてはめられるかもしれません。興味あること、好きなものを教えてください。					
【オフィスアワー】					
令和8年度教員オフィスアワーを参照すること。					
【実務経験】					
介護福祉士・居宅支援専門員・社会福祉士として訪問事業所にて20年間、携わった経験や地域活動を活かした講義を展開します。					

年度	区分				分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[C_mwt2] [29] 福祉サービスの組織と経営【社福】				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻		形式 講義
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	榎木博之		ナラキ ヒロユキ		naraki hiroyuki [naraki(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
福祉サービスとは何か、福祉サービスに係わる団体とは何か、福祉サービスを経営するために必要なことは何か等について説明し、社会福祉士が福祉サービスの組織と経営を学ぶ意義を考えていく。この授業内容を理解することは、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
福祉サービスに係わる組織や団体（社会福祉法人・医療法人・特定非営利活動法人・営利法人、市民団体、自治会など）について理解できる。福祉サービスの組織と経営に係わる基礎理論について理解できる。福祉サービスの経営と運営管理について理解する。 コンピテンシー：論理的思考力、課題設定力、実行力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書を中心に講義形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、毎回の授業で出される課題を行う。事後学修（2時間以上）は、授業の要点をリアクションペーパーまとめて提出する。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（45%）、レポート（10%）、リアクションペーパー・授業で出される課題（45%）の配分で評価を行う。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	福祉サービスにおける組織と経営				
第2回	福祉サービスにおける組織と団体（法人とは）				
第3回	福祉サービスにおける組織と団体（社会福祉法人等）				
第4回	福祉サービスの組織と経営の基礎理論				
第5回	集団力学における基礎理論				
第6回	リーダーシップに関する基礎理論				
第7回	福祉サービスの管理運営の方法（サービス管理）				
第8回	苦情対応とリスクマネジメント				
第9回	サービス提供のあり方の方向性				
第10回	福祉サービスの管理運営の方法（人事管理と労務管理）				
第11回	人材育成				
第12回	専門職のキャリアアップ				
第13回	福祉サービスの管理運営の方法（会計管理と財務管理）				
第14回	福祉サービスの管理運営の方法（情報管理）				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座1 福祉サービスの組織と経営』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。					
【学生へのメッセージ】					
授業内容に応じた資料を配布するので、各自まとめておくこと。授業中に扱った時事問題は、各自その問題の全容を確認して問題点を整理するように。また、日頃から各種メディアを通して福祉サービスに関する諸問題をメモしておくこと。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
社会福祉士、医療機関にて16年間、医療ソーシャルワーカーとして勤務した経験を活用した授業を展開します。					

年度	区分		分野		
令和8年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[D_mwt2] [31] 社会保障論Ⅰ【社福(実II要)】				
区分	前期 (15回)	単位	必修 (2)福祉学専攻	形式	講義
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	高木寛之		タカギ ヒロユキ	takagi hiroyuki [takagi(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会保障制度の基本的な考え方としくみを理解すると共に、社会保障の現状と課題を捉える。社会保障を学ぶことは「私たちの日常生活にも役に立つ」ことであるし、社会全体の生きづらさを明らかにし国が保障すべき生活の水準を考える貴重な機会でもある。イギリスの社会保障の歴史から貧困を克服するために私たち国民が作り上げてきた社会保障制度をよく理解し、現代社会における問題と課題を自分たちの生活に照らして考えられるようにする。この授業を理解することはSDGs3の目標「すべての人々に健康と福祉を」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
社会保障制度、社会保障の概念、理論と政策の歴史を理解し、社会保障の財政、機能、問題点を学ぶ。 コンピテンシー：情報収集力、情報分析力、批判的思考力、論理的思考力、課題設定力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書、映像資料の内容を参照しながら講義形式で進める。コメントペーパーを書いてもらい理解度を確認しながら進めていく。学力確認テストでは講義やレジュメの内容に基づきその理解度を確認する。そして、援助方法について理解できるよう、小グループによる事例検討などを交えた授業にしていく。社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、教科書をあらかじめ読み、レポートを作成すること。質問事項をまとめておくこと。事後学修（2時間以上）は、教科書を復習し、分からないところなどを明確にしておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業内コメントペーパー（39%、13回×3%）、レポート（50%、5回×10%）、学力確認テスト（11%、レポート形式）で評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション：私のライフステージと社会保障				
第2回	現代社会と社会保障：人口動態の変化				
第3回	現代社会と社会保障：経済環境の変化				
第4回	現代社会と社会保障：労働環境の変化				
第5回	社会保障の概念や対象およびその理念：社会保障の概念と範囲				
第6回	社会保障の概念や対象およびその理念：社会保障の役割と意義				
第7回	社会保障の概念や対象およびその理念：社会保障の理念				
第8回	社会保障の概念や対象およびその理念：社会保障の対象				
第9回	社会保障の概念や対象およびその理念：社会保障制度の展開				
第10回	社会保障の現状と課題				
第11回	社会保障の財政：社会保障の財政				
第12回	社会保障の財政：社会保障給付費・内訳・動向				
第13回	社会保障の財政：国民負担率				
第14回	社会保障の財政：社会保障と経済				
第15回	まとめと振り返り				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座7 社会保障 第2版』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2025年。					
【学生へのメッセージ】					
社会保障制度の理解は困難を極めますが現代社会を生きる上では必ず必要になる知識です。苦勞しながらも身につければ、必ず役に立ちます。社会福祉士国家試験科目ですので、受験希望者は必ず受講してください。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
山梨県介護支援専門員研修向上委員会委員としての経験を活用した授業を展開します。					

年度	区分		分野		
令和8年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[E_mwt2] [33] 社会保障論 II 【社福(実II要)】				
区分	後期 (15回)	単位	必修 (2) 福祉学専攻	形式	講義
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	高木寛之		タカギ ヒロユキ	takagi hiroyuki [takagi(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会保障とは何か、社会福祉における医療制度の考え方と制度への理解、制度を活用する専門職への専門性、意義と実際を概説します。この授業を理解することはSDGs3の目標「すべての人々に健康と福祉を」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
社会保険制度の体系として、医療保険制度、介護保険制度、年金制度、労災保険制度と雇用保険制度、社会手当制度、社会福祉制度を中心に学ぶ。また、現在ニュースでも話題になる時事的なトピックを取り上げることにより、社会福祉を考える上での社会保障制度の視点を身につけると共に、日常生活と社会保障制度の結びつきについても理解を深められるようにする。(知識・理解) 医療保険制度を中心とした具体的な社会保険制度について理解し、説明できる。社会保障制度にまつわる最新の動向のうちいくつかについて理解し、説明できる。(思考・技能・実践) 医療保険制度についての理論を理解した上で、現代の同制度が抱える問題点について自分の見解を抱くための基礎を身につける。最新の社会保障制度を巡るトピックについてその概要を理解した上で、自身の見解を抱く基礎を身につける。コンピテンシー：情報収集力、情報分析力、批判的思考力、論理的思考力、課題設定力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
教科書、映像資料の内容を参照しながら講義形式を進める。毎回コメントペーパーを書いてもらい理解度を確認しながら進めていく。学力確認テストでは講義やレジュメの内容に基づきその理解度を確認する。そして、援助方法について理解できるよう、小グループによる事例検討などを交えた授業にしていく。社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、教科書をあらかじめ読み、レポートを作成すること。質問事項をまとめておくこと。事後学修 (2時間以上) は、教科書を復習し、分からないところなどを明確にしておくこと。					
【成績評価 (方法・基準)】					
授業内コメントペーパー (39%、13回×3%)、レポート (50%、5回×10%)、学力確認テスト (11%、レポート形式) で評価します。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	オリエンテーション：我々のライフステージと社会保障				
第2回	社会保険・社会扶助・民間保険の関係：保険と扶助の考え方				
第3回	社会保険・社会扶助・民間保険の関係：社会保険と社会扶助の考え方				
第4回	社会保険・社会扶助・民間保険の関係：社会保険と民間保険の現状				
第5回	社会保険制度の体系：医療保険制度の概要				
第6回	社会保険制度の体系：介護保険制度の概要				
第7回	社会保険制度の体系：年金制度の概要				
第8回	社会保険制度の体系：労災保険制度と雇用保険制度の概要				
第9回	社会保険制度の体系：生活保護制度の概要				
第10回	社会保険制度の体系：社会手当制度の概要				
第11回	社会保険制度の体系：社会福祉制度の概要				
第12回	諸外国における社会保障制度：諸外国の社会保障				
第13回	諸外国における社会保障制度：社会保障の国際比較				
第14回	諸外国における社会保障制度：社会保障の国際化				
第15回	まとめと振り返り				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座7 社会保障 第2版』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 (中央法規) 2025年。					
【学生へのメッセージ】					
社会保障制度の理解は困難を極めますが現代社会を生きる上では必ず必要になる知識です。苦勞しながらも身につければ、必ず役に立ちます。社会福祉士国家試験科目ですので、受験希望者は必ず受講してください。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					

【実務経験】

山梨県介護支援専門員研修向上委員会委員としての経験を活用した授業を展開します。

年度	区分	分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目	福祉理論系科目

講義名	[F_mwt2] [35] 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ【社福】
-----	---------------------------------

区分	前期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻	形式	講義
----	---------	----	------------	----	----

授業年次	--	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当教員	叶 寧	ヨウ ネイ	ye ning [ye(a)]
------	-----	-------	-----------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

地方行政において1990年以降「地方分権化・地域主権化」が進み、多様な計画化が市町村行政に求められています。従来の縦割的対応の社会福祉の考え方を改める新しい「地域福祉」とは何か、新たなシステムとは何かについて概説します。この授業内容を理解することは、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」、SDGs11の目標「住み続けられるまちづくりを」に繋がります。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

(1)地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。(2)地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。(3)地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果す役割について理解する。(4)地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。(5)包括支援体制の考え方と、多職種及び他機関協働の意義と実際について理解する。(6)地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。コンピテシー：多様な学問の考え方、健康力、地域理解、情報収集力、情報分析力、情報構成力、読解力、傾聴力、会話力、課題設定力、構想力、計画力、実行力、評価力、改善力

【授業方法（フィードバックの内容）】

教科書による講義や地域福祉関連の法律、制度政策、トピックスから地域福祉の全体像を把握し、地域共生社会、包括的支援体制、地域包括ケアシステム、重層的支援体制整備事業等に関して理解する。適宜、ビデオ等の視聴覚教材を使用し、双方向授業を行う。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修（2時間以上）は、該当する教科書の章を読むこと。事後学修（2時間以上）は、授業で学んだ内容が実社会でどのように具現化されているのかを調べる。

【成績評価（方法・基準）】

受講状況（80%、リアクションペーパーをはじめとする提出物の記述内容により授業の理解度を評価すると共に、グループディスカッションや発表などの参加度等も含め、毎回の受講状況を総合的に評価する）、期末課題（20%、提出された内容により、課題理解度、表現の適正さ、考察の論理性等を総合的に評価する）

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	地域福祉の概念と理論（概念・構造・機能・共生社会）
第2回	地域福祉の歴史（セツルメント・COS・社会福祉基礎構造改革等）
第3回	地域福祉の動向（コミュニティソーシャルワーク）
第4回	地域福祉の推進主体（地方自治体・NPO・社会福祉協議会）
第5回	地域福祉の主体と形成（当事者・ボランティア・住民主体）福祉行政システム
第6回	国の役割と地方との関係（地方分権・法定受託事務と自治事務）
第7回	都道府県・市町村の役割
第8回	福祉行政の組織（福祉事務所・児童相談所・地域包括支援センター）
第9回	福祉行政の専門職（児童福祉司・福祉事務所の現業員等）
第10回	福祉における財源（国と地方の財源）
第11回	福祉計画の意義・目的と展開（福祉計画の歴史・福祉行財政と福祉計画の関係等）
第12回	福祉計画の意義・目的と展開（福祉計画の種類）
第13回	市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容
第14回	福祉計画の策定過程と方法 福祉計画の実態と評価（課題把握・モニタリング）
第15回	まとめ

【教科書・参考書】

教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。参考書：『地域福祉論』岡村重夫（光生館）2009年、『地域福祉援助をつかむ』岩間伸之・原田正樹（有斐閣）2012年、『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』日本地域福祉研究所監修 / 中島修・菱沼幹男共編（中央法規）2015年。

【学生へのメッセージ】

「全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる『地域共生社会』を実現する。このため、支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、福祉などの地域の公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる仕組みを構築する」という「ニッポン一億総活躍プラン」において提示した理念です。その実現に向けて、地域福祉と包括的支援体制の概念および具体的な進行・実行のあり方について検討する必要性がますます重要視されてきています。社会福祉士国家試験の新カリキュラムでは前期・後期の必修科目ですので、受験希望者は必ず受講してください。なお、内容を深めるために、事前・事後の学修を課します。

【オフィスアワー】

授業担当時の前後、大学HPのオフィスアワーをご参照ください。

【実務経験】

市町村の委託事業を受託している社会福祉協議会において、生活困窮者自立支援事業の相談員としての勤務経験を活かした授業を展開する。

年度	区分	分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目	福祉理論系科目

講義名	[G_mwt2] [37] 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ【社福】
-----	---------------------------------

区分	後期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻	形式	講義
----	---------	----	------------	----	----

授業年次	--	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当教員	叶 寧	ヨウ ネイ	ye ning [ye(a)]
------	-----	-------	-----------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

地方行政において1990年以降「地方分権化・地域主権化」が進み、多様な計画化が市町村行政に求められています。従来の縦割的対応の社会福祉の考え方を改める新しい「地域福祉」とは何か、新たなシステムとは何かについて概説します。この授業内容を理解することは、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」、SDGs11の目標「住み続けられるまちづくりを」に繋がります。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

(1)地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。(2)地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。(3)地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果す役割について理解する。(4)地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。(5)包括支援体制の考え方と、多職種及び他機関協働の意義と実際について理解する。(6)地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。 コンピテンス：多様な学問の考え方、健康力、地域理解、情報収集力、情報分析力、情報構成力、読解力、傾聴力、会話力、課題設定力、構想力、計画力、実行力、評価力、改善力

【授業方法（フィードバックの内容）】

教科書による講義や地域福祉関連の法律、制度政策、トピックスから地域福祉の全体像を把握し、地域共生社会、包括的支援体制、地域包括ケアシステム、重層的支援体制整備事業等に関して理解する。適宜、ビデオ等の視聴覚教材を使用し、双方向授業を行う。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修（2時間以上）は、該当する教科書の章を読むこと。事後学修（2時間以上）は、授業で学んだ内容が実社会でどのように具現化されているのかを調べる。

【成績評価（方法・基準）】

受講状況（80%、リアクションペーパーをはじめとする提出物の記述内容により授業の理解度を評価すると共に、グループディスカッションや発表などの参加度等も含め、毎回の受講状況を総合的に評価する）、期末課題（20%、提出された内容により、課題理解度、表現の適正さ、考察の論理性等を総合的に評価する）

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	地域社会の概念と理論
第2回	地域社会の変化（世帯構成・過疎化・地域間格差等）
第3回	多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ（ひきこもり・ニート・災害）
第4回	地域福祉と社会的孤立（社会的排除・セルフネグレクト）地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制
第5回	包括的支援体制（考え方とその展開）
第6回	地域包括ケアシステム（考え方とその展開・子育て世代包括支援センター）
第7回	生活困窮者自立支援の考え方（理念・実際）
第8回	地域共生社会の実現に向けた各種施策（多機関協働による包括的支援体制）地域共生の実現に向けた多機関協働
第9回	多機関協働を促進する仕組（総合相談・地域ケア会議・要保護児童対策地域協議会）
第10回	多職種連携、福祉以外の分野との機関協働の実際 地域共生の実現に向けた多機関協働
第11回	非常時や災害時における法制度（災害対策基本法・災害救助法・避難計画）
第12回	非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援（災害時要保護者支援等）地域福祉と包括的支援体制の課題と展望
第13回	地域福祉ガバナンス（ガバナンスの考え方・住民自治・プラットフォームの形成と運営）
第14回	地域共生社会の構築（地域共生社会・地域力の強化）
第15回	まとめ

【教科書・参考書】

教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。参考書：『入門地域福祉と包括的支援体制』川村匡由編著（ミネルヴァ書房）2021年、『コミュニティソーシャルワーク』菱沼幹男（有斐閣）2024年、『第8巻地域福祉と包括的支援体制』『社会福祉学習双書』編集委員会編（全国社会福祉協議会）2024年。

【学生へのメッセージ】

「全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる『地域共生社会』を実現する。このため、支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、福祉などの地域の公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる仕組みを構築する」という「ニッポン一億総活躍プラン」において提示した理念です。その実現に向けて、地域福祉と包括的支援体制の概念および具体的な進行・実行のあり方について検討する必要性がますます重要視されてきています。社会福祉士国家試験の新カリキュラムでは前期・後期の必修科目ですので、受験希望者は必ず受講してください。なお、内容を深めるために、事前・事後の学修を課します。

【オフィスアワー】

授業担当時の前後、大学HPのオフィスアワーをご参照ください。

【実務経験】

市町村の委託事業を受託している社会福祉協議会において、生活困窮者自立支援事業の相談員としての勤務経験を活かした授業を展開する。

年度	区分				分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[H_mwt2] [39] ソーシャルワークの理論と方法 II【社福(実II要)】				
区分	後期 (15回)	単位	必修 (2)福祉学専攻		形式 講義
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	手塚知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko [tezuka(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>ソーシャルワークのどの段階においても必要な面接と記録に関する知識や技術の修得から始め、援助を必要とする人々と社会資源を結び調整、集団を活用した援助、地域を対象とした援助、社会福祉施設・機関等の運営管理、自治体・国・社会への働きかけ、福祉人材の育成などソーシャルワークに必要な知識や技術を学修します。この授業内容を理解することは、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がります。</p>					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
<p>(1)人と環境との相互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。(2)ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。(3)ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。(4)コミュニティワークの概念とその展開について理解する。(5)ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。 コンピテンシー：地域理解、情報分析力、情報構成員</p>					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
<p>ソーシャルワークの理論とその方法について、効果的に学修を進めていくため、PowerPointを活用し、実践現場で応用できるよう様々な課題を提示します。様々な実践事例を基に課題の発見から解決まで、援助プロセスを踏まえながら学修していきます。授業終了後は、自分の考えを整理するため、授業内容や感想等をリアクションペーパーに記述し、まとめる。</p>					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
<p>事前学修 (2時間以上)は、該当する教科書の章を読むこと。事後学修 (2時間以上)は、授業で学んだ内容が実社会ではどのように具現化されているかをリアクションペーパーにまとめて提出すること。</p>					
【成績評価 (方法・基準)】					
<p>学力レポート (50%)、授業内発表 (20%)、質疑応答への参加 (30%) により総合評価します。レポートはコメントを付して後日返却します。</p>					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ケアマネジメントの原則：ケアマネジメントの歴史、適用と対象				
第2回	ケアマネジメントの意義と方法：意義、モデル、プロセス				
第3回	グループワークの意義と目的：実践の意義、源流・目的と目標、ジェネラリスト実践とグループワーク				
第4回	グループワークの展開過程：グループへ向きあう、グループ・プロセス、グループの発達段階				
第5回	グループワークとセルフヘルプグループワーク：なぜセルフヘルプグループが必要なのか？				
第6回	コミュニティワークの意義と目的：住民主体の活動を育てる、ソーシャルワークとしてのコミュニティワーク				
第7回	コミュニティワークの展開：地域アセスメント、計画策定とモニタリング、地域組織化、社会資源の開発、評価と実施計画の更新				
第8回	コミュニティワークの理論的系譜とモデル：社会変容とCOの登場、揺籃期、成長期、展開期、その後の展開				
第9回	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義：アドミニストレーションの位置づけ、概念定義、マネジメント				
第10回	組織介入・組織改善の実践モデル：ピラミッド組織とフラット組織、ティール組織				
第11回	組織運営における財源の確保：財源確保の必要性、組織運営における財源の種類、ファンドレイジング				
第12回	ソーシャルアクションの概念とその意義：ソーシャルアクションとは、ソーシャルアクションの意義				
第13回	コミュニティ・オーガナイズ：コミュニティ・オーガナイズとは、ソーシャルワークのなかのコミュニティ・オーガナイズ、展開過程、コミュニティ・オーガナイズが求められる時代				
第14回	スーパービジョンの意義・目的・方法：スーパービジョンとは、目的、意義、機能、関係、形態、実施				
第15回	コンサルテーションの意義・目的・方法：コンサルテーションとは、意義と目的、コンサルテーションとスーパービジョン、コンサルテーションの方法				
【教科書・参考書】					
『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 (中央法規)2021年。					
【学生へのメッセージ】					
生活場面で生じるさまざまな問題や課題を抱えている人々の声に耳を傾け、何を必要としているかを明確にし、その人が幸せを感じる主体的な生活の実現に向けて援助するプロセスを修得してください。					

【オフィスアワー】

火曜日11:55-12:25、木曜日11:55-12:25

【実務経験】

峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員の経験を活かして授業します。

年度	区分		分野		
令和8年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[l_mwt3] [41] ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ【社福(実Ⅱ要)】				
区分	後期(15回)	単位	必修(2)福祉学専攻	形式	講義
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	井沼 一		イヌマ ハジメ	inuma hajime	
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
ソーシャルワーク実習、ソーシャルワーク演習に繋がる科目として、社会福祉士としての実践力を身につけるため、ソーシャルワークの理論と方法の基礎を学修します。実践場面で応用できる理論と方法の基礎的事項について、対象者への支援と実践理論の接点を概説します。この授業内容を理解することは、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」につながります。					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
(1)社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。(2)支援を必要とする人の援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための知識と技術について理解する。(3)社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。(4)個別事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための事例分析の意義や方法を理解する。専門職としてのコンピテンシー(倫理的かつ専門的行動、多様性と差異への取り組み、人権尊重と正義の推進、等)を培う。					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
ソーシャルワークの理論とその方法について、効果的に学修を進めていくため、PowerPointを活用し、実践現場で応用できるよう様々な課題を提示します。様々な実践事例を基に課題の発見から解決まで、援助プロセスを踏まえながら学修していきます。授業終了後は、自分の考えをまとめるため、授業内容や感想等をリアクションペーパーに記述する。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
事前学修(2時間以上)は、該当する教科書の章を読むこと。事後学修(2時間以上)は、授業で学んだ内容が実社会ではどのように具現化されているかをリアクションペーパーにまとめて提出すること。					
【成績評価(方法・基準)】					
中間レポート(20%、第8回)、期末レポート(70%)、授業参画度(10%、毎回のリアクションペーパーなど)により総合評価します。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	オリエンテーション(授業計画の説明):ソーシャルワークの理論と方法を学ぶ意義と目的				
第2回	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際1:総合的かつ包括的な支援の考え方				
第3回	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際2:家族支援の実際				
第4回	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際3:地域支援の実際				
第5回	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際4:非常時や災害時支援の実際				
第6回	ソーシャルワークにおける援助関係の形成1:援助関係形成の意義と概念				
第7回	ソーシャルワークにおける援助関係の形成2:援助関係の形成方法と留意点				
第8回	ネットワークの形成1:ネットワーキングとは				
第9回	ネットワークの形成2:コーディネーションとは				
第10回	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発1:社会資源の活用・調整				
第11回	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発2:ソーシャルワーク実践と社会資源				
第12回	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発3:社会資源開発のさまざまな方法				
第13回	カンファレンス1:会議の種類と方法				
第14回	カンファレンス2:ミクロ・メゾ・マクロの会議				
第15回	まとめ、ふりかえり				
【教科書・参考書】					
毎回、資料を配布する。教科書:『最新 社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(中央法規)2021年。					
【学生へのメッセージ】					
ソーシャルワークについて学ぶことは、社会福祉の核心に触れることです。クライアントの生活の質やウェルビーイングを高める専門職を、想像力豊かに実践しましょう。					
【オフィスアワー】					
令和8年度教員オフィスアワーを参照すること。					
【実務経験】					
介護福祉士・居宅支援専門員・社会福祉士として、訪問系事業所にて20年携わった経験や地域活動を活かした講義を展開します。					

年度	区分				分野	
令和8年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目	
講義名	[J_mwt3] [43] 子育て支援論					
区分	前期 (15回)		単位	選択 (2)		形式 講義
授業年次	--	2年	--	--		
担当教員	伊東久実			イトウ クミ		ito kumi [ito(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
保護者や家庭のかかえる支援の必要性の理解を促します。その上で、子育て支援を多面的に実践する知識や技能を養います。子育て支援論を学ぶことによって、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がります。 キーワード：保護者理解、支援の方法、社会資源						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援 について、具体的に理解することができます。また、保育士の行う子育て支援の内容と方法及び技術を地域の児童館において実践を通して具体的に理解することができます。 コンピテンシー：地域理解、情報収集力、口頭発表力、文章表現力、課題設定力、計画力、実行力、評価力、改善力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
学内での学修による 理解を深めるために、地域の児童館や保育所等で実地に学ぶフィールドワークを積極的に行います。また、実地での活動後のフィードバックを大切にします。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
事前学修（2時間以上）は、テキストの指定された箇所を熟読し、疑問点等を明確にする。事後学修（2時間以上）は、ノート（実習ノートも含む）や配布資料を整理して授業内容の理解に努めると共に、実地での活動後は振り返りシートを基に次の課題を明確にする。						
【成績評価（方法・基準）】						
学力確認テスト（60%）、授業参画度（40%）により総合評価します。テストに対しては、解説を行います。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	子育て支援の意義と役割 1					
第2回	子育て支援の意義と役割 2					
第3回	子育て支援の目的と内容					
第4回	支援者に求められる基本的態度					
第5回	地域での子育て支援活動（計画）					
第6回	地域での子育て支援活動（学内での演習）					
第7回	地域での子育て支援活動（実践）					
第8回	地域での子育て支援活動（評価と改善）					
第9回	多様な支援の展開と関連機関との連携					
第10回	子育て家庭に対する支援の体制					
第11回	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解					
第12回	子育て家庭支援に対する支援の展開					
第13回	子育て家庭支援の政策動向と課題					
第14回	海外に学ぶ子育て支援					
第15回	まとめ					
【教科書・参考書】						
教科書：『実践 子ども家庭支援論』松本園子・永田陽子他著（ななみ書房）2023年。参考書：授業時間内に適宜紹介します。						
【学生へのメッセージ】						
子どもの最善の利益を守るための子育て支援のあり方について積極的に学ぶことを希望します。実地での活動は、時間割を調整して、別の日時に実施することもあるので注意すること。						
【オフィスアワー】						
火曜日（15:30-17:00）と金曜日（15:30-17:00）						
【実務経験】						
私立幼稚園教諭、国立大学附属幼稚園教諭として行った保護者支援の経験を生かして、子育て支援の必要性と制度、具体的対応を講義します。						

年度	区分	分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目	福祉理論系科目

講義名	[K_mwt3] [45] 障がい児福祉
-----	----------------------

区分	後期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	--	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当教員	手塚知子	テヅカ トモコ	tezuka tomoko [tezuka(a)]
------	------	---------	---------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

子どもをとりまく社会情勢を理解した上で、障害のある子どもの権利や子どもの最善の利益について考えていきます。障がいについての理解や支援の工夫、また福祉制度、施策についても概説し、子どもを多面的な視点から捉えることを目指します。この授業内容を理解することは、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がります。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

障がい児を巡る動向や障がいのある子どもへの理解と関わり方について、具体的な知識を身につけることができます。また子どもに関する福祉制度についての理解を深めることができます。授業を通して「多様な学問の考え方」「情報収集力」「改善力」を修得することを目指します。

【授業方法（フィードバックの内容）】

講義を通して基礎的な知識の伝達後、映像資料や参考図書を活用し理解を深めます。グループワークやロールプレイを用いることで、他者の多様な意見や視点に気づけるようにします。適宜、調べ学修を通して必要な情報を収集し、分析して、支援に活用できるような機会を設けます。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修（2時間以上）は、参考書を読み、内容や用語について予習を行うこと。事後学修（2時間以上）は、学んだことを整理し、課題を行ってこること。

【成績評価（方法・基準）】

学力確認テスト（60%）、質疑応答への参加（40%）により総合的に評価します。実施テストに対しては解説を行います。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	オリエンテーション / 自己紹介、障がい児福祉とは 子どもをとりまく社会情勢
第2回	障がい児をめぐる動向 1 福祉の基礎となるノーマライゼーション理念 ICFの理解
第3回	同上 2 歴史的視点 障がい観の成り立ち
第4回	障がい児の概要と理解 1 障害の原因の分類と支援
第5回	同上 2 身体障害・知的障害の理解と支援
第6回	同上 3 精神障害（発達障害を含む）の理解と支援
第7回	障がい児福祉に関する制度・施策の展開 1 児童福祉法 障がい児支援の流れ
第8回	同上 2 児童・家庭福祉制度の理解 ICT機器を用いた調べ学修
第9回	障がいのある子どもを支援する場 1 保育・教育の場での支援
第10回	同上 2 障がい児入所施設での支援
第11回	同上 3 児童発達支援センターでの支援
第12回	障がいのある子どもをもつ保護者への支援 1 障がいのある子どもの子育て
第13回	同上 2 家族・きょうだいへの視点
第14回	障害のある子どもを尊重した支援（DVD鑑賞）
第15回	まとめ / 総括と振り返り

【教科書・参考書】

教科書：適宜プリントを配布します。参考書：『Q&Aで学ぶ 障がい児支援のベーシック』小畑文也・鳥海順子・義永睦子編著（コレール社）2019年、『特別支援児の心理学：理解と支援』梅谷忠勇・生川善雄・堅田明義編著（北大路書房）2006年、『子ども理解と発達臨床』山口勝己著（北大路書房）2007年、『障害児心理入門』井澤信三・小島道生編著（ミネルヴァ書房）2013年。

【学生へのメッセージ】

障がいのある子ども達への支援に結び付けられるよう、基礎的な知識から具体的な実践までを解説します。多様な意見や考え方を尊重し、相互に学びあう姿勢を求めます。

【オフィスアワー】

火曜日11:55-12:25、木曜日11:55-12:25

【実務経験】

峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員の経験を活かして授業します。

年度	区分	分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目	福祉理論系科目

講義名	[L_mwt3] [47] 児童・家庭福祉【社福(実II要)】
-----	---------------------------------

区分	前期 (15回)	単位	必修 (2)福祉学専攻	形式	講義
----	----------	----	-------------	----	----

授業年次	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	手塚知子	テヅカ トモコ	tezuka tomoko [tezuka(a)]
------	------	---------	---------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

(1)子ども・児童福祉の必要性についての基本的視点について学ぶ。(2)児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（DV）の実態を含む）について理解する。(3)児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。(4)児童が健全に成長・発達する権利を有していることを理解する。(5)相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度及びサービス体系について理解する。この授業を理解することはSDGs3の目標「すべての人々に健康と福祉を」に繋がります。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

子どもを大切に社会・地域環境とは何か、そのために家庭や地域・社会としてどのようなサポートをすればよいか、また児童福祉の歴史や児童福祉法及びその他の関連法規について学び、今後必要な施策などについて理解する。コンピテンシー：多様な学問の考え方、地域理解、情報収集力、情報分析力、情報構成力、読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭発表力、論理的思考力

【授業方法（フィードバックの内容）】

教科書に沿って進めます。また、受講生同士の意見交換やディスカッションの機会を設ける。適宜、専門用語や人物名などの調べ学習を行い、相互にプレゼンテーションを行う。自らの意見をまとめ意欲的に参加することを求める。

【授業外学修の方法（時間数）】

受講前（2時間以上）にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後（2時間以上）はノートを整理して講義内容の理解に努めること。

【成績評価（方法・基準）】

学力確認テスト（70%）、質疑応答への参加（30%）を総合的に評価する。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	はじめに：児童福祉とは 子ども（児童）家庭福祉の理念
第2回	児童福祉の理念。児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（DV）、地域における子育て支援及び青少年育成の実態を含む）と実際
第3回	児童・家庭福祉制度の発展過程・日本及び欧米における児童福祉の歩み
第4回	児童の定義と権利（子どもの権利）
第5回	児童福祉法（法形系と体制）
第6回	児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）・配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV法）
第7回	母子及び寡婦福祉法・母子保健法・児童手当法・現代社会と児童家庭福祉問題
第8回	児童扶養手当法・特別児童扶養手当等の支給に関する法律
第9回	次世代育成支援対策推進法・少子化社会対策基本法・売春防止法
第10回	児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際
第11回	児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際及び、児童・家庭福祉制度における多職種連携、ネットワーキングと実際
第12回	児童福祉の財政と児童相談所の役割と実際
第13回	福祉・保健・医療に係わる施策：子どもの健全育成
第14回	福祉・保健・医療に係わる施策：子ども家庭福祉
第15回	子ども（児童）家庭福祉動向：講義のまとめ

【教科書・参考書】

教科書：『最新 社会福祉士養成講座3 児童・家庭福祉』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。

【学生へのメッセージ】

子どもの権利や子ども家庭福祉の概念といった基本的な事柄から、制度政策やそれが実際に適用される今日の社会状況について理解することと共に、ソーシャルワーク実践に結び付けられるよう学びを深めてほしい。学生同士の意見交換や質疑応答への参加を求める。

【オフィスアワー】

火曜日11:55-12:25、木曜日11:55-12:25

【実務経験】

峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員の経験を活かして授業します。

年度	区分	分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目	福祉理論系科目

講義名	[M_mwt3] [49] 貧困に対する支援【社福】
-----	----------------------------

区分	前期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻	形式	講義
----	---------	----	------------	----	----

授業年次	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	高木寛之	タカギ ヒロユキ	takagi hiroyuki [takagi(a)]
------	------	----------	-----------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

貧困とは何か、貧困に対する支援とは何か、社会福祉における公的扶助の考え方と生活保護制度、生活困窮者自立支援制度の概要と制度を必要とする人への理解、制度を活用する専門職の専門性、意義と実際を概説します。この授業内容を理解することは、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がります。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

公的扶助の概念と貧困・低所得者問題について理解する。生活保護制度の概要とその基本原理・原則・種類及び権利と義務について理解する。生活保護制度の運営実施体制について理解する。貧困・低所得者への相談援助方法やその専門性、自立支援プログラムの意義と実際について理解する。低所得者・ホームレスに対する援助方法について理解する。コンピテンシー：情報収集力、情報分析力、批判的思考力、論理的思考力、課題設定力

【授業方法（フィードバックの内容）】

教科書、映像資料の内容を参照しながら講義形式を進める。毎回コメントペーパーを書いてもらい理解度を確認しながら進めていく。学力確認テストでは講義やレジュメの内容に基づきその理解度を確認する。そして、援助方法について理解できるよう、小グループによる事例検討などを交えた授業にしていく。社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修（2時間以上）は、教科書をあらかじめ読み、レポートを作成すること。質問事項をまとめておくこと。事後学修（2時間以上）は、教科書を復習し、分からないところなどを明確にしておくこと。

【成績評価（方法・基準）】

授業内コメントペーパー（39%、13回×3%）、レポート（50%、5回×10%）、学力確認テスト（11%、レポート形式）で評価します。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	オリエンテーション：私たちのライフステージと公的扶助
第2回	公的扶助の概念
第3回	貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態
第4回	貧困状態にある人を取り巻く社会環境
第5回	貧困の歴史：貧困状態にある人に対する福祉の理念、貧困観の変遷、貧困に対する制度の発展過程
第6回	生活保護制度
第7回	生活保護の動向
第8回	低所得者に対する法制度：生活困窮者自立支援制度
第9回	低所得者に対する法制度：生活福祉資金貸付制度
第10回	低所得者に対する法制度：低所得者対策、ホームレス対策
第11回	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割：貧困に対する支援における公私の役割関係
第12回	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割：国、都道府県、市町村の役割
第13回	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割：福祉事務所の役割、自立相談支援機関の役割
第14回	貧困に対する支援の実際
第15回	まとめと振り返り

【教科書・参考書】

教科書：『最新 社会福祉士養成講座4 貧困に対する支援』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。

【学生へのメッセージ】

私たちの生活と隣り合わせに現出する貧困にしっかりと目を向けてください。社会福祉士国家試験の新カリキュラムでは必修科目となりましたので、受験希望者は必ず受講してください。

【オフィスアワー】

毎週授業前後に教室にて受け付けます。

【実務経験】

山梨県介護支援専門員研修向上委員会委員としての経験を活用した授業を展開します。

年度	区分				分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[N_mwt3] [51] 保健医療と福祉【社福】				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	榎木博之		ナラキ ヒロユキ		naraki hiroyuki [naraki(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
保健医療分野において、なぜ社会福祉士・精神保健福祉士の支援が求められているのかについて考える科目である。その上で支援に必要な保健医療制度（診療報酬含む）、連携する多職種や地域の社会資源について理解を深める。さらに、体験学修や事例検討を用いて保健医療サービスについて具体的に学修する。この授業内容を理解することは、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）や保健医療サービスについて理解することで、制度の動向を調べ、相談援助活動に必要な知識を増やすことができるようになる。保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解することで、多職種の役割を理解することができる。 コンピテンシー：論理的思考力、課題設定力、実行力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書を中心に講義形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、毎回の授業で出される課題を行う。事後学修（2時間以上）は、授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する・課題レポートを作成する。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（45%）、レポート（10%）、リアクションペーパー・授業で出される課題（45%）の配分で評価を行う。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	保健医療サービスとは				
第2回	保健医療サービスの変遷				
第3回	保健医療サービスの今日的課題				
第4回	医療連携と社会福祉士の役割				
第5回	医療法による医療施設の機能・類型				
第6回	保健医療政策による医療施設の機能・類型				
第7回	介護保険法による施設の機能・類型				
第8回	在宅支援のシステム				
第9回	保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割 1				
第10回	保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割 2				
第11回	保健医療サービスの専門職の役割				
第12回	保健医療サービスの提供と経済的保障				
第13回	保健医療サービスにおける専門職の連携と実践				
第14回	保健医療サービスにおける地域の社会資源と連携の実践				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 5 保健医療と福祉 第2版』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2025年。					
【学生へのメッセージ】					
保健医療サービスは私たち国民の生活に大きく影響します。他人事ではなく、私たちが生活する上で必要な地位式であることを意識して参加してください。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
社会福祉士、医療機関にて16年間、医療ソーシャルワーカーとして勤務した経験を活用した授業を展開します。					

年度	区分				分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[O_mwt4] [53] 刑事司法と福祉【社福】《遠隔授業》				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	梶原洋生		カジワラ ヒロキ		kajiwara hiroki [kajiwara(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
刑事司法では、何回も犯罪を繰り返す再犯者による犯罪の防止が課題となっていて、社会内処遇を担う更生保護に対する期待はますます高まっています。更生保護制度、医療観察制度は馴染みのもちにくい分野ですが、社会福祉士・精神保健福祉士等との連携強化が求められていますので、その理解のために、刑事司法、少年司法、更生保護制度、医療観察制度等について概説します。授業を通じて、SDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」と再犯防止策等について幅広く理解することを目的とします。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
1 刑事政策における再犯防止の課題達成のため、関係機関連携（社会福祉士・精神保健福祉士を含む）が求められており、刑事司法少年司法手続き、更生保護制度、医療観察制度等を理解し、「多様な学問の考え方」ができるようにする。再犯防止の課題達成のため、事案に応じた「課題設定力」「構想力」「計画力」及び課題解決のための「実行力」「評価力」「改善力」を身につける。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
福祉学専攻の学生を対象に、より専門性の高い教育へと背景的につながるようにします。これらを円滑に進められるように教科書の丁寧な読解把握とディスカッションを展開します。自主学習によるリアクションペーパーの提出を求め、各自の向学心を高めていけるようにします。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回の授業ごとに事前・事後の学修を合わせて平均（4時間程度）行う。各回の講義内容についてはシラバスに記載された教科書・関係資料の該当部分を進めていくので、事前学修では教科書の該当範囲をしっかりと読み内容をまとめる。事後学修では、講義で学んだ内容がいかにか実社会で具体的に機能しているかを調べる。その際にさらに情報を集めて発展的な考察を行ない教科書の内容と合わせてまとめていく。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（70%、第15回、テスト60分間、解説30分間）授業参画度（30%、毎回のリアクションペーパー）により総合的に評価します。テストについては解説を行います。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	刑事司法における近年の動向と社会環境：犯罪の動向、高齢出所者等の支援、再犯防止等推進法、社会福祉士・精神保健福祉士の役割（再犯防止、多機関連携が重要な課題となっていること、SDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」と再犯防止策について）				
第2回	刑事司法：刑法の基本原則、刑罰、刑事事件の手続き、処遇				
第3回	少年司法：少年法の基本原則（改正少年法のポイントを理解する）、少年事件の手続き、処遇				
第4回	更生保護制度：更生保護制度の概要				
第5回	更生保護制度：更生保護の担い手（更生保護ボランティアを理解する）				
第6回	更生保護制度：生活環境の調整・仮釈放				
第7回	更生保護制度：保護観察1種類・期間、指導監督				
第8回	更生保護制度：保護観察2 遵守事項、良好・不良措置				
第9回	更生保護制度：保護観察3 専門的処遇プログラム、社会貢献活動等				
第10回	更生保護制度：保護観察4 補導援護、更生緊急保護、関係機関・団体との連携				
第11回	恩赦、犯罪予防活動：恩赦制度の概要、社会を明るくする運動				
第12回	医療観察制度：医療観察制度の概要				
第13回	医療観察制度：生活環境の調査、生活環境の調整、精神保健観察の内容、関係機関・団体との連携				
第14回	犯罪被害者支援：犯罪被害者基本法、犯罪被害者支援の内容、更生保護における被害者等通知制度等				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座10 刑事司法と福祉』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年、『更生保護入門[第6版]』松本勝編著（成文堂）2022年。					
【学生へのメッセージ】					
本授業では、非行・犯罪や刑事手続を「罰」だけでなく、更生支援・権利擁護・地域生活支援の視点から学びます。制度の流れと支援の実際を結び、実際の判断力を身につけていきましょう。疑問は遠慮なく共有してください。					

【オフィスアワー】

授業の前後に受け付けます。メールも受け付けますので、ぜひ相談してください。

【実務経験】

なし

年度	区分			分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目			福祉理論系科目
講義名	[P_mwt4] [55] 権利擁護を支える法制度【社福】			
区分	後期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻	形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--
担当教員	高木寛之		タカギ ヒロユキ	takagi hiroyuki [takagi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
社会福祉法の改正に伴い、社会福祉のサービス利用のシステムが「措置制度」から「契約制度」に転換しました。契約制度に際して、判断能力の点で援助を必要とする人達が存在します。このような人たちの相談援助では支援する側に人権と社会正義などの基本理念が必要とされます。「権利とは何か」「権利侵害とはどのようなことか」「どのように権利を擁護するか」を具体的かつ体系的に理解を深めることによってSDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」に繋がります。				
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】				
(1)法に共通する基礎的な知識を身につけると共に、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。(2)権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。(3)権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。(4)権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解する。(5)ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。 コンピテンシー：情報分析力、批判的思考力、論理的思考力				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
テキスト、資料を基に体系的に講義します。また、講義後の受講生のリアクションペーパーに記載された内容についてフィードバックを行います。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学修（2時間以上）は、講義にのぞむ前には提示された課題について学修をしてくることを望みます。事後学修（2時間以上）は、受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えることを望みます。				
【成績評価（方法・基準）】				
授業内コメントペーパー（39%、13回×3%）、レポート（40%、4回×10%）、学力確認テスト（21%、レポート形式）で評価します。				
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】				
第1回	法の基礎 法と規範 法の体系・種類・機能			
第2回	法の基礎 法律の基礎知識・法の解釈 裁判制度・判例			
第3回	ソーシャルワークと法の関わり 憲法（概要・基本的人権）			
第4回	ソーシャルワークと法の関わり 民法（総則・契約・不法行為）			
第5回	ソーシャルワークと法の関わり 親族（婚姻・親権・扶養）			
第6回	ソーシャルワークと法の関わり 行政法（行政組織・行政処分）			
第7回	ソーシャルワークと法の関わり 行政法（行政強制・行政罰・行政不服申し立て・行政訴訟）			
第8回	ソーシャルワークと法の関わり 行政法（国家賠償・国と自治体の関係）			
第9回	権利擁護の意義と支える仕組み 権利擁護の意義・苦情解決の仕組み			
第10回	権利擁護の意義と支える仕組み 虐待防止法と差別禁止法の概要			
第11回	権利擁護活動で直面しうる法的諸問題 インフォームドコンセント・個人情報・守秘義務			
第12回	権利擁護に関わる組織・団体・専門職 組織団体の役割（市町村・社会福祉協議会）			
第13回	成年後見制度 成年後見の概要（後見・保佐の概要）			
第14回	成年後見制度 補助・任意後見の概要			
第15回	成年後見制度 日常生活自立支援事業・まとめ			
【教科書・参考書】				
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座9 権利擁護を支える法制度 第2版』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2024年。				
【学生へのメッセージ】				
日頃から図書館を活用し、福祉に関係するニュース等をスクラップするなど、自分なりの勉強方法を見つけて欲しい。				
【オフィスアワー】				
授業の前後に非常勤講師控室（大学事務室隣）か教室にて受け付けます。				
【実務経験】				
山梨県介護支援専門員研修向上委員会委員としての経験を活用した授業を展開します。				

年度	区分			分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目			福祉理論系科目
講義名	[Q_mwt4] [57] 医学概論【社福】			
区分	後期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻	形式 講義
授業年次	--	--	3年	--
担当教員	功刀仁子		クヌギ ヒトコ	kunugi hitoko [kunugi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
(1)介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。(2)介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学修とする。(3)介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する内容とする。(4)本授業は主に「人間の欲求」「自己概念」「こころとからだのしくみ」の基礎的知識について解説する。この授業を理解することはSDGs3の目標「すべての人々に健康と福祉を」に繋がります。				
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】				
人間のこころとからだのしくみを理解し説明することができる。 コンピテンシー：健康力、情報収集力、情報分析力、論理的思考力				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
授業の前半で、教科書を中心とした知識の修得。授業の後半で、過去の国家試験を中心とした問題を解説。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学修（2時間以上）は、予習を促すため、予習プリントを課す。事後学修（2時間以上）は、講義中に小テストを行うため、復習しておくこと。				
【成績評価（方法・基準）】				
学力確認テスト（50%）、講義中の小テスト（25%）、予習プリント（25%）で評価する。				
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】				
第1回	人間の欲求の基本的理解（基本的欲求）			
第2回	人間の欲求の基本的理解（社会的欲求）			
第3回	自己概念と尊厳（自己概念に影響する要因）			
第4回	自己概念と尊厳（自立への意欲と自己概念）			
第5回	自己概念と尊厳（自己実現といきがい）			
第6回	こころのしくみの基礎（こころのしくみに関する諸理論）			
第7回	こころのしくみの基礎（思考のしくみ）			
第8回	こころのしくみの基礎（学修・記憶・思考のしくみ）			
第9回	こころのしくみの基礎（感情のしくみ）			
第10回	こころのしくみの基礎（意欲・動機づけのしくみ）			
第11回	こころのしくみの基礎（適応のしくみ）			
第12回	からだのしくみの基礎（生命の維持・恒常のしくみ：体温、呼吸、脈拍、血圧、その他）			
第13回	からだのしくみの基礎（人体部位の名称）			
第14回	からだのしくみの基礎（ボディメカニクス）			
第15回	からだのしくみの基礎（関節の可動域、その他）			
【教科書・参考書】				
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座1 医学概論』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。参考書：『最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規）2022年。				
【学生へのメッセージ】				
授業に積極的に参加することを望む。				
【オフィスアワー】				
授業の前後に教室や非常勤講師控室にて対応します。メールでも（kunugi(a)min.ac.jp）対応可。				
【実務経験】				
山梨県立中央病院での看護師としての経験を生かした授業を展開します。				

年度	区分			分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目			福祉理論系科目
講義名	[R_mwt4] [59] ソーシャルワークの理論と方法 (専門) II 【社福(実II要)】			
区分	前期 (15回)	単位	必修 (2) 福祉学専攻	形式 講義
授業年次	--	--	3年	--
担当教員	叶 寧		ヨウ ネイ	ye ning [ye(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
ソーシャルワーク実践のために必要な様々な理論と方法を学修することにより、社会福祉士として実践場面で応用できる知識と技術を修得します。この授業内容を理解することは、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がります。				
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】				
(1)社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。(2)支援を必要とする人の援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための知識と技術について理解する。(3)社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。(4)個別事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための事例分析の意義や方法を理解する。 コンピテンシー：課題設定力、情報収集力、理論的思考力				
【授業方法 (フィードバックの内容)】				
ソーシャルワークの理論とその方法について、効果的に学修を進めていくため、PowerPointを活用し、実践現場で応用できるような様々な課題を提示します。様々な実践事例を基に課題の発見から解決まで、援助プロセスを踏まえながら学修していきます。授業終了後は、授業内容や感想等をリアクションペーパーにまとめて提出すること。				
【授業外学修の方法 (時間数)】				
事前学修 (2時間以上) は、該当する教科書の章を読むこと。事後学修 (2時間以上) は、授業で学んだ内容が実社会ではどのように具現化されているかをリアクションペーパーにまとめること。				
【成績評価 (方法・基準)】				
中間レポート (20%、第8回)、学力レポート (70%)、授業参画度 (10%、毎回のリアクションペーパーなど) により総合評価します。				
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】				
第1回	授業計画の説明 ソーシャルワークに関連する技法1：ネゴシエーション			
第2回	ソーシャルワークに関連する技法2：コンフリクト・レゾリューション			
第3回	ソーシャルワークに関連する技法3：ファシリテーション			
第4回	ソーシャルワークに関連する技法4：プレゼンテーション			
第5回	ソーシャルワークに関連する技法5：ソーシャル・マーケティング			
第6回	事例分析：目的、意義、選定と分析の準備、分析のポイント			
第7回	事例検討：目的、意義、検討会、留意点			
第8回	事例研究：目的、意義、研究の目的とデザイン、前向き研究と後ろ向き研究、実施手順、留意点			
第9回	事例1：強度行動障害のある人への支援の実際			
第10回	事例2：触法障害のある人への支援の実際			
第11回	事例3：ALS患者への支援の実際			
第12回	事例4：精神障害のある人の支援の実際			
第13回	事例5：医療的ケア児への支援の実際			
第14回	事例6：複合的な課題を抱えた家族への支援の実際			
第15回	まとめと振り返り			
【教科書・参考書】				
『最新 社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 (中央法規) 2021年。				
【学生へのメッセージ】				
ソーシャルワーク理論と方法の内容を、事例を通して理解しよう。				
【オフィスアワー】				
授業担当時の前後、大学HPのオフィスアワーをご参照ください。				
【実務経験】				
市町村の事業を受託している社会福祉協議会において、生活困窮者自立支援事業の相談員としての勤務経験を活かした授業を展開する。				

年度	区分				分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[S_mwt4] [61] 地域福祉演習				
区分	後期（15回）		単位	必修（1）福祉学専攻	形式 演習
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	叶 寧		ヨウ ネイ		ye ning [ye(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>本科目では講義と演習を通じて「地域福祉と包括的支援体制」に関する内容を復習し、次の5点の理解を深める。(1)地域福祉の基本的考え方、(2)地域福祉の主体と対象、(3)地域福祉に係る行政組織及び民間組織の役割と実際、(4)地域福祉に係る専門職や地域住民の役割と実際、(5)地域福祉の推進方法。また、地域社会と福祉の関係を、共同体と個人の視点から捉え、これからの地域福祉の抱える問題を検討していく。その上で、現在想定出来る地域福祉の課題を取り上げ、演習を通して実際的な模擬活動を行い、課題解決のプロセスを体験し、その方法を修得する。加えて、地域課題と国連が掲げるSDGsとの関連についても考察し、理解を深める。さらに「地域福祉実践」の科目と関連付けして、講義・演習を進める。この授業を理解することは、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」とSDGs11の目標「住み続けられるまちづくりを」に繋がります。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
<p>(1)地域福祉の考え方、展開、動向について理解し、説明することができる。(2)地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を説明することができる。(3)地域福祉を推進するためには、ボランティア、福祉教育、コミュニティソーシャルワーク等の実践が必要である旨を説明することができる。(4)複雑化・多様化した福祉ニーズを解決するために地域住民や関係機関が連携することの意義について説明することができる。(5)地域生活課題の変化と現状を踏まえ、受講生の居住地における地域福祉実践に関心を持つようになる。また、福祉現場で求められている「考える力」「言語化する力」「文章化する力」「協働する力」を身につける。事例を通して地域理解が深まり、地域に内在する情報を収集・分析し、問題点を再構成して顕在化させ、その課題を探求し、解決策を策定し、福祉現場にて実践し、解決への道筋を目指す。総じて福祉現場に必要な能力を身につける。コンピテンシー：多様な学問の考え方、健康力、地域理解、情報収集力、情報分析力、情報構成力、読解力、傾聴力、会話力、課題設定力、構想力、計画力、実行力、評価力、改善力</p>					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
<p>市町村の地域福祉計画、地域福祉活動計画等の行政資料等を一緒に調べ、行っている地域活動事業の内容と現状を把握し、理解する。学生自身が実際の地域生活者として考える場合に、どのような地域福祉活動等に参加したいのか等について議論およびロールプレイを行い、必要に応じて施設見学と実際のボランティア活動参加（オレンジカフェ）も企画する。また、見学等に関してはその施設の概略を事前に調べる必要がある。必要に応じてプロジェクターや、インターネット、視聴覚教材を用いたタブレット端末を使用し、双方向授業を行う。適宜、レジュメを配布する。</p>					
【授業外学修の方法（時間数）】					
<p>事前学修（2時間以上）：授業の前に、テキストの関係する箇所を読み、内容を理解しておくこと。また、その際に出てきた専門用語を『社会福祉用語辞典』（ミネルヴァ書房）等で調べておくこと。事後学修（2時間以上）：授業の要点を整理し、まとめておくこと。授業で取り上げる事項は、みなさんの日常生活に関連する内容や、他の科目で学んでいる内容であることが少なくない。みなさんの生活や地域に関心を持つと共に、他の科目で学んだ内容と結び付けて理解を深めよう。また、授業中に理解できない内容があった際にはテキストや参考文献等を活用して調べ、それでもわからない場合はリアクションペーパー等に記入すること。</p>					
【成績評価（方法・基準）】					
<p>受講状況（80%、リアクションペーパーをはじめとする提出物の記述内容により授業の理解度を評価すると共に、グループディスカッションや発表、活動などの参加度等も含め、毎回の受講状況を総合的に評価する）、期末課題（20%、提出された内容により、課題理解度、表現の適正さ、考察の論理性等を総合的に評価する）</p>					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	授業の進め方と成績評価の考え方の説明。授業に取り入れる活動に関する説明と、留意点の提示。				
第2回	地域福祉の考え方の復習、再確認				
第3回	地域福祉の実際（県、市、町の活動と政策）理解				
第4回	地域を基盤とする概念（生活困窮者自立支援法）				
第5回	地域福祉の事例検討1（ロールプレイ等を行う）				
第6回	地域福祉の事例検討2（ロールプレイ等を行う）				
第7回	地域福祉の事例検討で気づいた課題の発表				
第8回	地域の複合型困難事例の検討1				
第9回	地域の複合型困難事例の検討2				
第10回	包括的支援体制の構築と重層的支援体制整備事業				
第11回	地域ケア会議				
第12回	地域福祉の担い手と活動の内容				

第13回	コミュニティソーシャルワークについて
第14回	地域資源の現状と開発
第15回	総括
【教科書・参考書】	
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規出版）2021年。参考書：『事例と演習を通して学ぶソーシャルワーク』川村隆彦著（中央法規出版）2003年。岩間伸之、原田正樹『地域福祉援助をつかむ』有斐閣、2012年。	
【学生へのメッセージ】	
本科目では、社会福祉の各分野に共通する諸制度や事業等の基本的な考え方について学びます。みなさんが学ぶ社会福祉専門科目の中には、児童福祉論、老人福祉論、障害者福祉論をはじめとする対象・分野別の科目があります。一方、本科目は、それらの科目を（分野ごとではなく）横断的に捉える点に特徴があります。本科目の受講を通じ、各科目に共通する基本的事項について学びを深めた上で、他の科目の内容を肉付けていくとよいでしょう。地域福祉を推進する主体は、地域住民です。みなさんも、それぞれの居住地の地域の地域住民です。つまり、地域福祉を推進する主体であるということです。本科目の受講を通じて地域に対する関心を高め、地域づくりの担い手として（専門職として/地域住民として）活躍されるよう期待しています。	
【オフィスアワー】	
授業担当時の前後、大学HPのオフィスアワーをご参照ください。	
【実務経験】	
市町村の委託事業を受託している社会福祉協議会において、生活困窮者自立支援事業の相談員としての勤務経験を活かした授業を展開する。	

年度	区分	分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目	福祉理論系科目

講義名	[T_mwt4] [63] 地域福祉実践
-----	----------------------

区分	後期（15回）	単位	必修（1）福祉学専攻	形式	演習
----	---------	----	------------	----	----

授業年次	--	--	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	叶 寧	ヨウ ネイ	ye ning [ye(a)]
------	-----	-------	-----------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

本科目では講義と演習を通じて「地域福祉と包括的支援体制」に関する内容を復習し、次の5点の理解を深める。(1)地域福祉の基本的考え方、(2)地域福祉の主体と対象、(3)地域福祉に係る行政組織及び民間組織の役割と実際、(4)地域福祉に係る専門職や地域住民の役割と実際、(5)地域福祉の推進方法。また、実際の地域での課題を取り上げ、地域における課題を検討、議論を行う。地域における福祉活動を通して、現状の問題点を抽出して、その具体的な解決方法を、周囲と連携、調整して解決してゆく。PDCAサイクルの考え方と実際に学ぶ。さらに「地域福祉演習」の科目と関連付けて、講義・演習を進める。この授業を理解することは、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」とSDGs11の目標「住み続けられるまちづくりを」に繋がります。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

(1)地域福祉の考え方、展開、動向について理解し、説明することができる。(2)地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を説明することができる。(3)地域福祉を推進するためには、ボランティア、福祉教育、コミュニティソーシャルワーク等の実践が必要である旨を説明することができる。(4)複雑化・多様化した福祉ニーズを解決するために地域住民や関係機関が連携することの意義について説明することができる。(5)地域生活課題の変化と現状を踏まえ、受講生の居住地における地域福祉実践に関心を持つようになる。また、福祉現場で求められている「考える力」「言語化する力」「文章化する力」「協働する力」を身につける。事例を通して地域理解が深まり、地域に内在する情報を収集・分析し、問題点を再構成して顕在化させ、その課題を探求し、解決方を策定し、福祉現場にて実践し、解決への道筋を目指す。総じて福祉現場に必要な能力を身につける。コンピテンシー：多様な学問の考え方、健康力、地域理解、情報収集力、情報分析力、情報構成力、読解力、傾聴力、会話力、課題設定力、構想力、計画力、実行力、評価力、改善力

【授業方法（フィードバックの内容）】

市町村の地域福祉計画、地域福祉活動計画等の行政資料等を一緒に調べ、行っている地域活動事業の内容と現状を把握し、理解する。学生自身が実際の地域生活者として考える場合に、どのような地域福祉活動等に参加したいのか等について議論、グループディスカッションを行う。実際のボランティア活動参加（オレンジカフェ）も企画し、学生が実際に主催し運営する。必要に応じてプロジェクターや、インターネット、視聴覚教材を用いたタブレット端末を使用し、双方向授業を行う。適宜、レジュメを配布する。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修（2時間以上）：授業の前に、テキストの関係する箇所を読み、内容を理解しておくこと。また、その際に出てきた専門用語を『社会福祉用語辞典』（ミネルヴァ書房）等で調べておくこと。事後学修（2時間以上）：授業の要点を整理し、まとめておくこと。授業で取り上げる事項は、みなさんの日常生活に関連する内容や、他の科目で学んでいる内容であることが少なくない。みなさんの生活や地域に関心を持つと共に、他の科目で学んだ内容と結び付けて理解を深めよう。また、授業中に理解できない内容があった際にはテキストや参考文献等を活用して調べ、それでもわからない場合はリアクションペーパー等に記入すること。

【成績評価（方法・基準）】

受講状況（80%、リアクションペーパーをはじめとする提出物の記述内容により授業の理解度を評価すると共に、グループディスカッションや発表などの参加度等も含め、毎回の受講状況を総合的に評価する）、期末課題（20%、提出された内容により、課題理解度、表現の適正さ、考察の論理性等を総合的に評価する）

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	オリエンテーション。授業の進め方と成績評価の方法の説明。
第2回	なぜ地域で支え合うことが大切か
第3回	社会的孤立に関する事例検討（後半部分はオレンジカフェの開催準備のための認知症に関する知識と理解の内容学習）
第4回	住民主体の地域福祉活動の実際（後半部分はオレンジカフェの開催準備）
第5回	民生委員・児童委員等の地域活動者の現状と課題（後半部分はオレンジカフェの開催準備）
第6回	社会福祉協議会の現状と課題。福祉教育活動の現状と課題（後半部分はオレンジカフェの開催準備）
第7回	地域アセスメントと地域支援 福祉実践活動（地域理解による情報の収集と分析）（後半部分はオレンジカフェの開催準備）
第8回	オレンジカフェの開催（場合によっては2回の開催を行う）
第9回	地域福祉計画と地域福祉活動計画 福祉実践活動（収集・分析された事例を検討1）（後半部分はオレンジカフェの反省等）
第10回	地域福祉計画と地域福祉活動計画
第11回	PDCAサイクルの考え方
第12回	包括的支援体制の構築と重層的支援体制整備事業1
第13回	包括的支援体制の構築と重層的支援体制整備事業2

第14回	地域共生社会の実現に向けた多機関協働
第15回	全体の総括
【教科書・参考書】	
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規出版）2021年。	
【学生へのメッセージ】	
<p>本科目では、社会福祉の各分野に共通する諸制度や事業等の基本的な考え方について学びます。みなさんが学ぶ社会福祉専門科目の中には、児童福祉論、老人福祉論、障害者福祉論をはじめとする対象・分野別の科目があります。一方、本科目は、それらの科目を（分野ごとではなく）横断的に捉える点に特徴があります。本科目の受講を通じ、各科目に共通する基本的事項について学びを深めた上で、他の科目の内容を肉付けていくとよいでしょう。地域福祉を推進する主体は、地域住民です。みなさんも、それぞれの居住地の地域の地域住民です。つまり、地域福祉を推進する主体であるということです。本科目の受講を通じて地域に対する関心を高め、地域づくりの担い手として（専門職として/地域住民として）活躍されるよう期待しています。</p>	
【オフィスアワー】	
授業担当時の前後、大学HPのオフィスアワーをご参照ください。	
【実務経験】	
市町村の委託事業を受託している社会福祉協議会において、生活困窮者自立支援事業の相談員としての勤務経験を活かした授業を展開する。	

年度	区分				分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目				福祉技術系科目
講義名	[A_mws5] [01] 介護過程・医療的ケア演習《介護福祉士実務者研修》				
区分	集中	単位	選択（1）		形式 演習
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	佐々木 さち子		ササキ サチコ		sasaki sachiko [sasaki(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
介護過程とはどのような学問なのか、「介護過程」をテーマに介護過程の流れ、内容などの基礎知識と支援技術を取得する。医療的ケアは、2011年の法改正により、介護福祉士の業務として「喀痰吸引等」が位置づけられました。医学的知識と技術を取得する。このような授業内容を学修することはSDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がる。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
「介護過程」では、総論的な内容を学ぶと共に、事例を用いた展開を取り入れながら進める。「介護過程」の意義や目的について、皆さんが深く理解できるように、介護の実践活動がどのような過程を経て行われるのか、その過程の考え方や構成要素について、生活場面の身近な事例から理解できるように展開する。また、映像等を利用し、それぞれの技術の目的・準備・実施方法・留意点をおさえてから、技術体験をして考察する。他の科目で学修した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切なサービスの提供ができる。「介護過程」では、「多様な学問の考え方」「健康力」「地域理解」「情報収集力」「情報分析力」「情報構成力」「読解力」「傾聴力」「会話力」「口頭発表力」「批判的思考力」「論理的思考力」「課題設定力」「構想力」「計画力」「実行力」「評価力」「改善力」、「医療的ケア」では、「多様な学問の考え方」「健康力」「読解力」「会話力」「文章表現力」「実行力」「評価力」が身につく。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
「介護過程」では、総論的内容を学修し、事例展開を取り入れながら進める。「介護過程」の意義、目的、内容などについて理解させるために、介護の実践活動がどのような過程を経て行われるのか、その過程の考え方や構成要素について、生活場面の身近な事例から理解できるように展開する。また、ビデオを利用し、それぞれの技術の目的・準備・実施方法・留意点をおさえてから、技術体験をして考察する。受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。「医療的ケア」では喀痰吸引や経管栄養の技術に必要な器具の使い方を2日間で学び、学力確認テストを行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、毎回の授業時に指定された文献を必ず読んでくること。事後学修（2時間以上）は、授業中に提示した専門用語の復習を行うこと。「医療的ケア」では事前学修は手順のプリントを熟読しておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
以下の割合と基準に基づいて総合的に評価する。レポート（40%）：提示された事例に対し、根拠に基づいたアセスメントと介護計画の立案が論理的に行われているかを評価する。授業内演習・リアクションペーパー（30%）：授業内容の理解度や、自身の考えを的確に表現できているかを評価する。授業への取り組み姿勢（30%）：グループワークでの積極的な意見交換や、他者の意見を傾聴する姿勢、演習への真摯な態度を評価の対象とする。「医療的ケア」については、上記とは別に、演習における手順の正確性と安全配慮の実践を評価し、最終評価に加味する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション / 「介護過程」の総括				
第2回	「介護過程」の意義と目的				
第3回	「介護過程」の意義と目的「生活支援の考え方と介護過程の必要性」				
第4回	介護過程の理解 / 情報収集とアセスメント				
第5回	情報の解釈・関連づけ・統合化				
第6回	計画の立案				
第7回	評価のプロセスと視点				
第8回	介護過程の展開 / 事例検討				
第9回	総合評価の視点				
第10回	介護過程のまとめ				
第11回	医療的ケア実施の基礎 / 安全な療養生活 / 救急蘇生法の実践				
第12回	喀痰吸引について / 医学的基礎知識				
第13回	喀痰吸引の実践（人形モデル） / 口腔内喀痰吸引 5回 / 鼻腔内喀痰吸引 5回 / 気管カニューレ内部の喀痰吸引 5回				
第14回	経管栄養について / 医学的基礎知識				
第15回	経管栄養の実践（人形モデル） / 胃ろうによる経管栄養 5回 ~ 経鼻経管栄養 5回				

【教科書・参考書】
『介護福祉士実務者研修テキスト「介護過程」』（中央法規）2020年、『介護福祉士実務者研修テキスト第5巻「医療的ケア」』（中央法規）2020年。
【学生へのメッセージ】
受講前にテキストを熟読し、疑問点等をノートにまとめておくこと。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。医療的ケアは2日間で「喀痰吸引」「経管栄養」の技術を修得し試験に合格することを目指すのでテキスト添付のDVDを視聴してこること。事前に配布する手順のプリントをよく読んでおくこと。
【オフィスアワー】
スクーリング（介護過程5日間、医療的ケア2日間）の時質問に応じます。医療的ケアに関しては、火曜日非常勤講師控室（大学事務室隣）にあります。
【実務経験】
JR東京総合病院他約20年以上の看護師経験を活かし、医療的ケアや介護福祉士に必要な医療的知識を伝える授業を行う。

年度	区分				分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目				福祉技術系科目
講義名	[B_mws2] [03] ソーシャルワーク演習【社福(実I要)】				
区分	後期 (15回)	単位	選択 (1)		形式 演習
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	手塚知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko [tezuka(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
ソーシャルワーカーに求められる自己覚知及び価値観を中心とした他者理解を促進すると共に、援助的コミュニケーションの基礎についても実技指導（ロールプレイング等）の体験を通して学ぶ。この授業内容を理解することは、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がる。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に修得すると共に、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていける能力を涵養する。総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な実践事例をとりあげ、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。 コンピテンシー：読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書を中心に演習形式で授業を行う。毎回の授業で課題を提示し、グループで話し合い、個人で考えをまとめる。授業終了時に、授業のまとめや感想等をリアクションペーパーに記述する。双方向の授業（アクティブラーニング）を実施する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回の授業で課題を行うため、事前学修（2時間以上）は該当する教科書の章を読むこと。事後学修（2時間以上）は、授業で学んだ要点をリアクションペーパーに簡潔にまとめて提出すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力レポート（30%、6回×5%）、最終レポート（40%）質疑応答への参加（30%）により総合評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション：ソーシャルワーク演習の意義と目的				
第2回	人と環境の交互作用1：人と環境の交互作用				
第3回	人と環境の交互作用2：自己理解と他者理解				
第4回	ソーシャルワークの対象、機能と役割1：ソーシャルワークの対象				
第5回	ソーシャルワークの対象、機能と役割2：ソーシャルワークの価値基準および倫理、理念				
第6回	ソーシャルワークの対象、機能と役割3：ソーシャルワークの機能とソーシャルワーカーの役割				
第7回	コミュニケーション技術と面接技術1：コミュニケーション技術				
第8回	コミュニケーション技術と面接技術2：面接技術				
第9回	ソーシャルワークの展開過程と関連技法1：ケース発見とエンゲージメント（インテーク）				
第10回	ソーシャルワークの展開過程と関連技法2：アセスメント				
第11回	ソーシャルワークの展開過程と関連技法3：プランニング				
第12回	ソーシャルワークの展開過程と関連技法4：支援の実施とモニタリング				
第13回	ソーシャルワークの展開過程と関連技法5：支援の終結と結果評価、アフターケア				
第14回	ソーシャルワーク実習後の演習：事例検討、事例研究、スーパービジョン				
第15回	まとめと振り返り				
【教科書・参考書】					
『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座13 ソーシャルワーク演習[共通科目]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（中央法規）2021年。					
【学生へのメッセージ】					
遅刻はグループ作業に支障をきたすため、一切認めない。よって、始業時間（出席確認終了以降）に遅れてきた学生は受講を認めない。基本的に100%の出席を求める。					
【オフィスアワー】					
火曜日11:55-12:25、木曜日11:55-12:25					
【実務経験】					
峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員の経験を活かして授業します。					

年度	区分				分野		
令和8年度	福祉学専攻 専門科目				福祉技術系科目		
講義名	[C_mws3] [05] ソーシャルワーク演習（専門）I【社福(実II要)】						
区分	前期（15回）		単位	選択（1）		形式	演習
授業年次	--	2年	--	--			
担当教員	手塚知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko [tezuka(a)]		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
<p>ソーシャルワーカーに求められる自己覚知及び価値観を中心とした他者理解を促進すると共に、援助的コミュニケーションの基礎についても実技指導（ロールプレイング等）の体験を通して学ぶ。この授業内容を理解することは、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がる。</p>							
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】							
<p>ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に修得すると共に、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていける能力を涵養する。総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な実践事例をとりあげ、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。コンピテンシー：読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力</p>							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
<p>教科書を中心に演習形式で授業を行う。毎回の授業で課題を提示し、グループで話し合い、個人で考えをまとめる。授業終了時に、授業のまとめや感想等をリアクションペーパーに記述する。双方向の授業（アクティブラーニング）を実施する。</p>							
【授業外学修の方法（時間数）】							
<p>毎回の授業で課題を行うため、事前学修（2時間以上）は該当する教科書の章を読むこと。事後学修（2時間以上）は、授業で学んだ要点をリアクションペーパーに簡潔にまとめて提出すること。</p>							
【成績評価（方法・基準）】							
<p>学力レポート（60%、6回×10%）、質疑応答への参加（40%、毎回のリアクションペーパーなど）により総合評価する。</p>							
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】							
第1回	ソーシャルワーク演習の意義と目的 1：社会福祉士養成における演習の意義と目的						
第2回	同上 2：ソーシャルワーク演習 [社会専門] の目標						
第3回	同上 3：ソーシャルワーク演習 [社会専門] の内容						
第4回	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション（活動） 1：演習のねらいと事例の基本情報						
第5回	同上 2：ケースの発見とエンゲージメント 1						
第6回	同上 3：ケースの発見とエンゲージメント 2						
第7回	同上 4：アセスメント						
第8回	同上 5：プランニング						
第9回	同上 6：支援の実施とモニタリング 1						
第10回	同上 7：支援の実施とモニタリング 2						
第11回	同上 8：支援の終結と結果評価、アフターケア 1						
第12回	同上 9：支援の終結と結果評価、アフターケア 2						
第13回	同上 10：ソーシャルワークの展開過程とコンピテンシー 1						
第14回	同上 11：ソーシャルワークの展開過程とコンピテンシー 2						
第15回	まとめと振り返り						
【教科書・参考書】							
『最新 社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習[社会専門]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（中央法規）2021年。							
【学生へのメッセージ】							
遅刻はグループ作業に支障をきたすため、一切認めない。よって、始業時間（出席確認終了以降）に遅れてきた学生は受講を認めない。基本的に100%の出席を求める。							
【オフィスアワー】							
火曜日11:55～12:25、木曜日11:55～12:25							
【実務経験】							
峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員の経験を活かして授業します。							

年度	区分				分野		
令和8年度	福祉学専攻 専門科目				福祉技術系科目		
講義名	[D_mws3] [07] ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ【社福(実Ⅱ要)】						
区分	後期（15回）		単位	選択（1）		形式	演習
授業年次	--	2年	--	--			
担当教員	高木寛之		タカギ ヒロユキ		takagi hiroyuki [takagi(a)]		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
ソーシャルワーカーに求められる基本姿勢、ソーシャルワークの技法についてロールプレイを通して学び、ソーシャルワークの過程についても理解を深める。この授業内容を理解することを通し、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がる。							
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】							
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に修得すると共に、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。コンピテンシー：読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
テキストを中心に演習形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し、グループで議論したり、個人で考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。双方向の授業（アクティブラーニング）を実施している。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学修（2時間以上）は、毎回の授業で出される課題を行う。事後学修（2時間以上）は、授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業内コメントペーパー（39%、13回×3%）、レポート（50%、5回×10%）、学力確認テスト（11%、レポート形式）で評価する。							
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】							
第1回	ソーシャルワーク演習の意義と目的：社会福祉士養成における演習の意義と目的						
第2回	実践的にソーシャルワークを学ぶ 地域における社会的孤立への気づきと生み出す支援を考える1：演習事例1						
第3回	同上2：演習事例2						
第4回	同上3：演習事例3						
第5回	同上4：多角的視点						
第6回	同上5：総括						
第7回	実践的にソーシャルワークを学ぶ 服薬を繰り返す福祉ニーズのあるクライアントへの多機関・多職種による支援を考える1：演習事例1						
第8回	同上2：演習事例2						
第9回	同上3：演習事例3						
第10回	同上4：多角的視点						
第11回	同上5：総括						
第12回	実践的にソーシャルワークを学ぶ メンタルヘルス課題と社会福祉士の役割・機能を考える1：演習事例1						
第13回	同上2：演習事例2						
第14回	同上3：演習事例3						
第15回	まとめと振り返り						
【教科書・参考書】							
教科書：『最新 社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習[社会専門]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。							
【学生へのメッセージ】							
(1)グループ作業に支障を来すため、遅刻は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入ってきた者（具体的には、口頭での出席確認終了以降）は、その日の受講を認めない。(2)基本的に100%の出席を求める。							
【オフィスアワー】							
授業の前後に教室にて対応する。							
【実務経験】							
山梨県介護支援専門員研修向上委員会委員としての経験を活用した授業を展開します。							

年度	区分			分野	
令和8年度	福祉学専攻 専門科目			福祉技術系科目	
講義名	[E_mws4] [09] ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ【社福】				
区分	前期(15回)	単位	選択(1)	形式	演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	高木寛之		タカギ ヒロユキ	takagi hiroyuki [takagi(a)]	
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
ソーシャルワーカーに求められる基本姿勢、ソーシャルワークの技法についてロールプレイを通して学び、ソーシャルワークの過程についても理解を深める。この授業内容を理解することを通し、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がる。					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に修得すると共に、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行うこと。コンピテンシー:読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
テキストを中心に演習形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し、グループで議論したり、個人で考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。双方向の授業(アクティブラーニング)を実施している。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
事前学修(2時間以上)は、毎回の授業で出される課題を行う。事後学修(2時間以上)は、授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する。					
【成績評価(方法・基準)】					
授業内コメントペーパー(39%、13回×3%)、レポート(50%、5回×10%)、学力確認テスト(11%、レポート形式)で評価します。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ソーシャルワーク演習の意義と目的:社会福祉士養成における演習の意義と目的				
第2回	実践的にソーシャルワークを学ぶ メンタルヘルス課題と社会福祉士の役割・機能を考える4:演習事例4				
第3回	同上5:多角的視点				
第4回	同上6:総括				
第5回	実践的にソーシャルワークを学ぶ 子どもや親のSOSに気づき、家族全体のレジリエンスを高めることを考える1:演習事例1				
第6回	同上2:演習事例2				
第7回	同上3:演習事例3				
第8回	同上4:多角的視点				
第9回	同上5:総括				
第10回	実践的にソーシャルワークを学ぶ クライアントが一番気になっている問題から支援を考える1:演習事例1				
第11回	同上2:演習事例2				
第12回	同上3:演習事例3				
第13回	同上4:演習事例4				
第14回	同上5:多角的視点				
第15回	まとめと振り返り				
【教科書・参考書】					
教科書:『最新 社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習[社会専門]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(中央法規)2021年。					
【学生へのメッセージ】					
(1)グループ作業に支障を来すため、遅刻は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入ってきた者(具体的には、口頭での出席確認終了以降)は、その日の受講を認めない。(2)基本的に100%の出席を求める。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
山梨県介護支援専門員研修向上委員会委員としての経験を活用した授業を展開します。					

年度	区分	分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目	福祉技術系科目

講義名	[F_mws4] [11] ソーシャルワーク演習（専門）IV【社福】
-----	------------------------------------

区分	後期（15回）	単位	選択（1）	形式	演習
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	--	--	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	高木寛之	タカギ ヒロユキ	takagi hiroyuki [takagi(a)]
------	------	----------	-----------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

自己覚知や自己理解を基底に、集団援助技術について、グループの体験を通してグループ力動や具体的な介入を学ぶ。この授業内容を理解することを通し、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がる。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に修得すると共に、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。コンピテンシー：読解力、傾聴力、会話力、口頭発表力、実行力、評価力、改善力

【授業方法（フィードバックの内容）】

テキストを中心に演習形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し、グループで議論したり、個人で考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。双方向の授業（アクティブラーニング）を実施している。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修（2時間以上）は、毎回の授業で出される課題を行う。事後学修（2時間以上）は、授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する。

【成績評価（方法・基準）】

授業内コメントペーパー（39%、13回×3%）、レポート（50%、5回×10%）、学力確認テスト（11%、レポート形式）で評価する。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	ソーシャルワーク演習の意義と目的：社会福祉士養成における演習の意義と目的
第2回	実践的にソーシャルワークを学ぶ クライアントが一番気になっている問題から支援を考える6：総括
第3回	実践的にソーシャルワークを学ぶ 災害支援からソーシャルワーカーの基本的姿勢と役割を考える1：演習事例1
第4回	同上2：演習事例2
第5回	同上3：演習事例3
第6回	同上4：多角的視点
第7回	同上5：総括
第8回	実践的にソーシャルワークを学ぶ 地域のニーズに対応した新たなサービス・事業開発を考える1：演習事例1
第9回	同上2：演習事例2
第10回	同上3：演習事例3
第11回	同上4：多角的視点
第12回	同上5：総括
第13回	実践的にソーシャルワークを学ぶ ソーシャルワークの価値とジレンマ1：演習事例1
第14回	同上2：演習事例2
第15回	まとめと振り返り

【教科書・参考書】

教科書：『最新 社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習 [社会専門]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。

【学生へのメッセージ】

(1)グループ作業に支障を来すため、遅刻は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入ってきた者（具体的には、口頭での出欠確認終了以降）は、その日の受講を認めない。(2)基本的に100%の出席を求める。

【オフィスアワー】

授業の前後に教室にて対応します。

【実務経験】

山梨県介護支援専門員研修向上委員会委員としての経験を活用した授業を展開します。

年度	区分				分野		
令和8年度	福祉学専攻 専門科目				福祉技術系科目		
講義名	[G_mws2] [13] ソーシャルワーク実習指導Ⅰ【社福(実I要)】						
区分	後期 (15回)		単位	選択 (1)		形式	演習
授業年次	--	2年	--	--			
担当教員	井沼 一			イヌマ ハジメ		inuma hajime	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
実践力のある対人援助専門職として仕事をする力量を総合的に身につける必須の過程である。実習を遂行する力量を養うため、福祉現場で必要とされる姿勢やマナーをはじめ、倫理・知識・技術等を身につけると共に、実習内容の振り返りを通じて専門職としての自己のあり方を問うことを目的とする。この授業内容を理解することを通し、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」につながる。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】							
社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に対応できる能力を修得する。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を育てていく。専門職としてのコンピテンシー (倫理的かつ専門的行動、多様性と差異への取り組み、人権尊重と正義の推進、等) を培う。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
小グループによる実習事前指導及び事後指導を行う。また、実習中は週1回の巡回指導を行う。総括として、実習報告書を作成すると共に、実習報告会で報告し質疑応答を行う。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
事前・事後学修 (それぞれ2時間以上)。また、授業中に理解できない内容があった際にはテキストや参考文献等を活用して調べ、それでもわからない場合はリアクションペーパー等に記入すること。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への参加・取り組み姿勢 (80%、発言回数やワークの成果物など)、レポート・課題等 (20%) の配分で評価を行う。提出された課題について、講義中に解説する方法でフィードバックする。							
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】							
第1回	オリエンテーション (授業計画の説明) : 実習、実習指導の意義 (ソーシャルワーク実習の基本的な流れ)						
第2回	実習分野と施設・機関・地域社会に関する基本的な理解						
第3回	実習先で関わる他職種の専門性や業務に関する基本的な理解						
第4回	ソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解						
第5回	実習におけるプライバシーの保護と守秘義務の理解						
第6回	実習施設・機関見学 (多様な施設、事業所における見学実習)						
第7回	実習記録への内容及び記録方法に関する理解						
第8回	個人票の作成						
第9回	実習計画書の作成 1						
第10回	実習計画書の作成 2						
第11回	実習先 (実習Ⅰ) 事前オリエンテーション訪問						
第12回	実習生・担当教員・実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の完成						
第13回	実習施設・機関に係わる制度の理解						
第14回	社会福祉士倫理綱領・行動規範の確認、御礼状の書き方						
第15回	まとめ、ふりかえり : 実習先の評価と自己評価、実習に向けての心得と注意事項の理解						
【教科書・参考書】							
毎回、資料を配布する。教科書 : 『最新 社会福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[社会専門]』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 (中央法規) 2021年、『ソーシャルワーク実習の手引き』身延山大学社会福祉演習実習委員会編 (身延山大学) 2024年。							
【学生へのメッセージ】							
ソーシャルワークについて学ぶことは、社会福祉の核心に触れることです。クライアントの生活の質やウェルビーイングを高める専門職を、想像力豊かに実践しましょう。							
【オフィスアワー】							
令和8年度教員オフィスアワーを参照すること。							
【実務経験】							
介護福祉士・居宅支援専門員・社会福祉士として、訪問系事業所にて20年携わった経験や地域活動を活かした講義を展開します。							

年度	区分			分野	
令和8年度	福祉学専攻 専門科目			福祉技術系科目	
講義名	[H_mws4] [15] ソーシャルワーク実習指導Ⅱ【社福(実Ⅱ要)】				
区分	前期 (15回)	単位	選択 (1)	形式	演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	叶 寧		ヨウ ネイ	ye ning [ye(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
グループによる実習事前指導及び事後指導を行う。また、実習中は週1回の巡回指導を行う。総括として、実習報告書を作成すると共に、実習報告会での報告と質疑応答を行う。このような福祉に関する理念を学修することはSDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がる。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
ソーシャルワーク実習の意義について理解する。ソーシャルワーク実習に係る個別指導並び集団指導を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を修得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に対応できる能力を修得する。具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていける能力を涵養する。 コンピテンシー：課題設定力、情報収集力、理論的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書を中心に講義・演習形式で授業を行う。毎回の授業で課題を提示し、グループで話し合い、個人で考えをまとめる。授業終了時に、授業のまとめや感想等をリアクションペーパーに記述する。双方向の授業（アクティブラーニング）を実施する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回の授業で課題を行うため、事前学修（2時間以上）は該当する教科書の章を読むこと。事後学修（2時間以上）は、授業で学んだ要点をリアクションペーパーにまとめて提出すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
出席8割以上で、レポート・課題（50%）、授業参画度（50%、毎回のリアクションペーパーなど）により総合評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	授業計画の説明、実習報告書の作成				
第2回	実習報告会				
第3回	実習後の振り返り（グループワーク）				
第4回	実習後スーパービジョン1				
第5回	実習後スーパービジョン2				
第6回	実習施設研究				
第7回	実習施設研究発表会				
第8回	実習計画書の意義				
第9回	実習計画書の作成				
第10回	情報収集の方法				
第11回	実習記録の書き方1				
第12回	実習記録の書き方2				
第13回	ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解				
第14回	実習直前ガイダンス				
第15回	全体総括				
【教科書・参考書】					
『最新 社会福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[社会専門]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（中央法規）2021年、『ソーシャルワーク実習の手引き』身延山大学社会福祉演習実習委員会編（身延山大学社会福祉演習実習委員会）2024年。					
【学生へのメッセージ】					
本科目は、「ソーシャルワーク実習」を単位修得済みであり、かつ『履修の手引き』に定める履修要件をすべて満たしている学生のみが対象となる。実習期間は24日間という長期にわたる。実習生としての自覚を持ち、専門職を目指す者にふさわしい適切な態度で臨んでいただく。					
【オフィスアワー】					
大学HPのオフィスアワーをご参照ください。					
【実務経験】					
市町村の事業を受託している社会福祉協議会において、生活困窮者自立支援事業の相談員としての勤務経験を活かした授業を展開する。					

年度	区分			分野	
令和8年度	福祉学専攻 専門科目			福祉技術系科目	
講義名	[l_mws4] [17] ソーシャルワーク実習指導 III【社福】				
区分	前期（15回）	単位	選択（1）	形式	演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	叶 寧		ヨウ ネイ		ye ning [ye(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
実習事前指導及び事後指導を行う。ソーシャルワーク実習の意義について理解する。ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を修得する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に対応できる能力を修得する。具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていける能力を涵養する。 コンピテンシー：課題設定力、情報収集力、理論的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
小グループによる実習事前指導及び事後指導を行う。また、実習中は週1回の巡回指導を行う。総括として、実習報告書を作成すると共に、実習報告会での報告と質疑応答を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回の授業で課題を行うため、事前学修（2時間以上）は該当する教科書の章を読むこと。事後学修（2時間以上）は、授業で学んだ要点をリアクションペーパーにまとめて提出すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
出席8割以上で、レポート・課題（50%）、授業参画度（50%、毎回のリアクションペーパーなど）により総合評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	授業計画の説明、実習事後指導の意義、実習報告書、実習報告会の説明等				
第2回	実習報告書作成 1（課題の整理と実習総括レポートの作成）				
第3回	実習報告書作成 2（課題の整理と実習総括レポートの作成）				
第4回	実習報告書作成 3（課題の整理と実習総括レポートの作成）				
第5回	実習報告書作成 4（課題の整理と実習総括レポートの作成）				
第6回	実習日誌・実習評価に基づく、スーパービジョン 1				
第7回	実習日誌・実習評価に基づく、スーパービジョン 2				
第8回	実習日誌・実習評価に基づく、スーパービジョン 3				
第9回	実習日誌・実習評価に基づく、スーパービジョン 4				
第10回	実習報告書及び実習日誌（実習の振り返り）に基づく発表 1				
第11回	実習報告書及び実習日誌（実習の振り返り）に基づく発表 2				
第12回	実習報告会プレゼン資料作成 1				
第13回	実習報告会プレゼン資料作成 2				
第14回	実習報告会プレゼン資料作成 3				
第15回	実習報告会（実習評価及び全体総括）				
【教科書・参考書】					
『最新 社会福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[社会専門]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（中央法規）2021年、『ソーシャルワーク実習の手引き』身延山大学社会福祉演習実習委員会編（身延山大学社会福祉演習実習委員会）2024年。					
【学生へのメッセージ】					
本科目は、「ソーシャルワーク実習」を単位修得済みであり、かつ『履修の手引き』に定める履修要件をすべて満たしている学生のみが対象となる。実習期間は24日間という長期にわたる。実習生としての自覚を持ち、専門職を目指す者にふさわしい適切な態度で臨んでいただく。					
【オフィスアワー】					
大学HPのオフィスアワーをご参照ください。					
【実務経験】					
市町村の事業を受託している社会福祉協議会において、生活困窮者自立支援事業の相談員としての勤務経験を活かした授業を展開する。					

年度	区分				分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目				福祉技術系科目
講義名	[J_mws3] [19] ソーシャルワーク実習Ⅰ(8日間)【社福(実II要)】				
区分	通年(3回)		単位	選択(1)	
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	井沼 一		イヌマ ハジメ		inuma hajime
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
実際に福祉現場を体験し、社会福祉士に必要な倫理・知識・技術を身につけると共に、実践力のある対人援助専門職を目指して自己を振り返り、資質や専門性を磨く。このような福祉に関する理念や実践を学修することはSDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」につながる。					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
ソーシャルワーク実習を通して、相談援助に関わる知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。専門職としてのコンピテンシー(倫理的かつ専門的行動、多様性と差異への取り組み、人権尊重と正義の推進、等)を培う。					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
実習中は、実習指導者の他、原則として1週間に1回、担当教員が巡回指導を行う。巡回時、又は帰校時に質問や相談を受ける。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
事前学修(2時間以上)は、事前課題をまとめておく。事後学修(2時間以上)は、実習報告書をまとめる。					
【成績評価(方法・基準)】					
自己評価・実習記録・実習指導者評価と実習後スーパービジョン・実習報告を総合して評価を行う。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	基本的な実習期間 2年次春学期以降の60時間以上(概ね8日間程度)				
第2回	主な実習施設・機関の種類 (1)高齢者福祉関連施設、(2)障害者福祉関連施設、(3)児童福祉関連施設、(4)社会福祉協議会等、 (5)相談機関：地域包括支援センター、市町村社会福祉事務所、居宅支援事業所等、 (6)その他：生活保護法による救護施設、医療機関等				
第3回	実習内容 (1)利用者や関係者(家族、親族、友人等)、施設、事業者、機関、団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成 (2)利用者や関係者(家族、親族、友人等)との円滑な援助関係の形成 (3)利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価 (4)多職種連携及びチームアプローチの実践的理解 (5)当該実習施設が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ (6)地域における分野横断的、業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解 (7)施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 (8)社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任 (9)ソーシャルワーク実践に求められる技術の実践的理解 アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[社会専門]』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(中央法規)2021年、『ソーシャルワーク実習の手引き』身延山大学社会福祉演習実習委員会編(身延山大学)2024年。					
【学生へのメッセージ】					
ソーシャルワークについて学ぶことは、社会福祉の核心に触れることです。クライアントの生活の質やウェルビーイングを高める専門職を、想像力豊かに実践しましょう。					
【オフィスアワー】					
令和8年度教員オフィスアワーを参照すること。					
【実務経験】					
介護福祉士・居宅支援専門員・社会福祉士として、訪問系事業所にて20年携わった経験や地域活動を活かした講義を展開します。					

年度	区分				分野
令和8年度	福祉学専攻 専門科目				福祉技術系科目
講義名	[K_mws4] [21] ソーシャルワーク実習Ⅱ(24日間)【社福】				
区分	通年(3回)	単位	選択(4)		形式 実習
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	叶 寧		ヨウ ネイ		ye ning [ye(a)]
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
実際に福祉現場を体験し、社会福祉士に必要な倫理・知識・技術を身につけると共に、実践力のある対人援助専門職を目指して自己を振り返り、資質や専門性を磨く。このような福祉に関する理念や実践を学修することはSDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がる。					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を修得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。関連分野の専門性との連携のあり方及び具体的内容を実践的に理解する。コンピテンシー：課題設定力、情報収集力、理論的思考力					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
実習中は、実習指導者の他、原則として1週間に1回、担当教員が巡回指導を行う。巡回時、または帰校時に質問や相談を受ける。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
事前学修(2時間以上)は、実習機関に応じた事前課題をまとめておく。事後学修(2時間以上)は、実習報告書をまとめる。					
【成績評価(方法・基準)】					
自己評価・実習記録・実習指導者評価と実習後スーパービジョン・実習報告を総合して評価する。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	基本的な実習期間 3年次夏期以降の180時間以上(概ね24日間程度)				
第2回	主な実習施設・機関の種類 (1)高齢者福祉関連施設、(2)障害者福祉関連施設、(3)児童福祉関連施設、(4)社会福祉協議会等、 (5)相談機関：地域包括支援センター、市町村社会福祉事務所、居宅支援事業所等、 (6)その他：生活保護法による救護施設、医療機関等				
第3回	実習内容 (1)利用者や関係者(家族、親族、友人等)、施設、事業者、機関、団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成 (2)利用者や関係者(家族、親族、友人等)との円滑な援助関係の形成 (3)利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価 (4)利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動とその評価 (5)多職種連携及びチームアプローチの実践的理解 (6)当該実習施設が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ (7)地域における分野横断的、業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解 (8)施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 (9)社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任 (10)ソーシャルワーク実践に求められる技術の実践的理解 アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション				
【教科書・参考書】					
『最新 社会福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[社会専門]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(中央法規)2021年、『ソーシャルワーク実習の手引き』身延山大学社会福祉演習実習委員会編(身延山大学社会福祉演習実習委員会)2024年。					
【学生へのメッセージ】					
本科目は、「ソーシャルワーク実習」を単位修得済みであり、かつ『履修の手引き』に定める履修要件をすべて満たしている学生のみが対象となる。実習期間は24日間という長期にわたる。実習生としての自覚を持ち、専門職を目指す者にふさわしい適切な態度で臨んでいただく。					
【オフィスアワー】					
大学HPのオフィスアワーをご参照ください。					

【実務経験】

社会福祉士の資格を持ちながら、生活困窮者自立支援事業の相談員としての勤務経験を活かした指導を展開する。